

博士論文

派生語【X化】の日中対照研究

名古屋大学大学院人文学研究科

人文学専攻

李 夢迪

(李 梦迪)

2023 年 3 月

## 目次

第1章 序論	1
1.1 はじめに	1
1.2 【X化】の問題点	2
1.2.1 【X化】の意味	4
1.2.2 【X化】の語基	6
1.2.3 【X化】の品詞的用法	7
1.3 分析方法	14
1.4 本研究の構成	15
第2章 先行研究	17
2.1 水野（1985）	17
2.2 日本語の「X化」	23
2.2.1 田窪（1986）	23
2.2.2 加納（1989, 1990）	27
2.2.3 池上（2000）	30
2.2.4 山下（2003）	34
2.3 中国語の“X化”	36
2.3.1 郭潮（1982）	37
2.3.2 胡松柏（1982）	38
2.3.3 周剛（1991）	39
2.3.4 王丹（2012）	42
2.4 まとめ	43
第3章 【X化】の意味	45
3.1 先行研究	46
3.1.1 日本語「X化」の意味	46
3.1.2 中国語“X化”の意味	48
3.2 日本語「X化」の意味	50
3.2.1 名詞語基の場合	50
3.2.2 形容詞語基の場合	57
3.2.3 動詞語基の場合	57
3.2.3.1 「動詞語基」と「動詞語基＋化」	59

3.2.4	まとめ	61
3.3	中国語“X化”の意味	62
3.3.1	名詞語基の場合	62
3.3.2	形容詞語基の場合	70
3.3.3	動詞語基の場合	71
3.4	まとめ	73
第4章	【X化】の語基【X】の日中対照	75
4.1	先行研究	76
4.1.1	日本語の「化」の前接語基	76
4.1.2	中国語の“化”の前接語基	79
4.2	日本語と中国語共通の【X化】	82
4.2.1	同形類義の「X化」と“X化”	83
4.2.2	同形異義の「X化」と“X化”	84
4.3	日本語のみに見られる「X化」	88
4.4	中国語のみに見られる“X化”	92
4.5	日中両語ともに見られない【X化】	97
4.6	まとめ	101
第5章	日本語「X化」の品詞的用法	105
5.1	先行研究	107
5.2	日本語の「X化」の品詞的用法	112
5.2.1	「X化」の考察方法	112
5.2.2	「X化」の全体的な使用傾向	113
5.2.3	「X化」の具体的な使用傾向	119
5.3	「X化」の動詞用法	125
5.3.1	「X化する」の考察方法	126
5.3.2	「X化する」の自他選択傾向	130
5.3.3	「X化する」の受身用法と使役用法	133
5.4	まとめ	138
第6章	中国語“X化”の品詞的用法	139
6.1	先行研究	143
6.2	中国語の“X化”の品詞的用法	148
6.2.1	“X化”の考察方法	148

6.2.2	“X化”の全体的な使用傾向	150
6.2.3	“X化”の具体的な使用傾向	155
6.3	“X化”の動詞用法	161
6.3.1	“X化”の考察方法	161
6.3.2	“X化”の自他選択傾向	166
6.3.3	“X化”の受身用法と使役用法	168
6.4	まとめ	170
第7章	【X化】の品詞的用法の日中対照	173
7.1	日中両語【X化】の品詞的な使用傾向	178
7.2	日中両語【X化】の動詞用法	187
7.3	まとめ	190
第8章	まとめ	193
	参考文献	201

## 第1章 序論

### 1.1 はじめに

本稿は日本語の派生語「X化」と中国語の派生語“X化”を対照し、両者のXの違いや意味的・品詞論的な異同について論じるものである。

影山(1993)や斎藤(2016)などでは、語構成論の観点から語の単位を語構成能力と意味の実質性によって、語基と接辞に区別している。単独で使え、語の中核的意味を担うものを「語基」と呼び、単独で使えず、常に他の語と結合して、形式的な意味を付加するものを「接辞」と呼ぶ。

これに対して、野村(1978)では「無(-届け)」「(研究-)者」「(事務-)室」「(近代-)化」のような漢字で表記されるものは、語の中核的な意味を担っているが、単独で使いにくく、常に他の要素と結合しているため、上記の規則と矛盾するとし、これらを「接辞性字音語基」と称している。

接辞性字音語基には「新(-幹線・-製品)」「全(-世界・-責任)」「不(-可能・-安定)」のような接頭要素と「性(可能・-生産-)」「局(事務・-放送-)」「的(経済・-健康-)」「化(活性・-商品-)」のような接尾要素が見られる。さらに、接尾要素のうち、前接語基に付いて合成語全体が名詞になるもの、形容詞になるもの、動詞になるものがある。加納(1989)では、これらの接辞性字音語基を「N化機能を持つもの」、「AJN化機能を持つもの」、「VN化機能を持つもの」と呼んでいる。また、野村(1978)では、「体言型接辞性の語基」、「相言型接辞性の語基」、「用言型接辞性の語基」と呼び、さらに以下の例を挙げている。

体言型：期(決算-)・国(先進-)・者(経営-)・難(就職-)・観(人生-)…

相言型：的(積極-)・風(日本-)・調(文語-)・式(自動-)・用(婦人-)…

用言型：産(近海-)・刊(隔月-)・増(定員-)・視(絶望-)・化(活発-)…

(野村 1978 : 115-116 から抜粋)

また、加納(1990)、水野(1987)では、用言型接辞性の語基のうち、「化」は生産性が最も高いものであると述べ、野村(1978)では、現代新聞の漢字から量的調査を行った結果、接尾要素のうち、「化」の使用度数は25位、結合対象語基数は4位<sup>1</sup>であると指摘している。用言型接辞性の語基のうち、「化」と「視」は他のものと異なり、語尾に「する」を付けて、合成語全体をサ変動詞の語幹にすることができる。このうち、「化」には「深刻化」「効率化」「高齢化」のように自動詞として使われやすいものもあれば、「無効化」「私物化」「理論化」のように他動詞として使われやすいものもあれば、「近代化」「安定化」「数値化」のように自他両用のものもある。この点で、「X化」の自他性を明らかにする必要がある。

本研究では、便宜上、「化」に前接するもの「X」を「商品」のような自立的なもの、「合理」のような非自立的なものに関わらず、まとめて「語基」と呼び、「化」を「接尾辞」と呼ぶ。また、一般的に「春+風」「旅+立つ」のような「語基+語基」の組み合わせは「複合語」と呼ばれ、「春+めく」「お+米」のような「語基+接辞」と「接辞+語基」の組み合わせは「派生語」と呼ばれているため、便宜上本研究でも「X化」を派生語と呼ぶことにする<sup>2</sup>。

なお、日本語の場合は「X化」のように鍵括弧で表し、中国語の場合は“X化”のように二重引用符号で表し、日本語と中国語を合わせて指す場合は【X化】のように墨付き括弧で表すことにする。

## 1.2 【X化】の問題点

日中両語の派生語【X化】は、語基の字数の面からは下の例(1-1)のように、「一字語基+化」「二字語基+化」「三字以上語基+化」に分類され、語基の品詞の面からは(1-2)のように、「名詞語基+化」「形容詞語基+化」「動詞語基+化」に分類される。また、日本語においては例(1-3)のように、「和語+化」「漢語+化」「外来語+化」の語例が見られる。

(1-1) a. 美化、緑化、強化、液化…

【一字語基+化】

<sup>1</sup> 野村(1978:109)では、接尾要素のうち、使用度数の上位5位は「日(にち)」「円」「年」「月(がつ)」「的」であり、結合対象語基数の上位5位は「的」「者」「中」「化」「会」であると指摘している。

<sup>2</sup> ただし、「お+米」は「米」の丁寧語が「お米」であるため「米」から「お米」が派生しているため、語基である「米」が語の中核的意味を担っている。しかし、「春めく」や「近代化」は「春」や「近代」から「春めく」や「X化」が派生したのではなく、「Xめく」や「X化」のXに様々な語が代入された表現である。そのため、本研究では一般に接辞とされる「めく」や「化」の方が中核的意味を担っていると考えられる。そのため「便宜上」とした。

- |                           |            |
|---------------------------|------------|
| b. 商品化、合理化、一般化…           | 【二字語基+化】   |
| c. 植民地化、高学歴化、不良債権化…       | 【三字以上語基+化】 |
|                           |            |
| (1-2) a. 制度化、砂漠化、現金化…     | 【名詞語基+化】   |
| b. 長期化、複雑化、多様化…           | 【形容詞語基+化】  |
| c. 公開化、肥大化、固定化…           | 【動詞語基+化】   |
|                           |            |
| (1-3) a. 見える化、共働き化、赤ちゃん化… | 「和語語基+化」   |
| b. 多様化、民営化、近代化…           | 「漢語語基+化」   |
| c. グローバル化、デジタル化、グループ化…    | 「外来語語基+化」  |

このうち本研究では、日中両語の【二字語基+化】を中心に、名詞語基、形容詞語基、動詞語基を含めて考察する。また、日中対照を行うことに伴って、「グローバル化」のような「外来語+化」の例も考察対象にする。

派生語【x化】は変化を表すものであり、【化】に前接する語基は変化の結果を表す。例えば、例(1-4a)の「商品化」はある製品が「商品でないもの」から「商品」になったことを表し、例(1-4b)の「砂漠化」は草原が「砂漠でない状態」から「砂漠」になったことを表している。

- (1-4) a. 製品が商品化した。 →製品が 商品 になった。  
 b. 草原が砂漠化した。 →草原が 砂漠 になった。

日本語の「X化」は英語の訳語として登場し、その後、広く様々な語と結合して使われるようになっていく(池上(2000)、趙(2013))。また、中国語の“X化”も同じように、今は生産力の高い派生語であるが、最初は1919年の五四運動以降、英語の“-ize”“-fy”の訳語として現れ(呂叔湘、朱德熙(1979)、丁声树(1979)、任学良(1981)など)、この訳し方は日本語の真似をしたとされている(王力(2004)、陳瞬臣、陳謙臣(1972)など)。つまり、日中両語における変化を表す【X化】は最初と同じように英語の訳語として現れ、その後それぞれの言語システムにて発展してきたという。ただし、本研究では【X化】の通時的な成立や変遷については、これ以上立ち入らないこととする。

本研究では現代語における日本語と中国語の【X化】について考察したい。【X化】に関する先行研究は、日本語の「X化」の自他性や、中国語の“X化”の動詞用法の特殊性

に関するものにとどまっています、【X化】の日中対照や用法に関する記述研究は遅れている。これを受け、本研究では日本語の「X化」と中国語の“X化”について以下の三つの側面から考察を行う。

1. 【X化】の意味
2. 【X化】の語基
3. 【X化】の品詞的用法

次に、以上の三つの側面について説明していく。

### 1.2.1 「X化」の意味

【X化】は従来、下の例(1-5) (1-6)のように「ある性状・状態に～すること／なること」の意味を表すとされている(田窪(1986)、加納(1990)など)。

- (1-5) a. 映画会社はこの小説を映画化した。  
 b. 映画会社はこの小説を映画にした。

- (1-6) a. 政治問題が複雑化した。  
 b. 政治問題が複雑になった。

例(1-5)の「映画化」は映画ではなかったものを「映画にする」という意味を表し、例(1-6)の「複雑化」は複雑でなかったものが「複雑になる」ということを表す。

しかし、「X化」は変化の意味を表すものの、下の例(1-7)～(1-9)のように、「～になる／する」とは解釈できない場合もある。

- (1-7) a. 男性が女性化した。  
 b. #男性が女性になった。<sup>3</sup>  
 c. 男性が女性のようになった。

- (1-8) a. 製品が個性化した。  
 b. ?製品が個性になった。

<sup>3</sup> 性転換して男性が女性になるという意味となる。

c. 製品が個性を持つようになった。

(1-9) a. 社会が情報化した。

b. \*社会が情報になった。

c. 社会に情報が重視されるようになった。

例(1-7)の「女性化」の意味は「女性になる」ではなく、「女性のようになる／女性っぽくなる」ことであると考えられる。また、例(1-8)の「個性化」は「個性になる」ではなく、「個性を持つようになる」ことであり、例(1-9)の「情報化」は「情報になる」ではなく、「情報が重視されるようになり、広がるようになる」ことであると考えられる。

つまり、「X化」は変化を表すものの、意味が単一ではないため、さらに詳しく分析する必要があると考えられる。そのため、本研究の第3章では、日本語の「X化」と中国語の“X化”の意味を考察する。その結果、日本語の「X化」は、意味的に次のようなタイプに分類できることを指摘する。

#### 「名詞語基+化」

- |                                   |             |
|-----------------------------------|-------------|
| A. 項目変化：語基そのものに変化する               | (現金化、商品化)   |
| B. 様式変化：語基の様式によって表現されるようになる       | (数値化、ポイント化) |
| C. 属性変化：語基の表す属性の一部／典型的な特徴を持つようになる | (女性化、幼児化)   |
| D. 所有変化：語基の表す概念を持つようになる           | (規格化、構造化)   |
| E. 量的変化①：語基が重視されるようになり、広がる        | (情報化、電子化)   |
| F. 量的変化②：語基の表すものに行き渡る／広がる         | (大衆化、全国化)   |

#### 「形容詞語基+化」

- |               |           |
|---------------|-----------|
| ・語基の表す状態に変化する | (複雑化、特殊化) |
|---------------|-----------|

#### 「動詞語基+化」

- |                        |           |
|------------------------|-----------|
| A. 語基で表される状態に変化する      | (固定化、肥大化) |
| B. 語基で表される動作の結果状態に変化する | (立法化、外注化) |

一方、中国語の“X化”の意味も日本語の「X化」の意味とほぼ同じであるが、「名詞

「語基+化」の場合において、タイプ G が見られることを指摘する。

### 「名詞語基+化」

G. 所有変化②：語基が所有者になる ( (军队) 国家化)

## 1.2.2 【X化】の語基

日中両語において、【X化】は生産性が高い造語であるが、【化】に前接する語基 X には違いがある。下の例 (1-10) のように、日中両語ともに見られる【X化】もあれば、日中両語ともに見られない【X化】もある。また、日本語にしか見られない「X化」もあれば、中国語にしか見られない“X化”もある。(「○」は言えるもの、「×」は言えないものを指す。)

- (1-10) a. 商品化、複雑化、活性化、女性化… (日○ 中○)  
 b. \*年齢化、\*運動化、\*突然化、\*後悔化… (日× 中×)  
 c. 完璧化、円滑化、専門化、一本化… (日○ 中×)  
 d. 汽车化、结构化、格式化、完美化<sup>4</sup>… (日× 中○)

さらに、日本語と中国語ともに存在するが、出現頻度に大きな差がある【X化】が見られる。【数値化】【問題化】【口語化】【白熱化】の四つの語を国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』と北京大学中国語学研究中心の CCL 語料庫で検索し、結果をまとめると表 1-1 のようになる。

表 1-1 日中同形の【X化】の使用頻度

	日本語	中国語
数値化	97	3
問題化	79	1
口語化	2	257
白熱化	2	1,510

表 1-1 から分かるように、【数値化】【問題化】は中国語より日本語の方が使用頻度が高いのに対して、【口語化】【白熱化】は日本語より中国語の方が使用頻度が高い。

<sup>4</sup> 日本語訳：「(お出かけの仕方は) 自動車によるようになる」「構造化」「(パソコン・携帯などが) 初期化」「完璧化」。

もちろん、元々の両コーパスの規模にも違いがあるが、同じ日本語の中、中国語の中だけ見ても、両言語でXに取りやすい語に違いのあることが分かる。

そのため、本研究の第4章では、日本語の「化」と共起する語基および中国語の“化”と共起する語基を考察する。

### 1.2.3 【X化】の品詞的用法

本研究の第5章～第7章では、日中両語における【X化】の品詞的用法を中心に考察する。まず第5章では日本語「X化」の品詞的用法を考察し、第6章では、中国語“X化”の品詞的用法を考察し、最後の第7章では、日中同形語【X化】の品詞的用法を考察する。

日本語の「X化」は下の例(1-11)の「機械化」のように、主語、目的語、連体修飾語、動詞述語に用いることができる。

- (1-11) a. 綿工業の機械化が進行した。 (主語)  
 b. 局内作業の機械化を推進する。 (目的語)  
 c. 機械化した人間を作る。 (連体修飾語)  
 d. 漁労作業を機械化すべきだと思ふ。 (動詞述語)

本研究では、中国語と対照するために、「X化」の品詞的用法のうち、主語や目的語などに用いられる場合を名詞的用法と称し、連体修飾語に用いられる場合を形容詞的用法と称し、動詞述語に用いられる場合を動詞的用法と称する。

なお、「X化」は名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法の出現率に偏りが見られる。「軽量化」「市街化」「表面化」の使用実態をBCCWJで調べた結果をまとめると下の表1-2のようになる。

表1-2 「軽量化」「市街化」「表面化」の用法別頻度(括弧内は出現率%)

用法	軽量化	市街化	表面化
名詞的	出現数：146 (69.2) 例：車の <u>軽量化</u> を図る。	出現数：25 (13.2) 例： <u>市街化</u> が進んでいる。	出現数：10 (5.6) 例：不祥事の <u>表面化</u> を回避する。
形容詞的	出現数：33 (15.6) 例： <u>軽量化</u> 競争の時代	出現数：163 (86.3) 例： <u>市街化</u> 区域	出現数：33 (18.3) 例： <u>表面化</u> した疑い

動詞的	出現数：32 (15.2) 例：荷物を <u>軽量化</u> したい。	出現数：1 (0.5) 例：駅の周りは <u>市街化</u> している。	出現数：137 (76.1) 例：問題が <u>表面化</u> した。
合計	211 (100)	189 (100)	180 (100)

表 1-2 から分かるように、「軽量化」のように名詞的用法が多い語もあれば、「市街化」のように形容詞的用法が多い語もあれば、「表面化」のように動詞的用法が多い語もある。

さらに、「X化」は動詞として用いられる場合、能動-自動詞用法と能動-他動詞用法、また受身用法と使役用法が見られる。それぞれの用例を示すと下の例 (1-12) のようになる。

- (1-12) a-1. 意識が稀薄化する。 (能動-自動詞用法)  
a-2. 資産管理を透明化する。 (能動-他動詞用法)  
b. この小説が映画化された。 (受身用法)  
c. 議論を活発化させる。 (使役用法)

しかし、「X化」が動詞として用いられる場合、能動-自動詞用法、能動-他動詞用法、受身用法、使役用法の出現率に偏りが見られる。まず、自動詞と他動詞の使用に偏りが見られる語を示すと、下の表 1-3 のようになる。

表 1-3 「顕在化する」と「明確化する」の自動詞と他動詞の割合 (括弧内は出現率%)

用法	顕在化する	明確化する
自動詞	出現数：95 (95.0) 例：東欧と西欧の相違が <u>顕在化</u> した。	出現数：2 (2.2) 例：責任が <u>明確化</u> した。
他動詞	出現数：5 (5.0) 例：隠れていた問題を <u>顕在化</u> する。	出現数：87 (97.8) 例：曖昧な状態を <u>明確化</u> する。
合計	100 (100)	89 (100)

表 1-3 から分かるように、「X化」が自動詞と他動詞に用いられるとき、「顕在化する」のように自動詞用法が圧倒的に多いものもあれば、「明確化する」のように他動詞用法が圧倒的に多いものもある。さらに、「X化する」の受身用法と使役用法の使用傾向に偏りが見られるものを示すと下の表 1-4 のようになる。

表 1-4 「実用化する」と「活発化する」の受身と使役の割合（括弧内は出現率%）

用法	実用化する	活発化する
受身	出現数：112(98.3) 例：関連技術は早々に実用化された。	出現数：1(3.1) 例：嫌煙運動が活発化されている。
使役	出現数：2(1.7) 例：アイデアを実用化させるため…	出現数：31(96.9) 例：ドル高は対米投資を活発化させる。
合計	114 (100)	32 (100)

表 1-4 から分かるように、「X化」が動詞用法として用いられるとき、「実用化する」のように受身用法がよく見られる語もあれば、「活発化する」のように使役用法がよく見られる語もある。

さらに、下の例 (1-13) ~ (1-15) のように、「X化」は自動詞に用いられやすい場合もあれば、他動詞に用いられやすい場合もあるし、自他両用の場合もある。

- (1-13) a. 建物が老朽化する。(自)  
b. \*建物を老朽化する。(他)
- (1-14) a. \*会社が私物化する。(自)  
b. 会社を私物化する。(他)
- (1-15) a. 国交が正常化する。(自)  
b. 国交を正常化する。(他)

そのため、第5章では、日本語の派生語「X化」において、名詞的に用いられやすいもの、形容詞的に用いられやすいもの、動詞的に用いられやすいものに区別する。さらに、動詞用法を中心に考察して、どのような語が自動詞として用いられやすく、どのような語が他動詞用法として用いられやすいかを考察する。また、受身用法として用いられやすいものと使役用法として用いられやすいものについても見る。

これに対して、中国語の“X化”の使用実態にも傾向が見られる。以下、中国語の“X化”について説明する。

中国語の“X化”は下の例 (1-16) の“機械化”のように、主語、目的語、連体修飾語、形容詞述語、動詞述語、連用修飾語として用いることができる。

- (1-16) a. 农业的机械化是我们的目标。 (主語)  
(農業の機械化は我々の目標だ。)

- b. 我们要不断实现农业机械化。 (目的語)  
 (我々は農業の机械化をどんどん実現しよう。)
- c. 搞一些机械化的养鸡场。 (連体修飾語)  
 (机械化の養鶏場を作る。)
- d. 他的动作非常机械化。 (形容詞述語)  
 (彼の動きはとても機械的だ。)
- e. 笛卡儿把什么都机械化了。 (動詞述語)  
 (ルネ・デカルトは何もかもを机械化した。)
- f. 他机械化地拿起了筷子。 (連用修飾語)  
 (彼は機械的に／機械のように箸を持ち上げた。)

本研究では、“X化”の用法のうち、主語や目的語などに用いられる場合を名詞的用法と称し、連体修飾語や形容詞述語に用いられる場合を形容詞的用法と称し、動詞述語に用いられる場合を動詞的用法と称し、連用修飾語に用いられる場合を副詞的用法と称する。

しかし、“X化”は名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法、副詞的用法の出現率に偏りが見られる。“特殊化”と“一元化”と“扩大化”の使用実態を北京語言大学語言智能研究院のBCC語料庫で調べた結果をまとめると下の表1-5のようになる。

表1-5 “特殊化” “一元化” “扩大化”の用法別頻度(括弧内は出現率%)

用法	特殊化	一元化	扩大化
名詞的	出現数：160 (80.8) 例：杜绝搞 <u>特殊化</u> 。 ( <u>特殊化</u> を拒否する。)	出現数：26 (13.3) 例：追求管理 <u>一元化</u> 。 (管理の <u>一元化</u> を求める。)	出現数：18 (9.1) 例：有向 <u>扩大化</u> 发展的趋势。 ( <u>扩大化</u> に進む傾向がある。)
形容詞的	出現数：30 (15.2) 例：防止干部 <u>特殊化</u> 问题。 (幹部の <u>特殊化</u> 問題を防ぐ。)	出現数：169 (86.7) 例：坚持 <u>一元化</u> 领导。 ( <u>一元化</u> の指導を守り抜く。)	出現数：24 (12.1) 例：犯了斗争 <u>扩大化</u> 的错误。 (闘争 <u>扩大化</u> のミスをした。)
動詞的	出現数：8 (4.0) 例：不知不觉中被 <u>特殊化</u> 了。 (知らないうちに <u>特殊化</u> された。)	出現数：0 (0.0)	出現数：156 (78.8) 例：使战争进一步 <u>扩大化</u> 。 (戦争を更に <u>扩大化</u> させた。)
合計	198 (100)	195 (100)	198 (100)

表 1-5 から分かるように、“特殊化”のように名詞的用法が多い語もあれば、“一元化”のように形容詞的用法が多い語もあれば、“拡大化”のように動詞的用法が多い語もある。

さらに、“X化”が動詞述語として用いられる場合、能動-自動詞用法と能動-他動詞用法、また受身用法と使役用法が見られる。それぞれの用例を挙げると下の例（1-17）のようになる。

- (1-17) a-1. 医美消费日趋低龄化。 (能動-自動詞用法)  
 (プチ整形は次第に低年齢化していく。)
- a-2. 把复杂的问题简单化。 (能動-他動詞用法)  
 (複雑な問題を简单化する。)
- b. 校园暴力没有消失，只是被合理化了。 (受身用法)  
 (校内暴力は消えたわけじゃない、ただ合理化された。)
- c. 让环境保护工作长期化。 (使役用法)  
 (環境保護の仕事を長期化させる。)

しかし、“X化”が動詞として用いられる場合、能動-自動詞用法、能動-他動詞用法、受身用法、使役用法の出現率に偏りが見られる。まず、自動詞と他動詞の使用に偏りが見られる語を示すと、下の表 1-6 のようになる。

表 1-6 “长期化” と “拟人化” の自動詞と他動詞の割合 (括弧内は出現率%)

用法	长期化	拟人化
自動詞	出現数：69 (77.5) 例：学校的法制教育必须长期化。 (学校の法教育は長期化しなければならない。)	出現数：16 (25.8) 例：这个动画里汽车全部拟人化了。 (このアニメでは自動車は全部擬人化した。)
他動詞	出現数：20 (22.5) 例：企图将对伊制裁长期化。 伊拉克への制裁を長期化する。	出現数：46 (74.2) 例：他会把玩具拟人化。 (彼は人形を擬人化して遊ぶ。)
合計	89 (100)	62 (100)

表 1-6 から分かるように、“X化”が自動詞と他動詞用法に用いられるとき、“长期化”のように自動詞用法が多いものもあれば、“拟人化”のように他動詞用法が多いものも

ある。さらに、“X化”の受身用法と使役用法の使用傾向に偏りが見られたものを示すと下の表1-7のようになる。

表1-7 “拟人化”と“复杂化”の受身と使役の割合（括弧内は出現率%）

用法	拟人化	复杂化
受身	出現数：6（100.0） 例：在片中老鼠被拟人化成家中的儿子。 （動画の中で、鼠は息子に擬人化された。）	出現数：7（10.0） 例：简单的东西都被复杂化了。 （簡単なものが複雑化された。）
使役	出現数：0（0.0）	出現数：63（90.0） 例：这种措施使治疗复杂化。 （この施術は治療を複雑化させる。）
合計	6（100）	70（1000）

表1-7から分かるように、“X化”が動詞用法として用いられるとき、“拟人化”のように使役用法が見られない語もあれば、“复杂化”のように使役用法がよく見られる語もある。

さらに、下の例（1-18）（1-19）のように、“X化”は自動詞に用いられやすい場合もあれば、自他両用の場合もある。

- (1-18) a. 世界人口正在老龄化。 (自)  
 (世界人口が老龄化している。  
 b. \*这个事件把世界人口老龄化了。 (他)  
 (\*この事件は世界人口を老龄化した。)
- (1-19) a. 这个概念具体化了。 (自)  
 (この概念が具体化した。)  
 b. 他把这个概念具体化了。 (他)  
 (彼はこの概念を具体化した。)

そのため、第6章では、中国語の派生語“X化”を名詞的に用いられやすいもの、形容詞的に用いられやすいもの、動詞的に用いられやすいものに区別する。さらに、動詞用法を中心にして、どのような語が自動詞として用いられやすく、どのような語が他動詞用法として用いられやすいかを考察する。また、受身用法として用いられやすいものと使役用法として用いられやすいものについても見る。

次に、第7章では、日本語と中国語における同形類義の【X化】を考察対象とし、【X化】の使用傾向の異同を考察する。

前述したように、日本語の「X化」には名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法があるが、中国語の“X化”には名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法のほか、副詞的用法もある。さらに、日中同形の【X化】において、使用実態に異同が見られる場合がある。「最大化」と“最大化”の使用実態をコーパスで調べた結果をまとめると下の表1-8のようになる。

表1-8 日本語と中国語における【最大化】の用法別頻度（括弧内は出現率%）

用法	日本語の「最大化」	中国語の“最大化”
名詞的	出現数：54(31.6) 例：収入の <u>最大化</u> を図る。	出現数：144(72.0) 例：他们都在追求 <u>最大化</u> 。 (彼らは <u>最大化</u> を求めている。)
形容詞的	出現数：50(29.2) 例： <u>最大化</u> ボタンをクリックする。	出現数：28(14.0) 例：他们应该享有 <u>最大化</u> 的教育利益。 (彼らは <u>最大化</u> の教育の権利を有するべきだ。)
動詞的	出現数：64(37.4) 例：会社の利益を <u>最大化</u> する。	出現数：22(11.0) 例：要让自身优势 <u>最大化</u> 。 (自分の強味を <u>最大化</u> すべきだ。)
副詞的	出現数：0	出現数：3(1.5) 例：要 <u>最大化</u> 地提高员工归属感。 (従業員の所属意識を <u>最大</u> に高める。)
その他	出現数：3(1.8) 例：…4. 利益 <u>最大化</u> 、5. …	出現数：3(1.5) 例：经理人的偏好是：(1) 支配资源 <u>最大化</u> … (マネージャーの好みは(1) 支配資源 <u>最大化</u> …)
合計	171(100)	200(100)

表1-8から分かるように、日本語の「最大化」は名詞的、形容詞的、動詞的用法がそれぞれ約30%で、平均的に分布している。これに対して、中国語の“最大化”は名詞的用法が72%もあり、名詞的用法に偏っていることが分かる。また、中国語の“最大化”は“要最大化地提高员工归属感”のように、副詞的用法が見られるが、日本語にはこのような副詞的用法が見られない。さらに、日中両語ともに【利益最大化】のように、【X化】で終わる表現もある。このような表現は書名や文章のタイトルに現れる。これらはまとめて「その他」の類に入れることにする。

一方、日中両語の【X化】が動詞として用いられる場合、能動-自動詞用法、能動-他動詞用法、受身用法、使役用法が見られるが、使用傾向に違いがある。日中同形語【平均化】の動詞用法の使用実態をまとめると、下の表 1-9 のようになる。

表 1-9 日中両語の【平均化する】の用法別頻度（括弧内は出現率%）

用法	日本語の「平均化する」	中国語の“平均化”
自動詞	出現数：1(3.7) 例：親が平均化してしまったものだから、せめて子供に競争させて差つけよう。	出現数：39(88.6) 例：社会利润率是会平均化的。 (社会の利潤率は平均化する。)
他動詞	出現数：20(74.1) 例：在庫／損失を平均化する。	出現数：1(2.3) 例：把不同的市场价值平均化为一般的市场价值。 (異なる市場価値を普通の価値に平均化する。)
受身	出現数：5(18.5) 例：彼の考えによれば、都市と農村の人口は平均化されなければならない。	出現数：1(2.3) 例：原本应该具有丰富个性的人被平均化了。 (元々個性があるはずの人々は平均化された。)
使役	出現数：1(3.7) 例：ある程度平均化させるためにそこに税金を投入すべきだ。	出現数：3(6.8) 例：这种机制，使社会不同产业部门的利润平均化。 (このメカニズムは異なる産業部門の利益を平均化させる。)
合計	27(100)	44(100)

表 1-9 から分かるように、日本語と中国語の【平均化】は能動-自動詞用法、能動-他動詞用法、受身用法、使役用法が見られるが、それぞれの使用頻度は異なっている。日本語の「平均化」は「在庫／労力／誤差／損失を平均化する」のような他動詞用法が多いのに対して、中国語の“平均化”は“社会利润率是会平均化的”のような自動詞用法が多いという違いが見られる。

そのため、本研究の第 7 章では、日中同形語の【X化】は日本語と中国語においてどのような異同があるかを考察する。

### 1.3 分析方法

基本的に、日本語の「X化」の用例は国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』を中納言で抽出し、中国語の“X化”の用例は北京語言大学語言智能研究員の BCC 語料庫から抽出し、日中対照を行う。また、BCCWJ および BCC からの用例数が

少ない場合、日本語は Google のウェブ検索、中国語は北京大学中国語学研究中心の語料庫 (CCL) や Baidu のウェブ検索を利用し、用例を補充する。

なお、日本語の「X化」と中国語の“X化”の自動詞用法と他動詞用法について、階層的クラスタ分析および正準判別分析を行うことにより、「X化」と“X化”の自他性傾向を明らかにする。

#### 1.4 本研究の構成

本研究では、日本語と中国語の派生語【X化】の意味、語基、品詞的用法の三つの側面について対照研究を行う。本稿の構成は次の通りである。

まず、第1章の序論では、日本語の「X化」と中国語の“X化”には意味、語基、品詞的用法の三つの側面に異同が見られることを指摘し、本研究の目的について述べた。

次に、第2章では、【X化】の日中対照や「X化」と“X化”に関する先行研究を概観する。

続いて、第3章では日中両語における【X化】の意味を分析して、日本語の「X化」は六つの意味、中国語の“X化”は七つの意味を持つことを指摘する。

第4章では日本語の「化」と中国語の“化”に前接する語基を中心に考察し、①日〇中〇、②日〇中×、③日×中〇、④日×中×の四つのタイプに分類し、それぞれに属する語をまとめる。（「〇」は言えるもの、「×」は言えないものを指す。）

【X化】の品詞的用法に関しては、第5章～第7章で詳しく論じる。

まず第5章では、日本語の「X化」を中心に論じ、品詞的用法の傾向および「X化する」の自他選択の傾向を分析する。分析にあたっては、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』を中納言で検索し、100回以上出現した「X化」を考察対象として、「X化」の用法を名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法、その他の四つの種類に分けて、それぞれの「X化」が以上の四つの用法のうち、どの用法として用いられやすいかを見る。さらに、「X化」が動詞として用いられる場合、どのような語が自動詞として使われやすく、どのような語が他動詞として使われやすいかを考察し、受身用法と使役用法として用いられやすいものも見る。

第6章では、第5章を受け、中国語の“X化”を中心に論じ、品詞的な使用傾向および“X化”が動詞に用いられる場合の自他選択の傾向を分析する。分析にあたっては、北京語言大学語言智能研究院のBCC語料庫を利用し、“X化”の用法を名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法、副詞的用法、その他の五つの種類に分けて、それぞれの“X化”が以上の五つの用法のうち、どの用法として用いられやすいかを見る。さらに、“X化”が動

詞として用いられる場合、どのような語が自動詞として使われやすく、どのような語が他動詞として使われやすいかを考察し、受身用法と使役用法として用いられやすいものも見る。

第7章では、日中同形の【X化】に絞って、品詞的用法の異同を考察する。考察対象は①日中同形語、②日本語コーパス BCCWJ で100件以上出現した、③中国語のコーパス BCC 語料庫で100件以上出現したという三つの条件を満たした語とし、これらの【X化】の名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法の異同を考察する。

最後に、第8章で本研究の考察をまとめる。

## 第2章 先行研究

本章では、【X化】に関する先行研究を見る。派生語【X化】に関する研究は、ほとんどが日本語の「X化」あるいは中国語の“X化”に関するものであり、【X化】の日中対照に関する研究は、管見の限りでは水野（1985）しか見られない。

そこで、本章ではまず水野（1985）を紹介する。それから、日本語の「X化」に関する研究の田窪（1986）、加納（1989, 1990）、池上（2000）、山下（2003）と、中国語の“X化”に関する研究の郭潮（1982）、胡松柏（1982）、周剛（1991）、王丹（2012）を概観する。

なお、本研究は日中両語の【X化】について、意味的、形態的、用法的な異同を考察するものであり、「X化」の意味、形態、用法に関する先行研究はそれぞれ第3章、第4章、第5章と第6章で詳しく論じる。

### 2.1 水野（1985）

水野（1985）は、日中両語において「接尾辞的性格の強い」（p. 3）「一性」「一化」を比較対照し、「一性」と「一化」の接尾辞的用法の特徴を考察している。このうち、日本語の「X化」と中国語の“X化”の対照が本研究の基盤になる。

水野（1985）ではまず、日本語の「化」に前接する語基を体言系（例：人間、作品）、相言系（例：自由、健康）、用言系（例：計画、生産）、副言系（例：普通、絶対）と結合形態（例：合理、積極）という五つの種類に分けている。結合形態とは「助辞をともなって独立的に用いることができない」（p. 3）ものであるとしている。

これに対して、中国語は孤立語的性格が強いため、語基の分類基準を日本語と統一することは困難であるとしているが、次の基準に基づいて分類している。

- 1) 体言系——主語・目的語の位置にたつことができるもの。（例：規律・社会）
- 2) 相言系——程度副詞の「很（hěn—とても）」を前につけて修飾することができるもの。あるいは連体修飾機能しかもたないもの。（例：特殊・積極）

- 3) 用言系——それだけで述語となりうるもの(相言系に入るものを除く)。(例：闘争・創造)
- 4) 副言系——そのまま連用修飾ができるもの。(例：必然・偶然)

(水野 1985 : 4)

次に、水野(1985)は大規模な資料を用い、日中両語の「X化」を検索している。日本語の場合は、現代新聞の漢字調査の資料である国立国語研究所報告56『現代新聞の漢字』(1976)を利用し、昭和41年(1966年)の朝日新聞・毎日新聞・読売新聞の各一年分の内容のうち、ランダムで約180万字を対象としている。これに対して、中国語の場合はアジア・アフリカ言語文化研究所の現代中国語資料を利用し、五四運動(1919年)以来の小説・新聞、歴史・考古学などのジャンルが含まれている白話文のテキストの約100万字を対象としている。

なお、「文化」「消化」などのように、【X化】が必ずしも接尾的要素とは考えられないものもあるため、「一字語基+化」は考察の対象としていない。水野(1985)は、資料に現れた「二字以上の語基+化」を上語基の分類基準に従って分類し、量的側面を考察した結果を下の表2-1のようにまとめている。

表2-1 水野(1985:6)の〈表1〉の一部、日中両語の資料に現れた【X化】  
—語基の形態論的性質による分類と語数(括弧内は比率、以下同様)

接尾辞と語数 語基の 形態論的性質	日本語の「X化」		中国語の“X化”	
	延べ語数	異なり語数	延べ語数	異なり語数
体言系	325 (36.6)	117 (46.6)	179 (80.6)	44 (63.8)
相言系	313 (35.3)	73 (29.1)	23 (10.4)	19 (27.5)
用言系	85 (9.6)	29 (11.6)	18 (8.1)	5 (7.2)
副言系	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.9)	1 (1.5)
結合形態	164 (18.5)	32 (12.7)		
合計	887 (100.0)	251 (100.0)	222 (100.0)	69 (100.0)

表2-1から、水野(1985)は「中国語の延べ語数の合計を1.8倍してみると400となり、日本語の1/2弱になり」、「「一化」は日本語においてより頻繁に用いられると言えそうである」(p.8)と述べている。また、語基の種類について、日本語は体言系に次いで相言系もかなりあるのに対して、中国語は体言系が圧倒的に多いと指摘している。

次に、水野(1985)では【X化】の文法的・意味的な側面について日本語と中国語を対

照している。日本語において、「スル」と結合してサ変動詞をつくる用法を「用言用法」、体言として主に助詞に接続する用法を「体言用法」としている<sup>5</sup>。中国語において、文の主題、動作・状態の主格、動詞・介詞の目的語となるものを「体言用法」に分類し（例（2-1））、「了（le）」を伴ったもの、「把（bǎ）」を用いて目的語を伴ったものなどを「用言用法」に分類し（例（2-2））、「X 化的 Y」<sup>6</sup>の形式を持ち、修飾語が被修飾語の属性を表すものを「連体用法」（例（2-3））に分類している。

- (2-1) 中国的工业化必须依靠国内广大的农村市场……（中国の工業化は、国内の広大な農村市場に依拠しなければならない……）
- (2-2) 清儒則把聖人畫本化。（清朝の儒学者は聖人を書物化した——書物の中にとじこめた。）
- (2-3) 現代化的企業（現代化された企業）

（水野 1985：15）

水野（1985）では、日本語の「X 化」の二つの用法と中国語の“X 化”の三つの用法の延べ語数と出現率を調査している。その結果を表 2-2 に示す。

表 2-2 水野（1985：11、15）の表<4>と表<6>を合わせたもの  
日本語と中国語の【X 化】—用法別延べ語数

用法 語基の 形態論的性質	日本語の「X 化」			中国語の“X 化”			
	用言用法	体言用法	合計	用言用法	体言用法	連体用法	合計
体言系	95 (29.2)	230 (70.8)	325 (100.0)	14 (7.8)	101 (56.4)	64 (35.8)	179 (100.0)
相言系	100 (31.9)	213 (68.1)	313 (100.0)	9 (39.1)	14 (60.9)	0	23 (100.0)
用言系	29 (34.1)	56 (65.9)	85 (100.0)	4 (22.2)	14 (77.8)	0	18 (100.0)
副言系	0	0	0	0	2 (100.0)	0	2 (100.0)
結合形態	37 (22.6)	127 (77.4)	164 (100.0)				

続いて、水野（1985）は、「用言系語基+化」に絞って分析して、「X 化」と結合する用言系語基を a) ~c) の三つに分類している。

<sup>5</sup> 水野（1985）はこれらの例を挙げていないが、次の（i）、（ii）のような例のことである。

（i） 作業を細分化する・言い方が習慣化された（用言用法）

（ii） 温暖化が進んでいる・少子化を防ぐ（体言用法）

<sup>6</sup> 水野（1985）では、“～化的××”と表記している。

- a) 体言系と兼用で、体言系としての性格が強いもの（例：組織）
- b) 相言的な意味を持ち、「～シテイル」の形で状態を表わすもの（例：孤立・安定・緊迫）
- c) 「スル」を伴い、継続的動作を表わすもの（例：拡大・冷却）

（水野 1985 : 12）

水野（1985）は、a) の語基は体言系と見し、b) の語基は、用例の7割を占めていて、量的には最も多いとしている。また、b) 類の語基は「スル」と結合した形で、「化」が付くか否かには、あまり違いがないが、体言用法として用いられる場合には、下の例(2-4)のように、「孤立化」に比べ、「孤立」は「「孤立シタ状態ニナル」という動的な意味が十分に表わせない」（p. 12）としている。

- (2-4) a. N国の孤立を望んではない。

（水野 1985 : 12、下線は筆者による）

- b. N国の孤立化を望んでいない。

（筆者作例）

「つまり、「一化」は、状態性の強い用言系の語基に変化の意味をつけ加える働きがある」（p. 12）と指摘している。

次に、水野（1985）はc) 類の用言語基について、例（2-5）のように、「スル」を付けた形で「語基する」と「語基+化する」の意味があまり変わらないというだけでなく、（2-6）のような体言用法に用いられた場合においても「b) において見られたほどの違いはないように思われる」（p. 12）と述べている。

- (2-5) a. 中東戦争が拡大する。

- b. 中東戦争が拡大化する。

- (2-6) a. 中東戦争の拡大が懸念される。

- b. 中東戦争の拡大化が懸念される。

（水野 1985 : 12 の例 1～2）

加えて、語基「X」と派生語「X化」の共起語について、下の例（2-7a）（2-8a）は普通

であるが、(2-7b) (2-8b) は普通言わない例であり、(2-9a) と (2-9b) は両方言える文であるとしている。

- (2-7) a. 原稿を複写機で拡大する。  
 b.<sup>7</sup> 原稿を複写機で拡大化する。
- (2-8) a. 飛行機が雲の上に出て安定した。  
 b.<sup>7</sup> 飛行機が雲の上に出て安定化した。
- (2-9) a. インフレが収まり、物価が安定した。  
 b. インフレが収まり、物価が安定化した。

(水野 1985 : 13 の例 5~10)

水野 (1985) は例 (2-7) の「原稿を複写機で拡大すること」と (2-8) の「飛行機が雲の上に出ること」を具体的な事柄、(2-9) の「物価」を抽象的な事柄であると認め、語基「X」は抽象的な事柄にも具体的な事柄にも用いられるが、派生語「X化」は、抽象的な事柄に用いられるが、具体的な事柄に用いられにくい傾向があると述べている。このことから、語基が「化」と結合することによって「意味がある程度抽象化される」(p. 13) と指摘している。

### 問題点および本研究の目的：

1. 表 2-1 では、日中両語の【X化】の語基の品詞性と語数がまとめられているが、【X化】の具体例が示されていない。また、日本語と中国語には同じ種類の語基が見られるが、どのような語基が日本語もしくは中国語のみに存在するかは言及されていない。そのため、本研究では、日中両語の【X化】の語基 X を詳しく考察し、①日〇中〇、②日〇中×、③日×中〇、④日×中×の四つのタイプに分類し、それぞれに属する語の特徴を考察する。
2. 表 2-2 において、水野 (1985) は日本語の「X化」を用言用法と体言用法、中国語の“X化”を用言用法、体言用法、連体用法に分けているが、この分類の仕方が不十分であると考えられる。

まず、日本語の「X化」において、「X化+的+被修飾語」の形式がなくても<sup>7</sup>、下

<sup>7</sup> わずかであるが、BCCWJ から「多角化的方向」、Google ウェブ検索から「劇化的性格」「同一化的調整」

の例(2-10)のように、「X化+の+被修飾語」や「X化+被修飾語」の用例が多く見られる。

- (2-10) a. 民営化の企業／一本化の株価／活性化の機構／機械化の設備  
 b. 高齢化社会／近代化産業／空洞化現象／軽量化技術／固定化状態

さらに、例(2-11)のように、「X化+動詞活用形」（「X化した／された／させた+被修飾語」）の形式について、水野（1985）は用言用法に分類しているが、後続語を修飾しているため、用言方法でありかつ連体用法であると思われる。

- (2-11) 固定化した社会関係／工業化された製パン／最大化させた状態

そのため、本研究では、日中両語の【X化】が連体修飾語に用いられる場合を形容詞的用法と称し、日本語において形容詞的用法として用いられやすいもの、中国語において形容詞的用法として用いられやすいものを見る。さらに、水野（1985）では言及されていないが、中国語の“X化”は下の例(2-12)のように副詞的用法も見られる。これも含めて考察する。

- (2-12) a. 他機械化地吃着。（彼は機械のように食べている。）  
 b. 我们要简单化地处理这件事。（我々はこの事件を简单に片付けよう。）

3. 水野（1985）は例(2-7)～(2-9)で、動詞語基「X」は抽象的な事柄にも具体的な事柄にも用いられるが、派生語「X化」は、抽象的な事柄に用いられるが、具体的な事柄に用いられにくい傾向があると述べている。しかし、例(2-13)～(2-15)において、「肝臓」「土壌」「ごみ」は具体的な事柄を表すと思うが、「X化」が使える。

- (2-13) a. 肝臓が肥大する。  
 b. 肝臓が肥大化する。  
 (2-14) a. 土壌が乾燥する。  
 b. 土壌が乾燥化する。

---

の用例が見られた。しかし、日本語としては落ち着きが悪いと考えられる。

- (2-15) a. ごみを減量する。  
 b. ごみが減量化する。

また、水野（1985）では動詞語基「X」と派生語「X化」の意味上の異同、共起語の異同について述べているが、「Xする」と「X化する」の自他性が言及されていない。下の例（2-16）のように、「安定化」は自動詞としても他動詞としても使えるが、「安定」は自動詞としてしか使えない。

- (2-16) a. 通貨の価値が安定化する。 (自動詞)  
 b. 通貨の価値を安定化する。 (他動詞)  
 c. 通貨の価値が安定する。 (自動詞)  
 d. <sup>?</sup>通貨の価値を安定する。 (他動詞)

(筆者の作例)

そのため、動詞語基と「動詞語基+化」の意味と自他性の違いを再考する必要があると考えられ、本研究の第3章で考察する。

## 2.2 日本語の「X化」

日本語の「X化」に関する先行研究は「化」に前接する語基の制限、「X化する」の自他性を左右する要素に関する議論がよく見られる。本節では、田窪（1986）、加納（1989, 1990）、池上（2000）、山下（2003）を中心に概観する。

### 2.2.1 田窪（1986）

田窪（1986）は語構成、自他の決定、意味の観点から「X化」を論じている。

#### ・語構成

田窪（1986）は、「化」の語構成について、「異化」「同化」のような一字語基のもの、「制度化」「特殊化」のような二字語基のもの、「システム化」「ドラマ化」のような外来語語基のものがあると述べている。

また、田窪（1986）は野村（1978）に従い、「化」は体言系、相言系の語基につくが、用言系語基にはつきにくいと指摘している。

体言+化：機械一化、近代一化、映画一化  
 相言+化：複雑一化、正常一化、簡素一化  
 用言+化：固定一化、孤立一化、組織一化

(田窪 1986 : 82 の例。野村 1978 : 133 から引用)

田窪 (1986) は「「一化」の意味は、「ある性状・状態に一すること／なること」であり、実質的な意味はほとんどなく、ほぼ状態変化のサ変動詞語幹を形成する接尾辞の機能を果たしていると考えられる」(p. 82) としている。語基は、この変化の結果となるべき状態、性状を表すという。したがって、「まず、動作性の用言系語基 ([例] 研究、発達、処理、指摘……) は、結果の状態を表しにくいので「化」はつきにくい。次に、結果の状態を持つ用言語基は、最初から状態変化の意味を有しているのであるからあらためて「一化」によって状態変化用言にする必要はないわけで、これもつきにくい」(p. 82) と指摘している。

しかし、例 (2-17) のように、結果状態を表す語基は語彙的意味の中に状態を含んでいるので「化」が付けられる例があるとしている。この場合、もとの語基と派生語に意味の相違があるとしている。

- (2-17) a. 固定する一固定化する  
 b. 孤立する一孤立化する  
 c. 日本の国際政治での孤立／孤立化

例 (2-17a) の「固定する」が「ある対象 (多くの場合具体的) を「固定された／した状態」にする／になる、という一過性の出来事を表しているのに対して、「固定化する」は、ある対象 (多くの場合抽象的) が「流動的、変動的」でなく、「固定的」であるという性質、属性をもつようになる／するという意味である」(p. 83) と主張している。例 (2-17b) の「孤立する」と「孤立化する」という動詞の場合には大した差がないが、(2-17c) の「日本の国際政治での孤立／孤立化」のような名詞の場合に、「孤立」がより状態、状況的なものに対して「孤立化」がより過程、変化に焦点を当てる表現になると指摘している。

#### ・自他の決定

次に、田窪 (1986) は「X化する」が自動詞として使われるか他動詞として使われるかについて論じている。田窪 (1986) は「X化する」が自動詞か他動詞かを決める要因とし

て3点があるとしている。以下、田窪（1986：83）の記したものをまとめておく。

### ① 結果が自然発生的か人為的か

「X化する」はある結果の状態を表す語を前項にとり、「風化」「老化」「マンネリ化」のように、この結果が自然発生的なことなら、「X化する」が自動詞として使われる。

また、自動詞を他動詞として使いたい場合、「風化させる」「老化させる」「マンネリ化させる」のように使役形にし、間接的な行為を表す。

これに対して、「映画化」「シナリオ化」のように、「X化する」の語基が表す結果が人為的なことなら、他動詞として使われる。また、他動詞を自動詞として使いたい場合、「映画化される」「シナリオ化される」のように受身形にする。

その他の多くの語が自他両方の用法を持つが、自他のどちらとして使われるかを下の②と③の理由で定めるものもある。

### ② 「弱化する」と「強化する」

一般的に、物事が弱くなるのは好ましくないことであり、積極的な努力がいないため、自動詞として用いられやすい。これに対して、何かを強くするのは好ましいことであり、積極的な努力が必要であるため、他動詞として用いられやすい。

### ③ 話者の信念体系による

例えば、「共産化する」「民主化する」は、それによって生じた状態が話者にとって好ましいのか否か、その状態になるのに人為が不可欠か否かなどで自他性がゆれるという。田窪（1986）には細かい説明がないが、おそらく話者にとって国の政治体制が共産主義体制になることが好ましいのであれば、「～を共産化する」という他動詞的表現をし、好ましくなければ、「～が共産化した」という自動詞的表現をすることだろうと思われる。

#### ・意味

田窪（1986）は「化」は「～になること／にすること」の意味を持っているが、例（2-18）と（2-19）のように、「X化」を「～になる／にすること」に言い換えられない例もあると述べている。

（2-18） 国際一化、合理一化、抽象一化、女性一化、具体一化、普遍一化…

（2-19） モデル一化、表面一化、意識一化、理想一化、機械一化、規格一化…

(田窪 1986 : 84 の例)

例 (2-18) の「国際」「合理」のような非自立語は「～になる／すること」に言い換えられないのは当然であるが、例 (2-19) のような「自立語的な語基+化」が「～になる／すること」に言い換えられない語もあるとしている。例えば、例 (2-20) のように、「男性は女性化した」は「男性は女性になった」と言い換えられない。

(2-20) 最近の男性は女性化した。→ \*男性が女性になった。

田窪 (1986) は (2-18) の類はほぼ、「一的にする／なる」のように、語基を相言化した形で言い換えることができるとしている。この場合、語基が「実体概念ではなく、その語基がもつ性状、性質を表していると考えられ、「X化」は、「そのような性質を持つようになる／する」という意味を持つ」(p. 84) とし、これは「的」など相言化の接尾辞を含む語基に「化」を付けることができない (例 (2-21)) という制限によるものかもしれないと指摘している。

(2-21) 国際的 → \*国際的化、合理的 → \*合理的化

(2-19) の類も「X化」を「～になる／すること」に言い換えられない例であると考えているが、語基は「漠然とその言葉で特徴付けられる状況、状態、性質のようなものを表しており、多少複雑な様相を呈している」(p. 84) と述べている。

### 問題点および本研究の目的：

1. 田窪 (1986) では「X化する」は何か弱くなる事象を表す場合、自動詞として用いられやすく、何かを強くする場合、他動詞として用いられやすいと述べているが、田窪 (1986) には具体例がない。そこで、筆者が BCCWJ を利用し、調べたところ、確かに「空洞化」、「希薄化」などの語は、好ましくなく、何かを弱くする語であり、自動詞用法として用いられやすく、「独占化」、「包括化」、「最大化」などは、何かを強くする語であり、他動詞用法に用いられやすいことが分かった。しかし、同じく何かを弱くする語であっても、「減量化」や「無効化」は他動詞用法で用いられやすく、何かを強くする語であっても、「強大化」や「高学歴化」は自動詞用法に用いられやすい。

また、田窪 (1986) では「X化」の表す事態が自然発生なのか、人為的なのか、弱く

なることなのか、強くなることなのかという事態の性質、話者にとって好ましいかどうかという話者の信念体系の観点から「X化する」の自他性を分析しているが、語基「X」の品詞性の観点からも「X化」の自他性を窺えると考える。例えば、筆者がBCCWJから調査したところ、「深刻化」「高齢化」「老朽化」のような「形容詞語基+化」の派生語は自動詞用法に使われやすく、「私物化」「理論化」「制度化」などの「名詞語基+化」の派生語は他動詞用法に使われやすいことが分かった。そのため、本研究では語基の品詞性の観点を含んで、「X化する」の自他性を影響する要素についてさらに考察していく。

2. 田窪（1986）では、「化」の意味を「～になること／にすること」と定義している。しかし、「X化」は同じく「ある性状・状態に～すること／なること」を表すと言っても、「草原が砂漠化」のように「草原が砂漠になる」という項目の変化を表す場合もあれば、「男性が女性化する」のように「男性が女性の典型的な特徴を持つようになる」という属性の変化を表す場合もあれば、「商品が個性化する」のように「商品が個性を持つようになる」という所有の変化を表す場合がある。そのため、「X化」の意味を詳しく見る必要がある。

また、田窪（1986）では、(2-19)の「モデル化」「表面化」「意識化」などの用例について、具体的にどのような意味を表すのかは言及されていない。本研究では、以上の語も含んで考察を行う。

### 2.2.2 加納（1989, 1990）

加納（1989）は水野（1987）と吉村（1987）の品詞分類にならって、表2-3の基準によって語の品詞を体言系（N）、非自立語基（N'）、相言系（AJN）、用言系（VN）、副言系（ADN）に分類している。

表2-3 加納（1989：62）の表（3）品詞分類

	1)～ガ/ヲ	2)～ノ N	3)～N	4)～ナ N	5)～スル	6)～Pred
1. N	+	+	+	-	-	-
2. N'	-	-	+	-	-	-
3. AJN	+-	+- (-)	+	+	-	-
4. VN	+	+	+	-	+	-
5. ADN	+-	+	+- (-)	-	-	+

（括弧内は吉村（1987）の分類基準で、その左が加納（1989：62）の修正したもの）

ある語の品詞を判断する時、表 2-3 の 1) から 6) の基準にあわせ、判断した結果が左の列の 1~5 になる。例えば、「映画」という語の品詞を判断する時、1) 映画が好き、2) 映画の主演、3) 映画作品と言えるのに対して、4) \*映画ナこと、5) \*映画する、6) \*映画正しいは言えないため、「映画」は N である。

加納 (1990) では接辞が「VN」以外の語基に付いて、派生語が「VN」になる場合、このような接辞は「VN 化機能」(例:映画化、疑問視…)を持つという。また、「化」は「VN 化機能」を持つ接辞の中に特に造語力が大きいものだと指摘している。続いて、加納 (1990) は「化」が付く語基は AJN、ADN、N'、N、VN という五つの品詞が見られるとし、その語例及び派生語の意味を以下の 1~5 のように示している。

- |            |   |  |  |
|------------|---|--|--|
| 1. <AJN+●> | : | 複雑化・特殊化・軽量化<br>単純化・正常化・簡素化<br>ワイド化・パワフル化…  | AJN にする／なること   |
| 2. <ADN+●> | : | 絶対化・実際化  |  |
| 3. <N' +●> | : | 合理化・具体化・国際化<br>抽象化・普遍化・本格化<br>共産化・民主化・画一化…   | N' 的にする／なること   |
| 4. <N +●>  | : | ①制度化・映画化・脚本化<br>私物化・市街化・理想化<br>システム化・モデル化…<br>②近代化・男性化・女性化<br>大衆化・一般化・表面化<br>イデオロギー化・ポーランド化…<br>③能率化・効率化 | N にする／なること<br><br>N のように／N 的にする／<br>なること<br><br>N を／がよくなる／なること |
| 5. <VN+●>  | : | 固定化・流動化・実用化<br>変動化・組織化・老朽化<br>定着化・孤立化・鎮静化…   | VN に的 する／なること<br>VN するように                                      |

(加納 1990 : 73-74 の例)

このうちのタイプ1~4を見ると、「化」は主にAJN、N'、Nについて派生語をVN化し、「～（ある状態）ニスル／ナルコト」という意味を表す。」（p.74）としている。派生語の意味は自動詞か他動詞かについては、語基がもともと人為的なのか、自然的に起こりやすいかによって決まると指摘している。しかし、人為的なのか自然発生なのかは文脈で決まる場合が多いとしている。

### 問題点および本研究の目的：

1. 加納（1990）では、語基の品詞の違いによって、「X化」の意味を分類しているが、この意味分類では解釈できない派生語がある。例えば、「情報化」と「大衆化」は「名詞語基+化」の派生語であるが、「体言（N）語基+化」の意味解釈のどれにも当てはまらない。「社会が情報化している」においては「社会が情報になる」という意味でも「社会が情報のようになる」という意味でも「社会が情報をよくする」という意味でもなく、「情報を重視する社会になる」という意味を表すと考えられる。また、「大衆化」は例えば「自動車が大衆化する」において、「自動車が大衆になる」でも、「自動車が大衆のようになる」でも、「自動車が大衆をよくする」という意味でもなく、「自動車は一部の富裕層から大衆の中に広がる／行き渡る」という意味を持つと考えられる。

さらに、「X化」の意味をパラフレーズで解釈すること自体が不適切だと考える。例えば、「非自立語（N'）語基+化」（「合理化」「具体化」）と「体言（N）語基②+化」（「近代化」「男性化」）が同じく「～的ニスル／ナルコト」を表すことができるとしている。

非自立語基：合理化→合理的になる／すること

具体化→具体的になる／すること

体言語基②：男性化→男性的になる／すること

近代化→近代的になる／すること

しかし、非自立語基の場合は「語基の表す状態や属性に変化する」ことを表す。例えば、「合理化」は非合理的な状態から、合理的な状態に変化するということを表し、「具体化」は非具体的な状態から具体的な状態に変化するということを表す。一方、体言語基②の場合は「語基の典型的な属性（の一部）を持つようになる」ということを表す。例えば、「男性化」は女性が男性の典型的な属性を持つようになるということ

とを表し、「近代化」はある時代が近代の典型的な特徴を持つように変化するということを表す。そのため、本研究ではパラフレーズの形ではなく、各派生語はどのような意味を持つかという意味の観点から分析を行う。

2. 加納（1990）では田窪（1986）と同様に、「X化」の自他性は、「X化」の意味と文脈によって決まるとしているが、本研究では語基の品詞性の観点からも「X化」の自他性を考察したい。

### 2.2.3 池上（2000）

池上（2000）は理科系の学会抄録コーパスに基づいて、「X化」の名詞・動詞用法、語基の制約、「X化」の意味について論じたものである。

まず、池上（2000）は理科系の学会抄録コーパス（獣医学系、土木工学系、電子工学系三分のいずれ、合計論文 856 本、約 101 万 2200 字）から、「二字以上の語基+化」を取り上げ、各分野に現れた「X化」の延べ語数と異なり語数について考察を行い、結果を表 2-4 のように示している。

表 2-4 池上（2000：28）各分野の延べ語数と異なり語数

	延べ語数	異なり語数
獣医学系	533	170
電子情報	926	54
資源素材	288	92
合計	1,747	316

表 2-4 に関して、「全体的な傾向として獣医学系では形態の変化を表す語が、電子情報では性能を上げるような類の語が、資源素材ではその両方の語が現れている。また、全分野に共通する語は皆無であり、これらのことから、分野によって使われる語の種類、頻度にかかなり偏りがあることがわかる」（p. 28）と述べている。

また、「X化」の用法に関して、名詞用法と動詞用法の二つの用法が見られ、名詞にも動詞にも用いられる語も多いが、どのような語が名詞になり、どのような語が動詞になるかについては顕著な傾向を認められなかったとしている。

さらに、「X化」が動詞用法として用いられる場合、「X化」の自動詞的用法と他動詞的用法について「資料から見る限り、自動詞・他動詞を比べて特にどちらかに偏って用いられることはないようである」（p. 29）と述べている。

### ・語基の制約

池上 (2000) は「化」の前語基を①名詞 (例 (2-22))、②ナ形容詞 (例 (2-23))、③動詞 (例 (2-24))、④非自立語 (例 (2-25))、⑤意味的に動詞に近いが、「する」をつけにくく、辞書でも名詞とするか動詞とするか見解が分かれているもの (例 (2-26)) という五つの分類に分け、それぞれの用例を下の (2-22) ~ (2-26) のように挙げている。

(2-22)	家畜化、画像化、カプセル化	(獣：111語/電：32語/資：61語)
(2-23)	簡略化、最適化、清浄化	(獣：30語/電：13語/資：14語)
(2-24)	安定化、総合化、適用化	(獣：14語/電：6語/資：10語)
(2-25)	合理化、普遍化、国際化	(獣：7語/電：2語/資：4語)
(2-26)	緩衝化、鎮静化、省力化	(獣：8語/電：1語/資：3語)

(池上 2000 : 29-30 の例)

池上 (2000) は「x化」の語基全体の制約について、「結果状態を表さない語は語基にならない」(p. 30) と指摘している。次に、池上 (2000 : 30) は「化」の前に①名詞語基、②ナ形容詞語基、③動詞語基が来る場合、その語基がどのような制約を満たさなければならないかを考察している。

①名詞語基は、下の例 (2-27) のように、「典型」を持つ語しか語基にならない。

(2-27) a. 女子の高学歴化が進んでいる。

b. \*女子の学歴化が進んでいる。

(池上 2000 : 30 の例)

また、「典型」の解釈は影山 (1980) から引用し、「普通に持つ特徴」と定義している。

②ナ形容詞語基の場合、a. 品質形容詞<sup>8</sup>しか語基にならない。b. 典型的にはモノ、コトの性状規定を表す語が語基にくる。c. 性状判断、認識判断、性状評価を表す語など個人の判断や評価を示す語は、「万人が認識できる場面」と繋がりにくいので、原則として語基にならない。

<sup>8</sup> 池上 (2000) は定義していないが、おそらく「温暖」「健全」「最適」など品質を表す語だろうと思う。

③動詞語基は基本的には「肥大－化」「安定－化」などのような状態変化動詞が語基になるが、「存在－化」「局在－化」などのような一部の状態動詞も語基になる。また、状態変化動詞や状態動詞のうち、下の例(2-28)のように、「結果状態の持続」を表す語しか語基にならない。

(2-28) 国家の荒廃化 ←→ ? 国家の崩壊化

(池上 2000 : 31 の例)

池上(2000)は例(2-28)について詳しい説明はないが、おそらく例(2-28)の「荒廃」は「物事が荒廃し、その状態が持続する」ことを表すのに対して、「崩壊」は「物事が崩壊し、崩壊することが一時的で、続くわけではない」ため、「化」が「崩壊」につくことができないということであると考えられる。

#### ・意味について

池上(2000)では「X化」の本義は属性の変化であり、概ね「～になる(する)」で言い換えられるとしている。また、「X化」は抽象的・総合的(全体的)な事柄を述べる場合に用いられ、一過性の出来事は表しにくいと指摘している。

(2-29) \*彼はその猿をペット化した。(ペットとして飼ったの意で)

(2-30) \*用語を補充した結果、etoj辞書は29433語化した。(コンピュータ)

(2-31) 最近の母親は子供をペット化している。

(2-32) 全国の郵便番号が一斉に7桁化された。

(池上 2000 : 31-32 の例)

例(2-29)～(2-32)から分かるように、例(2-29)は個人的、例(2-30)は一時的なことを表しているため、「化」が用いられにくい。これに対して、例(2-31)は社会中にある趨勢を表し、例(2-32)は全国的、総合的な事柄を述べていて、前節に述べられた「万人が認識できる場面」に繋がっているため、「化」が用いられやすいと述べている。

#### 問題点および本研究の目的：

1. 池上(2000)では理科系の学会抄録コーパスから用例を抽出し分析を行っているが、表2-4から、「分野によって使われる語の種類、頻度にかなり偏りがある」(p. 28)

ことが分かる。そのため、本研究では、理系のみではなく、BCCWJのようなさまざまな分野の文章が含まれるコーパスを利用し考察する。

2. 池上（2000）では名詞用法と動詞用法の例を挙げていないため、本研究では、実例を挙げて詳しく見ていきたい。また、BCCWJから考察した結果、「少子化」「情報化」「耐震化」などの語は動詞用法がなく、「具現化」「表面化」「本格化」などの語は動詞用法が圧倒的に多いことが分かった。そのため、「X化」において、具体的に名詞用法に用いられやすい語、動詞用法に用いられやすい語を再考察する必要があると考えられる。
3. 「X化する」全体は自動詞・他動詞のどちらかに偏って使われることが見られないと述べているが、個別の語に自他性の偏りが見られると考えられる。筆者の調査により、「表面化する」は127件動詞用法のうち、98.4%の125件が自動詞用法であるのに対して、「正当化する」は224件動詞用法のうち、99.6%の223件が他動詞用法である。そのため、本研究では実例を挙げて、具体的にどのような「X化」が自動詞として用いられやすく、どのような「X化」が他動詞として用いられやすいかを詳しく考察する。
4. 例（2-28）の「国家の荒廃化」が言え、「?国家の崩壊化」が言いにくい理由としては、「崩壊」は結果状態の持続を表さないからであるとしている。しかし、わずかであるが、BCCWJで下の「崩壊化」の例を見つけた。

（2-33）「このように、旧来型の開発とそれを支える仕組みそのものさえ、国内はもちろん海外においても、実現とそれへの評価からも、旧来のものから大きく変容し崩壊化しようとしている。」

——BCCWJの中納言コーパス（北村修二（著）（2004）

『地域再生へのアプローチ』古今書院

「崩壊」は結果の状態を表す動詞より動作性動詞に近いと思い、「化」をつけた「崩壊化」は「何かを崩壊した状態にすること」であると考えられる。池上（2000）で述べている「化」の語基制限に関する規定を見ると、「化」がどのような語基につくかを分析するのは限界があり、明確に示すのは難しいと考えられる。そのため、本研究では「X化」の語基に関する制約を追究するのではなく、日中両語の「X化」の使用実態と異同を記述的に明らかにすることを目的とする。

### 2.2.4 山下 (2003)

山下 (2003) では、1994年1月～6月の日本経済新聞から、「一字語基+化」を含んだ延べ語数 8,534 語、異なり語数 629 語の「X化」を抽出し、語基の語種、品詞性、意味分野、派生語「X化」の体言用法と用言用法の側面から、計量的な調査を行っている。

まず、「X化」の語基 X の語種の比率は、「異なり「漢語 (78.1%) ・外来語 (14.9%) ・混種語 (6.0%) ・和語 (1.0%) 」、延べ「漢語 (95.1%) ・外来語 (3.8%) ・混種語 (0.7%) ・和語 (0.4%) 」「 (p.121) とし、漢語の出現数が最も多いとしている。

次に、語基 X の品詞性について、山下 (2003) は宮地 (1973) の分類に基づいて、以下のように規定している。

- 体言類 格助詞を後接して名詞として働くもの。(例：商品、映画)
- 用言類 「する」を後接して動詞として働くもの。(例：孤立、減量)
- 相言類 「な」を後接して形容動詞として働くもの。(例：円滑、健全)
- 副用類 単独または「に」を後接して副詞として働くもの。(例：一般)

(山下 2003 : 122、語例は筆者による)

山下 (2003) では資料から抽出した「X化」の語基において、それぞれの品詞分類の出現数、出現率、語例を次のようにまとめ、「化」は体言類や相言類に比べ、用言類と結合しにくいと述べている。

- 体言類 448 (71.2%) 総専門職・社会問題・別会社・商品・一本…
- 用言類 83 (13.2%) 緊迫・孤立・成熟・減量・差別・輸入・細分…
- 相言類 91 (14.5%) 非武装・不安定・円滑・巨大・過密・陰悪…
- 副言類 2 (0.3%) 一般・特
- 用相言類<sup>9</sup> 5 (0.8%) 肥大・共通・オープン・変・激

(山下 2003 : 122-123)

次に、山下 (2003) は『分類語彙表』を用い、「化」の前接語の意味分野を調べている。結果として、大項目においては、体の類と相の類はそれぞれ 84.4%と 15.6%を占め、体の類では「1.3 人間活動精神および行為, 1.1 抽象的關係, 1.2 人間活動の主体, 1.4

<sup>9</sup> 用相言類は用言類とも相言類とも言えるものとされている。

生産物および用具，1.5 自然物および自然現象」の順に比率が高い」（p. 123）と述べている。また、中項目で分類すると、「あまり偏りがなく広い分野に渡って分布していると言える」（p. 123）としている。

続いて、山下（2003）では「X化」の体言用法と用言用法を中心にして考察を行っている。山下（2003）では「X化」が文中で名詞として使われるものを体言用法、サ変動詞として使われるものを用言用法と呼び、それぞれの出現率は68.9%と31.1%であるとしている。

体言用法のうち、「X化のY」という名詞修飾表現について下の例（2-34）～（2-37）のように、多様な意味関係が見られると述べている。

(2-34) ……合理化の徹底により九四年度上期から収支均衡をめざす。

（合理化を徹底する）

(2-35) 地域によっては海外からの投資が産業活性化の呼び水になる。

（産業活性化するための呼び水）

(2-36) 溶解，結晶化の過程で焼却灰の体積は二〇-三〇%と大幅に縮小され…

（結晶化する過程）

(2-37) ……技術革新や国際化の現実を受け入れたうえで， ……

（国際化した現実）

（山下 2003：127-128、下線は筆者による）

山下（2003）では、例（2-34）は格関係に基づく限定であり、例（2-35）は「X化するためのY」と言い換えられ、目的限定であり、例（2-36）は「X化するY」と言い換えられ、「X化」が「Y」の具体的内容を表す、内容の限定であり、例（2-37）は「X化したY」と言い換えられ、「X化」が「Y」の性質や状態を修飾するものであると述べている。

「X化」の用言用法について、山下（2003）は「X化」の自動詞用法と他動詞用法を取り上げ、自動詞に用いられる用例は1,211件、他動詞に用いられる用例は1,190件であると述べている。また、使用度数が5件以上の66語に絞って、各語の出現形に基づき、以下の五つに分類している。

A. 自動詞で用いられるもの……自動詞としてのみ用いられているか、他動詞文に使われる場合には使役形でしか用いられていないもの。

（例：悪化・激化・深刻化・弱体化・老朽化・人気化・高齢化・複雑化…）

B. 自動詞の傾向がやや強いもの……他動詞より自動詞の例が多く、他動詞文に用い

られる場合、使役形が多く見られるもの。

(例：軟化・本格化・表面化・活発化・長期化・鎮静化・流動化)

- C. 他動詞で用いられるもの……他動詞としてのみ用いられているか、自動詞文に使われる場合、受身形でしか用いられていないもの。

(例：強化・消化・自由化・簡素化・積極化・事業化・データベース化…)

- D. 他動詞の傾向がやや強いもの……自動詞より他動詞の例が多く、自動詞文に用いられる場合、受身形が多く見られるもの。

(例：商品化・一本化・効率化・製品化・合理化・スリム化・高度化……)

- E. 自他が同程度に出現して傾向の見えないもの

(例：特化・民営化・実用化・大型化・具体化・活性化・多様化……)

(山下 2003 : 129-130、用例は一部のみ)

以上の分類から、山下 (2003) は「X化」が自動詞になりやすいものは「自然の成り行きで生じた好ましくない結果を表すことが多い」(p. 130) と指摘し、他動詞になりやすいものは「プラスの意味を含む語、または人の働きかけによって生成される事物や事柄を表す語である」(p. 131) と指摘している。

### 問題点および本研究の目的：

1. 山下 (2003) では例 (2-34) ~ (2-37) の「X化のY」の用例を体言用法に分類しているが、本研究では、中国語の“X化”の用法と対照するため、例 (2-36) (2-37) のような日本語の「X化」と後接語「Y」は「修飾-被修飾関係」や「限定-被限定」関係を保つものを形容詞的用法と称し考察を行う。
2. 山下 (2003) では、自動詞用法と他動詞用法の使用傾向によって「X化する」を五つのタイプに分類しているが、分類の基準が明記されていない。どのような基準によって自他動詞の傾向が強いと言えるかは不明瞭であるため、本研究では統計的な手段を利用し、階層的クラスタ分析および正準判別分析を行うことにより、「X化」の自他性傾向を明らかにし、自他動詞の分類を試みる。

## 2.3 中国語の“X化”

中国語における“X化”は1919年の五四運動以降、英語の“-ize”“-fy”の訳語として現れ(呂叔湘、朱德熙(1979)、丁声树(1979)、任学良(1981)など)、この訳し

方は日本語の真似をしたとされている（王力（2004）、陳瞬臣、陳謙臣（1972）など）。

中国語の“X化”に関する先行研究は“X化”は接尾辞（“词缀”）か接尾語（“词尾”）かという“X化”の定義や“X化”は名詞であるか動詞であるかという“X化”の品詞性の判断に関する議論が多く見られる。本節では、“X化”の意味、形態、品詞的用法を中心にし、郭潮（1982）、胡松柏（1982）、周剛（1991）、王丹（2012）を概観する。

### 2.3.1 郭潮（1982）

郭潮（1982）では、“化”は動詞接尾語であり、動詞性を帯びているものの、一般的な動詞の用法と異なると指摘している。“化”の特別な用法について、① 一字語基と“化”の派生語は直接目的語を後続できるが二字以上の語基と“化”の派生語は目的語を後続できず、“把”構文にしか現れない、② 修飾構造において“X化”と被修飾語の間に“的”があってもなくても「動目構造」と誤解されず、「偏正構造」としか理解できない、③ 動詞や介詞の目的語になりうる、④ 程度副詞の修飾を受けることができるという四つの特徴があるとしている。それぞれの特徴を示すと、下の例（2-38）～（2-41）のようになる。

#### ① “一字語基+化”+目的語、“把”+目的語+“二字語基+化”

(2-38) a. 莎士比亚美化了资产阶级的友谊、爱情与人道主义精神。（《外国文学评论》）

（シェイクスピアは資産主義の友情、愛、ヒューマニズムを美化した。）

b. 有“左”倾思想的人则把敌我矛盾扩大化，以至把某些人民的内部矛盾也看作敌我矛盾，……

（左傾的な考え方を持つ人は、敵と我々の矛盾を拡大化する……）

#### ② 修飾構造

(2-39)	现代化国防	现代化的国防	(近代化した国防)
	机械化农场	机械化的农场	(機械化した農場)
	军事化活动	军事化的活动	(軍事化した活動)
	专业化队伍	专业化的队伍	(プロ化したチーム)

#### ③ 動詞や介詞の目的語になりうる

(2-40) a. 现在很多人在提倡民族化、科学化、大众化了，这很好。

(人々は民族化、科学化、大衆化を提唱していて、よかった。)

b. 民粹派作家……只看到资本主义给劳动人民带来的贫困化。

(ナロードニキの作家は…資本主義が勤労大衆にもたらした貧困化のみが見える)

④ 程度副詞の修飾を受けることができる

(2-41) a. 我虽然长着一个傻大个子，但是一脸呆气，轮廓极其一般化。

(ぼくは身長が高いが、馬鹿でシルエットがとても一般的である。)

b. ……电影没有真实感，因为太舞台化，台词、动作、表情都太舞台化。

(映画はリアルじゃない、舞台化されすぎたからだ。セリフ、動き、表情は全部舞台化されすぎる。)

(郭潮 1982 : 33-36、日本語訳は筆者による)

**問題点および本研究の目的：**

郭潮 (1982) では、中国語の“X化”の特殊な用法を指摘している点で示唆的である。しかし、“X化”の意味や自他性について論じられていないため、本研究ではこの点について詳しく考察する。

**2.3.2 胡松柏 (1982)**

胡松柏 (1982) では、“化”は“城市”“个性”のような名詞語基、“多样”“复杂”のような形容詞語基、“扩大”“合作”のような動詞語基と結合できるとしている。また、“X化”が表す意味を五つの種類に分け、それぞれの意味になる場合、どのような語基が前接するかを指摘している。まとめると以下の表 2-5 のようになる。

**表 2-5 胡松柏 (1982) による“化”の意味分類**

X の品詞性		語例	“化”の意味
形容詞		“年轻化、庸俗化”	转变成具有某种性质状态 (ある性質や状態を持つように変化する)
名詞	人物名詞	“商品化、资源化”	转变成某种人或事物 (ある人物やものに変化する)
	具体名詞	“(生活)城市化、 (管理)企业化”	转变成具有某种事物的方式 (ある物事の様式を持つように変化する)

抽象名詞	“(干部) 知识化、 (生活) 规律化”	转变成具有某种事物 (ある事物を持つように変化する)
動詞	“(灌溉) 自流化、 (范围) 扩大化”	转变成具有某种动作 (ある動作を持つように変化する)

(本稿の筆者がまとめたもの、日本語訳は本稿の筆者による)

### 問題点および本研究の目的：

胡松柏 (1982) の研究は示唆的である。しかし、以上の分類に入らない単語も見られる。例えば、“国家化”は“名詞+化”の語例であるが、「国家になる」、「国家のように変化する」、「国家を持つように変化する」のどの意味も当てはまらない。そのため、中国語の“X化”の意味についてさらに詳しく見る必要がある。本研究では、日本語と同じように、中国語の“化”に前接する語基 X の品詞によって、名詞語基、形容詞語基、動詞語基の三種類に分けて考察を行う。また、中国語の“化”には“私有化”、“国产化”のような“区別詞+化”<sup>10</sup>の語例もあるが、意味上物事の性質を表すものであるため、本研究ではそれらを形容詞語基の類に入れて考察する。

### 2.3.3 周剛 (1991)

周剛 (1991) では“X化”を V1 (悪化, 明朗化)、V2 (美化, 物化)、V3 (深化, 標準化) の三つのグループに分け、それぞれのグループの意味を述べている。V1 グループの“化”の意味は {+変化, -使役}、V2 グループの“化”の意味は {-変化, +使役}、V3 グループの“化”意味は {+変化, +使役} であるとしている。

また、この三つのグループの語は用法も異なるとしている。V1 グループの語は下の例 (2-42) のように、目的語を持たず、“把”構文にも現れないが、使役用法である“使”構文に現れる。V2 グループの語は例 (2-43) のように、目的語を持つことができ、“把”構文に現れるが、“使”構文に現れない。V3 グループにおいて、例 (2-44) のように、“一字語基+化”は目的語を直接後続でき、“一字語基+化”と“二字語基+化”は“把”構文と“使”構文のどちらにも現れる。

(2-42) a. 目的語を後続できない

\*退化器官、\*僵化体制、\*老化结构、\*开化思想

b. “把”構文に現れない

<sup>10</sup> 区別詞というのは物事の属性を表すものの、述語として使えないものである。区別詞はよくペアを成している。例：“男・女、単・双、金・銀、阴性・阳性……”

\*把器官退化、\*把体制僵化、\*把结构老化、\*把内容一般化

\*把战斗白热化、\*把行为短期化

c. “使”構文に現れる

使器官退化、使体制僵化、使结构老化、使内容一般化、

使战斗白热化、使行为短期化

(2-43) a. 目的語を後続できる

美化居室、绿化祖国、毒化空气、驯化动物

b. “把”構文に現れる

把居室美化、把祖国绿化、把空气毒化

c. “使”構文に現れない

\*使居室美化、\*使祖国绿化、\*使空气毒化

(2-44) a. 目的語を後続できる

激化矛盾、净化水质、简化手续

b. “把”構文に現れる

把矛盾激化、把水质净化、把手续简化、把试题标准化、

把斗争扩大化、把房屋商品化

c. “使”構文に現れる

使矛盾激化、使水质净化、使手续简化、使试题标准化、

使斗争扩大化、使房屋商品化

(周剛 1991 : 13)

さらに、周剛(1991)では、“X化”は動詞であると考えられるが、名詞の性質と形容詞の性質を持っていると主張している。まず、“X化”は① 否定を表す場合、“不”ではなく、“非”を前接する<sup>11</sup>、② 直接に名詞を修飾できる、③ 直接に名詞の修飾を受けることができる、④ 数量詞と共起できる、⑤ “加以” “受到”などの動詞の目的語になるの五つの点で名詞的性質を持つとしている。それぞれの例を挙げると、下の例(2-45)～(2-49)のようになる。

#### ① 否定は“非”を前接する

<sup>11</sup> 中国語では否定の意味を表す場合、名詞や形容詞には“非”を前接し、動詞には“不”を前接するのが一般的である。

(2-45) 非现代化、非社会化、非标准化、非欧化、非奴化、非钢化、非绿化

②直接名詞を修飾できる

(2-46) 现代化企业、革命化队伍、自动化装置、绿化面积、虚化动词

③直接に名詞の修飾を受ける

(2-47) 行为短期化、土地商品化、试题标准化、民族同化、风土驯化

④数量詞と共起できる

(2-48) 一些/一点：（得到）～强化、（受过）～驯化/奴化

不少：（作了）～简化/美化

多少：（没有）～弱化/退化

丝毫：（没有）～激化/同化/概念化

毫无：～优化/社会化/公式化

⑤動詞の目的語になる

(2-49) 加以美化、予以制度化、给以优化、达到机械化、实现现代化

また、“X化”は、“更加”“极其”“太”などの程度副詞の修飾を受けることができることから、形容詞的性質を持つとしている（例（2-41））。

**問題点および本研究の目的：**

1. 周剛（1991）は“X化”の意味、用法、動詞としての特殊性について述べていて、示唆的である。しかし、周剛（1991）には、“驯化”“开化”のような、“一字語基+化”の派生語なのか、一語なのかを区別できない用例も含まれている。そのため、本研究では“二字語基+化”のみを考察対象とする。
2. 周剛（1991）では“X化”の動詞用法のみを取り上げているが、本研究では“X化”の用法を名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法に分けて考察する。また、“X化”が動詞用法に用いられる場合、どのような語が自動詞になりやすいか、どのような語が他動詞になりやすいかを詳しく考察する。

### 2.3.4 王丹 (2012)

王丹 (2012) では“X化”の語基Xの種類と品詞性、“X化”の用法を詳しく考察している。

まず、王丹 (2012) は2001年の一年分の《人民日報》から延べ語数 58,045 語、異なり語数 737 語を抽出して、“X化”の語基Xの字数、品詞性を調査している。結果として、“深化”“強化”などのような“一字の語基X+化”の派生語は総語数の13.704%を占め、“現代化”“全球化”などのような“二字の語基X+化”の語は78.426%を占め、“富营养化”“非军事化”などのような“三字以上の語基X+化”の語は7.870%を占め、さらに、“QQ化”“3D化”のような英文字などの語基が12語見られるとしている。

語基Xの品詞性について、名詞語基が60.461%、形容詞語基が22.900%、動詞語基が6.425%、区別詞が8.731%があるとし、ほかに“(四)化”のような数詞語基が7語あり、“经常(化)”“瞬息(化)”のような副詞語基が2語見られたとしている。

次に、王丹 (2012) では“X化”の使用実態について考察を行っている。“X化”は連体修飾語、述語、目的語、主語、連用修飾語、補語として用いられ、さらに書名や文章のタイトルなどにも用いられるとしている<sup>12</sup>。これらの用法の出現数、出現率、語数を下の表2-6のように示している。

表 2-6 王丹 (2012) の表 2-9 功能总表

タイプ	出現数	出現率%	“X化”の語数
連体修飾語	14,820	47.098	503
述語	7,828	24.878	306
目的語	6,247	19.853	405
主語	1,926	6.121	153
連用修飾語	531	1.688	77
その他	104	0.331	46
補語	10	0.032	9

表 2-6 から、中国語の“X化”の全体的な使用傾向が分かる。

#### 問題点および本研究の目的：

王丹 (2012) は表 2-6 で示しているように、中国語の“X化”の全体的な使用傾向を考察しているが、具体的に連体修飾語に用いられやすい語、述語に用いられやすい語、主

<sup>12</sup> これらの用法の具体例は第6章で示す。

語や目的語に用いられやすい語については言及されていない。そのため、本研究では、王丹（2012）を踏まえて、名詞的、形容詞的、動詞的用法に用いられやすい語の順位を明らかにする。

## 2.4 まとめ

以上、【X化】に関する日中対照研究、日本語の「X化」に関する研究、中国語の“X化”に関する研究を概観し、問題点および本研究の目的を述べた。日本語の研究では「X化」の自他性や語基制限に関心を持っているのに対して、中国語の研究では“X化”の用法に関心を持っている。以上の研究をまとめると下の表 2-7 のようになる。

表 2-7 先行研究のまとめ

先行研究の内容		日本語	中国語	日中対照
意味		田窪（1986）、池上（2000）	胡松柏（1982）、 周剛（1991）	
形態（語基）		田窪（1986）、加納（1990）、 池上（2000）、山下（2003）	郭潮（1982）、 胡松柏（1982）、 王丹（2012）	水野（1985）
用法	全体的な用法	池上（2000）、山下（2003）	王丹（2012）	水野（1985）
	「X化」の 自他性	田窪（1986）、加納（1990）、 山下（2003）		
	「X化」の 特殊性		郭潮（1982）、 胡松柏（1982） <sup>13</sup> 、 周剛（1991）	

表 2-7 から分かるように、日本語の「X化」に関する研究は主に「X化」の意味、語基、自他性について述べているのに対して、中国語の場合は主に“X化”の語基、特殊性について述べている。

なお、本研究は日本語の「X化」と中国語の“X化”について、意味、形態（語基）、品詞的用法の異同を考察するものであり、意味、形態、品詞的用法に関する先行研究はあらためて各章で詳しく論じる。

本研究の目的：

<sup>13</sup> 胡松柏（1982）では“X化”の用法の特殊性についても論じているが、郭潮（1982）で述べた内容と類似しているため、先行研究章では省略した。

1. 派生語【X化】の意味について、「～になること／すること」以外、どのような意味を持っているかを詳しく分析する。
2. 日本語の「化」と中国語の“化”に前接する語基の異同を考察する。
3. 日本語の「X化」と中国語の“X化”には、具体的に名詞用法、形容詞用法、動詞用法、副詞用法として使われやすいか語を考察し、さらに、日本語と中国語の使用上の異同を明らかにする。
4. 日本語の「X化」と中国語の“X化”の動詞用法に絞り、具体的にどのような語が自動詞用法、他動詞用法として使われやすいかを考察し、これらの語の特徴を分析する。

### 第3章 【X化】の意味

本章では、日本語の「X化」と中国語の“X化”の意味について論じる。日中両語の【X化】は変化を表すものであり、例(3-1)と(3-2)のように、語基Xは【X化】の変化の結果を表すとされている(田窪(1986)、加納(1990)など)。

- (3-1) a. 草原が砂漠化した。 → 草原が 砂漠 になる。  
 b. 製品が商品化した。 → 製品が 商品 になる。

- (3-2) a. 草原沙漠化了。 → 草原变成 沙漠 了。  
 b. 产品商品化了。 → 产品变成 商品 了。

例(3-1a)と(3-2a)において【草原】が変化し、変化した結果が【砂漠】であることを表し、例(3-1b)と(3-2b)において【製品】が変化し、変化した結果が【商品】であるということを表す。しかし、【X化】は【Xになる/すること】を表さない場合も見られる。

- (3-3) a. 男性が女性化する。 → \*男性が 女性 になる。  
 b. 製品が標準化する。 → \*製品が 標準 になる。

- (3-4) a. 男性日益女性化了。 → \*男性变成 女性 了。  
 b. 产品日益标准化了。 → \*产品变成 标准 了。

例(3-3)と(3-4)における【X化】は「Xになる/すること」と解釈できない。(3-3a)と(3-4a)は「男性が女性のようになる」ことを表し、(3-3b)と(3-4a)は「製品が標準を持つようになる」ことを表すと考えられる。そこで本章では、日本語と中国語における派生語【X化】がどのような意味を持っているかについて考察を行う。

以下、3.1節では日本語の「化」の意味と中国語の“化”の意味に関する先行研究を概

観する。次に、3.2節では日本語の「X化」の意味を分析し、続いて3.3節では中国語の“X化”の意味を分析する。最後に3.4節では本章の内容をまとめる。

### 3.1 先行研究

#### 3.1.1 日本語「X化」の意味

日本語の「X化」の意味に関する研究には田窪（1986）、加納（1990）、王（2003）がある。以下、それぞれの先行研究を見ていく。

先行研究章で取り上げたように、田窪（1986）では、「X化」の意味は、「ある性状・状態に一すること／なること」（p.82）であると指摘している。さらに、「国際」「合理」のような非自立語基や、「女性」「大衆」のような語は「化」に前接するとき、単に「一すること／なること」で置き換えられず、「一的にする／なる」と置き換えなければならないとしている。この場合、「前項は実体概念でなく、その語基が持つ性状、性質を表していると考えられ、「一化」は、「そのような性質をもつようになる／する」という意味を持つ」（p.84）と述べている。

しかし、「X化」は同じく「ある性状・状態に一すること／なること」を表すと言っても、「草原が砂漠化」のように「草原が砂漠になる」という項目の変化を表す場合もあれば、「男性が女性化する」のように「男性が女性の典型的な特徴を持つようになる」という属性の変化を表す場合もあれば、「商品が個性化する」のように「商品が個性を持つようになる」という所有の変化を表す場合がある。そのため、「X化」の意味を詳しく見る必要がある。

加納（1990）は、田窪（1986）と同じように、「X化」の意味をパラフレーズによって分析している。加納（1990）では、「X化」に前接する語基を相言系（AJN）、副言系（ADN）、非自立語基（N<sup>~</sup>）、体言系（N）、用言系（VN）に分け、各分類における「X化」の意味をパラフレーズで解釈している。まとめると下の表3-1のようになる。

表3-1 加納（1990）による「X化」の意味分類

結合型	語例	「X化」の意味
AJN+化	複雑化、特殊化…	AJN ニスル／ナルコト
ADN+化	絶対化、実際化	
N <sup>~</sup> +化	合理化、具体化…	N <sup>~</sup> 的ニスル／ナルコト
N①+化	制度化、映画化…	N ニスル／ナルコト

N②+化	近代化、男性化…	Nノヨウニ／N的ニスル／ナルコト
N③+化	能率化、効率化	Nヲ／ガヨクスル／ナルコト
VN+化	固定化、流動化 実用化、変動化…	VN的 ニスル／ナルコト VN スルヨウニ

表 3-1 から分かるように、「X化」と結合する前接語の品詞の違いによって、「X化」の意味をパラフレーズによって解釈している。

例えば、「複雑化」は相言 (AJN) 語基「複雑」と「化」によって結合し、意味は「複雑にする／なること」であるとし、「合理化」は非自立語基 (N') 「合理」と「化」によって結合し、意味は「合理的にする／なること」を表すとしている。

また、表 3-1 のうち、「絶対化」「実際化」のような副言系 (ADN) 語基と「化」の派生語の意味については言及されていない。体言系語基を前項にとる場合、「X化」の意味は三種類に分けられている。例えば、「制度+化」は、「制度にする／なること」、「近代+化」は「近代のように／的にする／なること」、「能率+化」は「能率を／がよくする／なること」を表すとしている。

しかし、加納 (1990) における「X化」の意味分類では解釈できない語がある。例えば、「情報化」と「大衆化」は「名詞語基+化」の派生語であるが、表 3-1 の「名詞語基+化」の意味解釈のどれにも当てはまらない。「社会が情報化している」においては「社会が情報になる」という意味でも「社会が情報のようになる」という意味でも「社会が情報をよくする」という意味でもなく、「情報の重要度が増え、情報が広がる社会」を表すと考えられる。「大衆化」は例えば「自動車が大衆化する」において、「自動車が大衆になる」でも、「自動車が大衆のようになる」でも、「自動車が大衆をよくする」という意味でもなく、「自動車が一部の富裕層のものから大衆のものへと広がる／行き渡る」という意味を持つと考えられる。

さらに、「X化」の意味をパラフレーズで解釈すること自体が不適切だと考える。例えば、「非自立語 (N') 語基+化」(「合理化」「具体化」) と「体言 (N) 語基②+化」(「近代化」「男性化」) が同じく「～的ニスル／ナルコト」を表すことができるとしている。しかし、非自立語基の場合は「語基の表す状態や属性に変化する」ことを表す。例えば、「合理化」は非合理的な状態から、合理的な状態に変化するということを表し、「具体化」は非具体的な状態から具体的な状態に変化するということを表す。これに対して、体言語基②の場合は「語基の典型的な属性 (の一部) を持つようになる」ということを表す。例えば、「男性化」は女性が男性の典型的な属性を持つようになるという

ことを表し、「近代化」はある時代が近代の典型的な特徴を持つように変化するということを表す。そのため、本研究ではパラフレーズの形ではなく、各派生語はどのような意味を持つかという意味の観点から分析を行う。

「X化」の意味をパラフレーズの観点からではなく、意味の観点から分析したものには王(2003)がある。王(2003)では、「X化」の意味を「(ある主体の働きかけによって)ある変化対象が語基の表す状態に変化する」という「状態変化」(例:「複雑化」、「長期化」)の意味と「(ある主体の働きかけによって)ある変化対象が語基の表す属性の一部を持つようになる」という「属性変化」(例:「女性化」、「現代化」)の二つに分けている。

しかし、王(2003)では、「現金化」「カード化」「正社員化」などのような語基から状態を抽出できないものを以上の分類のどちらにも入らないものとし、「意味の語彙化した造語」として扱っている。本研究ではこれらの語はすべて「体言(N)+化」の派生語であり、「X化」の意味は「語基の表すそのものに変化する」ことを表すと考える。また、王(2003)では「情報化」「点数化」のような語は、語基の意味から派生語の意味を推測しにくいと述べ、「意味の特殊化した造語」とし、具体的にどのような意味を持つかは論じていない。本研究では、「現金化」「カード化」「正社員化」「情報化」「点数化」などについても考察を行う。

### 3.1.2 中国語“X化”の意味

現代中国語における“X化”の意味に関する研究は呂叔湘(1999)、周剛(1991)、史紅改(2009)、胡松柏(1982)などが見られる。

呂叔湘(1999)では接尾辞“化”はある性質や状態に変化することを表すと指摘している。

周剛(1991)では“X化”をV1(悪化, 明朗化)、V2(美化, 物化)、V3(深化, 標準化)の三つのグループに分け、それぞれのグループの意味を述べている。V1グループの“化”の意味は{+変化, -使役}、V2グループの“化”の意味は{-変化, +使役}、V3グループの“化”意味は{+変化, +使役}であるとしている。しかし、それ以上の説明がされていない。

史紅改(2009)では“化”は変化を表し、“化”に前接する語基Xは変化の方向を表すと述べている。

しかし、以上の三編の先行研究における“化”の意味記述は不十分である。これらの先行研究では、“化”は変化を表し、“X化”のように“化”に語基が前接する場合、“X”

が変化の結果を表し、派生語“X化”の意味は「Xに変化する」という意味を持つことしか示されていない。しかし、先行研究章で述べたように、“X化”は同じ変化を表すと言っても、“草原荒漠化”のように「草原が砂漠になる」という項目の変化を表す場合もあれば、“男性越来越女性化”のように「男性が女性の典型的な特徴を持つようになる」という属性の変化を表す場合もあれば、“核酸检测全国化”のように「PCR検査が全国に広がる」という量的な変化を表す場合もある。そのため、“X化”の意味を詳しく分析する必要がある。

これに対し、語基Xの品詞性によって“X化”の意味を分析しているものには胡松柏（1982）がある。胡松柏（1982）は語基Xを形容詞語基、名詞語基、動詞語基の三種類に分け、それぞれの意味を分析している。具体的な内容をまとめると下の表3-2のようになる。

表3-2 胡松柏（1982）による“化”の意味分類（表2-5再掲）

Xの品詞性		語例	“化”の意味
形容詞		“年轻化、庸俗化”	转变成具有某种性质状态 (ある性質や状態を持つように変化する)
名詞	人/物名詞	“商品化、资源化”	转变成某种人或事物 (ある人物やものに変化する)
	具体名詞	“(生活)城市化、 (管理)企业化”	转变成具有某种事物的方式 (ある物事の様式を持つように変化する)
	抽象名詞	“(干部)知识化、 (生活)规律化”	转变成具有某种事物 (ある事物を持つように変化する)
動詞		“(灌溉)自流化、 (范围)扩大化”	转变成具有某种动作 (ある動作を持つように変化する)

(本稿の筆者がまとめたもの、日本語訳は本稿の筆者による)

しかし、先行研究章で述べたように、“国家化”のような胡松柏（1982）の分類に入らない単語も見られる。そのため、中国語の“X化”の意味についてさらに詳しく見る必要がある。

本研究では、日本語と同じように、中国語の“化”に前接する語基Xの品詞によって、名詞語基、形容詞語基、動詞語基の三種類に分けて考察を行う。また、“区別詞+化”の語例を形容詞語基の類に入れて考察する。

続いて3.2節では日本語「X化」の意味を分析し、3.3節では中国語“X化”の意味を考察し、最後に3.4節では以上の内容をまとめる。

### 3.2 日本語「X化」の意味

本節では日本語における「X化」の意味をXの品詞性によって「名詞語基+化」、「形容詞語基+化」、「動詞語基+化」の三つに分類して分析を行う。

#### 3.2.1 名詞語基の場合

「名詞語基+化」の場合、A.項目変化、B.様式変化、C.属性変化、D.所有変化、E.量的変化①、F.量的変化②の六つのタイプに分類できる。次にそれぞれの分類について詳しく説明する。

##### A. 項目変化：語基Xそのものに変化する

例：砂漠化、商品化、現金化、ドラマ化、製品化、語彙化、書籍化、言語化...

この場合は、「製品を商品化した」のように、項目 $X_0$ （製品）と項目X（商品）という二つの項が存在し、「 $X_0$ がXそのものに変化する」という変化のタイプである。また、この変化タイプには項目 $X_0$ が項目Xに変化し、項目の交替を成していると考えられる。

$X_0$ とXの意味関係：「 $X_0$ がXそのものに変化する」

(3-5) 草原が砂漠化したため、牧畜をしていた人が密猟者になった。

例(3-5)において、変化の主体である $X_0$ は「草原」であり、変化した結果のXは「砂漠」であり、「草原」が「砂漠」になったことを表す。「商品化」や「現金化」なども同様である。

この変化のタイプは、項目 $X_0$ は項目Xそのものに変化するという項目の変化を表す。 $X_0$ を○で、Xを□で図示すると、図3-1のようになる。

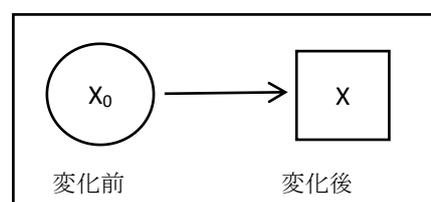


図3-1 「X化」の項目変化の図

図3-1から分かるように、項目  $X_0$  は変化し、変化した結果は異なる項目の  $X$  になるという変化である。

「草原が砂漠化する」は、 $X_0$  の草原がなくなり、 $X$  の砂漠に変化することを表すのに対し、「小説がドラマ化する」は、 $X_0$  の小説がなくなるわけではなく、 $X$  のドラマができた後にも残る点で違いがある。「ドラマ化」のような語は次の **B** にもまたがると考えられる。

## B. 様式変化：語基 $X$ の様式によって表現されるようになる

例：点数化、数値化、ポイント化、コード化、画像化、文字化、図式化…

この場合は、「お客様のニーズを点数化する」のように、項目  $X_0$ （お客様のニーズ）と項目  $X$ （点数）という二つの項が存在しているが、「 $X_0$  が  $X$  そのものに変化する」という変化ではなく、「 $X_0$  自体が変わらないが、表し方のみが変化し、変化した結果は  $X$  の表す様式によって表現されることである」と解釈できる。

$X_0$  と  $X$  の意味関係：「 $X_0$  が  $X$  の様式によって表現されるようになる」

(3-6) 味を数値化する。

例 (3-6) は、「味が数値になる」のではなく、「味」が変わらないままで、味の甘さや辛さなどの指標を「数値」によって表現されるようになるという様式変化の意味を持つ。同じような用法を持つ「 $X$ 化」の  $X$  は「ポイント」「コード」などのような様式を表す語が見られる。

この変化のタイプは、項目  $X_0$  は項目  $X$  の様式によって表現されるようになるという様式の変化である。 $X_0$  を○で、 $X$  を□で図示すると、図3-2のようになる。

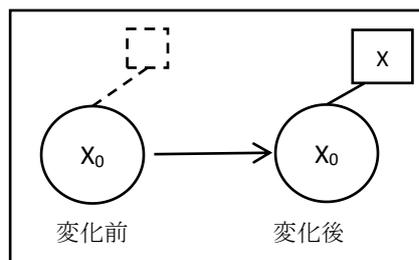


図3-2 「X化」の様式変化の図

図 3-2 から分かるように、この変化のタイプにおいて、項目  $X_0$  自体は変わらないが、 $X_0$  の表し方が変化する。すなわち、表し方が  $X$  ではない様式から  $X$  の様式に変わるという変化である。

### C. 属性変化：語基の表す属性の一部／典型的な特徴を持つようになる

例：女性化、幼児化、カプセル化、アメリカ化、形骸化、近代化、化石化...

この場合では、「大学生が幼児化している」のように、項目  $X_0$  (大学生) と項目  $X$  (幼児) という二つの項が存在しているが、「 $X_0$  が  $X$  そのものに変化する」という変化ではなく、「 $X_0$  が変化し、変化の結果は  $X_0$  が  $X$  の属性の一部／典型的な特徴を持つようになる」という属性変化のタイプである。

$X_0$  と  $X$  の意味関係：「 $X_0$  が  $X$  のようになる／つぼくなる」

(3-7) 男性が女性化する傾向がある。

例 (3-7) では「男性が女性になる」のではなく、「男性が変化し、変化の結果、女性つぼくなる／女性のようにになる」ということを表す。「幼児化」「アメリカ化」「形骸化」なども同じように、変化の結果は  $X$  そのものではなく、 $X$  の持つ属性の一部あるいは典型的な特徴を身につけるようになることである。

この変化のタイプは、項目  $X_0$  は項目  $X$  の属性の一部／典型的な特徴を持つようになるという属性の変化を表す。 $X_0$  を○で、 $X$  を□で図示すると、図 3-3 のようになる。

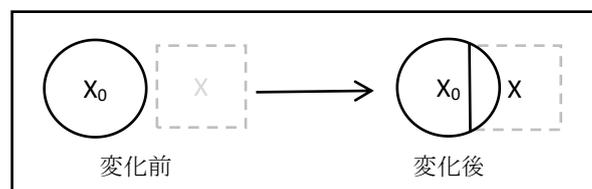


図 3-3 「X化」の属性変化の図

図 3-3 から分かるように、変化前の状態においては、 $X_0$  と  $X$  は独立した個体であるが、変化後の状態においては、 $X_0$  は  $X$  の属性の一部を持つようになる。

#### D. 所有変化：語基 X の表す概念を持つようになる

例：標準化、規格化、構造化、基準化、システム化、体系化、人格化、個性化…

この変化タイプにあたる語基は「標準」「規格」のような指標を表すものや「人格」「個性」のような抽象的なものが多い。「化」を付けることによって、派生語全体が語基の表す概念を持つようになることを表す。「お客様のニーズは個性化している」のように、項目  $X_0$  (お客様のニーズ) と項目 X (個性) が存在する。変化した結果は「 $X_0$ が X そのものに変化する」や「 $X_0$ が X の属性を持つようになる」ではなく、「 $X_0$ が変化し、変化した結果は X の表す概念を持つようになる」ということである。

$X_0$  と X の意味関係：「 $X_0$ は X の表す概念を持つようになる」

(3-8) 製品を規格化する。

例 (3-8) は、製品が決まった規格を持たない状態から決まった規格を持つようになることを表す。

この変化のタイプは、 $X_0$ は X の表す概念を持つようになるという所有の変化を表す。 $X_0$ を○で、Xを□で図示すると、図 3-4 のようになる。

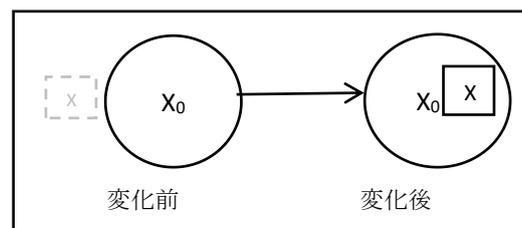


図 3-4 「X化」の所有変化の図

図 3-4 から分かるように、変化前に項目  $X_0$  のみが存在するが、変化した結果、項目  $X_0$  は項目 X を持つようになる。

#### E. 量的変化①：語基が重視されるようになり、広がるようになる

例：情報化、電子化、電算化、工業化、コンピューター化、機械化…

この場合では、「仕事現場が機械化している」のように、項目  $X_0$  (仕事現場) と項目 X

(機械)が存在しているが、意味は「 $X_0$ が $X$ に変化する」でも、「 $X_0$ が $X$ の属性を持つようになる」でも、ただ「 $X_0$ が $X$ を持つようになる」でもない。Eのタイプにおいては、項目 $X_0$ と項目 $X$ 両方が変化し、変化した結果は項目 $X$ の重要度が増加し、項目 $X_0$ の中に行き渡るようになるということを表す。

$X_0$ と $X$ の意味関係：「 $X$ が $X_0$ の中で重視されるようになり、広がるようになる」

(3-9) 社会がどんどん情報化している。

例(3-9)では、項目 $X_0$ (社会)と項目 $X$ (情報)が存在する。項目 $X_0$ が変化し、変化した結果は項目 $X$ が項目 $X_0$ の中に重視されるようになり、広がるようになることである。

この変化のタイプは、項目 $X$ が $X_0$ の中に重視されるようになり、重要度が上がるという量的変化を表す。 $X_0$ を○で、 $X$ を□で図示すると、下の図3-5のようになる。

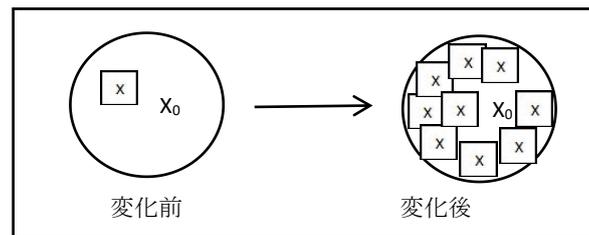


図3-5 「X化」の量的変化①の図

図3-5から分かるように、変化前には項目 $X_0$ のみに焦点を置いているが、変化した結果、項目 $X$ が重視されるようになり、項目 $X_0$ の中に広がるようになる。 $X$ の量が変化するという量的変化である。

#### F. 量的変化②：語基の表すものに行き渡る／広がる

例：全国化、表面化、グローバル化、大衆化...

この変化のタイプも量的変化であるが、上のEのタイプと正反対の変化の仕方である。Fの場合では、「自動車が大衆化している」のように、項目 $X_0$ (自動車)と項目 $X$ (大衆)が存在し、項目 $X_0$ が変化し、変化した結果は、 $X_0$ が $X$ に広がる／行き渡るようになるということを表している。

$X_0$ とXの意味関係：「 $X_0$ がXの中に行き渡るようになる」

(3-10) 争乱が全国化している。

例(3-10)は、項目 $X_0$ である「争乱」がどんどん広がり、結局項目Xである「全国」に行き渡るようになってきているということを表している。

この変化のタイプは、上の変化タイプEと正反対で、項目 $X_0$ が項目Xの中に行き渡るようになるという量的変化を表す。 $X_0$ を○で、Xを□で図示すると、下の図3-6のようになる。

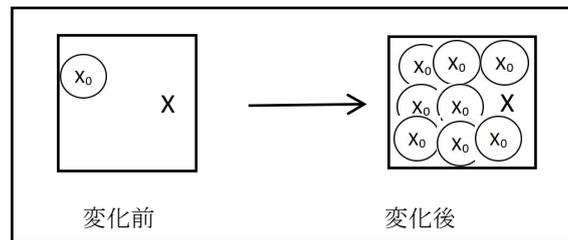


図3-6 「X化」量的変化②の図

図3-6から分かるように、変化前は項目Xのみが存在する（もしくは項目Xのみに焦点を置いている）が、変化後は、項目 $X_0$ が項目Xの中広がるようになる。 $X_0$ の量が変化するという量的変化である。例えば「争乱が全国化する」のように、項目 $X_0$ である「争乱」が広がり、変化した結果、項目Xである「全国」に広がる／行き渡るようになるということである。

以上、「名詞語基+化」における「化」の意味をA～Fの六つの種類に分けて分析を行った。まとめると表3-3のようになる。

表3-3 「名詞語基+化」の変化タイプのまとめ

変化タイプ	「化」の意味	例文	変化図
A. 項目変化	Xそのものに変化する	a. 草原が砂漠化する b. アイデアが商品化する	

B. 様式変化	Xの様式によって表現されるようになる	a. 味を <u>数値化</u> する b. お客様ニーズを <u>点数化</u> する	
C. 属性変化	Xのようになる／っぼくなる	a. 大学生が <u>幼児化</u> する b. 男性が <u>女性化</u> する	
D. 所有変化	Xの表す概念を持つようになる	a. 商品を <u>個性化</u> する b. 製品を <u>規格化</u> する	
E. 量的変化 ①	Xが重視されるようになり、広がる	a. 工場を <u>機械化</u> する b. 社会が <u>情報化</u> する	
F. 量的変化 ②	Xに行き渡る／広がる	a. 自動車が大衆化する b. 争乱が <u>全国化</u> する	

(変化前の  $X_0$  を○で表す、語基 X を□で表す。)

なお、A. 項目変化と B. 様式変化の両方の解釈ができる場合がある。

- (3-11) a. 小説を映画化する。  
b. 会話音声を文字化する。

例 (3-11a) は、項目  $X_0$  である「小説」が項目 X である「映画」に変化するという項目変化の解釈もできれば、「小説」自体は変化せず、小説の内容を「映画」という形式によって表現されるようになるという様式変化の解釈もできる。また、例 (3-11b) も同じように、項目  $X_0$  である「会話音声」が項目 X である「文字」に変化するという項目変化の解釈もできれば、「会話音声」の録音内容は変化せず、表し方が「音声」から「文字」に変化するという様式変化の解釈もできる。

また、A. 項目変化と C. 属性変化の両方の解釈ができる場合もある。

- (3-12) a. このスポーツ選手は結局引退しタレント化した。  
b. 最近、「守秘義務」のあるはずの弁護士までタレント化している。

例 (3-12a) は、もともと「スポーツ選手」である人が、「スポーツ選手」の身分を捨

て、「タレント」になるという項目変化の解釈ができる。これに対して、例(3-12b)は、「弁護士」である人が自分の身分を捨てず、振る舞いなどが「タレント」のように変化し、「タレント」の属性を持つようになるという属性変化の解釈もできる。例(3-12)から、「タレント化」は文脈によって、A. 項目変化とC. 属性変化の両方に解釈できることが分かる。

### 3.2.2 形容詞語基の場合

「形容詞語基+化」における「化」の意味は、上の「名詞語基+化」の場合よりシンプルである。形容詞は性質や状態を表すものであるため、変化を表す「化」を付けることによって、派生語の意味は「語基の表す性質や状態に変化する」ことである。「日中国交が正常化した」のように、項目  $X_0$  (日中国交) が変化して、変化した結果は語基  $X$  の表す性質や状態である。

同じような「形容詞語基+化」の語例は「正常化、複雑化、特殊化、巨大化、適切化、明確化、多様化、長期化、沈静化、軽量化、弱体化、簡素化、国際化、深刻化、適正化、健全化、温暖化、安定化、高齢化、多角化、老朽化、最適化、円滑化、最大化、最小化、合理化、一般化、本格化、具体化、自由化」等がある。

$X_0$  と  $X$  の意味関係：「 $X_0$  が  $X$  の状態に変化する」

(3-13) 今の時代は、価値観が多様化している。

例(3-13)は、社会において、以前は一つあるいは少数の価値観しかなかったが、時代が変わって、今は多様な価値観が存在するようになることを表している。

### 3.2.3 動詞語基の場合

本節では、「化」に動詞語基が前接する場合を考察する。ここで言う動詞とは主に漢語に「する」をつけて動詞用法を持つものである。「化」に前接する動詞語基は「見える-化」のような和語動詞もあるが、基本的には漢語動詞につく<sup>14</sup>。

「化」に接続する動詞語基には「固定する」「冷却する」のような状態動詞や状態変化動詞、「外注する」「立法する」のような動作動詞が見られる。次に前者をA、後者を

<sup>14</sup> 筆者は知多郡美浜町にある野間灯台に訪れたとき、灯台の入口に「野間灯台登れる化」という看板を見かけたことがある。しかしこのような「和語動詞+化」の造語が臨時的に作られたものが多く、「見える化」以外はほとんど定着していない。

Bとして「化」の意味の違いを見る。

#### A. 語基で表される状態に変化する

例：肥大化、固定化、乾燥化、変動化、縮小化、孤立化、安定化...

状態動詞と状態変化動詞は語彙的意味の中に状態を含んでおり、「化」をつけることによって、語基の表す状態に変化するという意味を持つと考えられる。例えば、「赤道付近は乾燥化する」において、項目  $X_0$  (赤道付近) と項目  $X$  (乾燥) が存在し、項目  $X_0$  が変化し、変化の結果、項目  $X$  の状態を持つようになる。

$X_0$  と  $X$  の意味関係：「 $X_0$  が  $X$  の状態に変化する」

(3-14) 管理職の大幅な増大によって組織が肥大化した。

例 (3-14) は、組織が変わり、変わった結果、肥大な状態になるという意味を持つ。

#### B. 語基で表される動作の結果状態に変化する

例：外注化、立法化、減量化、差別化、輸入化、管理化、結晶化...

田窪 (1986) では、「動作性の用言系語基 ([例] 研究、発達、処理、指摘……) は、結果の状態を表しにくいので「化」をつけにくい。」 (p. 82) と述べているが、上述したように、「X化」の動詞語基には「外注する」「立法する」のような動作動詞が見られる。この場合において、「化」は変化を表すが、変化の結果は、語基で表される動作をすることではなく、語基で表される動作の結果状態である。

「ごみを減量化する」において項目  $X_0$  (ごみ) と項目  $X$  (減量) が存在する。 $X_0$  が変化し、変化した結果は、項目  $X$  の表す動作をした後の結果状態である。これらの語基は動作動詞であり、語基と派生語に意味の違いがそれほど感じられない。

$X_0$  と  $X$  の意味関係：「 $X_0$  が  $X$  の動作の結果状態に変化する」

(3-15) この会社は単純作業を外注化した。

例 (3-15) では、「会社」が変化し、変化した結果は「単純作業を外注した状態にす

る」ようにしたことを表す。語基の「外注」は動作性があるが、「外注化」は状態的なものになる。

ここまで、「動詞語基+化」の意味を考察した。しかし「乾燥する」と「乾燥化する」、「外注する」と「外注化する」のような「動詞語基」と「動詞語基+化」の間にどのような違いがあるかが興味深い。したがって、次の節では「動詞語基」と「動詞語基+化」の異同を考察していく。

### 3.2.3.1 「動詞語基」と「動詞語基+化」

本節では、「動詞語基」と派生語「動詞語基+化」を比較し、異なる点によって以下の三つのタイプに分けた。

- ①タイプ1: 「X」と「X化」の意味があまり変わらないもの
- ②タイプ2: 「X」と「X化」の自他性が変わるもの
- ③タイプ3: 「X化」が「X」に「変化」の意味を足すもの

次にそれぞれのタイプを例文を加えて説明していく。

#### ①タイプ1: 「X」と「X化」の意味があまり変わらないもの

- (3-16) a. 政権が安定する。  
b. 政権が安定化する。
- (3-17) a. コロナが沈静する。  
b. コロナが沈静化する。
- (3-18) a. 肝臓が肥大する。  
b. 肝臓が肥大化する。

以上の例(3-16)～(3-18)において、動詞語基「安定」「沈静」「肥大」はもとも状態の変化を表すものであるため、変化を表す「化」がついても意味がそれほど変わらない。しかし、田窪(1986)で言及されているように、派生語「X化」のほうが語基「X」より変化のニュアンスが強く、「X」は変化した結果に焦点を置いているのに対して、「X化」は変化する過程にも焦点を置いていると考えられる。

## ②タイプ2: 「X」と「X化」の自他性が変わるもの

- (3-19) a. 位置を固定する／体を固定する  
 b. 日米貿易「不均衡」が固定化する／顧客を固定化する
- (3-20) a. 株価が変動する／電気使用量が変動する  
 b. 売上高が変動化する／金利を変動化する

「固定」は「メンバーが固定している」のような自動詞用法もあるが、全体的には例(3-19a)のような他動的な事象を表す傾向が強い。これに対して、「固定化」は「固定的な状態になる／する」という意味で、自動的事象と他動的な事象の両方を表し、自動詞用法と他動詞用法に偏りが無いものである<sup>15</sup>。

また、例(3-20)の「変動」は「変わる」の意味で、自動的事象を表す傾向が強い<sup>16</sup>。「化」を付けることによって、「変動的な属性を持つようになる／する」の意味で、他動的な事象も表せるが、自動詞より他動詞の方が多用されている<sup>17</sup>。つまり「変動する」と「変動化する」は自他性の選択上、相補的な関係を持っている。

## ③タイプ3: 「X化」は「X」に「変化」の意味を足すもの

このタイプに当てはまる「X」と「X化」は、動詞に用いられる時それほど違いが無いように見えるが、名詞に用いられる場合は違いがより明白になる。

- (3-21) a. 日本は国際政治で孤立している。  
 b. 日本は国際政治で孤立化している。  
 c. 日本の国際政治での孤立。  
 d. 日本の国際政治での孤立化。

例(3-21a)と(3-21b)は「孤立」と「孤立化」の動詞用法であり、意味的な違いはあまりない。しかし、「孤立」と「孤立化」は名詞用法に用いられると、(3-21c)と(3-21d)

<sup>15</sup> 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で調べた結果、「固定する」の自動詞用法が140件、他動詞用法が508件、「固定化する」の自動詞用法が28件、他動詞用法が30件あった。このことは上の論じた内容を裏付けることができると考える。

<sup>16</sup> 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』で調べた結果、「変動する」の自動詞用法は113件、他動詞用法は13件ある。

<sup>17</sup> 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』では1例しかないので、グーグルブックスで調べた。その結果、「変動化」の自動詞用法はわずか5件であるのに対して、他動詞用法は265件ある。(2022年7月検索)

のように、違いがより明確になる。(3-21c)の「孤立」は孤立である状態を表すのに対して、(3-21d)の「孤立化」は「孤立」への変化や変化の過程を含んでいる。

- (3-22) a. 管理職の大幅な増大によって組織が肥大している。  
 b. 管理職の大幅な増大によって組織が肥大化している。

また、例(3-22a)と(3-22b)のように、「X化」に「ている」がついた形で比べると「肥大」と「肥大化」の違いがよりよく判別できる。例(3-22a)の「肥大している」は「肥大」の状態を表しているのに対して、例(3-22b)の「肥大化している」は「肥大し続ける」という動作の進行を表す。

### 3.2.4 まとめ

以上第3.2節では、派生語「X化」における「化」の意味を分析した。「化」に前接する語基Xの品詞性によって「名詞語基+化」、「形容詞語基+化」、「動詞語基+化」の三つに分けて、それぞれ考察を行った。考察の結果を以下にまとめる。

#### 「名詞語基+化」

- A. 項目変化：語基そのものに変化する (現金化、商品化)  
 B. 様式変化：語基の様式によって表現されるようになる (数値化、ポイント化)  
 C. 属性変化：語基の表す属性の一部／典型的な特徴を持つようになる (女性化、幼児化)  
 D. 所有変化：語基の表す概念を持つようになる (規格化、構造化)  
 E. 量的変化①：語基が重視されるようになり、広がる (情報化、電子化)  
 F. 量的変化②：語基の表すものに行き渡る／広がる (大衆化、全国化)

#### 「形容詞語基+化」

- ・語基の表す状態に変化する (複雑化、特殊化)

#### 「動詞語基+化」

- A. 語基で表される状態に変化する (固定化、肥大化)  
 B. 語基で表される動作の結果状態に変化する (立法化、外注化)

また、語基 X が動詞である場合、「X」と「X化」はどのような違いがあるかを考察し、以下のような三つのタイプに分けた。

- ①タイプ1: 「X」と「X化」の意味があまり変わらないもの
- ②タイプ2: 「X」と「X化」の自他性が変わるもの
- ③タイプ3: 「X化」は「X」に「変化」の意味を足すもの

### 3.3 中国語“X化”の意味

本節では日本語「X化」の意味分類を受け、中国語における“X化”の意味を考察する。中国語においても、前接する語基の種類によって、接尾辞“化”の意味が変動すると考えられる。本節では前接語基を名詞語基、形容詞語基、動詞語基の三つに分けて分析を行う。

また、中国語の場合は、“国产化”“自动化”などのような“区別詞+化”の用例が数多く存在する。区別詞というのは“男・女、急性・慢性”のような、主にモノの分類・区別を表すものであり、否定を表す場合は“不”ではなく、“非”を前接する。区別詞はよくペアを成し、物事の両面を表すため、“化”に前接しやすいと考えられる。なお、区別詞は物事の性質や状態を表すものであるため、本研究では形容詞語基に分類する。

中国語における“X化”の意味分類は、日本語の分類とほとんど同じである。3.1節で述べたように、中国語における“X化”は英語の“-ize”“-fy”の訳語として現れ（呂叔湘、朱德熙（1979）、丁声树（1979）、任学良（1981）など）、この訳し方は日本語の真似をしたとされている（王力（2004）、陳瞬臣、陳謙臣（1972）など）。そのため、中国語の“X化”と日本語の「X化」が意味的に類似しているところが多いと考えられる。

#### 3.3.1 名詞語基の場合

“名詞語基+化”の場合、まず、A.項目変化、B.様式変化、C.属性変化、D.所有変化、E.量的変化①、F.量的変化②の六つのタイプに分類する。次にそれぞれの分類について詳しく説明する。

##### A. 項目変化：語基 X そのものに変化する

例：口语化、商品化、荒漠化、资源化、物质化、影视化、教条化…

この場合では、“到了元朝，作品的语言几乎口语化了（元代になると、作品の使用言語が口語化した）”のように、項目 X<sub>0</sub>（语言）と項目 X（口语）という二つの項が存

在し、「 $X_0$ がXそのものに変化する」という変化のタイプである。また、この変化タイプには項目  $X_0$ が項目 Xに変化し、項目の交替を成していると考ええる。

$X_0$ とXの意味関係：「 $X_0$ がXそのものに変化する」

(3-23) 教育是否具有商品属性，教育能否商品化。

(教育は商品としての属性を持っているのか、教育は商品化できるのか)

例(3-23)において、変化の主体である  $X_0$ は“教育”であり、変化した結果のXは“商品”であり、“教育”が“商品”になることを表す。“（草原）荒漠化”や“（污水）资源化”なども同じように、 $X_0$ からXに変化するタイプである。

この変化のタイプは、項目  $X_0$ は項目 Xそのものに変化するという項目の変化を表す。 $X_0$ を○で、Xを□で図示すると、図3-9のようになる。

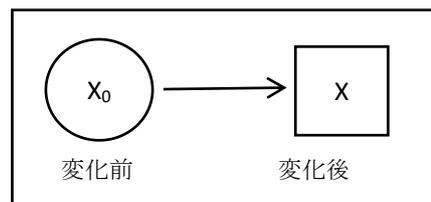


図3-9 “X化”の項目変化の図

$X_0$ は変化し、変化した結果はXであるという変化のタイプである。

## B. 様式変化：語基Xの様式によって表現されるようになる

例：数値化、画像化、书面化、文字化、データ化、パラメータ化、画像化…

この場合では、“将评鉴结果数値化（評価の結果を数値化する）”のように、項目  $X_0$ （评鉴结果）と項目 X（数値）という二つの項が存在しているが、「 $X_0$ がXそのものに変化する」という変化ではなく、項目  $X_0$ 自体は変わらないが、表し方のみが変化し、変化した結果は「語基Xの表す様式によって表現されることである」と解釈できる。

$X_0$ とXの意味関係：「 $X_0$ がXの様式によって表現されるようになる」

(3-24) 将得到的数据画像化。

(得られたデータを画像化する)

(3-25) 农民出行汽车化。

(農民たちの出かけは自動車によるようになる)

例(3-24)は、「データが画像になる」のではなく、数字や数式等で表されたデータが表や図などの画像で表されるようになるという様式変化の意味を持つ。また、例(3-25)は日本語では言いにくいですが、中国語では「農民の出かけること」が変化しないが、「出かける方」が以前の「徒歩、自転車」などから今の「自動車」になるという意味を表す。ほかに様式変化を表すものには“(把情绪)文字化(気持ちを文字化する)”“(把想法)书面化(考えを画面化する)”などがある。

この変化のタイプは、項目  $X_0$  は項目  $X$  の様式によって表現されるようになるという様式の変化を表す。 $X_0$  を○で、 $X$  を□で図示すると、図3-10のようになる。

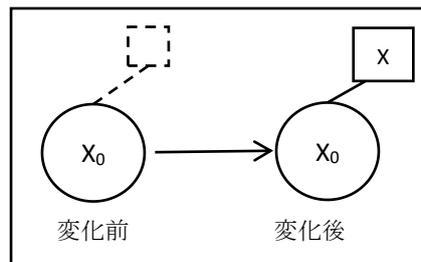


図3-10 “X化”の様式変化の図

図3-10から分かるように、この変化のタイプでは、項目  $X_0$  自体は変わらないが、 $X_0$  の表し方が変わる。すなわち、項目  $X_0$  の様式は  $X$  ではない様式から  $X$  の様式に変わるという変化タイプである。

### C. 属性変化：語基の表す属性の一部／典型的な特徴を持つようになる

例：現代化、戏剧化、妖魔化、女性化、军事化、中国化…

この場合では、“中国已经现代化了(中国はもう近代化している)”のように、項目  $X_0$  (中国) と項目  $X$  (現代) という二つの項が存在しているが、「 $X_0$  が  $X$  そのものに変化する」という変化ではなく、「 $X_0$  が変化し、変化の結果は  $X_0$  が項目  $X$  の属性の一部／典型的な特徴を持つようになる」という属性変化のタイプである。

$X_0$ とXの意味関係：「 $X_0$ がXのようになる／っぼくなる」

(3-26) 美国国家安全委员会发言人克劳利当天也表示，俄轰炸机是在国际领空内，没有给美国带来麻烦，“没有必要过于将此戏剧化”。——《人民日报》（1999）

(米国の安全委員会のスポークスマンのクローリも、ロシアの爆撃機は国際空域にあり、米国に迷惑をかけなかったので、「これをあまりドラマ化する必要はない」と言った。)

例(3-26)では「ロシアの爆撃機が国際空域を飛ぶ」ということが項目 $X_0$ にあたり、「ドラマ」が項目Xにあたる。例(3-26)の意味は「ロシアの爆撃機が国際空域を飛ぶことをドラマにする」のではなく、「この事態をドラマのように扱う」ということである。“（把游戏）妖魔化”“（男性）女性化”“（训练）军事化”なども同じように、変化の結果はXそのものではなく、Xの持つ属性の一部あるいは典型的な特徴を身につけるようになることを表す。

この変化のタイプは、項目 $X_0$ は項目Xの属性の一部／典型的な特徴を持つようになるという属性の変化を表す。 $X_0$ を○で、Xを□で図示すると、下の図3-11のようになる。

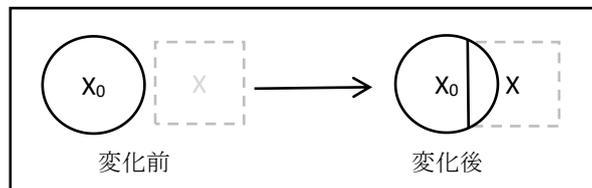


図3-11 “X化”の属性変化の図

図3-11から分かるように、変化前は $X_0$ とXは独立した個体であるが、変化後は、 $X_0$ がXの属性の一部を持つようになっている。

#### D. 所有変化：語基Xの表す概念を持つようになる

例：规范化、規模化、制度化、標準化、特色化、個性化、生態化、形象化…

この場合は、“サービス業将日趋特色化（サービス業はだんだん特色化していく）のよう

に、項目 $X_0$ （サービス業（サービス業））と項目X（特色）が存在する。変化した結果は「 $X_0$ がXそのものに変化する」や「 $X_0$ がXの属性を持つようになる」ではなく、「 $X_0$ が変化し、変化した結果はXというものを持つようになる」ということである。

$X_0$ と $X$ の意味関係：「 $X_0$ は $X$ というものを持つようになる」

(3-27) 市場管理趋向规范化。

(マーケティングマネジメントは次第に规范化している。)

例(3-27)では、項目 $X_0$ である“市場管理(マーケティングマネジメント)”ということが変化し、変化した結果は“规范(規範)”を持つようになることを表す。

この変化のタイプは、項目 $X_0$ は項目 $X$ の表す概念を持つようになるという所有の変化を表す。 $X_0$ を○で、 $X$ を□で図示すると、図3-12のようになる。

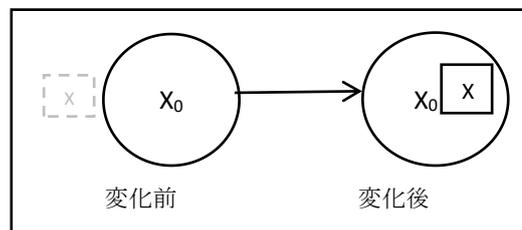


図3-12 “X化”の所有変化の図

図3-12から分かるように、変化前に項目 $X_0$ のみが存在するが、変化した結果、項目 $X_0$ は項目 $X$ を持つようになる。例えば“サービス業将日趋特色化(サービス業はだんだん特色化していく)”のように、項目 $X_0$ である“サービス業(サービス業)”が変化し、変化した結果は項目 $X$ である“特色”を持つようになるという変化のタイプである。

#### E. 量的変化①：語基が重視されるようになり、広がるようになる

例：信息化、機械化、数字化、電子化、商業化、工業化…

この場合は、“早日实现教育信息化”のように、項目 $X_0$ (教育)と項目 $X$ (情報)が存在しているが、意味は「 $X_0$ が $X$ に変化する」でも、「 $X_0$ が $X$ の属性を持つようになる」でも、「 $X_0$ が $X$ を持つようになる」でもない。Eの変化タイプにおいては、項目 $X_0$ と項目 $X$ 両方が変化し、変化した結果は項目 $X$ の重視度が増加し、さらに項目 $X_0$ の中に行き渡るようになるということを表す。

$X_0$ と $X$ の意味関係：「 $X$ が $X_0$ の中に重視されるようになる」

(3-28) 附近的工厂也都开始大规模机械化了。

(近くの工場が大掛かりに機械化し始まった。)

例(3-28)では、項目 $X_0$ (工場)と項目 $X$ (機械)が存在する。項目 $X_0$ と項目 $X$ 両方が変化し、変化した結果は項目 $X$ が項目 $X_0$ の中に重視されるようになる。つまり、“機械(機械)”というものが“工場(工場)”の中に重視されるようになり、さらに広がっていくことを表す。 $X_0$ を○で、 $X$ を□で図示すると、図3-13のようになる。

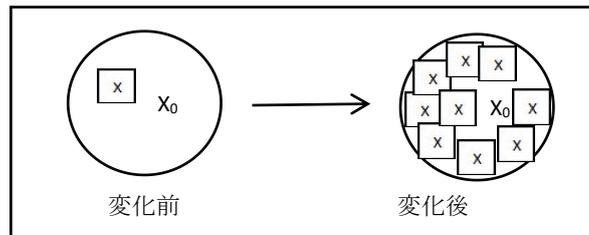


図3-13 “X化”の量的変化①の図

図3-13から分かるように、このタイプは変化前には項目 $X_0$ のみに焦点を置いているが、変化した結果、項目 $X_0$ の中に項目 $X$ が重視されるようになり、広がるようになるという量的変化である。

#### F. 量的変化②：語基の表すものに行き渡る／広がる

例：大众化、平民化、全国化、全球化、国际化、表面化…

この変化のタイプも量的変化であるが、上のEのタイプと正反対の変化のし方である。

Fの場合は、“奶茶文化已经大众化了(タピオカ文化はもう大衆化している)”のように、項目 $X_0$ (奶茶文化(タピオカ文化))と項目 $X$ (大众)が存在し、項目 $X_0$ と項目 $X$ の両方が変化し、変化した結果は、 $X_0$ が $X$ に広がる／行き渡るようになるということを表している。

$X_0$ と $X$ の意味関係：「 $X_0$ が $X$ の中に行き渡るようになる」

(3-29) 微整形越来越平民化了。

(プチ整形が次第に庶民化している。)

例(3-29)は、“微整形”という以前お金持ちや権利を持つ人しかできない行為がだ

んだん普通の人の間に広がるようになったことを表している。

この変化のタイプは、上の変化タイプと正反対で、項目  $X_0$  が項目  $X$  の中に行き渡るようになるという量的変化を表す。 $X_0$  を○で、 $X$  を□で図示すると、図 3-14 のようになる。

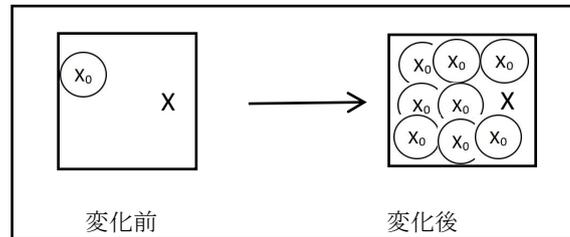


図 3-14 “X化” 量的変化②の図

図 3-14 から分かるように、この変化のタイプは、変化前には項目  $X_0$  のみが存在する（もしくは項目  $X_0$  のみに焦点を置いている）が、変化後は項目  $X_0$  が項目  $X$  の中に広がるようになるという量的変化である。

以上、日本語と同様に中国語“名詞語基+化”の意味を A~F のようにまとめた。

一方、生産的ではないと思われるが、中国語の“X化”には、以下の例 (3-30) のような変化のタイプが見られる。

(3-30) a. 军队国家化

(軍隊は国家が所持するようになる)

b. 教育国家化

(教育は国家が所持するようになる)

例 (3-30) の意味は、「軍隊／教育が国家になる」でもなく、「軍隊／教育が国家の属性を持つようになる」でもなく、「軍隊／教育が国家を持つようになる」でもない。例 (3-30) は、「軍隊／教育の所属権は国家にある」という意味を表す。軍隊／教育を項目  $X_0$ 、国家を項目  $X$  で表し、 $X_0$  と  $X$  の意味関係を示すと、以下のようになる。

$X_0$  と  $X$  の意味関係：「 $X$  が  $X_0$  を持つようになる」

この変化のタイプは、「 $X$  が  $X_0$  を持つようになる」という所有変化であるが、上のタイプ D. 所有変化の方向とは正反対である。上のタイプ D においては、 $X_0$  が所有者で  $X$  が

所有物であるのに対して、タイプGにおいては、X<sub>0</sub>が所有物、Xが所有者になる。X<sub>0</sub>を○で、Xを□で図示すると以下の図3-15のようになる。

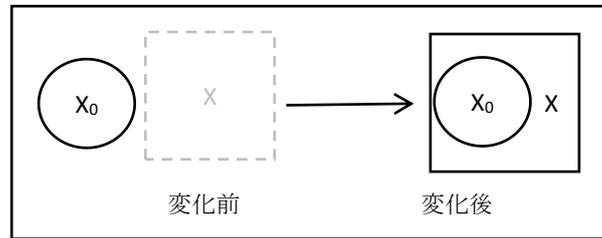


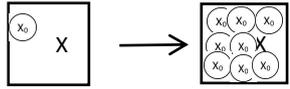
図3-15 “X化”の所有変化②の図

なお、このようなタイプに「国家化」の1例しか見当たらないが、念のために、このような変化タイプをG. 所有変化②と名づける。

以上、“名詞語基+化”における“化”の意味をAからGの七つの種類に分けて、その違いを見た。これをまとめると表3-4のようになる。

表3-4 中国語の“名詞語基+化”の変化タイプのまとめ

変化タイプ	“化”の意味	例文	変化図
A. 項目変化	Xそのものに変化する	a. 草原沙漠化了 b. 产品商品化了	
B. 様式変化	Xの様式によって表現されるようになる	a. 把味道数值化 b. 把数据图像化	
C. 属性変化	Xのようになる／っぼくなる	a. 把事情戏剧化 b. 男人逐渐女性化	
D. 所有変化	Xを持つようになる	a. 服务日益个性化 b. 产品逐渐标准化	
E. 量的変化 ①	Xが重視されるようになり、広がる	a. 工厂逐渐机械化 b. 社会日益信息化	

<p>F. 量的変化 ②</p>	<p>Xに行き渡る／広がる</p>	<p>a. 汽车日益<u>大众化</u> b. 战争日益<u>全国化</u></p>	
<p>G. 所有変化②</p>	<p>XがX0を持つようになる</p>	<p>a. 军队<u>国家化</u> b. 教育<u>国家化</u></p>	

### 3.3.2 形容詞語基の場合

日本語と同じように、中国語の“形容詞語基+化”の派生語の意味は上の“名詞語基+化”の場合よりシンプルである。

本研究では、中国語の形容詞を性質や状態を表すもので、程度副詞の修飾を受けることができるものと定義する。また、“国产、私有、民营、大型”等の語は品詞が区別詞であるが、性質や状態を表すものであるため、形容詞語基に入れる。形容詞語基に変化を表す“化”を付けることによって、派生語の意味は「語基の表す性質や状態に変化する」ことである。

例：自由化、私有化、长期化、民营化、具体化、国际化、多元化、简单化、公有化、庸俗化、明确化、合理化、复杂化、正常化、多样化、自动化、民主化、特殊化、最大化、一般化、白热化、低龄化、一元化、深刻化…

“邦交自由化（国交が自由化する）”のように、項目  $X_0$ （邦交）が変化して、変化した結果は語基  $X$ （自由）の表す性質や状態である。

$X_0$ と  $X$  の意味関係：「 $X_0$ が  $X$  の状態に変化する」

(3-31) 他将斥资 5 亿人民币，把该公司私有化。

(彼は 5 億の人民元を出金し、その会社を私有化する。)

例 (3-31) は、会社というものの属性が変化し、変化の結果は私有的であるという意味を持つ。

一方、日本語において、「動詞語基」と「動詞語基+化」が意味が似ていると 3.2.3.1 節で述べた。これに対して、中国語において、“形容詞語基”と“形容詞語基+化”の間にも同じように意味が区別しにくい場合がある。

- (3-32) a. 这个说法很形象。  
           (この言い方はとても生々しい。)
- b. 这个说法很形象化。  
           (この言い方はとても生々しい。)
- (3-33) a. 他的演讲太一般了。  
           (彼のスピーチは普通すぎる。)
- b. 他的演讲太一般化了。  
           (彼のスピーチは普通すぎる。)

上の例 (3-32) と (3-33) の a. は X が形容詞述語として働く文である。これに対して、例 (3-32) と (3-33) の b. は同じ形容詞語基に“化”がついた派生語で、形容詞述語として用いられるものである。また、上の a. と b. の意味にはあまり違いがない。

さらに、下の例 (3-34) (3-35) のように、連体修飾節や結果補語に用いられる場合も、“形容詞語基”と“形容詞語基+化”の間にあまり差異が感じられない。

- (3-34) a. 简单的服饰。  
           (シンプルな服装。)
- b. 简单化的服饰。  
           (シンプルな服装。)
- (3-35) a. 文章写得很复杂。  
           (この文章は複雑に書いた。)
- b. 文章写得很复杂化。  
           (この文章は複雑に書いた。)

例 (3-34) は“形容詞語基”と“形容詞語基+化”が連体修飾語に用いられ、「服装」を修飾する例文で、(3-35) は“写得～（「～に書く」）”の結果補語に用いられる場合である。a. と b. の間にあまり違いが感じられない。しいて言えば、“化”がつくほうが「変化」の意味が少し入っていると思われる。

### 3.3.3 動詞語基の場合

本節では、“化”に動詞語基が前接する場合を考察する。動詞とは“了（した）／着

(している) / 过 (したことがある) ” などのアスペクトマーカを付けて述語になりうるものとする。中国語の“化”に前接できる動詞語基をまとめると以下のようになる。

例：凝固化、固定化、延续化、分散化、完善化、平均化、虚拟化、合作化、扩大化、拟人化、公开化、普及化、吊装化、集约化、殖民化、节约化、移动化、服务化、抑制化、对接化、循环化、融合化、综合化、创新化、对抗化、隐蔽化、复制化、集中化、生产化、图解化、戏谑化、学习化、定制化、模拟化、劳动化、战斗化…

上の例から分かるように、中国語の“化”に前接できる動詞語基には“凝固化”“分散化”などのような状態変化を表すものと“合作化”“创新化”などのような動きを表すものがある。次に前者をA、後者をBとして“化”の意味の違いを見る。

#### A. 語基で表される状態に変化する

例：凝固化、分散化、延续化、固定化、完善化、平均化、虚拟化…

状態変化動詞は語彙的意味の中に状態を含んでおり、“化”をつけることによって、語基の表す状態に変化するという意味を持つ。例えば、“把马克思主义凝固化（マルクス主義を結晶化する）”において、項目  $x_0$  (马克思主义) と項目  $x$  (凝固) が存在し、項目  $x_0$  が変化し、変化の結果は項目  $x$  の状態を持つようになる。

$x_0$  と  $x$  の意味関係：「 $x_0$  が  $x$  の状態に変化する」

(3-36) 股权日益分散化了。

(持株比率はますます分散化しています。)

例(3-36)は、“股权(持株比率)”が変化し、変化した結果は“分散”状態になるという意味を持つ。

#### B. 語基で表される動作の結果状態に変化する

例：定制化、拟人化、扩大化、公开化、普及化、集约化、殖民化、移动化、服务化、抑制化、循环化、融合化、综合化、创新化、对抗化、隐蔽化、复制化、集中化、生产化、图解化、学习化、戏谑化、模拟化、劳动化、战斗化…

日本語の「化」に前接する動作動詞を比べ、中国語の方が“化”に前接する動作動詞が多い。“高級葡萄酒也定制化了。（高級ワインもカスタマイズされた。）”において項目  $X_0$ （“高級葡萄酒”）と項目  $X$ （“定制”）が存在する。 $X_0$ が変化し、変化した結果は、項目  $X$ の表す動作の結果状態に変化することである。

$X_0$ と  $X$ の意味関係：「 $X_0$ が  $X$ の動作の結果状態に変化する」

(3-37) 公司高层的内讧公开化了。

(会社経営者の内輪もめが公開化した。)

例 (3-37) では、項目  $X_0$ である“内讧（内輪もめ）”が変化し、変化した結果は“公開（公開）”した状態になることである。

### 3.4 まとめ

本章では、日中両語における【X化】の意味を分析した。まず、「X化」を「名詞語基+化」「形容詞語基+化」「動詞語基+化」の三種類に分け、それぞれの場合の意味を考察した。結果として、日本語の「X化」を以下のような変化タイプに分類できた。

#### 「名詞語基+化」

- A. 項目変化：語基そのものに変化する (現金化、商品化)
- B. 様式変化：語基の様式によって表現されるようになる (数値化、ポイント化)
- C. 属性変化：語基の表す属性の一部／典型的な特徴を持つようになる (女性化、幼児化)
- D. 所有変化：語基の表す概念を持つようになる (規格化、構造化)
- E. 量的変化①：語基が重視されるようになり、広がる (情報化、電子化)
- F. 量的変化②：語基の表すものに行き渡る／広がる (大衆化、全国化)

#### 「形容詞語基+化」

- ・語基の表す状態に変化する (複雑化、特殊化)

#### 「動詞語基+化」

- A. 語基で表される状態に変化する (固定化、肥大化)

## B. 語基で表される動作の結果状態に変化する (立法化、外注化)

また、語基 X が動詞である場合、「X」と「X化」にはどのような違いがあるかを考察し、以下のような三つのタイプに分けた。

- ①タイプ1: 「X」と「X化」の意味があまり変わらないもの
- ②タイプ2: 「X」と「X化」の自他性が変わるもの
- ③タイプ3: 「X化」は「X」に「変化」の意味を足すもの

一方、中国語の“X化”の意味は日本語の「X化」の意味とほぼ同じであるが、“名詞語基+化”の場合において、下の“国家化”のようにタイプGが見られた。

## 「名詞語基+化」

## G. 所有変化②: 語基が所有者になる ((军队) 国家化)

なお、日本語の「X化」においては、「固定する」と「固定化する」のように、「動詞語基」と「動詞語基+化」の意味を区別しにくい場合が見られたのに対して、中国語の“X化”においては、“一般”と“一般化”のように、“形容詞語基”と“形容詞語基+化”の意味を区別しにくい場合が見られた。

## 第4章 【X化】の語基【X】の日中対照

本章では、日本語の「X化」と中国語の“X化”に前接する語基Xの異同について論じる。【X化】は日本語にも中国語にも体系的で、生産性の高い派生語であり、例(4-1)のように日本語と中国語における【化】は同じ語基と共起し、日中同形語を成す場合がよく見られる。

- (4-1) 日本語：商品化、長期化、複雑化、男性化、工業化、個性化…  
中国語：商品化、长期化、复杂化、男性化、工业化、个性化…

しかし、日本語の「化」と中国語の“化”はつねに同じ語基と共起できるわけではない。下の例(4-2)は日本語のみに見られる「X化」の派生語であり、例(4-3)は中国語のみに見られる“X化”の派生語である。

- (4-2) 日本語：映画化、有料化、適正化、円滑化、初期化、温暖化…  
中国語：\*映画化、\*有料化、\*适正化、\*圆滑化、\*初期化、\*温暖化…
- (4-3) 日本語：\*年輕化、\*信息化、\*人性化、\*完美化、\*全球化、\*区域化…  
中国語：年轻化、信息化、人性化、完美化、全球化、区域化…

(4-2)のうち、「映画」「有料」のような語はもともと中国語に存在しないため、“化”に前接できない。“适正”“圆滑”のような語は中国語には存在しているが、日本語の「適正」「円滑」との意味や用法が異なり<sup>18</sup>、“化”に前接しない。「初期」「温暖」のような語は日本語と中国語において同じような意味に用いられているが、中国語におい

<sup>18</sup> 中国語には日本語の「適正」の同形語“适正”があるが、正妻の生んだ男の子(“嫡子”)を指している。(出典：《韩非子・亡徴》：轻其适正，庶子称衡，太子未定，而主即世者，可亡也)。また、中国語には日本語の「円滑」の同形語“圆滑”があるが、これは人柄をマイナスに評価し、「八方美人」という意味を表す。

ては“化”に前接しない。

また、(4-3)のうち、“年轻(若い)”“信息(情報)”のような語はもともと日本語に存在しないため、「化」に前接できない。「人性」「完美」のような語は日本語には存在しているが、中国語の“人性”“完美”との意味や用法が異なり<sup>19</sup>、「化」に前接しない。“全球<sup>20</sup>(「全地球」)”“区域”のような語は日本語と中国語において同じような意味に用いられているが、日本語においては「化」に前接する用法がない。

以上のような日本語や中国語の一方しかない「X化」と“X化”は学習者にとって、母語の干渉により誤用をもたらす可能性があると思定する。そのため、本章では、日中両語の【化】に前接するもの、しないもの、日中両語の一方にしか前接しないものをまとめ、日本語教育もしくは中国語教育に役立てたい。

以下、4.1節では日本語の「化」と中国語の“化”の前接語基に関する先行研究を概観する。次に、4.2節では日中両語の【化】に接続する語基を見る。続いて4.3節では日本語のみに見られる「X化」を見て、4.4節では中国語のみに見られる“X化”を見る。それから、4.5節では日中両語の【化】に接続しない語基を考察し、最後に4.6節では本章の内容をまとめる。

## 4.1 先行研究

本節では【化】の語基に関する先行研究を見る。日本語の「化」の前接語基に関する研究には田窪(1986)、池上(2000)、王淑琴(2003)などがある。これに対して中国語の“化”の前接語基に関する研究には秦岭枫(2002)、冯灿(2011)、王丹(2012)、代元东(2010)などがある。また、日本語のほうは前接語基の制限を中心に議論されているが、中国語のほうは語基の品詞性を中心に考察されている。

### 4.1.1 日本語の「化」の前接語基

田窪(1986)では日本語の「化」は生産的・体系的で、すぐれた接辞であるとしている。「化」は、「機械(化)」「近代(化)」のような体言系語基と「複雑(化)」「正常(化)」のような相言系語基と共起できるが、「\*研究(化)」「\*処理(化)」のよ

<sup>19</sup> 日本語の「人性」は「人間のもっている自然の性質」と表すのに対して、中国語の“人性”は「人間性」を指す。また、日本語の「完美」は「完全に美しい」ことを表すのに対して、中国語においては「完璧」の意味を持つ。

<sup>20</sup> 「全球」は日本語であまり使用されていないが、気象庁の記事で次のような用例が見られた。

このため、数日より先の予報には地球全体をカバーする全球モデルが必要となります。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/whitep/1-3-5.html>

2022年11月26日

うな動作性の用言系語基は結果の状態を表しにくいいため、「化」がつきにくいとしている。しかし、「固定(化)」「孤立(化)」のような結果の状態を表す用言系語基は「化」に前接することは可能であると論じている。要するに、田窪(1986)では、語基の品詞性の観点から接尾辞「化」の語基制約を分析し、「化」は名詞語基と形容詞語基につき、動作性動詞語基につきにくい、状態性を含んでいる動詞であれば、「化」がつくことも可能であると述べている。

池上(2000)では、「化」に前接する語基を名詞語基、形容詞語基、動詞語基の三種類に分け、それぞれの場合の語基制限を述べている。名詞語基における制限については「典型を持たない語は語基にならない」と述べている。例えば、「女子の高学歴化が進んでいる」が言え、「\*女子の学歴化が進んでいる」が言えないのは、「高学歴」は「典型」を持ち、「学歴」は「典型」を持たないためであるとしている。

池上(2000)では「化」の形容詞語基の制限を「品質形容詞しか語基にならない。かつ、典型的にはモノ、コトの性状規定を表す語が語基に来て、性状判断、認識判断、性状評価を表す語は原則として語基にならない」(p. 30)と規定している。また、池上(2000)は「性状判断」「認識判断」「性状評価」の種類の語は原則として「化」の語基にはならないと言いつつ、下の例(4-4)のb.~d.のように、これらの種類の語基と結合する例を取りあげている。

- (4-4) a. 巨大化、狭小化、平坦化、透明化 (性状規定)  
 b. 簡便化、有用化 (性状判断)  
 c. 最適化、確実化 (認識判断)  
 d. 陰気化、高潔化、無礼化 (性状判断)

(池上 2000 : 30)

これに関して、池上(2000)は「X化」は硬く、客観性の高い表現であるため、「万人が認識できる場面」であれば、「性状判断」などの語基とも結合できるとしている。

続いて池上(2000)では「化」の動詞語基の制限を「結果状態の持続を表す語しか語基にならない」と規定している。「肥大」「安定」のような状態変化動詞や「存在」「局在」のような状態動詞がこれに当てはまると述べている。

王淑琴(2003)では、まず派生語「X化」の意味を「状態変化」と「属性変化」の二つに分け、それぞれの場合の語基制限を述べている。「状態変化」とは、「(容器が) 小型化する」「(決算を) 黒字化する」のように、「(ある主体の働きかけによって)あ

る変化対象が語基の表す状態に変化する」ことである。これに対して、「属性変化」とは、「(戦後の日本が) アメリカ化した」「(大学が) 遊園地化した」のように、「(ある主体の働きかけによって) ある変化対象が語基の表す属性の一部を持つようになる」ということである。

「化」が「状態変化」を表す場合、語基 X は a. 初期状態を持つこと、b. 状態を表すこととの二つの制約を満たさなければならない。また、「化」が「属性変化」を表す場合、語基 X は「顕著なステレオタイプ」または「顕著な社会的ステレオタイプ」を持たなければならないとしている。しかし、「結果状態を表す側面の強い「人工物」や「人間の役割や職業」を表す語基は、「顕著なステレオタイプ」を持っていても、「一化」と「(ある主体の働きかけによって) ある変化対象が語基の表す属性の一部を持つようになる」という意味では結合しない」(p. 134) と指摘している。

田窪 (1986) では「化」が名詞語基と形容詞語基に付くと指摘しているが、「化」はすべての名詞や形容詞につくわけではない。例えば、「規範+化」「高齢+化」は言うが、「\*規模+化」「\*老齡+化」は言いにくい。また、田窪 (1986) では動作性動詞に「化」が付きにくいとしているが、「公開+化」「管理+化」「外注+化」「差別+化」「輸入+化」「計量+化」などのような「動作性動詞+化」の語例がある。

池上 (2000) では名詞語基、形容詞語基、動詞語基の制約を述べているが、それぞれの制約に使われている用語について説明されていない。例えば、「典型」とは何か、「品質形容詞」や「性状規定」「性状判断」「認識判断」「性状評価」とは何かは不明瞭である。また、動詞語基の制約に関して、「結果状態の持続」を表す語しか語基にならないとしているが、「公開(化)」「管理(化)」「外注(化)」などのような結果状態の持続を表すと想定しにくい語基も「化」に前接できる。

王 (2003) では、「化」が「状態変化」の意味を持つ場合、初期状態を表す語しか「化」に前接できないとしているが、「共有(化)」「現実(化)」などの初期状態を持たない語も「化」に前接できる。また、「化」は「属性変化」の意味を持つ場合、語基 X は「顕著なステレオタイプ」または「顕著な社会的ステレオタイプ」を持たなければならないとしているが、「制度(化)」「情報(化)」などの語は「顕著なステレオタイプ」を持っていると考えにくい語も「化」に前接できる。

田窪 (1986)、池上 (2000)、王 (2003) で述べている「化」の語基制限に関する規定を見ると、「化」がどのような語基につくかを分析するのは限界があり、明確に示すのは難しいと考えられる。そのため、本研究では「X化」の語基に関する制約を追究する

のではなく、日中両語の「X化」の使用実態と異同を記述的に明らかにすることを目的とする。

#### 4.1.2 中国語の“化”の前接語基

中国語の“X化”に関する研究はほとんどが“化”が接尾語か接尾辞かという品詞の定義や“X化”の用法に関わるものである。語基“X”そのものに関するものとして、秦岭枫(2002)、冯灿(2011)、王丹(2012)、代元东(2010)が見られる。

秦岭枫(2002)では、“化”は“机械(化)”“大众(化)”のような名詞、“特殊(化)”“具体(化)”のような形容詞、“扩大(化)”“革命(化)”のような動詞につくことができ、名詞と形容詞につく語例が多く、動詞につく語例は少ないとしている。

冯灿(2011)では、“化”は“公式(化)”“全球(化)”のような名詞、“神秘(化)”“舒适(化)”のような形容詞、“国有(化)”“男性(化)”のような区別詞、“两极(化)”“一体(化)”のような数量詞、“战斗(化)”“择优(化)”のような動詞、“任意(化)”“经常(化)”のような副詞と共起できると述べている。さらに、名詞語基のうち、“沙漠(化)”“民族(化)”のような具体物あるいは抽象物を表すものや、“内部(化)”“欧洲(化)”のような方位を表すものや、“中国(化)”“琼瑶(化)”のような地名・人名を表す固有名詞が見られると述べている。また、“名詞+化”の派生語が最も多く、次に多いのは“形容詞+化”の派生語であるとしている。

王丹(2012)では、2001年一年分の《人民日报》から737語の“X化”を抽出し、“X化”の語基になる語は名詞、形容詞、動詞、区別詞、数量詞、副詞であり、名詞語基が367語で一番多く、形容詞語基は139語あり、それに次ぐと述べている。また、名詞語基には、“男性(化)”“城镇(化)”のような人や物を表す語、“现代(化)”のような時間を表す語、“日本(化)”のような場所を表す語、“内部(化)”のような方位を表す語が見られ、形容詞語基には、性質形容詞しか来ないとしている。なお、中国語の動詞は一般的に動作動詞、心理動詞、存現動詞、判断動詞、能願動詞、方向動詞(“趋向动词”)の六つに分けられるが、“化”に前接できるのは“扩大(化)”“创新(化)”のような動作動詞のみであると述べている。

しかし、以上三編の先行研究は、いずれも語基Xの品詞問題やXの種類段階にとどまっている。語基Xの品詞性のみではなく、Xの意味的な特徴や“化”との共起制限について論じているものには代元东(2010)がある。

代元东(2010)では、462語の“X化”を収集し、このうち“现代化”のような三文字

の“X化”は総数の70%を占め、“形象+化”のような“名詞+化”と“绿+化”のような“形容詞+化”の語例はそれぞれ40%、30%を占めると述べている。また、語基Xになるものが「Xが表す性質あるいは属性には「量」という特徴を含み、かつ「離散性」を持たなければならない、“X化”はその「量」に近づく過程を表す」と主張し<sup>21</sup>、動詞は属性や性質の「量」を表さないため、“化”がつきにくく、名詞、形容詞、区別詞は一般的に属性や性質の「量」を表すため、“化”と共起しやすいと述べている。

さらに、“化”に前接できる名詞語基は下の例(4-5)のように抽象名詞、具体名詞、固有名詞の一部、集合名詞の一部であり、“化”との共起度は抽象名詞>具体名詞>固有名詞>集合名詞の順に低くなるとしている。

- |                      |        |
|----------------------|--------|
| (4-5) a. 形象化、理想化、民主化 | (抽象名詞) |
| b. 贵族化、诗人化、学者化       | (具体名詞) |
| c. 中国化、美国化、琼瑶化       | (固有名詞) |
| d. 群众化、团伙化           | (集合名詞) |

なお、中国語において形容詞は“绿”のような性質形容詞、“雪白”“冰冷”のような状態形容詞、“许多”“全”のような不定量形容詞と分けられている<sup>22</sup>が、“化”に前接できる形容詞は性質形容詞のみで、状態形容詞と不定量形容詞は前接できないと主張している。性質形容詞は無界であるため“化”に前接しやすいのに対し、状態形容詞は「+極限」が含意されていて有界<sup>23</sup>であり、一般的に極限まで変化しにくいいため、“化”に前接できない。また、不定量形容詞は「量」を表さないため、“化”の語基にならないとしている。

代元东(2010)では、“X化”に入る語基Xは性質や属性の「量」を表さなければならないが、この「量」は「離散性」を持たなければならないと述べているが、「離散性」については説明されていない。また、動詞は性質の「量」を表さないため、“化”に前接できないと述べているが、筆者が調べたところ、“公开化”“集中化”“合作化”“去中心化”などの“動作動詞+化”の語例がある。

さらに、代元东(2010)は状態形容詞は有界であるため“化”に前接しないとしているが、有界か無界かは関係ないと思われる。例えば、“最大(化)”“无效(化)”は有界であるが、“化”に前接できる。“化”は、“草原日趋沙漠化”のように「草原」

<sup>21</sup> 原文：能充当X的成分所表示的性质或属性就应该含有“量”的特征，这个转化就是逐渐向这个“量”的目标接近的过程，…这个量还要具有离散型。(p. 112)

<sup>22</sup> 黄伯荣、廖序东(編)(2002)《现代汉语》

<sup>23</sup> 「無界」と「有界」は黄国营、石毓智(1993)《汉语形容词的有标记和无标记现象》に参照

という変化前の状態から「砂漠」という変化後の状態になることを表す。そのため、“化”に前接できる語は下の例(4-6)のように変化前と変化後両方の状態が想定できるもののみであると考えられる。

(4-6) a. 私人土地国有化 (個人の土地が国有化した)

変化前: (土が) 私有的

変化後: (土が) 国有的

b. 商品種類多样化 (商品の種類は多様化している)

変化前: (商品が) 単一的

変化後: (商品が) 多樣的

しかし、中国語の状態形容詞は下の例(4-7)の“笔直”“冰冷”“雪白”のように比喩の意味を持ち、反対的な意味を持つ語がない。そのため、変化前の状態が考えにくく、“化”と共起しにくい。

(4-7) a. 笔直 (筆のようにまっすぐ) vs. \*笔弯 (\*筆のように曲がる)

\*笔直化 (筆のようにまっすぐになる)

b. 冰冷 (氷のように寒い) vs. \*冰热 (\*氷のように熱い)

\*冰冷化 (氷のように寒くなる)

c. 雪白 (雪のように白い) vs. \*雪黑 (\*雪のように黒い)

\*雪白化 (雪のように白くなる)

また、中国語では“冰冷化”は言わないが、“寒冷化”は言う、“雪白化”は言わないが、“白化”は言う。それは“温暖-寒冷”“黑-白”のように、“寒冷化”と“白化”は反対語を持つためであると考えられる。

以上、日本語と中国語の語基Xに関する先行研究を見た。日本語の「X化」に関しては、Xの意味的特徴や共起制限を分析する傾向があり、中国語の“X化”に関しては、Xの品詞的特徴や語基の種類を考察する傾向がある。語基Xに関する日中対照研究は、管見の限り見当たらない。本章では日中対照の観点から、日本語と中国語における語基Xの異同を考察する。

## 4.2 日本語と中国語共通の【X化】

本節では、日本語の「化」と中国語の“化”が同じ語基に接続し、日中同形語となる【X化】の語例を見る。下の例(4-8)のように日中同形語の【X化】が数多く存在する。

(4-8) 機械化、特殊化、正常化、自由化、活性化、近代化、一体化、合理化…

しかし、日中両語の「化」は同形の語基に接続していても、派生語「X化」の意味は必ずしも一致しているわけではない。

(4-9) a. 商品化、概念化、形式化、制度化、基準化、男性化…  
b. 専門化、数字化、深刻化…

(4-9a) の【X化】は日中両語において形も意味も類似する同形類義語<sup>24</sup>である。これに対して、(4-9b) の【X化】は日中同形であるが、意味が異なる同形異義語である。例えば、下の例(4-10)の【専門化】は日中両語で次のように意味が異なっている。

(4-10) a. 牧畜と農業は初期においては一体として行なわれ、のちに牧畜が専門化した。

(Google 2022/9)

b. 管线打眼是盗抢原油的主要手段……管线打眼还日趋“专业化”。

(“管线打眼”はガソリンを盗む主な手段である、“管线打眼”は次第に専門的 (professional) になる。)

(人民日报：2001)

日本語の「専門化」は例(4-10a)のように、牧畜と農業の両方に従事していたものが、牧畜のみに従事するようになるという「牧畜が唯一の職業になる」ことを表す。これに対して、中国語の“专业化”は、(4-10b)のように、“管线打眼 (パイプラインに穴を

<sup>24</sup> 類義語の判断基準について、岩佐(2011:18)では「どの程度の意味特徴を共有していれば類義語と言えるのかも不明である。「類義語」の意義素論的な定義も理念的で、実際の判別にあまり役立つとは思われない。やはり多くの場合、その人の直感や経験、世間の習慣などにより、意味が似ていると判断されたものが類義語・類意形式とされているのではなかろうか。」(p.18)と述べている。本研究では、日本語と中国語でそれぞれ複数の多義的別義がある場合に、一つでも対応する意味がある場合は、類義語と認定することにした。

あける)”という技術を磨いて、次第に「専門的 (professional) になる」ということを意味する。「專業」という語は、日本語にも中国語にも存在するが、中国語の“专业”は名詞の「専攻」と形容詞の「専門的」の意味を持ち、「化」がつくのは形容詞の「専門的」の場合のみである。そのため、「專業化」は日中両語において異なる意味解釈になるのである。日本語の「專業化」にあたる中国語訳は“专职化”であり、中国語の“专业化”にあたる日本語訳は「専門化」である。

日中両語において、同形類義の【X化】と同形異義の【X化】があることが分かった。「長期化」「複雑化」などのような同形類義の【X化】は学習者にとって習得しやすいと思われるが、「数字化」「專業化」「深刻化」などのような同形異義の【X化】は学習者の習得に支障をきたすと考えられる。そこで、本節では、日中同形【X化】の異同を考察する。

#### 4.2.1 同形類義の「X化」と“X化”

日中同形類義の「X化」と“X化”を以下にまとめた。中国語では簡体字を使用するが、便宜上ここでは同形語を日本語の字体で記すことにする。また、日中の使用実態を比較するために、日中両語における同形類義【X化】の使用頻度を付け加えて表4-1にまとめる。使用頻度について、日本語は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を中納言で検索し、2005年～2008年のデータ、計33,528,933語を検索範囲とした。これに対して、中国語は王丹(2012)のデータを参照した。王丹(2012)は2001年一年分の《人民日報》、計24,928,083語を検索範囲としている。

表4-1 日中同形類義語【X化】と出現数

	X化	日本語	中国語		X化	日本語	中国語		X化	日本語	中国語
1	民営	709	9	21	明確	72	1	41	市場	23	470
2	多様	194	352	22	高度	68	1	42	正規	22	117
3	合理	173	51	23	減量	67	6	43	複雑	22	41
4	近代	172	22	24	一般	62	16	44	擬人	22	6
5	正当	141	7	25	最小	61	3	45	可視	17	12
6	資源	131	25	26	最大	60	75	46	法制	16	202
7	一体	125	652	27	細分	51	2	47	現代	14	4,975
8	工業	110	568	28	表面	49	6	48	大衆	12	42
9	自由	106	245	29	証券	46	24	49	理想	12	8
10	国際	103	363	30	流動	46	1	50	透明	11	9
11	実用	100	13	31	自動	45	225	51	形象	8	15

12	軽量	89	2	32	機械	41	110	52	産業	7	1,331
13	民主	89	175	33	空洞	36	2	53	規範	6	475
14	商品	88	48	34	電子	36	59	54	国産	6	118
15	都市	82	2	35	制度	31	276	55	個性	6	94
16	具体	77	68	36	体系	31	1	56	多元	5	410
17	組織	74	28	37	固定	29	5	57	簡単	5	41
18	標準	74	258	38	社会	28	510	58	企業	4	82
19	正常	73	177	39	長期	27	4	59	絶対	4	14
20	一元	72	8	40	立体	26	19	60	拡大	2	10

これらの語は日中両語において形が一致し、かつ、語基Xの意味が類似しているため、【X化】全体の意味も類似している。

使用頻度については、表4-1から分かるように、【多様化】【一体化】【工業化】【自由化】【国際化】【民主化】【標準化】【正常化】などの語は日中両語ともに使用頻度が高い。これに対して、【拡大化】【透明化】【理想化】【可視化】【擬人化】などの語は日中両語ともに使用頻度が低い。

さらに、【民営化】【近代化】【正当化】【軽量化】【都市化】【一元化】【明確化】【高度化】などの語は日本語では使用頻度が高いが、中国語では使用頻度が低い。「民営化」「近代化」「都市化」は中国語で“私有化”“現代化”“城市化”という言い方がより好まれているから、日本語より中国語のほうが使用頻度が低いと考えられる。また、「軽量化」「明確化」「高度化」は特に他動詞に用いられる場合、中国語では“减轻～”“明确～”“提高～”のような“化”が用いられない形で表すのがより自然である。さらに、「正当化」「一元化」などの語は中国で“正当化要求”“一元化领导”という使用範囲に限られており、使用頻度が日本語より低くなっている。

これに対して、【現代化】【産業化】【規範化】【多元化】【国産化】【個性化】【企業化】などの語は中国語では使用頻度が高いが、日本語では使用頻度が低い。「現代化」は日本語では「近代化」、「多元化」は「多様化」というため、使用頻度が低くなると考えられる。一方、「産業化」などは日本語でも自然な表現であると思われる。これらの語は中国語では社会が発展していく国情を反映して使用頻度が高くなっていることが考えられる。

#### 4.2.2 同形異義の「X化」と“X化”

同形異義の「X化」と“X化”は数少ないが、以下のものがある。

専門化、深刻化、デジタル化、組合化、合同化、公式化…

前述したように、日本語の「専門化」は、「兼業だった職業を一方の職業にする」という意味で、対応する中国語訳は“专业化（専職化）”である。これに対して、中国語の“专业化”は、日本語で「専門的（professional）になる」という意味を表す。

「深刻化」、「デジタル化」、「組合化」、「合同化」、「公式化」は日中両語にどのような違いがあるかを以下の例（4-11）～（4-16）で説明する。

（4-11） a. トドによる漁業被害が深刻化する。 （Google 2022/9）

b. 将笼统的认识具体化，把表面的认识深刻化。

（漠然とした理解を具体化し、表面的な理解を深化する。）

（BCC 語料庫）

日中両語ともに【深刻化】という語があり、この【化】は前章で述べた「（形容詞）語基の表す状態に変化する」という意味を表す。しかし、日本語の「深刻化」は（4-11a）のように、「漁業被害という問題がひどくなる」ことを表すのに対して、中国語の“深刻化”は（4-11b）のように、「認識を深くする」という意味を持つ。これは、日中両語に【化】の意味が一致しているが、【深刻】の意味が違うからである。日本語の「深刻」は「重大で深く心に刻みつけられること」を表すのに対して、中国語の“深刻”は「物事の本質まで深く立ち入ったものである」ことを表す。日本語の「深刻」と中国語の“深刻”の意味は「深い」というところは一致しているが、全体的な意味や使用場面が異なっている。日本語の「深刻化」にあたる中国語訳は“严重化”であり、中国語の“深刻化”にあたる日本語訳は「深化」である。

次の（4-12）は【デジタル化】の例である。

（4-12） a. 売り上げの目標をデジタル化する。 （作例）

b. 纽约时报 130 年的报纸扫描件存档在几个月内就完成了数字化。

（NY ニュースの 130 年分の新聞は数か月でデジタル化された。）

（BCC 語料庫）

日中両語ともに【デジタル化】という語があり、この【化】は名詞語基の B. 様式変化の「語基の様式によって表現されるようになる」という意味を表す。しかし、日本語の「数字

化」は(4-12a)のように、「文章や指標などを数字の形によって表現される」という様式の変化を表すのに対して、中国語の“数字化”は(4-12b)のように、日本語の「デジタル化」に相当し、「あるものを数字にするのではなく、デジタル的にする」という意味を持つ。語基である「数字」は日中両語において同じ意味を持っているが、日本語の「数字化」における「数字」は「1、2、3…」のような本来の意味を表すのに対して、中国語の“数字化”における“数字”は本来の意味から外れ、デジタルであることを指している。また、日本語の「数字化」にあたる中国語訳は“通过数字表达(数字によって表現される)”であり、中国語の“数字化”にあたる日本語訳は「デジタル化」である。

次の(4-13)は【組合化】の例である。

- (4-13) a. 砂川地区広域消防組合は、1市2町で昭和47年に組合化され、条例を一元化し3市町の消防にかかる事務だけではなく管轄区域内の消防業務全般を総合的に行っていた。

(Google 2022/9/22)

- b. 各种经济犯罪的表现形式也呈现出复杂化、组合化的特征。

(各経済犯罪は複雑化、組み合わせられるような特徴を表している。)

(BCC 語料庫)

日中両語ともに【組合】という語があるが、意味は異なる。日本語の「組合」は「複数の当事者が出資をして共同事業を営む契約、また、それによって設立された団体」という意味で、「労働組合」「協同組合」などのように名詞用法が多い。日本語の「組合」に「化」をつけると、(4-13a)のように、「組合という団体になる」ことを表す。これに対して、中国語の“组合”は動詞であり、「組み合わせる、結合する」の意味を持つ。中国語の“组合”に“化”がつくと、(4-13b)のように、「いくつかのパターンが組み合わせられるようになる」という意味になる。日本語の「組合化」における「化」は名詞語基のA. 項目変化類に属し、「語基そのものに変化する」という意味を表すのに対して、中国語の“组合化”における“化”は動詞語基のB.類に属し、「語基で表される動作の結果状態に変化する」という意味を持つ。

次の(4-14)は【合同化】の例である。

- (4-14) a. 公共施設の合同化を進め、空いた土地を公園や災害時一時避難場所のスペースとして活用いただきたい。

(Google 2022/9/22)

- b. 合同化用工就是正式员工，而市场化用工不是正式员工。

(契約社員は正社員であり市場社員は非正社員である。)

(Baidu 2022/9/22)

日中両語ともに【合同】という語があるが、意味は異なる。日本語の「合同」は「二社が合同した」のような動詞用法を持ち、「二つ以上の物が一つにまとまること」を表すのに対して、中国の“合同”は動詞用法がなく、「契約」のことを表す。日本語の「合同」に「化」をつけると、(4-14a)のように、「(公共施設が)一つになること」を表す。これに対して、中国語の“合同”に“化”をつけると、(4-14b)のように、「契約を持つようになる」ことを表す。また、「合同化」における「化」は「語基で表される動作の結果状態に変化する」という意味を表すのに対して、“合同化”における“化”は名詞語基のD. 所有変化類に属し、「語基の表す概念を持つようになる」という意味を表す。

次の(4-15)は【公式化】の例である。

- (4-15) a. 職務が公式化されていると、業務の安定性が増し、高度な経験や能力がなくても成果を上げられる。

(Google 2022/9/22)

- b. 要防止和克服单调刻板，机械划一的公式化、概念化倾向。

(人民日报:1994)

(単調で変化が乏しいマンネリ化、概念化の傾向を防ぎ、乗り越えましょう。)

日中両語ともに【公式】という語があるが、意味は異なる。日本語の「公式」は「おやけに定めた方式」や「計算式/数式」のことを表す。これに対して、中国の“公式”は数学用語の「計算式/数式」のみで用いられる。日本語の「公式」に「化」をつけると、(4-15a)のように、「(業務などを)決まった形式で行うようにする/標準化する/定型化する」ということを表し、プラスなニュアンスを含んでいる。これに対して、中国語の“公式”に“化”を付けると、(4-15b)のように、「数式のように変化が乏しくなること、新鮮さや独創性が感じられなくなること、マンネリ化する」ことを表し、マイナスなニュアンスが入っている。また、日中両語の【公式化】における【化】は名

詞語基のC. 属性変化類に属し、「語基の表す属性の一部／典型的な特徴を持つようになる」という意味を表す。

以上、日中両語の同形異義語の【专业化】【深刻化】【数字化】【組合化】【合同化】【公式化】の違いを見た。このうち、【專業】【組合】【合同】【公式】のように語基の意味が異なる場合もあれば、【深刻】や【数字】のように語基が類義関係を持つ場合もある。

以上の4.2.1節と4.2.2節をまとめると、表4-2のようになる。

表4-2 日中同形語【X化】

種類	【X化】の語例	【X】異義	【X】類義
同形類義	活性化、商品化、概念化、形式化、制度化、基準化、男性化、長期化、複雑化、機械化、産業化、慢性化…		活性、商品、概念、形式、制度、基準、男性、長期、複雑、機械、産業、慢性、絶対、電子…
同形異義	专业化、深刻化、数字化、組合化、合同化、公式化	專業、組合、合同、公式	深刻、数字

表4-2から分かるように、日中両語において、語基【X】の意味が異なり、【X化】の意味が一致しているものは見られず、【X】の意味が類似し、派生語【X化】の意味も類似している語は【活性+化】【商品+化】【概念+化】【形式+化】などがある。

また、【X】が同形類義であるが、【X化】の意味が異なる語は【数字+化】がある。【X】の意味が異なり、【X化】の意味も異なる語は【專業+化】【組合+化】【合同+化】などがある。

このうち、特に灰色のセルにある語は日本語学習者もしくは中国語学習者にとって、混乱を招く可能性があるため、注意が必要である。

### 4.3 日本語のみで見られる「X化」

この節では、日本語のみで見られる「X化」を対象にして考察する。日本語で見られるが中国語に見られない「X化」を以下にまとめた。

私物化、有料化、無料化、最適化、映画化、完璧化、適正化、点数化、

円滑化、専門化、稀薄<sup>25</sup>化、情報化、高齢化、暗号化、適当化、市街化、老朽化、初期化、温暖化、簡素化、活発化、弱体化、本格化、耐震化、具現化、巨大化、少子化、肥大化、文書化、形骸化、液状化、明文化、短縮化、映像化、硬直化、晩婚化、広域化、無力化、弾力化、機能化、曖昧化…

このうち、「私物」「有料」「最適」「映画」「本格化」などの語はそもそも中国語に存在しないため、中国語に“\*私物+化”“\*有料+化”“\*最適+化”“\*映画+化”“\*本格+化”は成り立たない。これらの「X化」を中国語に訳すと、下の例(4-16)のようになる。

- (4-16) 「私物化」— “变成私人物品”  
 「有料化」— “开始收费（お金を徴収しはじめる）”  
 「最適化」— “最优化（最優化）”  
 「映画化」— “电影化（電影化）”  
 「本格化」— “正式化”

例(4-16)から分かるように、語基「X」が中国語に存在しない「X化」を中国語に訳すとき、意識で文になるか、他の語基Xを“化”に前接する。

また、「完璧」「適正」「円滑」「専門」「曖昧」などの語は中国語には存在しているが、日本語との意味や用法が異なり、“化”に前接する用法が見られない。これらの日本語「X化」を中国語に訳すと、下の例(4-17)のようになる。

- (4-17) 「完璧化」— “完美化”  
 「適正化」— “合理化”  
 「円滑化」— “流畅化/顺畅化”  
 「専門化」— “专业化”  
 「曖昧化」— “变得模糊不清”

現代日本語の「完璧」は「一つの欠点もない、パーフェクト」の意味を持つのに対して、現代中国語の“完璧”は“完璧归赵”という物語から「傷のない宝玉」という意味

<sup>25</sup> 「きはく」は日本語に「稀薄」と「希薄」の二つの書き方があるが、本研究では日中対照するため、「稀薄」と書く。

を保っている。

日本語の「適正」は「適当で正当なこと」を表すのに対して、中国語の“适正”は《韓非子・亡徴》“轻其适正，庶子称衡，太子未定，而主即世者，可亡也”から正妻の生んだ男の子（“嫡子”）を指している。現代中国語において“适正”はほとんど使われていない。

日本語の「円滑」は「物事が滞らず、すらすらといくこと、なめらかなこと」を表すのに対して、中国語の“圆滑”は、人柄をマイナスに評価し、「八方美人」という意味を持つ。

日本語の「専門」は「学問や職業にもっぱら従事すること」を表すのに対して、中国語の“专门”は“小王为了你专门从东京过来的（王さんはあなたのために、わざと東京から来ました）”のように、「わざわざ」という副詞的な意味を持っている。

日本語の「曖昧」は「態度や物事がはっきりしない」という意味を持つのに対して、中国語の“暧昧”は特に男女の関係が「いかがわしい、怪しい」で、「友達以上、恋人未満」のような状態を指す。

さらに、「老朽」「初期」「温暖」「市街」等の語は中国語に存在し、かつ、日本語と同じような意味を持っているものの、“化”に前接しない。日本語の「老朽化」「初期化」「（地球）温暖化」「市街化」「簡素化」に対応する中国語を下の例（4-18）にまとめる。

- (4-18) 「老朽化」— “老化”  
 「初期化」— “初始化”  
 「市街化」— “城市化”  
 「簡素化」— “简易化/简单化”  
 「（地球）温暖化」— “（全球）变暖”

中国語において、“老朽”“初期”“市街”“簡素”“温暖”などの語基は“化”と結合しないいくつかのパターンが考えられる。

#### 1. 現代中国語ではあまり使われない／使う場面が限られているもの

例：市街、老朽、簡素、形骸、机能、明文、广域、液状…

“市街”“老朽”“簡素”“形骸”などの語は中国の古文によく使われ、現代中国語

にはほとんど使われていない。

また、“機能（機能）”“明文”“広（広）域”“液状”などの語は“身体機能（身体機能）”“明文規定（はっきり規定されている）”“広域网（Wide Area Network）- 局域网（Local area network）”“液状石蜡（流動パラフィン）”のように、特定の語との結合用法が定着していて、結合力が劣っている。

## 2. 中国語では使用場面が異なり、“化”と共に起る時他の語基が代替するもの

例：稀薄、情報、暗号、初期、高齢…

「稀薄」は、中国語には存在しているが、日本語との使用範囲が少し異なる。「稀薄」は日中両語において「薄い」という意味は共通しているが、日本語は「空気が稀薄」と「意欲が稀薄」の両方言えるのに対して、中国語のほうは「空気が薄い」を表すときしか使わない。日本語での「稀薄」は、「人間関係が稀薄化」「働く意欲が稀薄化」のように、「（抽象的なものが）不足する、欠けている」の意味が働いている。「人間関係が稀薄化」「働く意欲が稀薄化」を中国語で表すと“人际关系淡化”“工作意愿淡化”のように、「稀薄化」を“淡化”によって表す。

なお、“情報”“暗号”は中国語にあるが、マイナスのニュアンスが入っている。日本語の「情報化」「暗号化」のように“化”をつけて表したいとき、中国語はより中立的な“信息+化”“密码+化”によって表現される。

また、「初期化」「高齢化」は中国語では言わず、“初始化”“老龄化”と言う。

## 3. 英語訳に“化”が使われていないもの

例：温暖…

「地球温暖化」という用語は中国語に存在しない。同じ現象を言うとき、“全球变暖（全地球が暖かくなる）”と言い、“化”は用いられない。日本語の「地球温暖化」と中国語の“全球变暖”に対応する英語は“global warming”である。中国語の場合は、英語の“global warming”を「地球がだんだん暖かくなる」というふうに直訳している。これに対して、日本語では、“global warming”にある変化の意味を「化」によって担っている。

前述したように、現代日中両語の「X化」は英語の“-ize”“-fy”の訳語として登場してきたとされている。しかし、英語の単語を訳すとき、日中両語の訳し方は完全に一

致しているわけではない。そのため、「地球温暖化」と“全球变暖”のように、日中両語に差異が見られる場合がある。

以上、Xが類義関係を持っているが、中国語に“X化”の派生語が存在しない三つのパターンを見た。“X化”は生産性の高い造語であるため、現時点で中国語で使われていないが、今後日本語の影響を受けたり、新しい場面に求められたりして、“市街化”“情報化”“温暖化”などのような造語が中国語で使えるようになるかもしれない。

4.2節の内容をまとめると、下の表4-3のようになる。

表4-3 日本語にしかない「X化」

種類	「X化」の語例	「X」なし	「X」異義	「X」類義
日 中 ×	私物化、無料化、最適化、映画化、完璧化、適正化、点数化、円滑化、専門化、希薄化、適当化、市街化、老朽化、初期化、温暖化…	私物、映画、活発、本格、最適、有料、無料、弱体、具現、少子、映像、硬直、予備校…	完璧、適正、円滑、専門、曖昧、点数、一本、皮肉、便宜、暗算、快走…	温暖、情報、暗号、老朽、市街、高齢、初期、耐震、簡素、巨大、肥大、文書、形骸、液状、明文、晩婚、広域、無力、弾力、機能、稀薄、適当、短縮…

表4-3から分かるように、日本語に存在するが中国語に存在しない「X化」は「私物化」「無料化」「最適化」「映画化」などがある。このうち、そもそも中国語に語基「X」がないものは「私物」「映画」「活発」などがあり、「X」の意味が異なるものが「完璧」「適正」「円滑」「専門」などがあり、「X」の意味が類似しているものに「温暖」「情報」「暗号」「老朽」などがある。

このうち、特に灰色のセルにある語は語基Xが日中両語に類義関係を持っているものの、中国語においては“X化”の派生語が存在しない。日本語学習者もしくは中国語学習者にとって、混乱を招く可能性があるため、注意が必要である。

#### 4.4 中国語のみで見られる“X化”

この節では、中国語のみで見られる“X化”を対象にして考察する。中国語で見られるが日本語に見られない“X化”を以下にまとめた。

年轻化、信息化、优质化、情绪化、美国化、完美化、人性化、风格化、区域化、平民化、法治化、庸俗化、老龄化、普及化、污名化、虚拟化、

创新化、影视化、学习化、城市化、荒漠化、网络化、便利化、智能化、本土化、工厂化、最优化、电脑化、国家化、美国化、美元化、戏剧化、群众化、妖魔化、脸谱化、团伙化、格式化、黑色化、雷同化、审美化、契约化、家族化、抗氧化、程序化、正版化、机制化、摩托化、公司化…

このうち、“年轻”“信息”“优质”“美国”“情绪”等の語はそもそも日本語に存在しないため、「年轻+化」「信息+化」「優質+化」などは成り立たない。これらの語を日本語に翻訳すると以下の例（4-19）ようになる。

- (4-19) “年轻化” — 「若年化／若齡化」  
 “信息化” — 「情報化」  
 “优质化” — 「良質化」  
 “美国化” — 「アメリカ化」  
 “情绪化” — 「感情的になる」

例（4-19）から分かるように、語基“X”が日本語に存在しない“X化”は同じ意味で日本語によって表すとき、「代替語基+化」で表すか、文の形式で表す。

また、“汽车”“结构”“格式”“风格”“完美”などの語は日本語には存在しているが、中国語との意味や用法が異なり、「化」に前接する用法は見られない。これらの中国語“X化”を日本語に訳すと、下の例（4-20）のようになる。

- (4-20) “汽车化” — 「自動車化」  
 “结构化” — 「構造化」  
 “格式化” — 「定形化」／「初期化」  
 “完美化” — 「完璧化」  
 “风格化” — 「スタイルを持つようになる」

中国語の“汽车”は「自動車」のことを指すのに対して、日本語の「汽車」は「蒸気機関車が牽引する列車」である。中国語の“汽车化”に対応する日本語は「自動車化」である。

中国語の“结构”は名詞の「構造」のことを指すのに対して、日本語の「結構」は主に形容動詞や副詞の用法で「それでいい」「十分」という意味を表す。中国語の“结构

化”に対応する日本語は「構造化」である。

中国語の“格式”は「フォーマット」のことを指すのに対して、日本語の「格式」は「身分・家柄などについての、決まった礼儀作法」という意味を表す。中国語の“格式化”は「フォーマットに適合する」と「(携帯/パソコンなどが)初期状態に戻る」の二つの意味を持っているが、前者に対応する日本語は「定形化」で、後者に対応する日本語は「(携帯/パソコンの)初期化」である。

中国語の“完美”は「完璧」のことを指すのに対して、日本語の「完美」は「完全に美しい」ことを表す。中国語の“完美化”に対応する日本語は「完璧化」である。

中国語の“风格”は“他很有自己的风格(彼は個人的なスタイルがある)”のように「スタイル」を表す。これに対して、日本語の「風格」は「その人の容姿や態度などに現れる品格」という意味を表す。中国語の“风格化”に対応する日本語は「スタイルを持つようになる」である。

さらに、「老齡」「平民」「庸俗」「学習」「国家」等の語は日本語に存在し、かつ、中国語と同じような意味を持っているものの、「化」に前接しにくい。中国語の“老齡化”“平民化”“庸俗化”“学习化”“国家化”に対応する日本語を下の例(4-21)にまとめる。

- (4-21) “老齡化” — 「高齢化」  
 “平民化” — 「庶民化」  
 “庸俗化” — 「俗化」  
 “学习化” — 「勉強するようになる」  
 “(军队)国家化”<sup>26</sup> — 「軍隊が国に属するようになる」

日本語において、「老齡」「平民」「庸俗」「学習」「国家」などの語基は「化」と結合しにくいいくつかのパターンが見られる。

#### 1. 現代日本語ではあまり使われない／使う場面が限られているもの

例：平民、電腦、審美、庸俗、機制…

「平民」「電腦」「審美」「庸俗」などの語は現代日本語にはほとんど使われていない。

<sup>26</sup> 日本語では「国家化」は言わないが、「脱国家化」や「再国家化」は言う。

また、「機制」はよく「心理機制」「防衛機制」のように、「心理」や「防衛」などの語との結合度が高く、他の語との結合力が劣っている<sup>27</sup>。

## 2. 同じ意味の他の語基によって代替するもの

例：老齡、智能…

「老齡」「智能」は日本語にあるが、「化」に前接しにくい。中国語の“老齡化”“智能化”の意味で表したい場合、同じ意味の「高齡（化）」「知能（化）」によって表す<sup>28</sup>。

## 3. 中国語が英語訳のルールに従わないもの

もともと英語の“-ize”“-fy”などの動的事象を表す語を“X化”に訳すが、“-ize”“-fy”ではない単語も中国語で“X化”に訳すようになっている。例えば、“emotional”を中国語に訳すと“情緒化”になり、日本語に訳すと「感情的」になる。

(4-22) He is very emotional.

中国語訳：他非常情緒化。

日本語訳：彼はとても感情的だ。

日本語の方は英語の形容詞の“emotional”をそのまま形容詞の「感情的」に訳しているが、中国語の方は“emotional”を動詞マーカの“化”によって訳している。

また、「機械化」は日中両語ともにあるが、日本語の方は「工場や軍隊などに機械の力を加える、機械を導入する」という意味を持つのに対して、中国語の方は「機械を導入する」と「(人が)機械のように動く」の両方の意味を持つ。それは、日本語の「機械化」は英語の動詞や名詞の“mechanize/mechanization”に対応するのに対して、中国語の“机械化”は英語の動詞や名詞の“mechanize/mechanization”と形容詞の“mechanical”両方に対応するためだと考えられる。

(4-23) a. mechanize/mechanization

日本語訳：機械化

<sup>27</sup> BCCWJ を中納言で検索した結果、「機制」は 38 例のうち「防衛/心理機制」の用例が 21 例あった。

<sup>28</sup> BCCWJ を中納言で検索した結果、「高齡化」は 985 例あるのに対して、「老齡化」は 27 例しかない。また、「知能化」は 8 例あるのに対して、「智能化」の例は見られなかった。

中国語訳：机械化

b. mechanical

日本語訳：機械的

中国語訳：机械化

“mechanical”を中国語に訳すと“机械化”になり、日本語に訳すと「機械的」になる。これを例(4-24)に示す。

(4-24) His mechanical performance disappointed her.

中国語訳：他机械化的表现使她失望。

日本語訳：彼の機械的な動きは彼女をがっかりさせた。

日本語の方は英語の形容詞の“mechanical”をそのまま形容詞の「機械的」に訳しているが、中国語の方は“mechanical”を動詞マーカの“化”によって訳している。

中国語の“X化”は形容詞的な連体修飾用法が多い。これは中国語の“X化”は英語の形容詞“-al”の訳語として用いられていることに関連していると考えられる。日本語と中国語の「X化」の品詞的用法に関する詳しい内容は第5章～第7章で述べる。

#### 4. 日本語で用いる場合に別の要素が必要であるもの

例：家族、国家、工場、学歴、規模…

日本語では「\*家族化」「\*国家化」「\*工場化」「\*学歴化」「\*規模化」は言わないが、他の成分を補足すると、下の例(4-25)のように「化」に前接できるようになる。

- (4-25) “家族化” — 「\*家族化」 — 「核+家族化」  
 “国家化” — 「\*国家化」 — 「脱・再+国家化」  
 “工厂化” — 「\*工場化」 — 「スマート+工場化」  
 “学历化” — 「\*学歴化」 — 「高・低+学歴化」  
 “规模化” — 「\*規模化」 — 「大・小+規模化」

以上、Xが類義関係を持っているが、日本語に「X化」の派生語が存在しない四つのパターンを見た。「X化」は生産性の高い造語であるため、現時点で日本語で使われていな

いが、今後中国語の影響を受けたり、新しい場面に求められたりして、「老齡化」「汚名化」「本地化」などのような造語が自然に使えるようになるかもしれない。

4.3節の内容をまとめると、下の表4-4のようになる。

表4-4 中国語にしかない“X化”

種類	“X化”の語例	“X”なし	“X”異義	“X”類義
日 × 中 ○	年轻化、汽车化、老齡化、信息化、优质化、情绪化、美国化、完美化、风格化、平民化、法治化、庸俗化、普及化…	年轻、信息、优质、情绪、美国、公司、影视、戏剧、美元、脸谱、团伙…	汽车、结构、格式、完美、风格、城市、人性、雷同、群众…	老齡、平民、庸俗、学习、国家、最优、污名、法治、普及、本地、工厂、家族、机制、电脑、程式、黑色、审美、契约、学历、规模…

表4-4から分かるように、中国語に存在するが日本語に存在しない“X化”は“年轻化”“汽车化”“老齡化”などがある。このうち、そもそも日本語に語基“X”がないものは“年轻”“信息”“优质”などがあり、“X”の意味が異なるものは“汽车”“结构”“格式”などがあり、“X”が類似しているものは“老齡”“平民”“庸俗”などがある。

このうち、特に灰色のセルにある語は語基Xが日中両語に類義関係を持っているものの、日本語においては“X化”の派生語が存在しない。日本語学習者もしくは中国語学習者にとって混乱を招く可能性があるため、注意が必要である。

#### 4.5 日中両語ともに見られない【X化】

本節では、日本語にも中国語にも存在しない【X化】を見る。まず派生語【X化】が帯びている特徴を述べる。第3章で述べたように、日中両語の接尾辞【化】は変化を表し、「化」に前接する語は変化の結果を表す。例えば、「草原が砂漠化する」において、「草原」が変化し、変化した結果は「砂漠」である。つまり、「化」に前接できるものは、物事が変化した結果状態を表す語である。

また、池上（2000）で言及されたように、「化」は変化を表すが、個人的・一過性的の変化を表しにくく、全体的・継続的な変化を表しやすいと考えられる。これを下の例（4-26）（4-27）に示す。

(4-26) a. <sup>?</sup>祖母の長寿化は、我が家の平和を象徴する。

b. 日本人の長寿化は、国の平和を象徴する。

- (4-27) a. ?服の乾燥化。  
 b. 地中海周辺の乾燥化。

例(4-26a)は「祖母」という個人的な事象を述べる文であり、「長寿化」は不自然な表現である。これに対して、(4-26b)は「日本人」というグループについて述べる文であり、「長寿化」が自然に用いられる。例(4-26)から分かるように、「X化」は個人的な事象より全体的・総合的な事象を表しやすいと考えられる。また、(4-27a)は「服が乾く」という短時間で一過性の事象を表すのに対して、(4-27b)は「地中海周辺が乾燥した状態になる」という継続的な事象を表す。「X化」は一過性のことより、継続的な事象を表しやすいと考えられる。

以上、「X化」の特徴をまとめると、下のようになる。

- ・「化」の特徴
  1. 結果を表すものが語基になる
  2. 個人的・一過性の変化を表しにくい

日本語にも中国語にも存在しない【X化】を以上の【X化】の特徴に基づいて分析を行う。その結果を以下に示す。

#### 1. 変化の結果と考えにくいもの

- ①尺度名詞：【\*年齢化】 【\*次元化】 【\*寿命化】 【\*人数化】 【\*期間化】 【\*時間化】  
 【\*程度化】 「\*身長化」 「\*度合化」 …

これらの尺度を表す語は変化の結果と考えにくいいため、【化】に前接しにくい。

- (4-28) a. \*結婚が年齢化した。  
 b. 結婚が低年齢化した。

- (4-29) a. \*有人喜欢将三次元的人物次元化。  
 (\*三次元の人物を次元化することが好きな人がいる。)  
 b. 有人喜欢将三次元的人物二次元化。

(三次元の人物を二次元化することが好きな人がある。)

例(4-28a)の「年齢」は変化の結果と考えにくいいため、「年齢化」が言いにくい。しかし、(4-28b)の「低年齢化」のように、前に「低」を前接すると、「高年齢から低年齢に変化する」というように変化の結果と考えられる。そのため、「化」と共起できる。例(4-29)も同じように、「次元」は変化の結果と考えにくいだが、「二次元化」は“三次元から二次元に変化する”というように変化の結果と考えられるため、「化」と共起できる。

しかし、【標準】【規格】等の語は変化の結果と想像しにくいだが、【化】に前接できる。

- (4-30) a. 製品を標準化する。  
b. 手続きを規格化する。

これらの語に【化】がつくと、変化の結果は「語基そのもの」になることではなく、「語基(標準/規格)を持つようになる」ことである。そのため、これらの尺度名詞は何らかの形で変化の結果と解釈できれば、【化】と結合することができる。

② 動作動詞：【\*運動化】 【\*思考化】 【\*研究化】 【\*呼吸化】 【\*作用化】 【\*変通化】  
【\*開始化】 …

動的な事象を表すものは、結果と考えにくいいため、【化】と共起しにくい。

- (4-31) a. \*最近公園で運動化した。  
b. 最近公園で運動するようになった。

- (4-32) a. \*毕业后的打算的思考化。  
(\*卒業後の計画を思考化。)  
b. 我开始思考毕业后的打算。  
(私は卒業後の計画を考え始めた。)

しかし、下の例(4-33) (4-44)のように、動的な事象でも変化の結果として捉えることができれば、【化】と共起できるようになる。

(4-33) 記事の執筆を外注化する。

(4-34) 把人权问题政治化，人权交往对抗化，已是不可逆转的历史潮流。

(人权問題を政治化し、人权への取り組みを对抗化するのが、逆転できない歴史の流れだ。)

(人民日报：2001)

③副詞：【\*突然化】 【\*常常化】 【\*非常化】 【\*直接化】 【\*現在化】 【\*従来化】  
【\*始終化】 【\*十分化】 …

副詞も変化の結果と考えにくいいため、【化】と共起しにくい<sup>29</sup>。

(4-35) a. ??雨の降り方が突然化した。

b. ??雨の降り方が突然になった。

(cf. 雨が突然降るようになった。)

(4-36) a. \*他来的频率变得常常化。

(\*彼が来る頻度が常々化する。)

b. ?他变得常常来。

(\*彼は常々来るようになった。)

上の例(4-35) (4-36)のように、副詞は変化の結果と考えにくいいため、【化】が共起するかどうかにかかわらず、文は不自然である。

## 2. 個人的・一過性の事柄を表すもの

個人の心理的な描写：「\*後悔化」「\*愉快化」「\*心配化」「\*歓喜化」「\*残念化」

「\*安心化」「\*遺憾化」「\*不満化」「\*期待化」…

“\*生气化” “\*伤心化” “\*担心化” “\*高兴化” “\*愉悦化”

“\*激动化” “\*快乐化” “\*悲伤化” …

個人の心理的な描写は個人的、一時的な事柄を表すものであるため、【化】と共起しにくい。

<sup>29</sup> 「絶対化」という語があるが、ここの「絶対」は「絶対に修了する」のような副詞的用法ではなく、「絶対だ」という形容動詞に「化」がついた用法である。

(4-37) a. \*50歳になって後悔化した。

b. 50歳になって後悔するようになった。

(4-38) a. \*宝くじに当たって愉快化した。

b. 宝くじに当たって、愉快になった。

(4-39) a. \*得知儿子被打，他生气化了。

(\*息子が殴られたことを知って、彼は腹立ち化した。)

b. 得知儿子被打，他变得很生气。

(息子が殴られたことを知って、彼は腹が立つようになった。)

(4-40) a. \*得知朋友生病了，她担心化了。

(\*友達が病気になったことを知って、彼女は心配化した。)

b. 得知朋友生病了，她变得很担心。

(友達が病気になったことを知って、彼女は心配するようになった。)

以上、日本語も中国語も【化】と共起できない語を見た。まとめると以下の通りである。

日中両語の【化】と共起できないもの

1. 変化の結果と考えにくいもの

①尺度名詞：\*年齢、\*次元、\*寿命…

②動作動詞：\*運動、\*思考、\*研究…

③副詞：\*突然、\*常常、\*非常、\*直接…

2. 個人的・一過性の事柄を表すもの

個人の心理的な描写：\*後悔、\*愉快、\*心配、\*歓喜…

## 4.6 まとめ

本章では、日本語の「X化」と中国語の“X化”に前接する語基Xの異同について論じた。

4.1節では、日本語「X化」および中国語“X化”の語基制限に関する先行研究を概観した。

4.2節では、日中同形の【X化】を取り上げ、さらに同形類義語と同形異義語に分けて分析を行った。日中同形類義の【X化】は日本語学習者もしくは中国語学習者にとって、理解しやすいと考えられる。これに対して、同形異義の【X化】は学習者にとって、誤用を起こす恐れがあるため、注意が必要である。

4.3節では、日本語のみに見られる「X化」を取り上げ、さらに次の三つのパターンに分類した。

- ①「X」が中国語に存在しない場合（私物化、有料化）
- ②「X」が中国語に存在するが、日本語の意味と異なる場合（完璧化、適正化）
- ③「X」が中国語に存在し、日本語の意味と類似する場合（老朽化、初期化）

また、③のうち、中国語の“化”と結合しないものを分析し、以下の三つのタイプがあることを指摘した。

- 1. 現代中国語ではあまり使われない／使う場面が限られているもの  
（市街、老朽、簡素、形骸、机能…）
- 2. 中国語では使用場面が異り、“化”と共起する時他の語基が代替するもの  
（稀薄、情報、暗号、初期、高齢…）
- 3. 英語訳に“化”が使われていないもの  
（温暖…）

続いて4.4節では、中国語のみに見られる“X化”を取り上げ、さらに次の三つのパターンに分類した。

- ①“X”が日本語に存在しない場合（年轻化、信息化）
- ②“X”が日本語に存在するが、中国語の意味と異なる場合（汽车化、结构化）
- ③“X”が日本語に存在し、中国語の意味と類似する場合（老齡化、平民化）

また、③のうち日本語の「化」と結合しないものを分析し、以下の四つのタイプがあることを指摘した。

1. 現代日本語ではあまり使われない／使う場面が限られているもの  
(平民、電腦、審美、庸俗、機制…)
2. 同じ意味の他の語基によって代替するもの  
(老齡、智能…)
3. 中国語が英語訳のルールに従わないもの  
(情緒化、機械化…)
4. 日本語で用いる場合に別の要素が必要であるもの  
(家族、国家、工場、学歴、規模…)

最後に4.5節では、日中両語ともに見られない【X化】を考察した。まず、日中両語における派生語【X化】の特徴には以下の2点があることを述べた。

・ 【X化】の特徴

1. 結果を表すものが語基になる
2. 個人的・一過性の変化を表しにくい

次に、【X化】の特徴から、日中両語【化】ともに前接しない語基を以下のようにまとめた。

1. 変化の結果と考えにくいもの
  - ①尺度名詞：\*年齡、\*次元、\*寿命…
  - ②動作動詞：\*運動、\*思考、\*研究…
  - ③副詞：\*突然、\*常常、\*非常、\*直接…
2. 個人的・一過性の事柄を表すもの  
個人の心理的な描写：\*後悔、\*愉快、\*心配、\*歡喜…

以上、4.2節～4.5節の内容を次のページの表4-5にまとめる。表のうち特に灰色のセルにある語は学習者の理解に支障をきたす可能性が高いと考えられるため、注意が必要である。また、どのような語が日本語の「化」と結合し、どのような語が中国語の“X化”と結合するかについては顕著な傾向が認められなかった。

表 4-5 日本語の「X化」と中国語の“X化”の前接する語基Xの異同

タイプ		【X化】	「X」一方しかない	【X】同形異義	【X】同形類義
日○中○	同形類義	活性化、商品化、概念化、形式化、制度化、基準化、男性化、長期化、複雑化、機械化、産業化…			活性、商品、概念、形式、制度、基準、男性、長期、複雑、機械、産業、慢性、絶対、電子…
	同形異義	専門化、深刻化、数字化、組合化、合同化、公式化		専門、深刻、組合、合同、公式	数字
日○中×		予備校化、有料化、最適化、映画化、完璧化、活発化、市街化、暗号化、初期化、温暖化、情報化、老朽化、簡素化、適正化、点数化、円滑化、専門化、希薄化、適当化…	私物、映画、活発、本格、最適、有料、無料、弱体、具現、少子、映像、硬直、予備校…	完璧、適正、円滑、専門、曖昧、点数、一本、皮肉、便宜、暗算、快走…	温暖、情報、暗号、老朽、市街、高齢、初期、耐震、簡素、巨大、肥大、文書、形骸、液状、明文、晩婚、広域、無力、弾力、機能、稀薄、適当、短縮…
日×中○		年轻化、汽车化、老龄化、信息化、优质化、情緒化、美国化、完美化、风格化、平民化、法治化、庸俗化、普及化…	年轻、信息、优质、情緒、美国、公司、影视、戏剧、美元、脸谱、团伙…	汽车、结构、格式、完美、风格、城市、人性、雷同、群众…	老龄、平民、庸俗、学习、国家、最优、污名、法治、普及、本地、工厂、家族、机制、电脑、程式、黑色、审美、契约、学历、规模…
日×中×		*年齢化、*次元化、*運動化、*思考化、*突然化、*後悔化、*愉快化			

## 第5章 日本語「X化」の品詞的用法

本章では日本語の「X化」の品詞的用法を考察する。「X化」は下の例(5-1)の「機械化」のように、名詞的用法、形容詞的用法<sup>30</sup>、動詞的用法として用いることができる。

### (5-1) a. 名詞的用法

- ① 綿工業の機械化が進行した。
- ② 局内作業の機械化を推進する。

### b. 形容詞的用法

- ① 機械化した人間を作る。
- ② 機械化の設備
- ③ 機械化世界をめざす。

### c. 動詞的用法

- ① 漁労作業を機械化すべきだと思う。

さらに、「X化」が動詞的用法として用いられる場合、能動-自動詞用法や能動-他動詞用法、また受身用法と使役用法が見られる。それぞれの用例をまとめると下の例(5-2)のようになる。

### (5-2) a-1. 能動-自動詞用法

意識が稀薄化する。

### a-2. 能動-他動詞用法

資産管理を透明化する。

### b. 受身用法

<sup>30</sup> 本研究では日中対照を行うのに伴い、日本語「X化」の連体修飾用法を便宜上「形容詞的用法」と呼ぶことにする。

この小説が映画化された。

c. 使役用法

議論を活発化させる。

しかし、それぞれの「X化」は名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法の出現率に偏りが見られる。「軽量化」「市街化」「表面化」の使用実態をBCCWJで調べた結果をまとめると下の表5-1のようになる。

表5-1 「軽量化」「市街化」「表面化」の使用実態（括弧内は出現率%）（表1-2の再掲）

用法	軽量化	市街化	表面化
名詞的	出現数：146 (69.2) 例：車の軽量化を図る。	出現数：25 (13.2) 例：市街化が進んでいる。	出現数：10 (5.6) 例：不祥事の表面化を回避する。
形容詞的	出現数：33 (15.6) 例：軽量化競争の時代	出現数：163 (86.3) 例：市街化区域	出現数：33 (18.3) 例：表面化した疑い
動詞的	出現数：32 (15.2) 例：荷物を軽量化したい。	出現数：1 (0.5) 例：駅の周りは市街化している。	出現数：137 (76.1) 例：問題が表面化した。
合計	211 (100)	189 (100)	180 (100)

表5-1から分かるように、「軽量化」のような名詞的用法が多い語もあれば、「市街化」のような形容詞的用法が多い語もあれば、「表面化」のような動詞的用法が多い語もある。

一方、「X化」が動詞として用いられる場合、能動-自動詞用法、能動-他動詞用法、受身用法、使役用法が見られるが、使用傾向に偏りが見られる。まず、自動詞と他動詞の使用に偏りが見られる語を示すと、下の表5-2のようになる。

表5-2 「顕在化する」と「明確化する」の自動詞と他動詞の割合（括弧内は出現率%）

（表1-3の再掲）

用法	顕在化する	明確化する
自動詞	出現数：95 (95.0) 例：東欧と西欧の相違が顕在化した。	出現数：2 (2.2) 例：責任が明確化した。
他動詞	出現数：5 (5.0) 例：隠れていた問題を顕在化する。	出現数：87 (97.8) 例：曖昧な状態を明確化する。

合計	100 (100)	89 (100)
----	-----------	----------

表 5-2 から分かるように、「X化」が自動詞と他動詞に用いられるとき、「顕在化する」のような自動詞用法が圧倒的に多いものもあれば、「明確化する」のような他動詞用法が圧倒的に多いものもある。さらに、「X化する」の受身用法と使役用法の使用傾向に偏りが見られるものを示すと下の表 5-3 のようになる。

**表 5-3 「実用化する」と「活発化する」の受身と使役の割合（括弧内は出現率％）（表 1-4 の再掲）**

用法	実用化する	活発化する
受身	出現数：112(98.3) 例：関連技術は早々に実用化された。	出現数：1(3.1) 例：嫌煙運動が活発化されている。
使役	出現数：2(1.7) 例：アイデアを実用化させるため…	出現数：31(96.9) 例：ドル高は対米投資を活発化させる。
合計	114 (100)	32 (100)

表 5-3 から分かるように、「X化」が動詞用法に用いられるとき、「実用化する」のように受身用法がよく見られる語もあれば、「活発化する」のように使役用法がよく見られる語もある。

そのため、本章では、日本語の「X化」において、名詞的に用いられやすい語、形容詞的に用いられやすい語、動詞的に用いられやすい語を考察する。さらに、動詞用法を中心に、どのような語が自動詞に用いられやすく、どのような語が他動詞用法に用いられやすいかを分析する。また、受身用法に用いられやすい語、使役用法に用いられやすい語も考察する。

まず 5.1 節で「X化」の品詞的用法に関する先行研究を概観する。続いて 5.2 節では、「X化」の名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法の使用傾向を考察する。次に、5.3 節では、動詞用法を中心に考察し、自動詞用法、他動詞用法、受身用法、使役用法の使用傾向を考察する。最後に 5.4 節では本章の内容をまとめる。

## 5.1 先行研究

日本語「X化」の品詞的用法に関する先行研究には「X化」の名詞的用法と動詞的用法の比較や、「X化する」の自他性に関するものがある。このうち、特に「X化する」の自他性について論じている先行研究が多い。「X化」の名詞的用法と動詞的用法の比較に関する先行研究には池上（2000）、山下（2002）があり、「X化する」の自他性に関する先

行研究には田窪（1986）、加納（1990）、小林（2004）、木山・玉岡（2011）がある。

池上（2000）では、学会抄録コーパスのうち理科系の文献から延べ語数 1,747 語、異なり語数 316 語の「X化」を抽出して分析を行っている。「X化」が名詞として使われるのは 174 語で、動詞として使われるのは 122 語で、名詞と動詞両方に用いられるのは 58 語であるとしている。このことから「X化」は「どのような語が名詞になり、どのような語が動詞になるのかといった顕著な傾向は認められなかった」（p. 29）と述べている。さらに、「X化」が似たような意味を表す場合、動詞用法に用いるか、名詞用法に用いるかについて、池上（2000）は下の表 5-4 のようにまとめている。

表 5-4 池上（2000:29）の表

動詞用法	頻度	名詞用法	頻度
～化する（他動詞）	237 回	～化を行う	69 回
～化される	75 回	～化が行われる	2 回
～化できる	8 回	～化が可能である	30 回
～化しよう／～化したい	0 回	～化を図る／目指す等	33 回

また、「～化できる／しよう／したい」に関して名詞用法が動詞用法より多いのは、「これらがモーダルな要素を含んでいるため、名詞用法を用いることで客観性を高めようとするからではないだろうか」（p. 29）と述べている。

しかし、池上（2000）では、「X化」が名詞として使われやすい語か、動詞として使われやすい語については言及されていない。また、表 5-4 に関しては、具体的にどのような「X化」が「～化する」に用いられやすいか、どのような語が「～化を行う」に用いられやすいかが言及されていない。「～化できる／しよう／したい」の意味で名詞用法が動詞用法より多い理由は「モーダルな要素を含んでいる」としているが、「モーダル」について解釈されず、全体的に漠然としている。

そのため、本研究では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）から「X化」を抽出し、名詞的に使われやすい語、動詞として使われやすい語を詳しく考察する。

山下（2002）では、『日本経済新聞』の 1994 年 1 月～6 月の全文を調査範囲とし、そこから延べ語数 8,534 語、異なり語数 629 語の「X化」を抽出して計量的な分析を行っている。山下（2003）では「X化」が文中で名詞として使われるものを体言用法、サ変動詞として使われるものを用言用法と呼び、それぞれの出現率は 68.9%と 31.1%であるとしている。

体言用法において、山下(2003)は「X化のY」という名詞修飾表現について下の例(5-3)～(5-6)のように、多様な意味関係が見られると述べている。

(5-3) ……合理化の徹底により九四年度上期から収支均衡をめざす。

(合理化を徹底する)

(5-4) 地域によっては海外からの投資が産業活性化の呼び水になる。

(産業活性化するための呼び水)

(5-5) 溶解, 結晶化の過程で焼却灰の体積は二〇-三〇%と大幅に縮小され…

(結晶化する過程)

(5-6) ……技術革新や国際化の現実を受け入れたうえで, ……

(国際化した現実)

( (2-34) ～ (2-37) の再掲)

山下(2003)では、例(5-3)は格関係に基づく限定であり、例(5-4)は「X化するためのY」と言い換えられ、目的限定であり、例(5-5)は「X化するY」と言い換えられ、「X化」が「Y」の具体的内容を表す、内容の限定であり、例(5-6)は「X化したY」と言い換えられ、「X化」が「Y」の性質や状態を修飾するものであると述べている。

続いて、「X化」の用言用法について、山下(2003)は「X化」の自動詞用法と他動詞用法を取り上げ、自動詞に用いられる用例は1,211件、他動詞に用いられる用例は1,190件であると述べている。また、使用度数が5件以上の66語に絞って、各語の出現形に基づき、以下の五つのタイプに分類している。

A. 自動詞で用いられるもの

(例：悪化・激化・深刻化・弱体化・老朽化・人気化・高齢化・複雑化…)

B. 自動詞の傾向がやや強いもの

(例：軟化・本格化・表面化・活発化・長期化・鎮静化・流動化)

C. 他動詞で用いられるもの

(例：強化・消化・自由化・簡素化・積極化・事業化・データベース化…)

D. 他動詞の傾向がやや強いもの

(例：商品化・一本化・効率化・製品化・合理化・スリム化・高度化…)

E. 自他が同程度に出現して傾向の見えないもの

(例：特化・民営化・実用化・大型化・具体化・活性化・多様化…)

(山下 2003 : 129-130、用例は一部のみ)

以上の分類から、山下（2003）は「X化」は自動詞になりやすいものは「自然の成り行きで生じた好ましくない結果を表すことが多い」（p. 130）、他動詞になりやすいものは「プラスの意味を含む語、または人の働きかけによって生成される事物や事柄を表す語である」（p. 131）と指摘している。

山下（2003）では（5-3）～（5-6）を体言用法に分類しているが、本研究では、中国語の“X化”の用法と対照するため、以上の例（5-5）（5-6）のような日本語の「X化」と後接語「Y」は「修飾－被修飾関係」や「限定－非限定」関係を保つものを形容詞的用法と称し、考察を行う。

また、山下（2003）では「X化」の自他性のよって五つに分類しているが、分類の基準が明記されていない。そのため、本研究では、階層的クラスタ分析によって自他動詞の分類を試みる。

田窪（1986）では、「X化」は「Xになること」、「Xにすること」の意味を持つ接辞的要素であり、「する」をつけて状態変化を表す動詞となると述べている。また、「X化する」は、前接する語基の性質によって自他が変動するとしている。具体的には「風化」「マンネリ化」のように語基の表す結果が自然発生的に起こるものは自動詞的として使われ、他動詞として使う場合は「風化させる」「マンネリ化させる」のように使役形にすると述べている。それに対して、「映画化」「シナリオ化」のように人為的にもたらされるものは他動詞として使われ、自動詞的に使う場合は受身形にすると述べている。さらに、自他両用のもののうち「弱体化する」のように好ましくないことを表すものは自動詞になりやすく、反対に「強力化する」のように好ましいことを表すものは他動詞になりやすいとしている。

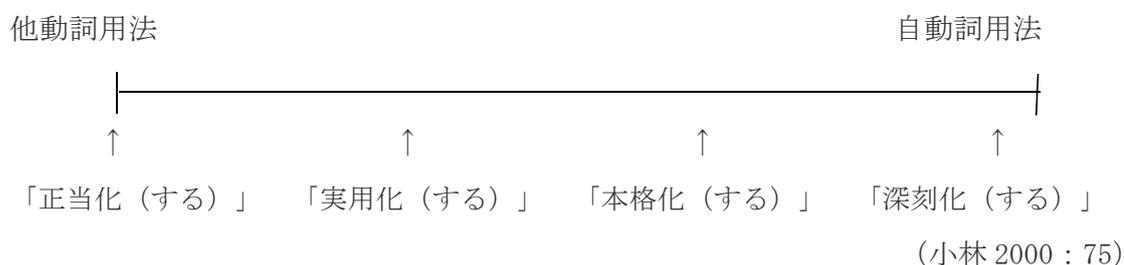
しかし、自動詞用法が多いものでも「多様化」や「巨大化」のように好ましい意味を表すものもあれば、他動詞用法の多いものでも「無効化」「無力化」のように好ましくない意味を表すものもある。そのため、田窪（1986）の「好ましき」に関する説明は必ずしも自動詞用法と他動詞用法を区別する要因として有効ではないと思われる。

加納（1990）では、「X化する」の自他性について、語基が自然発生的に起こりやすい場合は自動詞になりやすく、人為的にもたらされる場合は他動詞になりやすいと述べ、「しかし、それが人為的なことか自然発生的なことが、文脈によって決まる場合も多い。例えば、「国際化する」「西欧化する」「民主化する」などは、その時の社会情勢や事情から自然発生的に起こる場合もありえるし、また人為的に操作可能な場合もある」（p. 75）と述べている。

小林（2000）は、「X化する」について、次のような自他の認識の連続スケールを提案

している。

#### 自他の認識の連続性



このように小林 (2000) は、他動詞専用の動詞「正当化 (する)」と自動詞専用の動詞「深刻化 (する)」を両極に据え、その間に自他両用の動詞を他動詞用法優勢 (「実用化 (する)」) から自動詞優勢 (「本格化 (する)」) へと連続的に位置づけていると指摘している。

木山・玉岡 (2011) では、自他両用の「X化する」を対象に、新聞コーパスから抽出した 24 語の自動詞用法、他動詞用法、受身用法、使役用法について多変量解析を通して考察を行っている。その結果、他動詞用法しかなかった「自由化」を除いた 23 語を下の表 5-5 のように自動詞優勢語群、自他拮抗語群、他動詞優勢語群に分けている。木山・玉岡 (2011) における自他両用の基準は「X化する」の自動詞用法と他動詞用法がそれぞれ 1 例でも現れたら、それを自他両用の語と判断することである。「X化する」の多くは自動詞優勢または他動詞優勢のいずれかに傾いていて、他動詞用法に比べて自動詞用法の勢力の方が強いと示唆している。

表 5-5 木山・玉岡 (2011) による「-化する」の自他語群の分類

自動詞優勢語群	顕在化、多様化、本格化、活発化、複雑化、一般化、弱体化、国際化、現実化、同化 <sup>31</sup>
自他拮抗語群	民主化、具体化、スリム化、活性化、近代化
他動詞優勢語群	正常化、細分化、組織化、効率化、明確化、単純化、強化、浄化

これを受け、本研究では国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』を利用して、さらに多くの「X化する」の自他性について調査し、自動詞用法になりやすい語と他動詞用法になりやすい語の違いについて考察する。

<sup>31</sup> 木山・玉岡 (2011) では「同化」のような二字の「X化」も含めて分析されているが、「化」の変化の意味が薄まることや、二字の「X化」は派生語ではなく単純語として認識されやすいため、本研究では「老朽化」のような三字の「X化」のみを考察の対象とする。

## 5.2 日本語の「X化」の品詞的用法

本節では日本語「X化」の品詞的使用実態を考察する。まず全体的に、日本語の「X化」はどのような用法に用いられやすいかを見る。それから、名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法として用いられやすい語を考察する。次の5.2.1節で「X化」の考察方法を説明する。

### 5.2.1 「X化」の考察方法

本研究では、日本語の「X化」について、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』を「中納言」で検索した。キーワードを「語種－漢語／和語／外来語＋化」に設定し、2000年以降のすべてのジャンルの87,143,046語を検索対象にした。その結果、派生語「X化」を延べ語数41,036語、異なり語数2,512語を抽出した。このうち、100件以上出現した81<sup>32</sup>語を考察対象とし、それぞれの名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法の出現数と出現率を算出した。

名詞的用法とは、下の例(5-7)のように、「X化」が主格、斜格、名詞述語として使われる場合である。また、形容詞的用法とは、下の例(5-8)のように、「X化」が連体修飾語として働く場合である。これに対して、動詞的用法とは、下の例(5-9)のように、動詞述語に用いられる場合である。さらに、下の例(5-10)のように、文章のタイトルや書名に表すものをその他とする。

#### (5-7) 名詞的用法

- a. 綿工業の機械化が進行した。 (同(5-1)aの①)
- b. 局内作業の機械化を推進する。 (同(5-1)aの②)
- c. トラブルの原因は老朽化です。

#### (5-8) 形容詞的用法

- a. 機械化した精神は機械化した人間を作る。 (同(5-1)bの①)
- b. 機械化の設備<sup>33</sup>。 (同(5-1)bの②)
- c. 機械化世界をめざす。 (同(5-1)bの③)

<sup>32</sup> 100件以上出現した語のうち、「炭水化(物)」「水酸化(物)」「抗酸化」の三語は「二字語基＋化」の派生語と考えにくいため、除外した。

<sup>33</sup> 「X化のY」のうち、「機械化の問題」のようなものもあるが、本研究では「機械化の設備」のようなX化：修飾語、Y：被修飾語の関係を持つ場合のみを形容詞的用法に入れた。

## (5-9) 動詞的用法

- a. 意識が稀薄化する。 (同 (5-2) a-1)
- b. 資産管理を透明化する。 (同 (5-2) a-2)
- c. この小説が映画化された。 (同 (5-2) b)
- d. 議論を活発化させる。 (同 (5-2) c)

## (5-10) その他

ごみ問題の「今」と「これから」がわかる一冊。『ごみ有料化』山谷修作  
著

以下、5.2.2節では、「X化」の全体的な品詞用法を考察し、5.2.3節では「X化」の名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法を具体的に考察する。

## 5.2.2 「X化」の全体的な使用傾向

本節ではBCCWJから抽出した100件以上出現した81語の「X化」を考察対象とし、「X化」の全体的な使用傾向を見る。上位81語の「X化」は延べ語数が23,674語ある、これを全て手作業で分類するのは困難であるため、200件以上出現した40語の「X化」をランダムで200例を抽出して考察を行った。対象となる81語の延べ語数14,040語の調査結果をまとめると、下の表5-6のようになる。

表5-6 日本語「X化」100件以上出現した81語の使用傾向

タイプ		出現数	出現率%	語数
名詞的用法 5,894回 (42.0%)	主格	1,348	9.6%	81
	斜格	4,468	31.8%	81
	名詞述語	78	0.6%	38
形容詞的用法 3,874回 (27.6%)	X化したY <sup>34</sup>	1,311	9.5%	79
	X化のY	644	4.6%	74
	X化Y	1,899	13.5%	78
動詞的用法		3,852	27.4%	78
その他		420	3.0%	74

<sup>34</sup> 「X化するY」「X化しているY」「X化される／されたY」「X化させる／させたY」など、「X化するの活用形+Y」の形式を指す。

合計	14,040	100%	81
----	--------	------	----

以上の表 5-6 から分かるように、BCCWJ から抽出した上位 81 語の「X化」の用法において、名詞的用法が 42.0%、形容詞的用法が 27.6%、動詞的用法が 27.4%を占めており、名詞的に使われる頻度が一番高く、形容詞的用法と動詞的用法がほぼ同率でそれに次いでいる。さらに、名詞的用法のうち、斜格として使われるものが最も多く、主格用法がそれに次いで、名詞述語用法が最も少ない。これに対して、形容詞的用法のうち、「実用化技術」のような「X化Y」という形式の出現数が最も多く、「商品化した／されたコップ」のような「X化したY」の形式の出現数がそれに次ぎ、「標準化の世界」のような「X化のY」という形式の出現数が最も少ない。また、上位 81 語のうち、「少子化」「情報化」「耐震化」の三つの語には動詞用法が見られなかった。

一方、副詞的な用例は以下例 (5-11) の「正当化」のように、一件見られた<sup>35</sup>。

(5-11) この点に関しても、もし 21 世紀現在の価値基準で評すれば、侵略行為の美化、正当化の理論として否定しなければならないが、20 世紀初頭の膨張主義、帝国主義全盛の時代において、また後進であるが故にその貪欲と野望も野放図に膨らみ、かつ殆どすべてが正当化視された当時の社会において、浮田の倫理・道徳の要請はやはり帝国主義、膨張主義の野蛮、貪欲に対する一種の規制、あるいは自制の要素として、評価する価値がある。

——姜 克實 (2003) 『浮田和民の思想史的研究』

なお、下の例 (5-12) の「多角化」のように、接尾辞「的」を後続する用法が見られた。この場合の「多角化」を「形容詞的用法」の類に入れた。

(5-12) …煙草栽培の特色は、農業多角化的方向をとったという点にある

——近藤 康男 (2001) 『近藤康男三世紀を生きて』

次に、日本語において「X化」が名詞的、形容詞的、動詞的に用いられやすい具体的な語例を見る。まず BCCWJ で 100 以上出現した 81 語の使用状況をまとめると下の表 5-7 のようになる。

<sup>35</sup> 一件しかないため、「その他」の類に入れた。

表5-7 100件以上出現した81語の「X化」の品詞的用法の分布状況

	X化	総出現数	確認数	名詞的用法			形容詞的用法			動詞的 用法	その他
				主	斜	名述	X化したY	X化のY	X化Y		
1	活性	1,874	200	12	77	1	14	7	26	58	5
2	民営	1,416	200	30	67	3	5	21	46	22	6
3	温暖	1,132	200	14	51	2	1	24	96	6	6
4	高齢	985	200	46	64	0	3	24	49	9	5
5	多様	668	200	23	47	1	31	8	4	80	6
6	近代	562	200	25	85	4	5	28	30	20	3
7	合理	520	200	20	104	0	1	10	39	22	4
8	少子	453	200	43	79	2	0	17	57	0	2
9	正当	441	200	9	18	0	29	3	5	134	2
10	一体	415	200	11	22	0	40	6	9	107	5
11	情報	415	200	18	84	1	3	6	78	0	10
12	グローバル	406	200	63	63	1	7	36	13	7	10
13	効率	404	200	16	133	0	2	10	9	19	11
14	自由	395	200	32	92	6	4	11	14	27	14
15	高度	394	200	15	121	1	11	2	15	22	13
16	実用	375	200	17	70	0	13	7	25	62	6
17	具体	360	200	5	41	0	27	2	5	118	2
18	国際	353	200	37	89	1	6	21	22	11	13
19	工業	347	200	57	86	2	3	3	37	6	6
20	民主	324	200	32	106	5	4	7	38	3	5
21	標準	320	200	21	59	2	16	13	46	37	6
22	組織	316	200	26	56	1	31	13	14	54	5
23	安定	308	200	8	75	0	13	2	73	28	1
24	明確	306	200	7	69	2	16	3	10	75	18
25	商品	302	200	15	44	1	29	8	13	85	5
26	健全	301	200	7	53	0	0	6	118	5	11
27	一般	292	200	10	13	2	31	3	9	129	3
28	映画	291	200	17	30	3	37	4	15	79	15
29	暗号	269	200	6	48	0	29	1	38	77	1
30	資源	269	200	15	117	0	3	0	49	11	5
31	適正	243	200	7	115	0	0	0	56	10	12
32	正常	242	200	13	74	1	5	9	50	45	3
33	活発	240	200	10	22	1	32	0	1	131	3
34	本格	234	200	1	9	0	35	2	1	147	5
35	最適	225	200	11	66	1	21	8	31	52	10
36	老朽	221	200	57	57	1	50	5	10	20	0
37	デジタル	219	200	22	69	1	20	17	21	46	4
38	軽量	214	200	21	111	4	15	9	7	30	3
39	差別	207	200	26	91	4	25	9	14	27	4
40	細分	204	200	11	20	0	29	5	21	114	0
41	制度	199	199	17	38	1	22	6	1	113	1
42	都市	197	197	45	67	2	12	55	11	4	1
43	深刻	194	194	9	28	0	38	0	1	116	2
44	機械	189	189	40	60	0	15	11	37	20	6
45	市街	189	189	6	19	0	1	3	159	1	0
46	固定	188	188	9	39	2	24	1	36	76	1
47	一元	186	186	20	71	1	15	13	16	46	4
48	空洞	184	184	38	71	6	7	10	21	30	1
49	証券	183	183	13	64	0	11	24	41	24	6
50	顕在	180	180	2	8	1	45	0	2	122	0
51	表面	180	180	1	9	0	32	1	0	137	0
52	初期	179	179	12	43	0	53	1	11	52	7

53	最大	171	171	6	47	1	18	5	27	64	3
54	社会	168	168	26	47	5	5	35	31	14	5
55	義務	166	166	7	55	0	21	5	0	67	11
56	自動	155	155	16	41	0	6	18	14	49	11
57	円滑	153	153	4	79	0	3	0	42	16	9
58	長期	149	149	12	51	0	20	3	2	60	1
59	一本	146	146	7	37	0	30	2	8	53	9
60	流動	141	141	17	67	1	7	6	17	21	5
61	複雑	139	139	14	22	0	36	0	0	67	0
62	グループ	139	139	5	47	0	18	12	8	43	6
63	有料	136	136	24	52	0	10	7	21	18	4
64	単純	135	135	6	26	0	34	2	2	60	5
65	弱体	134	134	16	32	0	17	2	1	62	4
66	耐震	134	134	9	58	0	1	8	48	0	10
67	事業	129	129	9	65	0	14	1	20	19	1
68	構造	127	127	9	31	0	10	3	12	60	2
69	簡素	126	126	11	46	2	7	4	3	44	9
70	法人	124	124	12	46	0	23	6	8	27	2
71	高速	118	118	14	43	0	10	2	15	29	5
72	電子	117	117	11	44	0	9	5	4	41	3
73	具現	116	116	1	10	0	13	1	2	89	0
74	簡略	115	115	7	12	0	22	0	0	72	2
75	バリエーション	114	114	4	67	0	10	0	10	13	10
76	相対	114	114	7	22	2	13	4	2	61	3
77	植民地	109	109	11	31	0	13	12	9	29	4
78	最小	108	108	1	35	0	11	1	18	37	5
79	共有	106	106	11	52	0	7	3	1	24	8
80	小型	103	103	16	42	0	12	1	1	28	3
81	多角	100	100	7	47	0	10	1	23	9	3

なお、特定の語と共起する傾向がある「X化」が見られた。まとめると下の例(5-13)のようになる。

- (5-13) 市街化－市街化(調整)区域 (200件のうち160件)  
 温暖化－地球温暖化 (200件のうち134件)  
 健全化－財政／経営健全化 (200件のうち121件)  
 正常化－国交正常化 (200件のうち113件)  
 高齢化－少子・高齢化 (200件のうち64件)  
 民営化－郵政民営化 (200件のうち61件)

表5-7から分かるように、日本語での上位81語の「X化」のうち、「活性化」「民営化」のような「漢語＋化」の派生語もあれば、「グローバル化」「デジタル化」のような「外来語＋化」の派生語もあれば、「小型化」のような「和語＋化」の派生語もある。

また、ほとんどの「X化」は名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法を持っているが、それぞれの用法に使用頻度の偏りが見られる。上位81語の使用状況の分布を見やすくす

るために、それぞれの語の名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法その他の用法の出現率を算出し、その結果を次のページの図 5-1 に示す。

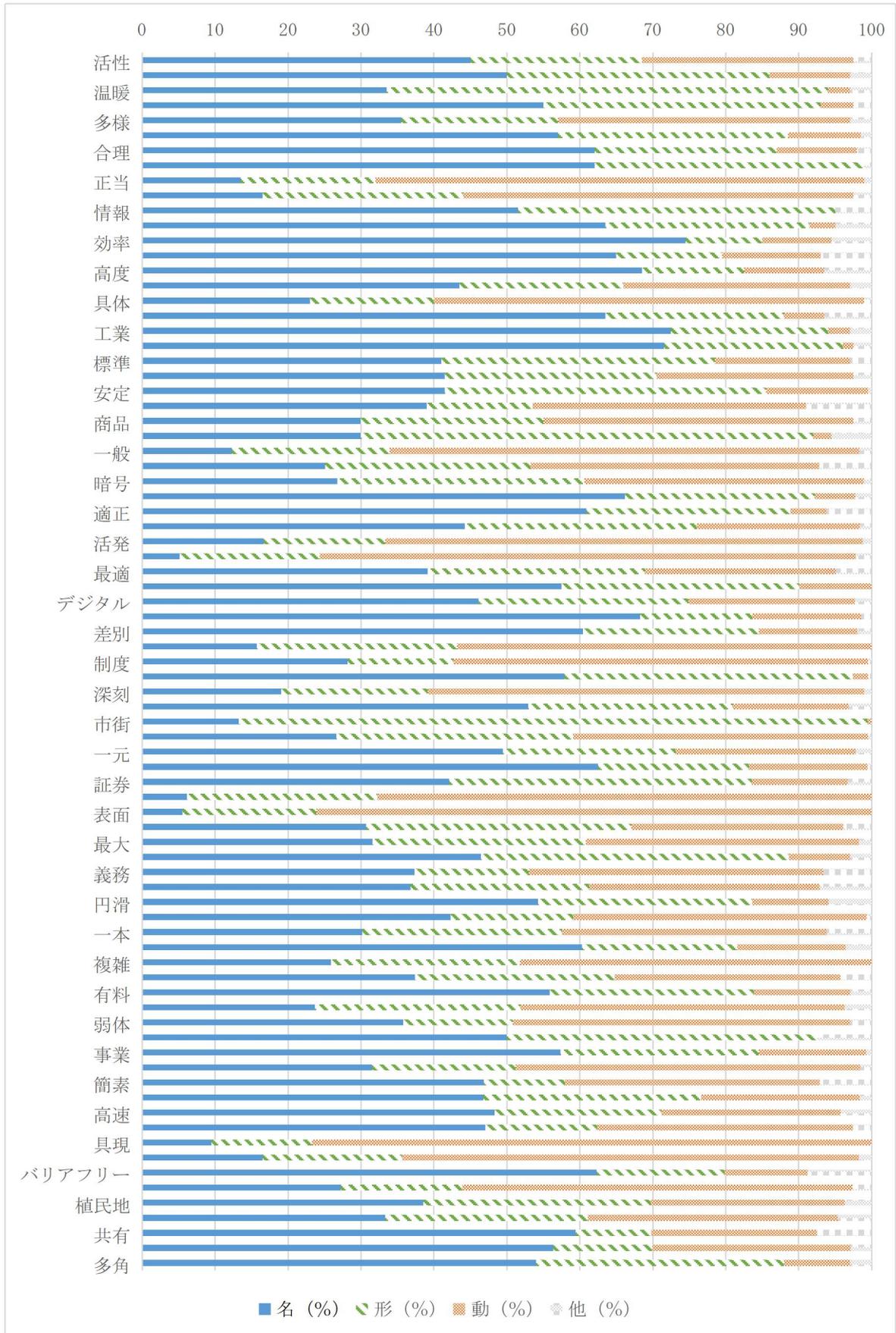


図 5-1 100 件以上出現した 81 語の「X化」の品詞的使用状況分布図

図5-1から分かるように、「効率化」「工業化」などのように名詞的用法の出現率が高い語もあれば、「市街化」「健全化」などのように形容詞的用法の出現率が高い語もあれば、「表面化」「一般化」などのように動詞的用法の出現率が高い語もある。次の5.2.3節では「X化」は名詞的用法に用いられやすい語、形容詞的用法に用いられやすい語、動詞的用法に用いられやすい語を詳しく見る。

### 5.2.3 「X化」の具体的な使用傾向

本節では、派生語「X化」において、名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法に用いられやすい語を詳しく見る。

まず、「X化」を名詞的用法に用いられやすい順にまとめると、次の表5-8のようになる。

表5-8 「X化」における名詞的用法の出現率の高い順(%)

	元順位	X化	総出現数	確認数	名詞的用法			名(%)	形(%)	動(%)	他(%)
					主	斜	名述				
1	13	効率	404	200	16	133	0	149(74.5)	21(10.5)	19(9.5)	11(5.5)
2	19	工業	347	200	57	86	2	145(72.5)	43(21.5)	6(3.0)	6(3.0)
3	20	民主	324	200	32	106	5	143(71.5)	49(24.5)	3(1.5)	5(2.5)
4	15	高度	394	200	15	121	1	137(68.5)	28(14.0)	22(11.0)	13(6.5)
5	38	軽量	214	200	21	111	4	136(68.2)	31(15.4)	30(15.0)	3(1.4)
6	30	資源	269	200	15	117	0	132(66.2)	52(26.0)	11(5.6)	5(2.2)
7	14	自由	395	200	32	92	6	130(65.0)	29(14.5)	27(13.5)	14(7.0)
8	12	グローバル	406	200	63	63	1	127(63.5)	56(28.0)	7(3.5)	10(5.0)
9	18	国際	353	200	37	89	1	127(63.5)	49(24.5)	11(5.5)	13(6.5)
10	48	空洞	184	184	38	71	6	115(62.5)	38(20.7)	30(16.3)	1(0.5)
11	76	バリアフリー	11	114	4	67	0	71(62.3)	20(17.5)	13(11.4)	10(8.8)
12	7	合理	520	200	20	104	0	124(62.0)	50(25.0)	22(11.0)	4(2.0)
13	8	少子	453	200	43	79	2	124(62.0)	74(37.0)	0(0.0)	2(1.0)
14	31	適正	243	200	7	115	0	122(60.9)	56(28.0)	10(4.9)	12(6.2)
15	39	差別	207	200	26	91	4	121(60.4)	48(24.2)	27(13.5)	4(1.9)
16	61	流動	141	141	17	67	1	85(60.3)	30(21.3)	21(14.9)	5(3.6)
17	80	共有	106	106	11	52	0	63(59.4)	11(10.4)	24(22.6)	8(7.6)
18	42	都市	197	197	45	67	2	114(57.9)	78(39.6)	4(2.0)	1(0.5)
19	36	老朽	221	200	57	57	1	115(57.5)	65(32.6)	20(10.0)	0(0.0)
20	68	事業	129	129	9	65	0	74(57.4)	35(27.1)	19(14.7)	1(0.8)
21	6	近代	562	200	25	85	4	114(57.0)	63(31.5)	20(10.0)	3(1.5)
22	81	小型	103	103	16	42	0	58(56.3)	14(13.6)	28(27.2)	3(2.9)
23	64	有料	136	136	24	52	0	76(55.9)	38(27.9)	18(13.2)	4(2.9)
24	4	高齢	985	200	46	64	0	110(55.0)	76(38.0)	9(4.5)	5(2.5)
25	58	円滑	153	153	4	79	0	83(54.3)	45(29.4)	16(10.5)	9(5.9)
26	82	多角	100	100	7	47	0	54(54.0)	34(34.0)	9(9.0)	3(3.0)
27	44	機械	189	189	40	60	0	100(52.9)	63(33.3)	20(10.6)	6(3.2)
28	11	情報	415	200	18	84	1	103(51.5)	87(43.5)	0(0.0)	10(5.0)
29	2	民営	1,416	200	30	67	3	100(50.0)	72(36.0)	22(11.0)	6(3.0)
30	67	耐震	134	134	9	58	0	67(50.0)	57(42.5)	0(0.0)	10(7.5)

31	47	一元	186	186	20	71	1	92(49.5)	44(23.7)	46(24.7)	4(2.2)
32	72	高速	118	118	14	43	0	57(48.3)	27(22.9)	29(24.6)	5(4.2)
33	73	電子	117	117	11	44	0	55(47.0)	18(15.4)	41(35.0)	3(2.6)
34	70	簡素	126	126	11	46	2	59(46.8)	14(11.1)	44(34.9)	9(7.1)
35	71	法人	124	124	12	46	0	58(46.8)	37(29.8)	27(21.8)	2(1.6)
36	54	社会	168	168	26	47	5	78(46.4)	71(42.3)	14(8.3)	5(3.0)
37	37	デジタル	219	200	22	69	1	92(46.1)	58(28.8)	46(22.8)	4(2.3)
38	1	活性	1,874	200	12	77	1	90(45.0)	47(23.5)	58(29.0)	5(2.5)
39	32	正常	242	200	13	74	1	88(44.2)	64(31.8)	45(22.3)	3(1.7)
40	16	実用	375	200	17	70	0	87(43.5)	45(22.5)	62(31.0)	6(3.0)
41	59	長期	149	149	12	51	0	63(42.3)	25(16.8)	60(40.3)	1(0.7)
42	49	証券	183	183	13	64	0	77(42.1)	76(41.5)	24(13.1)	6(3.3)
43	22	組織	316	200	26	56	1	83(41.5)	58(29.0)	54(27.0)	5(2.5)
44	23	安定	308	200	8	75	0	83(41.5)	88(44.0)	28(14.0)	1(0.5)
45	21	標準	320	200	21	59	2	82(41.0)	75(37.5)	37(18.5)	6(3.0)
46	35	最適	225	200	11	66	1	78(39.1)	60(29.8)	52(26.2)	10(4.9)
47	24	明確	306	200	7	69	2	78(39.0)	29(14.5)	75(37.5)	18(9.0)
48	78	植民地	109	109	11	31	0	42(38.5)	34(31.2)	29(26.6)	4(3.7)
49	56	義務	166	166	7	55	0	62(37.4)	26(15.7)	67(40.4)	11(6.6)
50	63	グループ	139	139	5	47	0	52(37.4)	38(27.3)	43(30.9)	6(4.3)
51	57	自動	155	155	16	41	0	57(36.8)	38(24.5)	49(31.6)	11(7.1)
52	66	弱体	134	134	16	32	0	48(35.8)	20(14.9)	62(46.3)	4(3.0)
53	5	多様	668	200	23	47	1	71(35.5)	43(21.5)	80(40.0)	6(3.0)
54	3	温暖	1,132	200	14	51	2	67(33.5)	121(60.5)	6(3.0)	6(3.0)
55	36	最小	108	108	1	35	0	36(33.3)	30(27.8)	37(34.3)	5(4.6)
56	5	最大	171	171	6	47	1	54(31.6)	50(29.2)	64(37.4)	3(1.8)
57	69	構造	127	127	9	31	0	40(31.5)	25(19.7)	60(47.2)	2(1.6)
58	52	初期	179	179	12	43	0	55(30.7)	65(36.3)	52(29.1)	7(3.9)
59	60	一本	146	146	7	37	0	44(30.1)	40(27.4)	53(36.3)	9(6.2)
60	25	商品	302	200	15	44	1	60(30.0)	50(25.0)	85(42.5)	5(2.5)
61	26	健全	301	200	7	53	0	60(30.0)	124(62.0)	5(2.5)	11(5.5)
62	41	制度	199	199	17	38	1	56(28.1)	29(14.6)	113(56.8)	1(0.5)
63	77	相対	114	114	7	22	2	31(27.2)	19(16.7)	61(53.5)	3(2.6)
64	29	暗号	269	200	6	48	0	54(26.8)	68(33.8)	77(38.3)	1(1.1)
65	46	固定	188	188	9	39	2	50(26.6)	61(32.5)	76(40.4)	1(0.5)
66	62	複雑	139	139	14	22	0	36(25.9)	36(25.9)	67(48.2)	0(0.0)
67	28	映画	291	200	17	30	3	50(25.1)	56(28.2)	79(39.5)	15(7.2)
68	65	単純	135	135	6	26	0	32(23.7)	38(28.2)	60(44.4)	5(3.7)
69	17	具体	360	200	5	41	0	46(23.0)	34(17.0)	118(59.0)	2(1.0)
70	43	深刻	194	194	9	28	0	37(19.1)	39(20.1)	116(59.8)	2(1.0)
71	33	活発	240	200	10	22	1	33(16.7)	33(16.7)	131(65.4)	3(1.3)
72	10	一体	415	200	11	22	0	33(16.5)	55(27.5)	107(53.5)	5(2.5)
73	75	簡略	115	115	7	12	0	19(16.5)	22(19.1)	72(62.6)	2(1.7)
74	40	細分	204	200	11	20	0	31(15.7)	55(27.5)	114(56.9)	0(0.0)
75	9	正当	441	200	9	18	0	27(13.5)	37(18.5)	134(67.0)	2(1.0)
76	45	市街	189	189	6	19	0	25(13.2)	163(86.2)	1(0.5)	0(0.0)
77	27	一般	292	200	10	13	2	25(12.3)	43(21.6)	129(64.4)	3(1.7)
78	74	具現	116	116	1	10	0	11(9.5)	16(13.8)	89(76.7)	0(0.0)
79	50	顕在	180	180	2	8	1	11(6.1)	47(26.1)	122(67.8)	0(0.0)
80	51	表面	180	180	1	9	0	10(5.6)	33(18.3)	137(76.1)	0(0.0)
81	34	本格	234	200	1	9	0	10(5.1)	38(19.2)	147(73.5)	5(2.1)

表5-8から分かるように、名詞的に用いられやすい語には「効率化」「工業化」「民主化」「高度化」「軽量化」などがあり、名詞的用法が少ないものには「顕在化」「表面化」「本格化」などがある。

また、名詞的用法においてよく見られる共起語を示すと下の例(5-14)のようになる。

(5-14) X化ができる／が進む／が進展する／が進行する／が促進する／が図られる  
 ／が実現する／が求められている／が懸念される／が始まる／があ  
 る／…

X化を図る／を進める／を推進する／を求める／を可能にする／を目指す  
 ／を実行する／を実現する／を行う／を生んでいる／をねらう／を  
 防止する／を防ぐ…

次に、形容詞的用法に用いられやすい語をまとめると、下の表5-9のようになる。

表5-9 「X化」における形容詞的用法の出現率の高い順(%)

	X化	総出現数	確認数	名(%)	形容詞的用法			形(%)	動(%)	他(%)	
					X化したY	X化のY	X化Y				
1	45	市街	189	189	25(13.2)	1	3	159	163(86.2)	1(0.5)	0(0.0)
2	26	健全	301	200	60(30.0)	0	6	118	124(62.0)	5(2.5)	11(5.5)
3	3	温暖	1,132	200	67(33.5)	1	24	96	121(60.5)	6(3.0)	6(3.0)
4	23	安定	308	200	83(41.5)	13	2	73	88(44.0)	28(14.0)	1(0.5)
5	11	情報	415	200	103(51.5)	3	6	78	87(43.5)	0(0.0)	10(5.0)
6	67	耐震	134	134	67(50.0)	1	8	48	57(42.5)	0(0.0)	10(7.5)
7	54	社会	168	168	78(46.4)	5	35	31	71(42.3)	14(8.3)	5(3.0)
8	49	証券	183	183	77(42.1)	11	24	41	76(41.5)	24(13.1)	6(3.3)
9	42	都市	197	197	114(57.9)	12	55	11	78(39.6)	4(2.0)	1(0.5)
10	4	高齢	985	200	110(55.0)	3	24	49	76(38.0)	9(4.5)	5(2.5)
11	21	標準	320	200	82(41.0)	16	13	46	75(37.5)	37(18.5)	6(3.0)
12	8	少子	453	200	124(62.0)	0	17	57	74(37.0)	0(0.0)	2(1.0)
13	52	初期	179	179	55(30.7)	53	1	11	65(36.3)	52(29.1)	7(3.9)
14	2	民営	1,416	200	100(50.0)	5	21	46	72(36.0)	22(11.0)	6(3.0)
15	82	多角	100	100	54(54.0)	10	1	23	34(34.0)	9(9.0)	3(3.0)
16	29	暗号	269	200	54(26.8)	29	1	38	68(33.8)	77(38.3)	1(1.1)
17	44	機械	189	189	100(52.9)	15	11	37	63(33.3)	20(10.6)	6(3.2)
18	36	老朽	221	200	115(57.5)	50	5	10	65(32.6)	20(10.0)	0(0.0)
19	46	固定	188	188	50(26.6)	24	1	36	61(32.5)	76(40.4)	1(0.5)
20	32	正常	242	200	88(44.2)	5	9	50	64(31.8)	45(22.3)	3(1.7)
21	6	近代	562	200	114(57.0)	5	28	30	63(31.5)	20(10.0)	3(1.5)
22	78	植民地	109	109	42(38.5)	13	12	9	34(31.2)	29(26.6)	4(3.7)
23	35	最適	225	200	78(39.1)	21	8	31	60(29.8)	52(26.2)	10(4.9)
24	71	法人	124	124	58(46.8)	23	6	8	37(29.8)	27(21.8)	2(1.6)
25	58	円滑	153	153	83(54.3)	3	0	42	45(29.4)	16(10.5)	9(5.9)
26	5	最大	171	171	54(31.6)	18	5	27	50(29.2)	64(37.4)	3(1.8)
27	22	組織	316	200	83(41.5)	31	13	14	58(29.0)	54(27.0)	5(2.5)
28	37	デジタル	219	200	92(46.1)	20	17	21	58(28.8)	46(22.8)	4(2.3)
29	28	映画	291	200	50(25.1)	37	4	15	56(28.2)	79(39.5)	15(7.2)
30	65	単純	135	135	32(23.7)	34	2	2	38(28.2)	60(44.4)	5(3.7)

31	12	グローバル	406	200	127(63.5)	7	36	13	56(28.0)	7(3.5)	10(5.0)
32	31	適正	243	200	122(60.9)	0	0	56	56(28.0)	10(4.9)	12(6.2)
33	64	有料	136	136	76(55.9)	10	7	21	38(27.9)	18(13.2)	4(2.9)
34	36	最小	108	108	36(33.3)	11	1	18	30(27.8)	37(34.3)	5(4.6)
35	10	一体	415	200	33(16.5)	40	6	9	55(27.5)	107(53.5)	5(2.5)
36	40	細分	204	200	31(15.7)	29	5	21	55(27.5)	114(56.9)	0(0.0)
37	60	一本	146	146	44(30.1)	30	2	8	40(27.4)	53(36.3)	9(6.2)
38	63	グループ	139	139	52(37.4)	18	12	8	38(27.3)	43(30.9)	6(4.3)
39	68	事業	129	129	74(57.4)	14	1	20	35(27.1)	19(14.7)	1(0.8)
40	50	顕在	180	180	11(6.1)	45	0	2	47(26.1)	122(67.8)	0(0.0)
41	30	資源	269	200	132(66.2)	3	0	49	52(26.0)	11(5.6)	5(2.2)
42	62	複雑	139	139	36(25.9)	36	0	0	36(25.9)	67(48.2)	0(0.0)
43	7	合理	520	200	124(62.0)	1	10	39	50(25.0)	22(11.0)	4(2.0)
44	25	商品	302	200	60(30.0)	29	8	13	50(25.0)	85(42.5)	5(2.5)
45	18	国際	353	200	127(63.5)	6	21	22	49(24.5)	11(5.5)	13(6.5)
46	20	民主	324	200	143(71.5)	4	7	38	49(24.5)	3(1.5)	5(2.5)
47	57	自動	155	155	57(36.8)	6	18	14	38(24.5)	49(31.6)	11(7.1)
48	39	差別	207	200	121(60.4)	25	9	14	48(24.2)	27(13.5)	4(1.9)
49	47	一元	186	186	92(49.5)	15	13	16	44(23.7)	46(24.7)	4(2.2)
50	1	活性	1874	200	90(45.0)	14	7	26	47(23.5)	58(29.0)	5(2.5)
51	72	高速	118	118	57(48.3)	10	2	15	27(22.9)	29(24.6)	5(4.2)
52	16	実用	375	200	87(43.5)	13	7	25	45(22.5)	62(31.0)	6(3.0)
53	27	一般	292	200	25(12.3)	31	3	9	43(21.6)	129(64.4)	3(1.7)
54	5	多様	668	200	71(35.5)	31	8	4	43(21.5)	80(40.0)	6(3.0)
55	19	工業	347	200	145(72.5)	3	3	37	43(21.5)	6(3.0)	6(3.0)
56	61	流動	141	141	85(60.3)	7	6	17	30(21.3)	21(14.9)	5(3.6)
57	48	空洞	184	184	115(62.5)	7	10	21	38(20.7)	30(16.3)	1(0.5)
58	43	深刻	194	194	37(19.1)	38	0	1	39(20.1)	116(59.8)	2(1.0)
59	69	構造	127	127	40(31.5)	10	3	12	25(19.7)	60(47.2)	2(1.6)
60	34	本格	234	200	10(5.1)	35	2	1	38(19.2)	147(73.5)	5(2.1)
61	75	簡略	115	115	19(16.5)	22	0	0	22(19.1)	72(62.6)	2(1.7)
62	9	正当	441	200	27(13.5)	29	3	5	37(18.5)	134(67.0)	2(1.0)
63	51	表面	180	180	10(5.6)	32	1	0	33(18.3)	137(76.1)	0(0.0)
64	76	ハリアプリー	114	114	71(62.3)	10	0	10	20(17.5)	13(11.4)	10(8.8)
65	17	具体	360	200	46(23.0)	27	2	5	34(17.0)	118(59.0)	2(1.0)
66	59	長期	149	149	63(42.3)	20	3	2	25(16.8)	60(40.3)	1(0.7)
67	33	活発	240	200	33(16.7)	32	0	1	33(16.7)	131(65.4)	3(1.3)
68	77	相対	114	114	31(27.2)	13	4	2	19(16.7)	61(53.5)	3(2.6)
69	56	義務	166	166	62(37.4)	21	5	0	26(15.7)	67(40.4)	11(6.6)
70	38	軽量	214	200	136(68.2)	15	9	7	31(15.4)	30(15.0)	3(1.4)
71	73	電子	117	117	55(47.0)	9	5	4	18(15.4)	41(35.0)	3(2.6)
72	66	弱体	134	134	48(35.8)	17	2	1	20(14.9)	62(46.3)	4(3.0)
73	41	制度	199	199	56(28.1)	22	6	1	29(14.6)	113(56.8)	1(0.5)
74	14	自由	395	200	130(65.0)	4	11	14	29(14.5)	27(13.5)	14(7.0)
75	24	明確	306	200	78(39.0)	16	3	10	29(14.5)	75(37.5)	18(9.0)
76	15	高度	394	200	137(68.5)	11	2	15	28(14.0)	22(11.0)	13(6.5)
77	74	具現	116	116	11(9.5)	13	1	2	16(13.8)	89(76.7)	0(0.0)
78	81	小型	103	103	58(56.3)	12	1	1	14(13.6)	28(27.2)	3(2.9)
79	70	簡素	126	126	59(46.8)	7	4	3	14(11.1)	44(34.9)	9(7.1)
80	13	効率	404	200	149(74.5)	2	10	9	21(10.5)	19(9.5)	11(5.5)
81	80	共有	106	106	63(59.4)	7	3	1	11(10.4)	24(22.6)	8(7.6)

表 5-9 から分かるように、形容詞的用法の出現率が高い語には「市街化」「健全化」「温暖化」などがあり、形容詞的用法の出現率が低い語には「小型化」「簡素化」「効率化」「共有化」などがある。また、名詞的用法や動詞的用法と異なり、81 語の「X化」

はすべてが形容詞用法の出現率が10%以上である。形容詞的用法の例文を示すと下の例(5-15)のようになる。

- (5-15) a. 弾頭廃棄用の施設で解体したスカッド・ミサイルから安定化された VX を発見したのです。

——ウィリアム・リバーズ・ピット(著)/スコット・リッター(著)/星川 淳(訳) (2003) 『イラク戦争』

- b. 市民の皆さんと健全化の考え方を共有し、財政健全化に取り組みます。

——『広報とまこまい』 (2008)

- c. 市は、市内全域を市街化区域と市街化調整区域に区別しています。

『近畿地方/兵庫県 広報紙』2008

上の例(5-15)のように、「X化」の形容詞的用法は「X化した／する／された／される／させた／させる Y」という「X化+動詞活用形+被修飾語 Y」の形式もあれば、「X化+の+非修飾語 Y」の形式もあれば、「X化の Y」の形式もある。また、表5-9で示したように、最も多く見られた形式は「X化 Y」である。

次に、動詞的用法に用いられやすい語をまとめると、下の表5-10のようになる。

表5-10 「X化」における動詞的用法の出現率の高い順 (%)

	元 順位	X化	総出 現数	確認数	名 (%)	形 (%)	動 (%)	他 (%)
1	74	具現	116	116	11(9.5)	16(13.8)	89(76.7)	0(0.0)
2	51	表面	180	180	10(5.6)	33(18.3)	137(76.1)	0(0.0)
3	34	本格	234	200	10(5.1)	38(19.2)	147(73.5)	5(2.1)
4	50	顕在	180	180	11(6.1)	47(26.1)	122(67.8)	0(0.0)
5	9	正当	441	200	27(13.5)	37(18.5)	134(67.0)	2(1.0)
6	33	活発	240	200	33(16.7)	33(16.7)	131(65.4)	3(1.3)
7	27	一般	292	200	25(12.3)	43(21.6)	129(64.4)	3(1.7)
8	75	簡略	115	115	19(16.5)	22(19.1)	72(62.6)	2(1.7)
9	43	深刻	194	194	37(19.1)	39(20.1)	116(59.8)	2(1.0)
10	17	具体	360	200	46(23.0)	34(17.0)	118(59.0)	2(1.0)
11	40	細分	204	200	31(15.7)	55(27.5)	114(56.9)	0(0.0)
12	41	制度	199	199	56(28.1)	29(14.6)	113(56.8)	1(0.5)
13	10	一体	415	200	33(16.5)	55(27.5)	107(53.5)	5(2.5)
14	77	相對	114	114	31(27.2)	19(16.7)	61(53.5)	3(2.6)
15	62	複雑	139	139	36(25.9)	36(25.9)	67(48.2)	0(0.0)
16	69	構造	127	127	40(31.5)	25(19.7)	60(47.2)	2(1.6)
17	66	弱体	134	134	48(35.8)	20(14.9)	62(46.3)	4(3.0)
18	65	単純	135	135	32(23.7)	38(28.2)	60(44.4)	5(3.7)
19	25	商品	302	200	60(30.0)	50(25.0)	85(42.5)	5(2.5)
20	46	固定	188	188	50(26.6)	61(32.5)	76(40.4)	1(0.5)
21	56	義務	166	166	62(37.4)	26(15.7)	67(40.4)	11(6.6)

22	59	長期	149	149	63(42.3)	25(16.8)	60(40.3)	1(0.7)
23	5	多様	668	200	71(35.5)	43(21.5)	80(40.0)	6(3.0)
24	28	映画	291	200	50(25.1)	56(28.2)	79(39.5)	15(7.2)
25	29	暗号	269	200	54(26.8)	68(33.8)	77(38.3)	1(1.1)
26	24	明確	306	200	78(39.0)	29(14.5)	75(37.5)	18(9.0)
27	5	最大	171	171	54(31.6)	50(29.2)	64(37.4)	3(1.8)
28	60	一本	146	146	44(30.1)	40(27.4)	53(36.3)	9(6.2)
29	73	電子	117	117	55(47.0)	18(15.4)	41(35.0)	3(2.6)
30	70	簡素	126	126	59(46.8)	14(11.1)	44(34.9)	9(7.1)
31	36	最小	108	108	36(33.3)	30(27.8)	37(34.3)	5(4.6)
32	57	自動	155	155	57(36.8)	38(24.5)	49(31.6)	11(7.1)
33	16	実用	375	200	87(43.5)	45(22.5)	62(31.0)	6(3.0)
34	63	グループ	139	139	52(37.4)	38(27.3)	43(30.9)	6(4.3)
35	52	初期	179	179	55(30.7)	65(36.3)	52(29.1)	7(3.9)
36	1	活性	1,874	200	90(45.0)	47(23.5)	58(29.0)	5(2.5)
37	81	小型	103	103	58(56.3)	14(13.6)	28(27.2)	3(2.9)
38	22	組織	316	200	83(41.5)	58(29.0)	54(27.0)	5(2.5)
39	78	植民地	109	109	42(38.5)	34(31.2)	29(26.6)	4(3.7)
40	35	最適	225	200	78(39.1)	60(29.8)	52(26.2)	10(4.9)
41	47	一元	186	186	92(49.5)	44(23.7)	46(24.7)	4(2.2)
42	72	高速	118	118	57(48.3)	27(22.9)	29(24.6)	5(4.2)
43	37	デジタル	219	200	92(46.1)	58(28.8)	46(22.8)	4(2.3)
44	80	共有	106	106	63(59.4)	11(10.4)	24(22.6)	8(7.6)
45	32	正常	242	200	88(44.2)	64(31.8)	45(22.3)	3(1.7)
46	71	法人	124	124	58(46.8)	37(29.8)	27(21.8)	2(1.6)
47	21	標準	320	200	82(41.0)	75(37.5)	37(18.5)	6(3.0)
48	48	空洞	184	184	115(62.5)	38(20.7)	30(16.3)	1(0.5)
49	38	軽量	214	200	136(68.2)	31(15.4)	30(15.0)	3(1.4)
50	61	流動	141	141	85(60.3)	30(21.3)	21(14.9)	5(3.6)
51	68	事業	129	129	74(57.4)	35(27.1)	19(14.7)	1(0.8)
52	23	安定	308	200	83(41.5)	88(44.0)	28(14.0)	1(0.5)
53	14	自由	395	200	130(65.0)	29(14.5)	27(13.5)	14(7.0)
54	39	差別	207	200	121(60.4)	48(24.2)	27(13.5)	4(1.9)
55	64	有料	136	136	76(55.9)	38(27.9)	18(13.2)	4(2.9)
56	49	証券	183	183	77(42.1)	76(41.5)	24(13.1)	6(3.3)
57	76	バリアフリー	114	114	71(62.3)	20(17.5)	13(11.4)	10(8.8)
58	2	民営	1,416	200	100(50.0)	72(36.0)	22(11.0)	6(3.0)
59	7	合理	520	200	124(62.0)	50(25.0)	22(11.0)	4(2.0)
60	15	高度	394	200	137(68.5)	28(14.0)	22(11.0)	13(6.5)
61	44	機械	189	189	100(52.9)	63(33.3)	20(10.6)	6(3.2)
62	58	円滑	153	153	83(54.3)	45(29.4)	16(10.5)	9(5.9)
63	6	近代	562	200	114(57.0)	63(31.5)	20(10.0)	3(1.5)
64	36	老朽	221	200	115(57.5)	65(32.6)	20(10.0)	0(0.0)
65	13	効率	404	200	149(74.5)	21(10.5)	19(9.5)	11(5.5)
66	82	多角	100	100	54(54.0)	34(34.0)	9(9.0)	3(3.0)
67	54	社会	168	168	78(46.4)	71(42.3)	14(8.3)	5(3.0)
68	30	資源	269	200	132(66.2)	52(26.0)	11(5.6)	5(2.2)
69	18	国際	353	200	127(63.5)	49(24.5)	11(5.5)	13(6.5)
70	31	適正	243	200	122(60.9)	56(28.0)	10(4.9)	12(6.2)
71	4	高齢	985	200	110(55.0)	76(38.0)	9(4.5)	5(2.5)
72	12	グローバル	406	200	127(63.5)	56(28.0)	7(3.5)	10(5.0)
73	3	温暖	1,132	200	67(33.5)	121(60.5)	6(3.0)	6(3.0)
74	19	工業	347	200	145(72.5)	43(21.5)	6(3.0)	6(3.0)
75	26	健全	301	200	60(30.0)	124(62.0)	5(2.5)	11(5.5)
76	42	都市	197	197	114(57.9)	78(39.6)	4(2.0)	1(0.5)
77	20	民主	324	200	143(71.5)	49(24.5)	3(1.5)	5(2.5)
78	45	市街	189	189	25(13.2)	163(86.2)	1(0.5)	0(0.0)

79	8	少子	453	200	124(62.0)	74(37.0)	0(0.0)	2(1.0)
80	11	情報	415	200	103(51.5)	87(43.5)	0(0.0)	10(5.0)
81	67	耐震	134	134	67(50.0)	57(42.5)	0(0.0)	10(7.5)

表 5-10 から分かるように、動詞的用法に用いられやすい語には「具現化」「表面化」「本格化」「顕在化」「正当化」などがあり、動詞的用法が少ないものには「健全化」「都市化」「民主化」「市街化」などがあり、さらに動詞的用法が見られないものには「少子化」「情報化」「耐震化」の三つの語がある。

一方、動詞用法には、能動-自動詞用法、能動-他動詞用法、受身用法、使役用法が見られるが、これについては次の 5.3 節で詳しく述べる。

### 5.3 「X化」の動詞用法

本節では、「X化」の動詞的用法を中心に考察する。日本語の「X化する」は例 (5-9) のように、能動-自動詞用法、能動-他動詞用法、受身用法、使役用法が見られる。

さらに、「X化する」は自動詞と他動詞用法に用いられる場合、下の例 (5-16) のように自動詞で使いやすいものもあれば、例 (5-17) のように他動詞で使いやすいものもあれば、例 (5-18) のように自他両用のものもある。

(5-16) a. 建物が老朽化する。(自)

b. \*建物を老朽化する。(他)

(5-17) a. \*会社が私物化する。(自)

b. 会社を私物化する。(他)

(5-18) a. 国交が正常化する。(自)

b. 国交を正常化する。(他)

そこで、「X化する」は具体的にどのような語が自動詞になりやすく、どのような語が他動詞になりやすいかを考察する必要があると考えられる。次の 5.3.1 節では、「X化する」の考察方法を説明し、5.3.2 節では「X化する」の自動詞用法と他動詞用法について階層的クラスタ分析による自動詞と他動詞の分類を試み、自他性の使用傾向を明らかにする。最後に 5.3.3 節では「X化する」の受身用法に用いられやすい語と使役用法に用いられやすい語を見る。

### 5.3.1 「X化する」の考察方法

本節では、BCCWJから抽出した2,512語の「X化」のうち、自動詞用法と他動詞用法の出現数を合わせて20件以上の83語を考察対象とし、「X化する」の自他性を考察する。まず、能動文の用例のうち、「ヲ格」の目的語を取るものを他動詞用法とし、そうでなければ自動詞用法と判断する。また、下記の例(5-19)のように主題化して表面上「ヲ」を取らないものも、意味的に「ヲ格」の目的語として判断されるものは他動詞用法と判断する。

(5-19) お金を注ぎ込んでも注ぎ込んでも、日本の経済は活性化しにくくなっている。

→ 日本の経済を活性化しにくくなっている。

櫻井よしこ(2001)『迷走日本の原点』新潮社

抽出した83語の「X化する」の動詞用法をまとめ、自動詞用法の出現率の高い順に並べると、下の表5-11のようになる。

表5-11 「X化する」の使用状況(自動詞出現率の高い順)

X化	自動詞(%)	他動詞(%)	自+他(%)	受身 出現数	使役 出現数	動詞 総出現数
1 深刻	107(100.0)	0(0.0)	107(100.0)	1	8	116
2 効率	25(100.0)	0(0.0)	25(100.0)	7	2	34
3 高齢	23(100.0)	0(0.0)	23(100.0)	0	0	23
4 軽量	23(100.0)	0(0.0)	23(100.0)	8	1	32
5 老朽	22(100.0)	0(0.0)	22(100.0)	0	0	22
6 表面	125(98.4)	2(1.6)	127(100.0)	2	8	137
7 長期	52(98.1)	1(1.9)	53(100.0)	0	7	60
8 巨大	30(96.8)	1(3.2)	31(100.0)	0	3	34
9 空洞	25(96.2)	1(3.9)	26(100.0)	1	3	30
10 民営	59(95.2)	3(4.8)	62(100.0)	56	3	121
11 顕在	95(95.0)	5(5.0)	100(100.0)	2	20	122
12 形骸	28(93.3)	2(6.7)	30(100.0)	1	0	31
13 多様	160(92.0)	14(8.1)	174(100.0)	5	3	182
14 本格	130(90.3)	14(9.7)	144(100.0)	0	28	172
15 活発	111(88.8)	14(11.2)	125(100.0)	1	31	157
16 簡素	20(87.0)	3(13.0)	23(100.0)	21	0	44
17 弱体	39(86.7)	6(13.3)	45(100.0)	3	14	62
18 自動	23(85.2)	4(14.8)	27(100.0)	22	0	49
19 高度	42(82.4)	9(17.7)	51(100.0)	1	5	57
20 最小	26(81.3)	6(18.8)	32(100.0)	4	1	37
21 肥大	25(80.7)	6(19.4)	31(100.0)	0	5	36
22 固定	35(79.6)	9(20.5)	44(100.0)	31	1	76
23 大型	22(75.9)	7(24.1)	29(100.0)	6	1	36
24 現実	40(75.5)	13(24.5)	53(100.0)	8	3	64
25 一般	111(73.5)	40(26.5)	151(100.0)	35	2	188
26 一体	93(67.4)	45(32.6)	138(100.0)	19	29	186
27 暗号	29(63.0)	17(37.0)	46(100.0)	57	0	103

28	安定	14(58.3)	10(41.7)	24(100.0)	10	22	56
29	近代	13(46.4)	15(53.6)	28(100.0)	17	0	45
30	数値	20(45.5)	24(54.6)	44(100.0)	18	0	62
31	構造	10(45.5)	12(54.6)	22(100.0)	38	0	60
32	活性	114(35.1)	211(64.9)	325(100.0)	107	158	590
33	具体	51(31.3)	112(68.7)	163(100.0)	42	15	220
34	高速	8(30.8)	18(69.2)	26(100.0)	3	0	29
35	複雑	15(24.2)	47(75.8)	62(100.0)	2	3	67
36	細分	9(22.0)	32(78.1)	41(100.0)	75	0	116
37	専門	5(21.7)	18(78.3)	23(100.0)	13	1	37
38	初期	6(17.1)	29(82.9)	35(100.0)	17	0	52
39	デジタル	4(16.7)	20(83.3)	24(100.0)	26	0	50
40	実用	5(15.2)	28(84.9)	33(100.0)	112	2	147
41	立体	3(15.0)	17(85.0)	20(100.0)	3	0	23
42	具現	10(14.9)	57(85.1)	67(100.0)	17	5	89
43	商品	6(14.3)	36(85.7)	42(100.0)	55	0	97
44	習慣	3(13.6)	19(86.4)	22(100.0)	4	1	27
45	最適	5(12.8)	34(87.2)	39(100.0)	18	2	59
46	一本	4(11.1)	32(88.9)	36(100.0)	15	2	53
47	体系	3(10.3)	26(89.7)	29(100.0)	28	0	57
48	映像	2(9.5)	19(90.5)	21(100.0)	12	0	33
49	文書	3(8.8)	31(91.2)	34(100.0)	15	0	49
50	ドラマ	2(8.7)	21(91.3)	23(100.0)	23	0	46
51	慢性	2(8.0)	23(92.0)	25(100.0)	0	0	25
52	類型	2(7.4)	25(92.6)	27(100.0)	12	0	39
53	モデル	2(7.1)	26(92.9)	28(100.0)	6	0	34
54	組織	4(5.8)	65(94.2)	69(100.0)	72	0	141
55	映画	3(5.8)	49(94.2)	52(100.0)	63	0	115
56	グループ	2(5.7)	33(94.3)	35(100.0)	8	0	43
57	最大	3(5.6)	51(94.4)	54(100.0)	8	2	64
58	一元	2(5.4)	35(94.6)	37(100.0)	8	1	46
59	普遍	1(4.8)	20(95.2)	21(100.0)	4	0	25
60	会社	1(4.2)	23(95.8)	24(100.0)	3	0	27
61	意識	1(4.2)	23(95.8)	24(100.0)	16	4	44
62	言語	1(4.0)	24(96.0)	25(100.0)	9	0	34
63	無力	1(4.0)	24(96.0)	25(100.0)	2	3	30
64	明文	1(3.7)	26(96.3)	27(100.0)	27	1	55
65	定式	1(3.5)	28(96.6)	29(100.0)	20	0	49
66	合理	1(2.6)	37(97.4)	38(100.0)	14	0	52
67	制度	1(2.6)	38(97.4)	39(100.0)	73	1	113
68	問題	1(2.3)	43(97.7)	44(100.0)	4	0	48
69	明確	2(2.3)	87(97.8)	89(100.0)	32	4	125
70	正常	1(2.2)	45(97.8)	46(100.0)	2	6	54
71	正当	1(0.5)	223(99.6)	224(100.0)	83	3	310
72	相対	0(0.0)	43(100.0)	43(100.0)	17	1	61
73	単純	0(0.0)	39(100.0)	39(100.0)	21	0	60
74	簡略	0(0.0)	35(100.0)	35(100.0)	37	0	72
75	沈静	0(0.0)	32(100.0)	32(100.0)	0	3	35
76	グラフ	0(0.0)	27(100.0)	27(100.0)	2	0	29
77	日常	0(0.0)	27(100.0)	27(100.0)	2	3	32
78	データベース	0(0.0)	24(100.0)	24(100.0)	10	0	34
79	重症	0(0.0)	23(100.0)	23(100.0)	0	0	23
80	神格	0(0.0)	23(100.0)	23(100.0)	25	1	49
81	理論	0(0.0)	21(100.0)	21(100.0)	3	0	24
82	私物	0(0.0)	21(100.0)	21(100.0)	5	0	26
83	無効	0(0.0)	21(100.0)	21(100.0)	2	0	23

表 5-11 から分かるように、「深刻化」は動詞として使われる総出現数が 116 件あり、このうち、能動的用法が 107 件ある。さらに能動的用法のうち、自動詞として用いられているのは 107 件で、能動的用法の 100%が自動詞用法である。「深刻化」のように、自動詞用法の出現率が 100%のものは「効率化する」「高齢化する」「軽量化する」「老朽化する」がある。ほかに自動詞用法の出現率が高いものには「表面化」「長期化」「巨大化」「空洞化」などがある。これに対して「無効化する」「私物化する」「理論化する」などの 12 語は、自動詞用法が見られず、能動的に用いられるとき、すべてが他動詞として使われている。ほかに他動詞の出現率が高いものは「正当化する」「正常化する」「明確化する」などがある。

日本語の「X化する」には自動詞用法の出現率が 100%の語が 5 語であったのに対して、他動詞用法の出現率が 100%の語は約 2 倍の 12 語あった。そこで、「X化する」の自動詞と他動詞の二つのグループを比較するため、下限頻度を 20 回、30 回、40 回、50 回と設定し、それと対応する上位 83 語、上位 46 語、上位 30 語、上位 21 語の自動詞用法と他動詞用法の使用頻度を  $\log_e(x+0.5)$  の自然対数に変換し、独立したサンプルの  $t$  検定を行った。使用頻度を自然対数に変換する理由としては、各「X化」の使用頻度をより正規分布に近づけるためである。使用頻度を自然対数に変換したものの平均、標準偏差および  $t$  検定の結果は、表 5-12 に示す。

表 5-12 日本語「X化する」の使用頻度の  $\log_e(x+0.5)$  の自然対数変換値と  $t$  検定の結果

下限 頻度	語基 の数	自動詞		他動詞		$t$ 検定の結果
		$M$	$SD$	$M$	$SD$	
20回	83	1.88	1.72	2.79	1.30	$t(164)=3.81, p<.001$
30回	46	2.44	1.77	3.04	1.29	$t(90)=1.86, ns$
40回	30	3.02	1.68	3.08	1.40	$t(58)=0.17, ns$
50回	21	3.46	1.54	3.04	1.63	$t(40)=0.85, ns$

注:  $M$  は平均,  $SD$  は標準偏差。

表 5-12 から分かるように、上位 46 語までの「X化」は使用頻度に有意な違いは見られなかった。ただし、20 回以上出現した 83 語の「X化」は使用頻度に有意な違いが見られ、他動詞 ( $M=2.79$ ) の方が自動詞 ( $M=1.88$ ) よりも頻繁に使用されていることが分かった。

さらに、上位 83 語の「X化」の自動詞用法と他動詞用法について、使用頻度を  $\log_e(x+0.5)$  で変換した自然対数に基づいて、階層的クラスタ分析による動詞の分類を試みた。クラスタ併合の方法には Ward 法、動詞間の距離には平方ユークリッド距離を採用した。

その結果、83語を三つのクラスタに分類した。また、クラスタ分析の結果がどの程度適切に分類されているかを考察するために、正準判別分析を併せて行った。正準判別分析の結果、第一正準判別関数は、固有値が6.517a、寄与率が92.1%、正準相関が0.931 ( $p < 0.001$ )であり、第二正準判別関数は、固有値が0.559a、寄与率が7.9%、正準相関が0.599 ( $p < 0.001$ )で、両方とも有意であった。また、三つのグループの判別の適切さについて交差妥当化によって検証したところ、正判別率は95.2%であった。「X化する」における三つのクラスタは、適切な分類であることが示唆されている。

クラスタ分析の結果を含んだ上位83語の自然対数変換の使用頻度の散布図を下に示す。

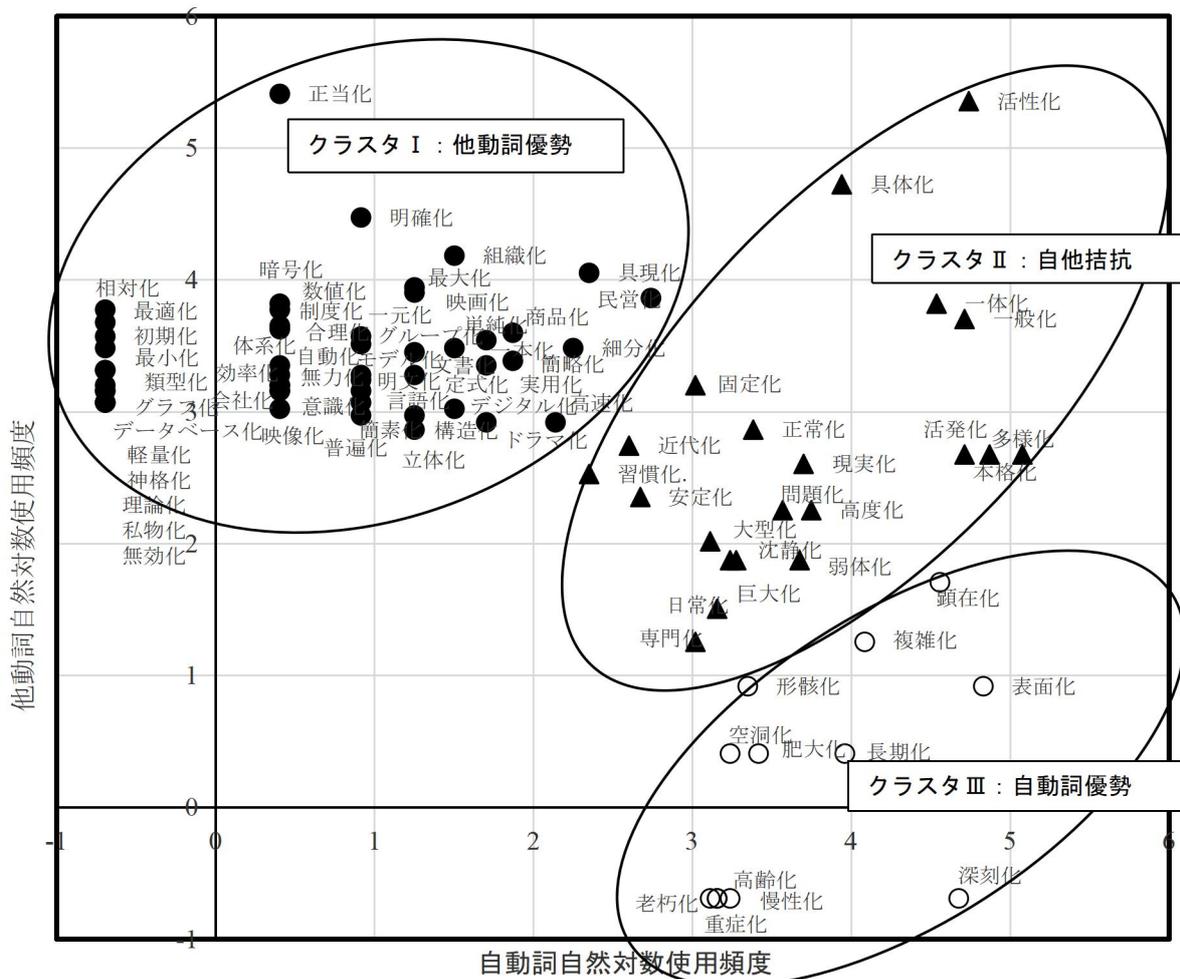


図5-2 日本語「X化する」上位83語の自然対数変換の使用頻度の散布図

図5-2から分かるように、自動詞用法と他動詞用法の出現数が合計で20回以上の83語の「X化する」を他動詞優勢語群、自他拮抗語群、自動詞優勢語群の三つのクラスタに分けたことができた。図5-2の結果を表にまとめると下の表5-13のようになる。

表 5-13 「X化」の自他語群の分類

語群	「X化」
自動詞優勢	深刻、慢性、高齢、重症、老朽、表面、顕在、複雑、長期、肥大、形骸、空洞（12語）
自他拮抗	専門、日常、巨大、弱体、沈静、大型、高度、問題、安定、習慣、本格、多様、活発、現実、正常、近代、固定、一般、一体、具体、活性（21語）
他動詞優勢	ドラマ、構造、立体、簡素、普遍、意識、映像、データベース、軽量、神格、理論、私物、無効、高速、デジタル、言語、会社、グラフ、実用、定式、明文、無力、効率、類型、最小、簡略、細分、一本、文書、モデル、自動、体系、初期、最適、商品、単純、グループ、合理、民営、映画、最大、一元、制度、数値、相対、具現、組織、明確、正当、暗号（50語）

表 5-13 から分かるように、自動詞優勢語群には 12 語があり、自他拮抗語群には 21 語があり、他動詞優勢語には 50 語があり、他動詞優勢語群の語数が最も多い。「深刻化」「慢性化」などの語は自動詞性がより強いのに対して、「ドラマ化」「構造化」などの語は他動詞性がより強い。また、「専門化」「日常化」などの語は自他性が拮抗している。なお、83 語のうち、「データベース化」「グラフ化」のような「外来語+化」の派生語が 5 語あるが、これらの語はすべて他動詞優勢語群に入っている。次の 5.3.2 節では、「X化する」の自他選択に影響する要因を分析してみる。

### 5.3.2 「X化する」の自他選択傾向

本節では、表 5-13 に基づいて、日本語の「X化する」の自他選択に影響する要因を考察する。「X化する」が自動詞になりやすいか、他動詞になりやすいかは、主に語基の品詞的な性質と「X化する」の文脈における意味の二つの要素によって決まると考えられる。

#### 要因 1: 語基の品詞的な性質

自動詞用法に用いられやすい「X化する」は「形容詞の性質を持つ語基+化」の語が多い。形容詞の性質を持つ語基というのは、物事の状態や性質を描写するものである（例：

「深刻」「慢性」「高齢」「重症」「老朽」「温暖」「マンネリ」など)。「化」はこれらの語基に接して変化を表し、変化の結果は語基が表す性質や状態である。

一方、他動詞用法として用いられやすい「X化する」は「名詞の性質を持つ語基+化」が多い。名詞の性質を持つ語基というのは、「一つ」、「二つ」のような数量詞で数えられる事物、物事である(例:「グラフ」「私物」「理論」「文章」「指標」「理想」「植民地」「画像」など)。

「X化」は変化を表し、「映画+化」→「映画になる/する」や、「最小+化」→「最小(のよう)になる/する」のように、前接する語基は変化の結果を表す。表5-11から分かるように、形容詞語基と名詞語基がよく「X化する」に前接する<sup>36</sup>。「温暖」のような形容詞語基が「化」に前接し、派生語「温暖化」は変化の結果は語基「温暖」の表す状態や性質である。例えば、「地球が温暖化する」は「地球が温暖な状態になる」という意味で、主体である地球が変化し、変化の結果は温暖な状態であるということである。

一方、「映画」のような名詞語基が「化」に前接した「映画化」は変化の結果は語基の「映画」になることを表す。つまり、「(映画会社が)小説を映画化する」は「(映画会社が)小説を映画にする」という意味で、対象の小説が変化して映画になることを表す。両者を比べると、前者は参加者が一つだけ(地球)であるのに対し、後者は参加者が三つ(映画会社と小説と映画)である。Hopper&Thompson(1980:252)で挙げている「他動性のパラメータ」によると、ある事象の参加者が複数的であれば、その他動性が高く、参加者が非複数的であれば、その他動性が低い。そのため、「温暖化」のような「形容詞の性質を持つ語基+化」の派生語は参加者が一つだけで、自動詞的用法になりやすいと考えられる。それに対して、「映画化」のような「名詞の性質を持つ語基+化」の派生語は参加者が三つあるため、他動詞的用法になりやすいと考えられる。これをまとめると表5-14のようになる。

表5-14 「X化」の自動詞用法と他動詞用法の語基による選択傾向

属性	語基(+化)	変化の結果	参加者
自動詞	形容詞の性質を持つ語基(+化)	状態や性質	一つ
他動詞	名詞の性質を持つ語基(+化)	物事	三つ

ただし、「女性化」は「名詞語基+化」の派生語であるものの、自動詞用法がよく見られる。一見、上のルールには従わないと思われるかもしれない。しかし、「女性化」

<sup>36</sup> 表5-11における「高齢(化)」のような形容詞語基はおよそ46.6%、「映画(化)」のような名詞語基はおよそ44.1%、「流動(化)」のような動詞語基はおよそ9.3%を占めている。

は「男性が女性になる」という意味ではなく、「女性の属性を持つようになる」という「C. 属性変化」を表す「名詞語基+化」のものである。そのため、「女性化」の「女性」は名詞の「女性その人間」ではなく、形容詞の「女性が持っている性質」として機能していると考えられる。同じような語に「泥沼化」「表面化」「形骸化」などがある。これらの語基である「泥沼」「表面」「形骸」は名詞であるが、「X化」の語基として使われる場合、「混沌とした泥沼状態」「裏に隠れておらず表に見える状態」「中身がなく形だけの状態」という意味を表し、形容詞として機能していると考えられる。

一方、「最適」「最小」「無効」「無力」は形容詞であるが、「化」が付いた形の「最適化」「最小化」「無効化」「無力化」は他動詞として使われることが多い。これは表5-14のルールに従わないように見える。しかし、これらの語基は全て限界点を表すもので、その意味で名詞のように捉えることができる。そのため、「X」に「化」をつけると主体が対象をある状態から限界点の状態に変化させることを表し、参加者が三つになる。例えば、「(太郎が) プランを最適化する」という表現は、「(太郎が) プランの適切度を最適ではない状態から最適の状態にする」という意味で、参加者は太郎と最適でないプランと最適のプランの三つとなる。「最小(化)」なども同様である。

## 要因2: 「X化する」の意味

### <1> 自動詞用法に用いられやすいもの

#### ①自然に起きるのが普通なこと

- (5-20) a. 船体自体が老朽化した。  
b. 地域住民が高齢化している。

#### ②好ましくないこと

- (5-21) a. リスクが顕在化する。  
b. 交通渋滞が慢性化している。

例(5-20)は動作主が必要ではなく、自然に起きることを表す。また、例(5-20)のaとbの語基「顕在」と「慢性」は中立的な意味を表すものであるが、文脈から見ると二つの文とも好ましくないことを表している。動作主が好ましくないことを意図的にすることは考えにくいので、自動詞用法に用いられやすいと考える。

<2> 他動詞用法に用いられやすいもの

①行為を行う動作主と意図性が必要なこと<sup>37</sup>

(5-22) a. ファイルのサイズを軽量化する。

b. 衣類の见えない汚れを可視化する。

②好ましいこと

(5-23) a. 利益を最大化する。

b. 損失を最小化する。

例(5-22)は人の手を経ないとできないことであり、動作主が必要な事態であると考えられる。また、例(5-23)のaとbの「最小」と「最大」が正反対の意味を持っているが、文脈から見れば、(5-23a)と(5-23b)の二つの文とも好ましいことを表している。

### 5.3.3 「X化する」の受身用法と使役用法

本節では、「X化する」の受身用法と使役用法を中心に考察し、受身用法として用いられやすい語と使役用法として用いられやすい語を詳しく見る。

上記の5.3.2節と同様に、BCCWJから抽出した2,512語の「X化」のうち、自動詞用法と他動詞用法の出現数が合わせて20件以上の83語を考察対象とし、「X化する」の受身と使役の使用実態を考察する。

まず、「X化する」が総動詞用法のうち、受身用法の出現率の高い順にまとめると、下の表5-15のようになる。

表5-15 「X化する」の使用状況分布（受身用法出現率の高い順）

	X化	自	他	自+他 (%)	受身 (%)	使役 (%)	動詞総出現数
1	実用	5	28	33(22.5)	112(76.2)	2(1.4)	147
2	細分	9	32	41(35.3)	75(64.7)	0(0.0)	116
3	制度	1	38	39(34.5)	73(64.6)	1(0.9)	113
4	構造	10	12	22(36.7)	38(63.3)	0(0.0)	60
5	商品	6	36	42(43.3)	55(56.7)	0(0.0)	97
6	暗号	29	17	46(44.7)	57(55.3)	0(0.0)	103
7	映画	3	49	52(45.2)	63(54.8)	0(0.0)	115
8	デジタル	4	20	24(48.0)	26(52.0)	0(0.0)	50

<sup>37</sup> 「化」が第3章で述べた「様式変化」と「所有変化」を表す場合、動作主が必要となると考えられるため、この場合の「X化する」も他動詞として用いられやすい。

9	簡略	0	35	35(48.6)	37(51.4)	0(0.0)	72
10	組織	4	65	69(48.9)	72(51.1)	0(0.0)	141
11	神格	0	23	23(46.9)	25(51.0)	1(2.0)	49
12	ドラマ	2	21	23(50.0)	23(50.0)	0(0.0)	46
13	体系	3	26	29(50.9)	28(49.1)	1(1.8)	57
14	明文	1	26	27(49.1)	27(49.1)	0(0.0)	55
15	簡素	20	3	23(52.3)	21(47.7)	0(0.0)	44
16	民営	59	3	62(51.2)	56(46.3)	3(2.5)	121
17	自動	23	4	27(55.1)	22(44.9)	0(0.0)	49
18	定式	1	28	29(59.2)	20(40.8)	1(1.3)	49
19	固定	35	9	44(57.9)	31(40.8)	0(0.0)	76
20	近代	13	15	28(62.2)	17(37.8)	0(0.0)	45
21	意識	1	23	24(54.6)	16(36.4)	4(9.1)	44
22	映像	2	19	21(63.6)	12(36.4)	0(0.0)	33
23	専門	5	18	23(62.2)	13(35.1)	1(2.7)	37
24	単純	0	39	39(65.0)	21(35.0)	0(0.0)	60
25	初期	6	29	35(67.3)	17(32.7)	0(0.0)	52
26	類型	2	25	27(69.2)	12(30.8)	0(0.0)	39
27	文書	3	31	34(69.4)	15(30.6)	0(0.0)	49
28	最適	5	34	39(66.1)	18(30.5)	2(3.4)	59
29	データベース	0	24	24(70.6)	10(29.4)	0(0.0)	34
30	数値	20	24	44(71.0)	18(29.0)	0(0.0)	62
31	一本	4	32	36(67.9)	15(28.3)	2(3.8)	53
32	相対	0	43	43(70.5)	17(27.9)	1(1.6)	61
33	合理	1	37	38(73.1)	14(26.9)	0(0.0)	52
34	正当	1	223	224(72.3)	83(26.8)	3(1.0)	310
35	言語	1	24	25(73.5)	9(26.5)	0(0.0)	34
36	明確	2	87	89(71.2)	32(25.6)	4(3.2)	125
37	軽量	23	0	23(71.9)	8(25.0)	1(3.1)	32
38	効率	25	0	25(73.5)	7(20.6)	2(5.9)	34
39	私物	0	21	21(80.8)	5(19.2)	0(0.0)	26
40	具現	10	57	67(75.3)	17(19.1)	15(6.8)	89
41	具体	51	112	163(74.1)	42(19.1)	5(5.6)	220
42	一般	111	40	151(80.3)	35(18.6)	2(1.1)	188
43	グループ	2	33	35(81.4)	8(18.6)	0(0.0)	43
44	活性	114	211	325(55.1)	107(18.1)	158(26.8)	590
45	安定	14	10	24(42.9)	10(17.9)	22(39.3)	56
46	モデル	2	26	28(82.4)	6(17.7)	0(0.0)	34
47	一元	2	35	37(80.4)	8(17.4)	1(2.2)	46
48	大型	22	7	29(80.6)	6(16.7)	1(2.8)	36
49	普遍	1	20	21(84.0)	4(16.0)	0(0.0)	25
50	習慣	3	19	22(81.5)	4(14.8)	1(3.7)	27
51	立体	3	17	20(87.0)	3(13.0)	0(0.0)	23
52	現実	40	13	53(82.8)	8(12.5)	3(4.7)	64
53	最大	3	51	54(84.4)	8(12.5)	2(3.1)	64
54	理論	0	21	21(87.5)	3(12.5)	0(0.0)	24
55	会社	1	23	24(88.9)	3(11.1)	0(0.0)	27
56	最小	26	6	32(86.5)	4(10.8)	1(2.7)	37
57	高速	8	18	26(89.7)	3(10.3)	0(0.0)	29
58	一体	93	45	138(74.2)	19(10.2)	29(15.6)	186
59	無効	0	21	21(91.3)	2(8.7)	0(0.0)	23
60	問題	1	43	44(91.7)	4(8.3)	0(0.0)	48
61	グラフ	0	27	27(93.1)	2(6.9)	0(0.0)	29
62	無力	1	24	25(83.3)	2(6.7)	3(10.0)	30
63	日常	0	27	27(84.4)	2(6.3)	3(9.4)	32
64	弱体	39	6	45(72.6)	3(4.8)	14(22.6)	62
65	正常	1	45	46(85.2)	2(3.7)	6(11.1)	54

66	空洞	25	1	26(86.7)	1(3.3)	3(10.0)	30
67	形骸	28	2	30(96.8)	1(3.2)	0(0.0)	31
68	複雑	15	47	62(92.5)	2(3.0)	3(4.5)	67
69	多様	160	14	174(95.6)	5(2.8)	3(1.7)	182
70	高度	42	9	51(89.5)	1(1.8)	5(8.8)	57
71	顕在	95	5	100(82.0)	2(1.6)	20(16.4)	122
72	表面	125	2	127(92.7)	2(1.5)	8(5.8)	137
73	深刻	107	0	107(92.2)	1(0.9)	8(6.9)	116
74	活発	111	14	125(79.6)	1(0.6)	31(19.8)	157
75	高齢	23	0	23(100.0)	0(0.0)	28(16.3)	23
76	老朽	22	0	22(100.0)	0(0.0)	5(13.9)	22
77	長期	52	1	53(88.3)	0(0.0)	7(11.7)	60
78	巨大	30	1	31(91.2)	0(0.0)	3(8.8)	34
79	本格	130	14	144(83.7)	0(0.0)	3(8.6)	172
80	肥大	25	6	31(86.1)	0(0.0)	0(0.0)	36
81	慢性	2	23	25(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	25
82	沈静	0	32	32(91.4)	0(0.0)	0(0.0)	35
83	重症	0	23	23(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	23

表 5-15 から分かるように、「実用化する」「細分化する」「制度化する」「構造化する」などの 24 語は受身用法の出現率が総動詞用法の 33%以上を占めている。これに対して、「重症化する」「沈静化する」「慢性化する」「肥大化する」などの 9 語は受身用法が見られなかった。

一般的に他動的な事象を表す動詞は自動的な事象を表したい場合、受身形によって表現されると考えられるため、下の例 (5-24) のように、受身用法の多い語は他動詞用法も多いと想定できる。

- (5-24) a. 天然ガス自動車が実用化した。 (自動詞用法 5 回)  
 b. この会社は天然ガス自動車を実用化した。 (他動詞用法 28 回)  
 c. 天然ガス自動車が実用化された。 (受身用法 112 回)

例 (5-24) では、「天然ガス自動車」が変化し、変化した結果は「実用的」な状態である。このような変化は自然的に発生すると考えにくいため、「実用化」は他動的な傾向が強い。さらに、変化の動作主を含意しながら、自動車が「実用的に」変化したということに焦点を置くと、受身用法に用いられる。

しかし、「暗号化する」「簡素化する」「民営化する」「自動化する」のような語は受身用法も多ければ、自動詞用法も多く見られる。「暗号化」の例文をまとめると下の例 (5-25) のようになる。

- (5-25) a. データファイルが暗号化した。 (自動詞用法 29 回)

- b. 彼はデータファイルを暗号化した。 (他動詞用法 17回)  
 c. データファイルが暗号化された。 (受身用法 57回)

例(5-25)では、「データファイル」が変化し、変化した結果は「暗号によって表す」ことである。(5-25a)の場合、この変化は自動的に変化することを表し、(5-25b)の他動詞文の場合、この変化は動作主の「彼」によって行ったことを表し、(5-25c)の受身文の場合、動作主が含意されている。

次に、「X化する」の使役用法の使用実態をまとめると下の表5-16のようになる。

表5-16 「X化する」の使用状況分布(使役用法出現率の高い順)

	X化	自	他	自+他(%)	受身(%)	使役(%)	動詞総出現数
1	安定	14	10	24(42.9)	10(17.9)	22(39.3)	56
2	活性	114	211	325(55.1)	107(18.1)	158(26.8)	590
3	弱体	39	6	45(72.6)	3(4.8)	14(22.6)	62
4	活発	111	14	125(79.6)	1(0.6)	31(19.8)	157
5	顕在	95	5	100(82.0)	2(1.6)	20(16.4)	122
6	本格	130	14	144(83.7)	0(0.0)	28(16.3)	172
7	一体	93	45	138(74.2)	19(10.2)	29(15.6)	186
8	肥大	25	6	31(86.1)	0(0.0)	5(13.9)	36
9	長期	52	1	53(88.3)	0(0.0)	7(11.7)	60
10	正常	1	45	46(85.2)	2(3.7)	6(11.1)	54
11	無力	1	24	25(83.3)	2(6.7)	3(10.0)	30
12	空洞	25	1	26(86.7)	1(3.3)	3(10.0)	30
13	日常	0	27	27(84.4)	2(6.3)	3(9.4)	32
14	意識	1	23	24(54.6)	16(36.4)	4(9.1)	44
15	巨大	30	1	51(89.5)	1(1.8)	5(8.8)	34
16	高度	42	9	31(91.2)	0(0.0)	3(8.8)	57
17	沈静	0	32	32(91.4)	0(0.0)	3(8.6)	35
18	深刻	107	0	107(92.2)	1(0.9)	8(6.9)	116
19	具体	51	112	163(74.1)	42(19.1)	15(6.8)	220
20	効率	25	0	25(73.5)	7(20.6)	2(5.9)	34
21	表面	125	2	127(92.7)	2(1.5)	8(5.8)	137
22	具現	10	57	67(75.3)	17(19.1)	5(5.6)	89
23	現実	40	13	53(82.8)	8(12.5)	3(4.7)	64
24	複雑	15	47	62(92.5)	2(3.0)	3(4.5)	67
25	一本	4	32	36(67.9)	15(28.3)	2(3.8)	53
26	習慣	3	19	22(81.5)	4(14.8)	1(3.7)	27
27	最適	5	34	39(66.1)	18(30.5)	2(3.4)	59
28	明確	2	87	89(71.2)	32(25.6)	4(3.2)	125
29	軽量	23	0	23(71.9)	8(25.0)	1(3.1)	32
30	最大	3	51	54(84.4)	8(12.5)	2(3.1)	64
31	大型	22	7	29(80.6)	6(16.7)	1(2.8)	36
32	最小	26	6	23(62.2)	13(35.1)	1(2.7)	37
33	専門	5	18	32(86.5)	4(10.8)	1(2.7)	37
34	民営	59	3	62(51.2)	56(46.3)	3(2.5)	121
35	一元	2	35	37(80.4)	8(17.4)	1(2.2)	46
36	神格	0	23	23(46.9)	25(51.0)	1(2.0)	49
37	明文	1	26	27(49.1)	27(49.1)	1(1.8)	55

38	多様	160	14	174(95.6)	5(2.8)	3(1.7)	182
39	相対	0	43	43(70.5)	17(27.9)	1(1.6)	61
40	実用	5	28	33(22.5)	112(76.2)	2(1.4)	147
41	固定	35	9	44(57.9)	31(40.8)	1(1.3)	76
42	一般	111	40	151(80.3)	35(18.6)	2(1.1)	188
43	正当	1	223	224(72.3)	83(26.8)	3(1.0)	310
44	制度	1	38	39(34.5)	73(64.6)	1(0.9)	113
45	言語	1	24	41(35.3)	75(64.7)	0(0.0)	34
46	グループ	2	33	22(36.7)	38(63.3)	0(0.0)	43
47	細分	9	32	42(43.3)	55(56.7)	0(0.0)	116
48	組織	4	65	46(44.7)	57(55.3)	0(0.0)	141
49	映画	3	49	52(45.2)	63(54.8)	0(0.0)	115
50	モデル	2	26	24(48.0)	26(52.0)	0(0.0)	34
51	暗号	29	17	35(48.6)	37(51.4)	0(0.0)	103
52	商品	6	36	69(48.9)	72(51.1)	0(0.0)	97
53	私物	0	21	23(50.0)	23(50.0)	0(0.0)	26
54	問題	1	43	29(50.9)	28(49.1)	0(0.0)	48
55	普遍	1	20	23(52.3)	21(47.7)	0(0.0)	25
56	構造	10	12	27(55.1)	22(44.9)	0(0.0)	60
57	簡略	0	35	29(59.2)	20(40.8)	0(0.0)	72
58	立体	3	17	28(62.2)	17(37.8)	0(0.0)	23
59	理論	0	21	21(63.6)	12(36.4)	0(0.0)	24
60	会社	1	23	39(65.0)	21(35.0)	0(0.0)	27
61	高速	8	18	35(67.3)	17(32.7)	0(0.0)	29
62	体系	3	26	27(69.2)	12(30.8)	0(0.0)	57
63	デジタル	4	20	34(69.4)	15(30.6)	0(0.0)	50
64	ドラマ	2	21	24(70.6)	10(29.4)	0(0.0)	46
65	自動	23	4	44(71.0)	18(29.0)	0(0.0)	49
66	簡素	20	3	38(73.1)	14(26.9)	0(0.0)	44
67	単純	0	39	25(73.5)	9(26.5)	0(0.0)	60
68	定式	1	28	21(80.8)	5(19.2)	0(0.0)	49
69	無効	0	21	35(81.4)	8(18.6)	0(0.0)	23
70	グラフ	0	27	28(82.4)	6(17.7)	0(0.0)	29
71	数値	20	24	21(84.0)	4(16.0)	0(0.0)	62
72	近代	13	15	20(87.0)	3(13.0)	0(0.0)	45
73	初期	6	29	21(87.5)	3(12.5)	0(0.0)	52
74	文書	3	31	24(88.9)	3(11.1)	0(0.0)	49
75	合理	1	37	26(89.7)	3(10.3)	0(0.0)	52
76	映像	2	19	21(91.3)	2(8.7)	0(0.0)	33
77	類型	2	25	44(91.7)	4(8.3)	0(0.0)	39
78	データベース	0	24	27(93.1)	2(6.9)	0(0.0)	34
79	形骸	28	2	30(96.8)	1(3.2)	0(0.0)	31
80	高齢	23	0	23(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	23
81	老朽	22	0	22(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	22
82	慢性	2	23	25(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	25
83	重症	0	23	23(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	23

表 5-16 から分かるように、「安定化する」「活性化する」などの語において、使役用法の出現率は受身用法の出現率より高いが、最も高いものでも総動詞用法の 39.3%しか占めていない。また、「重症化する」「慢性化する」「老朽化する」などの 38 語は使役用法が見られなかった。

また、自動的事象を表す語が他動的事象を表したい場合、使役形によって表現でき、相補関係を持っていると考えられる。しかし、「安定化する」のように、使役用法が多

く、自動詞用法も多い語もあれば、「活性化する」のように、使役用法が多く、他動詞用法も多い語もあることが分かった。

#### 5.4 まとめ

本章では、日本語派生語「X化」の品詞的用法を考察した。

まず5.1節では「X化」の品詞的用法に関する先行研究を概観した。

続いて5.2節では、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』を中納言で検索し、100回以上出現した81語の「X化」を考察対象として、「X化」の品詞的用法を名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法、その他の四つの種類に分けて、「X化」の全体的な使用傾向および名詞的、形容詞的、動詞的に用いられやすい語を詳しく見てきた。

その結果、「X化」は全体的に名詞的用法が多く、形容詞的用法と動詞的用法がそれに次いでいる。名詞的用法の出現率が高いものには「効率化」「工業化」「民主化」「高度化」「軽量化」などがあり、よく「X化を図る／が進む」という文型と共起し、期待される目標を表すものが多いと考えられる。これに対して、名詞的用法の出現率が低いものには「本格化」「表面化」「顕在化」「具現化」「一般化」などがあり、ある物事が広がっていく趨勢を叙述するものが多いと考えられる。

形容詞的用法の出現率が50%以上のものには「市街化」「健全化」「温暖化」があり、「市街化区域」のようによく「X化+被修飾語」の形で現れる。

動詞的用法の出現率が高いものには「具現化」「表面化」「本格化」「顕在化」「正当化」などがあり、ある趨勢や現象を叙述する動的なものが多い。

次に5.3節ではBCCWJから抽出した2,512語の「X化」うち、自動詞用法と他動詞用法の出現数が合計で20件以上出現した83語を考察対象とし、「X化する」において、どのような語が自動詞として用いられやすく、どのような語が他動詞として用いられやすいかを考察し、さらに、受身用法に用いられやすい語と使役用法に用いられやすい語を見てきた。

5.3.2節では、「X化する」の自他性を考察するために、階層的クラスタ分析および正準判別分析を行い、83語を「自動詞優勢語群」「自他拮抗語群」「他動詞優勢語群」の三つのクラスタに分類した。自動詞優勢の語には「深刻化する」「慢性化する」「高齢化する」「重症化する」などがあり、自他拮抗の語には「専門化する」「日常化する」「巨大化する」「弱体化する」などがあり、他動詞優勢の語には「ドラマ化する」「構造化する」「立体化する」「簡素化する」などがあることが分かった。

次にどのような要因が「X化する」の自他性を影響しているかを分析した。「X化する」の自他性を影響要因として、1. 語基の品詞的な性質と2. 「X化する」の意味という二つが考えられる。

まず、自動詞用法として用いられやすい語は以下の三つの特徴を持つと考えられる。

1. 「深刻化する」「慢性化する」のような「形容詞語基+化」の語
2. 「形骸化する」「空洞化する」のような「C. 属性変化」を表す「名詞語基+化」の語
3. 田窪（1986）で指摘しているように、「重症化する」「複雑化する」などのような好ましくない事象を表す語

これに対して、他動詞用法として用いられやすいのは以下の三つの特徴を持つと考えられる。

1. 「私物化する」「神格化する」のような「名詞語基+化」の語、特に「グラフ化する」「数値化する」のように「B. 様式変化」と「制度化する」「構造化する」のように「D. 所有変化」を表す「名詞語基+化」の語
2. 「無効化する」「最適化する」のように「無-」「最-」で始まる形容詞語基と「化」の派生語
3. 田窪（1986）で言及されているように、「正当化する」「合理化する」のように好ましい事象を表す語

さらに、5.3.3節では、「X化する」の受身用法と使役用法の使用実態を見た。受身用法の出現率が高いものには「実用化する」「細分化する」「制度化する」「構造化する」などがあり、「動詞語基+化」と「D. 所有変化」を表す「名詞語基+化」の語が多い。これに対して、「重症化する」「沈静化する」「慢性化する」「肥大化する」などの9語は受身用法が見られなかった。これらは全て「形容詞語基+化」の語である。

使役用法の出現率が受身用法の出現率より高いものは「安定化する」「活性化する」があるが、最も高いものでも総動詞用法の39.3%しか占めていない。また、「重症化する」「慢性化する」「老朽化する」などの38語は使役用法が見られなかった。

## 第6章 中国語“X化”の品詞的用法

本章では第5章を受け、中国語の“X化”の品詞的用法を考察する。中国語の“X化”は下の例(6-1)の“機械化”のように、名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法、副詞的用法に用いることができる。

### (6-1) a. 名詞的用法

① 农业的機械化是我们的目标。

(農業の機械化は我々の目標だ。)

② 我们要不断实现农业機械化。

(我々は農業の機械化をどんどん実現しよう。)

### b. 形容詞的用法

① 搞一些機械化的养鸡场。

(機械化の養鶏場を作る。)

② 他的动作非常機械化。

(彼の動きはとても機械的だ。)

### c. 動詞的用法

笛卡儿把什么都機械化了，唯独保留下了“自我”。

(ルネ・デカルトは何もかもを機械化したが、ただ「自己」を残しておいた。)

### d. 副詞的用法

他機械化地拿起了筷子。

(彼は機械的に／機械のように箸を持ち上げた。)

さらに、“X化”が動詞として用いられる場合、能動-自動詞用法(“不及物动词”)、

能動-他動詞用法（“及物动词”）、また受身用法（“被动”）と使役用法（“使役”）が見られる。それぞれの用例をまとめると下の例（6-2）のようになる。

(6-2) a-1. 能動-自動詞用法

医美消费日趋低龄化。

（プチ整形は次第に低年齢化していく。）

a-2. 能動-他動詞用法

把复杂的问题简单化。

（複雑な問題を简单化する。）

b. 受身用法

校园暴力没有消失，只是被合理化了。

（校内暴力は消えたわけじゃない、ただ合理化された。）

c. 使役用法

让环境保护工作长期化。

（環境保護の仕事を長期化させる。）

しかし、それぞれの“X化”は名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法の出現率に偏りが見られる。例えば、“特殊化”と“一元化”と“扩大化”の使用実態を北京語言大学語言智能研究院のBCC語料庫で調べた結果をまとめると下の表6-1のようになる。

表 6-1 “特殊化” “一元化” “扩大化” の用法別頻度（括弧内は出現率%）（表 1-5 の再掲）

用法	特殊化	一元化	扩大化
名詞的	出現数：160（80.8） 例：杜绝搞特殊化。 （ <u>特殊化</u> を拒否する。）	出現数：26（13.3） 例：追求管理一元化。 （管理の <u>一元化</u> を求める。）	出現数：18（9.1） 例：有向扩大化发展的趋势。 （ <u>扩大化</u> に進む傾向がある。）
形容詞的	出現数：30（15.2） 例：防止干部特殊化问题。 （幹部の <u>特殊化</u> 問題を防ぐ。）	出現数：169（86.7） 例：坚持一元化领导。 （ <u>一元化</u> の指導を守り抜く。）	出現数：24（12.1） 例：犯了斗争扩大化的错误。 （ <u>闘争扩大化</u> のミスをした。）
動詞的	出現数：8（4.0） 例：不知不觉中被特殊化了。 （知らないうちに <u>特殊化</u> された。）	出現数：0（0.0）	出現数：156（78.8） 例：使战争进一步扩大化。 （戦争を更に <u>扩大化</u> させた。）

合計	198 (100)	195 (100)	198 (100)
----	-----------	-----------	-----------

表 6-1 から分かるように、“特殊化”のような名詞的用法が多い語もあれば、“一元化”のような形容詞的用法が多い語もあれば、“拡大化”のような動詞的用法が多い語もある。

一方、“X化”が動詞として用いられる場合、能動-自動詞用法、能動-他動詞用法、受身用法、使役用法が見られるが、使用傾向に偏りが見られる場合がある。まず、“X化”に自動詞と他動詞の使用に偏りが見られた語を示すと、下の表 6-2 のようになる。

表 6-2 “長期化”と“拟人化”の自動詞と他動詞の割合（括弧内は出現率%）（表 1-6 の再掲）

用法	長期化	拟人化
自動詞	出現数：69 (77.5) 例：学校的法制教育必须 <u>长期化</u> 。 (学校の法教育は <u>長期化</u> しなければならない。)	出現数：16 (25.8) 例：这个动画里汽车全部 <u>拟人化</u> 了。 (このアニメでは自動車全部 <u>擬人化</u> した。)
他動詞	出現数：20 (22.5) 例：企图将对伊制裁 <u>长期化</u> 。 伊拉克への制裁を <u>長期化</u> する。	出現数：46 (74.2) 例：他会把玩具 <u>拟人化</u> 。 (彼は人形を <u>擬人化</u> して遊ぶ。)
合計	89 (100)	62 (100)

表 6-2 から分かるように、“X化”が自動詞と他動詞用法に用いられるとき、“長期化”のような自動詞用法が多いものもあれば、“拟人化”のような他動詞用法が多いものもある。さらに、“X化”の受身用法と使役用法の使用傾向に偏りが見られたものを示すと下の表 6-3 のようになる。

表 6-3 “拟人化”と“复杂化”の受身と使役の割合（括弧内は出現率%）（表 1-7 の再掲）

用法	拟人化	复杂化
受身	出現数：6 (100.0) 例：在片中老鼠被 <u>拟人化</u> 成家中的儿子。 (動画の中で、鼠は息子に <u>擬人化</u> された。)	出現数：7 (10.0) 例：简单的东西都被 <u>复杂化</u> 了。 (簡単なものが <u>複雑化</u> された。)
使役	出現数：0 (0.0)	出現数：63 (90.0) 例：这种措施使治疗 <u>复杂化</u> 。 (この施術は治療を <u>複雑化</u> させる。)
合計	6 (100)	70 (1000)

表6-3から分かるように、“X化”が動詞用法に用いられるとき、“拟人化”のように使役用法が見られない語もあれば、“复杂化”のように使役用法がよく見られる語もある。

そのため、本章では、中国語派生語“X化”において、名詞的に用いられやすい語、形容詞的に用いられやすい語、動詞的に用いられやすい語を区別する。さらに、動詞用法を中心に、どのような語が自動詞に用いられやすく、どのような語が他動詞用法に用いられやすいかを分析する。最後に受身用法に用いられやすい“X化”および使役用法に用いられやすい“X化”を見る。

まず6.1節で“X化”の品詞的用法に関する先行研究を概観する。続いて6.2節では、“X化”の名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法の使用傾向を考察する。次に、6.3節では、動詞用法を中心に考察し、自動詞用法、他動詞用法、受身用法、使役用法の使用傾向を考察する。最後に6.4節では本章の内容をまとめる。

## 6.1 先行研究

本節では、中国語の“X化”の品詞的用法に関する先行研究を概観する。中国語では“X化”の動詞用法に焦点を置いて議論されている。以下、郭潮（1982）、胡松柏（1982）、周剛（1991）、刘经建（1994）、王丹（2012）の五編を概観する。

郭潮（1982）では、動詞“X化”の使用実態の特徴について論じている。まず、“一字語基+化”の派生語は下の例（6-3a）のように目的語を後続できるが、“二字語基+化”の派生語は例（6-3b）のように直接目的語を後続できず、例（6-3c）のように“把”構文に現れると、目的語を帯びるようになるとしている。

### (6-3) a. 美化-校园、简化-手续

（キャンパスを美化する、手続きを简单化する）

### b. \*扩大化-敌我矛盾、\*战争化-经济组织

### c. 把-敌我矛盾-扩大化、将-经济组织-战争化

（敵との対立を扩大化する、経済組織を战争化する）

（郭潮 1982 : 33、日本語訳は筆者による）

次に、“X化”は連体修飾用法に用いられるとき、下の例（6-4）のように被修飾語との間に“的”があってもなくても、意味が変わらないとしている。

(6-4)	现代化国防	现代化的国防	(近代化した国防)
	机械化农场	机械化的农场	(機械化した農場)
	军事化活动	军事化的活动	(軍事化した活動)
	专业化队伍	专业化的队伍	(プロ化したチーム)

( (2-39) の再掲)

これらの修飾構造の“X化Y”あるいは“X化的Y”は“偏正结构<sup>38</sup>”を成し、被修飾語Yは修飾語“X化”で表される属性を持つとしている。

続いて郭潮(1982)では、“X化”は目的語に用いることができ、さらに、“很、非常、十分、太、最、极”などの程度副詞の修飾を受けることができるとしている。まとめると以下の例(6-5)、(6-6)のようになる。

#### (6-5) 目的語用法

a. 现在很多人在提倡民族化、科学化、大众化了，这很好。

(人々は民族化、科学化、大衆化を提唱していて、よかった。)

b. 民粹派作家……只看到资本主义给劳动人民带来的贫困化。

(ナロードニキの作家は…資本主義が勤労大衆にもたらした貧困化のみが見える)

(郭潮 1982 : 34、日本語訳は筆者による)

#### (6-6) 程度副詞の修飾を受ける

a. 我虽然长着一个傻大个子，但是一脸呆气，轮廓极其一般化。

(ぼくは身長が高いが、馬鹿でシルエットがとても一般的である。)

b. ……电影没有真实感，因为太舞台化，台词、动作、表情都太舞台化。

(映画はリアルじゃない、舞台化されすぎたからだ。セリフ、動き、表情は全部舞台化されすぎる。)

(郭潮 1982 : 36、下線と日本語訳は筆者による)

胡松柏(1982)では、郭潮(1982)の観点に加えて、“X化”の用法は述語用法と連体修飾用法が中心的であると主張している。また、述語に用いられるとき受身の意味が含意されていて、連体修飾語に用いられるとき、下の例(6-7)のように「修飾」と「限定」

<sup>38</sup> 中国語の基本的な統語構造の一つ。二つの成分が「副次的なもの+中心となるもの」、あるいは「修飾(限定)するもの+修飾(限定)されるもの」の関係で結ばれる。

両方の役割を持つとしている。

- (6-7) a. 标准化设备 民族化形式 民主化制度 集体化领导  
 b. 标准化程度 民族化问题 民主化过程 集体化道路

(胡松柏 1982 : 76)

胡松柏(1982)では、(6-7a)の“X化”は「どのような(設備/形式/制度…)?’という質問に対する答えとして、被修飾語の性質や状態を修飾している。これに対して、(6-7b)の“X化”は「何の(程度/問題/過程…)?’に対する答えとして、被修飾語の範囲を限定していると主張している。

郭潮(1982)、胡松柏(1982)では、中国語の“X化”の特殊な用法を指摘しているが、“X化”の意味や自他性について論じられていないため、本研究ではこの点について詳しく考察する。

周剛(1991)では“X化”をV1(悪化, 明朗化)、V2(美化, 物化)、V3(深化, 标准化)の三つのグループに分け、それぞれのグループの意味を述べている。V1グループの“化”の意味は{+変化, -使役}、V2グループの“化”の意味は{-変化, +使役}、V3グループの“化”意味は{+変化, +使役}であるとしている。

また、この三つのグループの語は用法も異なるとしている。V1グループの語は第2章の(2-42)で示しているように、目的語を持たず、“把”構文にも現れないが、使役用法である“使”構文に現れる。V2グループの語は(2-43)のように、目的語を持つことができ、“把”構文に現れるが、“使”構文に現れない。V3グループの語は(2-44)のように、“一字語基+化”は目的語を直接後続でき、“一字語基+化”と“二字語基+化”は“把”構文と“使”構文のどちらにも現れる。

さらに、周剛(1991)では、“X化”は動詞であると考えられるが、名詞と形容詞の性質を持っていると主張している。まず、“X化”は①否定を表す場合、“不”ではなく、“非”を前接する、②直接に名詞を修飾できる、③直接に名詞の修飾を受けることができる、④数量詞と共起できる、⑤“加以”“受到”などの動詞の目的語になるの五つの点で名詞的性質を持つとしている。それぞれの用例は第2章の(2-45)～(2-49)に示している。

また、“X化”は、“更加”“极其”“太”などの程度副詞の修飾を受けることができることから、形容詞的性質を持つとしている。

本研究では、周剛(1991)を参考にし、中国語の“X化”の用法を名詞的用法、形容詞

的用法、動詞的用法に分けて考察する。また、“X化”が動詞用法に用いられる場合、どのような語が自動詞になりやすいか、どのような語が他動詞になりやすいかを詳しく考察する。

刘经建(1994)では、“二字語基+化”を考察対象とし、一般的な動詞と“二字語基+化”の相違点を考察している。まず、“二字語基+化”は①述語になる、②“了”をつけて完成を表す、③主語になるという点で一般的な動詞の用法と一致するとしている。これに対して、“二字語基+化”は①目的語を後続できないが、“把”構文に現れる<sup>39</sup>、②常に連体修飾語として使われている、③否定を表す場合下の例(6-8)のように“不”ではなく、“非”を前接するという点で一般的な動詞と異なると述べている。

(6-8) a. \*不正规化、\*不知识化、\*不专业化

b. 非正规化、非知识化、非专业化

以上四編の文献は“X化”が動詞としての特異な用法を論じている。これに対して、王丹(2012)は2001年の一年分の『人民日報』から“X化”が含まれている31,466文を考察し、そこから“X化”の使用傾向を数値によって指摘している。

王丹(2012)では、中国語における“X化”は下の例(6-9)のように連体修飾語、述語、目的語、主語、連用修飾語、補語、書名やタイトルに現れるという特殊な場合<sup>40</sup>の七つの用法があるとし、それぞれの用法の頻度を表6-4のようにまとめている。

(6-9) a. 連体修飾語

从总体上看，我国股份经济运行中的不规范之处主要是行政的力量太强，市场的力量太弱，资源配置的市场【化】机制还很不健全。

(資源配分の市場化メカニズムがまだ不健全である。)

b. 述語

南昌大学独立开发研制的“微胶囊粉末油脂”、“马铃薯脱毒快繁”技术均已产业【化】，对江西农业的发展和农业产业的调整产生了重大的影响。(南昌大学が開発した…は、技術は全部産業化して、…)

<sup>39</sup> 中国語では一般的に、“洗(衣服)”“打(人)”のような目的語を持つ他動詞のみが“把”構文に現れる。例“把衣服洗了(服を洗った)”“他把小明打了(小明さんを殴った)”。

<sup>40</sup> 原文：“X化”在具体的句子中可以充当定语、谓语、宾语、主语、状语、补语，甚至可以在一些书名、标题、注释等特殊情况中出现。

## c. 目的語

叶文虎委员说，小城镇的建设，首先是功能的建设，而不是硬件的建设。大家往往有一种误解，以为是先要把基础设施建起来，才是城镇【化】。

(インフラを整えたからこそ、都市化だと誤解されている。)

## d. 主語

反全球【化】是全球化的必然伴生物，其影响与规模已构成另一种全球化，值得深入观察与研究。

(反グローバル化はグローバル化に伴う付随物であり、…)

## e. 連用修飾語

有些地方一些同志把国有经济有进有退、有所为有所不为的战略性调整，简单【化】地演绎为“国退民进”，提出“国有企业要从一切竞争性领域退出”，有的甚至下指标，提任务，定时限，要求国有企业从竞争性领域全部退出。

(…ということを簡単に“国退民进”ということに理解している、…)

## f. 補語

“一府两院”推行执法责任制的工作千头万绪，涉及千家万户，倘不选择重点，事无巨细，漫天撒网，就会使该项工作变得庸俗【化】。

(優先順位を問わず、すべてのことに関心を持たせると、この仕事を俗化するように変化させる)

## g. その他

国家农业高新技术产业示范区管委会副主任、西北大学、西北农林科技大学教授丁文锋博士撰写的《经济现代【化】模式研究》一书，日前由经济科学出版社出版。该书全面、系统地论述了经济现代化模式。

(丁文锋博士が書かれた『経済現代化パターン研究』という本は、経済科学出版社によって出版された。)

(王丹 2012 : 38-47、下線と日本語訳は筆者による)

表 6-4 王丹 (2012) の表 2-9 功能总表 (表 2-6 の再掲)

タイプ	出現数	出現率%	“X化”の語数
連体修飾語	14820	47.098	503
述語	7828	24.878	306
目的語	6247	19.853	405
主語	1926	6.121	153
連用修飾語	531	1.688	77
その他	104	0.331	46
補語	10	0.032	9

王丹 (2012) では、中国語“X化”の使用実態を数値によって指摘し、全体的な使用傾向を示している。しかし、連体修飾語、述語、主語や目的語に用いられやすい具体的な語が言及されていない。そのため、本研究では、王丹 (2012) を踏まえて、名詞的、形容詞的、動詞的用法に用いられやすい“X化”を詳しく考察する。

## 6.2 中国語の“X化”の品詞的用法

本節では中国語“X化”の使用実態を考察する。まず全体的に、中国語の“X化”はどのような用法に用いられやすいかを見て、それから、具体的にどのような語が名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法に用いられやすいかを考察する。まず、次の6.2.1節で“X化”の考察方法を説明する。

### 6.2.1 “X化”の考察方法

中国語の“X化”の使用実態を考察するために、総語数約150億語の北京語言大学語言智能研究院のBCC語料庫を利用した。BCC語料庫は日本語のコーパスBCCWJとは異なり、すべての“X化”を抽出することができないため、“語基+化”の形で一語一語検索する必要がある。そのため、まず日本語「X化」の検索結果から、100回以上出現した81語の「X化」のうち、中国語にも同形語があり、かつ中国語のコーパスBCC語料庫において100回以上出現したものを23語抽出した。次に、筆者の内省で中国語で多用される語を羅列し、このうち日本語の同形語はBCCWJにおいて50件以下出現したものを20語抽出した。続いて、中国語にあるが日本語にない5語を選出し、最後に日中両語に同形語でありながら、意味が異なる2語を考察対象に入れ、合わせて50語になる。50語の“X化”

と選出基準をまとめると下の表 6-5 のようになる。

表 6-5 中国語 50 語の“X化”と選出基準

中 > 100 回 日 > 100 回	中 > 50 回 日 < 50 回	中 > 50 日 = 0	日中同形異義
正常化、长期化、表面化、复杂化、民营化、明确化、最小化、多样化、国际化、具体化、标准化、一般化、合理化、制度化、工业化、机械化、最大化、自动化、一元化、老龄化、城市化、全球化、信息化 <sup>41</sup> (23 語)	扩大化、白热化、多元化、平均化、私有化、简单化、民族化、沙漠化、理论化、拟人化、理想化、概念化、科学化、个性化、大众化、全国化、国家化、特殊化、口语化、公有化 (20 語)	低龄化、庸俗化、常规化、完善化、电气化 (5 語)	深刻化、现代化 (2 語)

これらの 50 語を中国語の考察対象とし、BCC 語料庫の多領域というカテゴリで用例を検索した。

なお、BCC 語料庫において一番多く出現した“现代化”は 115,426 件もあり、これを含めて 1 万件以上出現したものは 10 語あった。このような出現数の多いものを全て手作業で分類するのは困難であるため、各語の例文の中からランダムで 200 例を抽出して考察を行った。

一方、中国語の場合は、「が」や「を」のような格助詞がないため、品詞的用法や自他性を判断するのが日本語よりやや複雑である。まず、“现代化是我们的目标”のように“X化”は“是”などの動詞が後続する場合、主語と判断する。次に“我们的目标是现代化”のように“X化”は“是”などの動詞に後続する場合、目的語と判断する。主語用法と目的語用法を合わせて名詞的用法と称する。

続いて“商品很个性化”のように、“X化”が“很”などの程度副詞の修飾を受け、名詞を修飾するものを形容詞述語と判断し、“机械化(的)设备”のように“X化”が名詞を修飾/限定しているものを連体修飾語と判断し、“变得复杂化”のように、“X化”が結果補語として名詞を修飾するものを補語と判断する。形容詞述語、連体修飾語、補語を合わせて形容詞的用法と称する。

さらに、“商品日益个性化了”のように、“X化”が“日益”などのような副詞や“了”

<sup>41</sup> “老龄化”“城市化”“全球化”“信息化”の 4 語はそれぞれ日本語の「高齢化」「都市化」「グローバル化」「情報化」と対応する。

などのようなアスペクトマーカ―と共起するものを動詞用法と判断する。“他机械化地吃着”のように“X化”は動詞を修飾している場合を連用修飾語と判断し、副詞的用法と称する。なお、書名や文書のタイトルに現れるものをその他の類に入れる。

以上の判断基準をまとめると下の表6-6のようになる。

表6-6 中国語“X化”の品詞的用法の判断基準

	品詞的用法	判断基準・例文
名詞的用法	主語	“X化”＋動詞（“是／发展／遏制……”） 例：现代化是我们的目标。（近代化は我々の目標だ。）
	目的語	動詞（“是／实现／达到／趋向／走向／完成／得到／导致／避免／遭到／防止／促进……”）＋“X化” 例：我们的目标是现代化。（我々の目標は近代化だ。）
形容詞的用法	形容詞述語	名詞＋程度副詞（“很／非常／十分／太／最／极……”）＋“X化” 例：商品很个性化。（商品はとても個性化されている。）
	連体修飾語	“X化”＋（的）名詞 例：机械化（的）设备（機械化した設備）
	補語	变得＋“X化” 例：不要让工作变得复杂化。（仕事を複雑化させないで）
動詞的用法	動詞述語	（副詞（“日益、应该、都、更、进一步……”）＋）“X化”＋アスペクトマーカ―（“了／已经／着／正在／过……”） 例：商品日益个性化了。（商品はだんだん個性化していく。）
副詞的用法	連用修飾語	“X化”＋“地”＋動詞 例：他机械化地吃着。（彼は機械的に食べている。）
	その他	書名や文章のタイトルなど 例：《数理统计与标准化》1983年版

以下、6.2.2節では、“X化”の全体的な品詞的用法を考察し、6.2.3節では「X化」の名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法を具体的に考察する。

## 6.2.2 “X化”の全体的な使用傾向

本節では表6-5でまとめた50語を考察対象とし、BCC語料庫から抽出した例文から“X化”の全体的な使用傾向を見る。

BCC語料庫から検索した異なり50語の延べ9,252文の調査結果をまとめると、下の表6-7のようになる。

表 6-7 中国語“X化”の品詞的用法の分布状況

タイプ		出現数	出現率	語数	
名詞的用法 2,694回 (29.1%)	主語	534	5.8%	50	
	目的語	2,160	23.4%	50	
形容詞的用法 3,916回 (42.3%)	補語	40	0.4%	14	
	形容詞述語	413	4.5%	33	
	連体修飾用法 3,463回 (37.4%)	X化了的Y	20	0.2%	12
		X化的Y	1,321	14.3%	49
X化Y		2,122	22.9%	50	
動詞的用法		2,258	24.4%	47	
副詞的用法 (連用修飾語)		139	1.5%	28	
その他		245	2.7%	46	
合計		9,252	100.0%	50	

以上の表 6-7 から分かるように、BCC 語料庫から抽出した 50 語の“X化”の用法において、名詞的用法が 29.1%、形容詞的用法が 42.3%、動詞的用法が 24.1%を占めており、形容詞的用法として用いられる頻度が最も高く、名詞的用法と動詞的用法がそれに次いでいる。さらに、名詞的用法のうち、主語より目的語に用いられる頻度が高い。また、形容詞的用法のうち、連体修飾用法が最も多く、形容詞述語と補語の用法がそれに次ぐ。連体修飾用法のうち、“(坚持)一元化领导”のような“X化Y”という形式の出現数が最も多く、“大众化的审美要求”のような“X化的Y”の形式の出現数がそれに次ぎ、“私有化了的银行”のような“X化了的Y”の形式はほとんど見られなかった。

また、“现代化”“信息化”“一元化”の三語には動詞用法が見られなかった。

一方、日本語では副詞的用法の語例は一件しか見られなかったが、中国語の方では、およそ半分以上の 28 語の“X化”に 139 件の副詞的用法が見られた。

次に、中国語において名詞的、形容詞的、動詞的に用いられやすい“X化”を具体的に考察する。まず 50 語の“X化”使用状況をまとめると下の表 6-8 のようになる。

表 6-8 中国語“X化”の品詞的用法の分布状況

X化	総語数	確認数	名詞的		形容詞的			動詞的	副詞的	その他		
			主	目	補	形述	連体修飾節					
							X化了的Y				X化的Y	X化Y
1 現代	115,426	200	12	32	0	2	0	34	118	0	0	2

2	信息	34,651	200	32	81	0	0	0	12	63	0	0	12
3	多元	17,142	200	12	27	0	5	0	39	60	49	4	4
4	工业	16,470	200	13	55	0	0	0	17	94	7	10	4
5	标准	16,071	200	20	43	0	2	1	10	72	26	1	25
6	国际	14,420	200	11	43	0	5	0	35	67	28	4	7
7	自动	13,715	200	9	43	0	0	0	10	99	2	5	32
8	多样	13,022	200	8	43	1	15	0	56	44	24	3	6
9	城市	12,036	200	23	32	0	0	0	27	81	34	0	3
10	全球	11,283	200	45	27	0	0	0	41	56	25	1	5
11	机械	9,694	200	4	82	1	4	0	12	65	4	24	4
12	个性	8,918	200	10	16	0	8	0	55	91	12	4	4
13	制度	8,372	200	2	79	0	0	0	27	32	49	1	10
14	科学	6,887	200	6	87	0	11	0	23	40	26	1	6
15	最大	5,228	200	7	137	0	0	0	18	10	22	3	3
16	正常	4,840	200	8	75	1	0	0	6	11	97	0	2
17	大众	3,808	200	14	42	0	16	1	50	62	13	1	1
18	合理	3,562	200	5	33	0	9	0	11	101	34	2	5
19	私有	3,407	200	24	67	0	0	3	19	41	38	0	8
20	具体	3,078	200	7	57	0	14	1	16	11	88	3	3
21	老龄	3,061	200	22	38	0	1	0	12	76	45	0	6
22	电气	2,463	200	2	34	0	0	0	9	143	4	0	8
23	简单	2,152	200	6	35	7	25	0	36	19	51	13	8
24	白热	1,510	200	1	35	2	9	3	32	31	85	1	1
25	理想	1,351	200	3	14	1	56	1	56	21	40	4	4
26	沙漠	1,035	200	37	43	0	0	0	25	62	23	0	10
27	扩大	799	200	1	17	0	0	0	17	7	156	2	0
28	一元	790	200	7	19	0	6	0	30	133	0	4	1
29	特殊	753	200	3	157	0	4	2	13	11	8	0	2
30	民族	723	200	26	54	0	8	2	45	33	30	0	2
31	复杂	628	200	7	18	2	10	0	6	4	153	0	0
32	民营	627	200	17	53	0	1	0	23	42	61	0	3
33	概念	570	200	5	46	6	16	1	68	24	25	7	2
34	一般	565	200	3	42	4	35	0	54	22	21	18	1
35	庸俗	549	200	13	28	0	0	2	19	12	125	0	1
36	最小	545	200	8	65	0	0	0	17	19	81	2	8
37	表面	435	200	2	33	3	31	0	39	9	79	4	0
38	拟人	378	200	7	14		6	1	65	31	68	6	2
39	低龄	334	200	8	23	1	10	0	11	30	114	2	1
40	理论	257	200	4	25	0	32	2	51	17	67	0	2
41	口语	257	200	14	39	6	47	0	54	22	12	0	6
42	长期	229	200	4	26	0	7	0	21	9	129	3	1
43	明确	191	191	7	32	0	7	0	12	3	124	0	6
44	常规	129	129	4	25	3	2	0	31	20	41	0	3
45	公有	124	124	8	37	0	0	0	14	51	13	0	1
46	国家	115	115	22	50	0	0	0	11	11	15	0	6
47	平均	112	112	6	22	2	3	0	16	13	44	0	6
48	完善	94	94	10	23	0	2	0	5	14	34	0	6
49	全国	51	51	4	4	0	0	0	11	14	10	6	2
50	深刻	36	36	1	8	0	4	0	0	1	22	0	0

また、特定の語と共起する傾向がある“X化”が見られる。まとめると下の例(6-10)のようになる。

(6-10) 正常化—关系(84)/邦交(78)正常化 (200件のうち162件)

合理化—合理化建议	(200 件のうち 94 件)
一元化—一元化领导	(200 件のうち 92 件)
特殊化—搞特殊化	(200 件のうち 92 件)
电气化—电气化铁路／县	(200 件のうち 90 件)
公有化—公有化程度	(124 件のうち 51 件)
国家化—军队国家化	(115 件のうち 58 件)

表 6-8 から分かるように、ほとんどの“X化”は名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法を持っているが、それぞれの用法に使用頻度の偏りが見られる。これら 50 語の“X化”の使用分布を見やすくするために、それぞれの語の名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法、副詞的用法の出現率を算出し、その結果を次のページの図 6-1 に示す。

図 6-1 から分かるように、“特殊化”“最大化”などのような名詞的用法の出現率が高い語もあれば、“一元化”“现代化”などのような形容詞的用法の出現率が高い語もあれば、“扩大化”“复杂化”などのような動詞的用法の出現率が高い語もある。また、“机械化”“简单化”のような副詞的用法がある語もあれば、“庸俗化”“正常化”のような副詞的用法がない語もある。

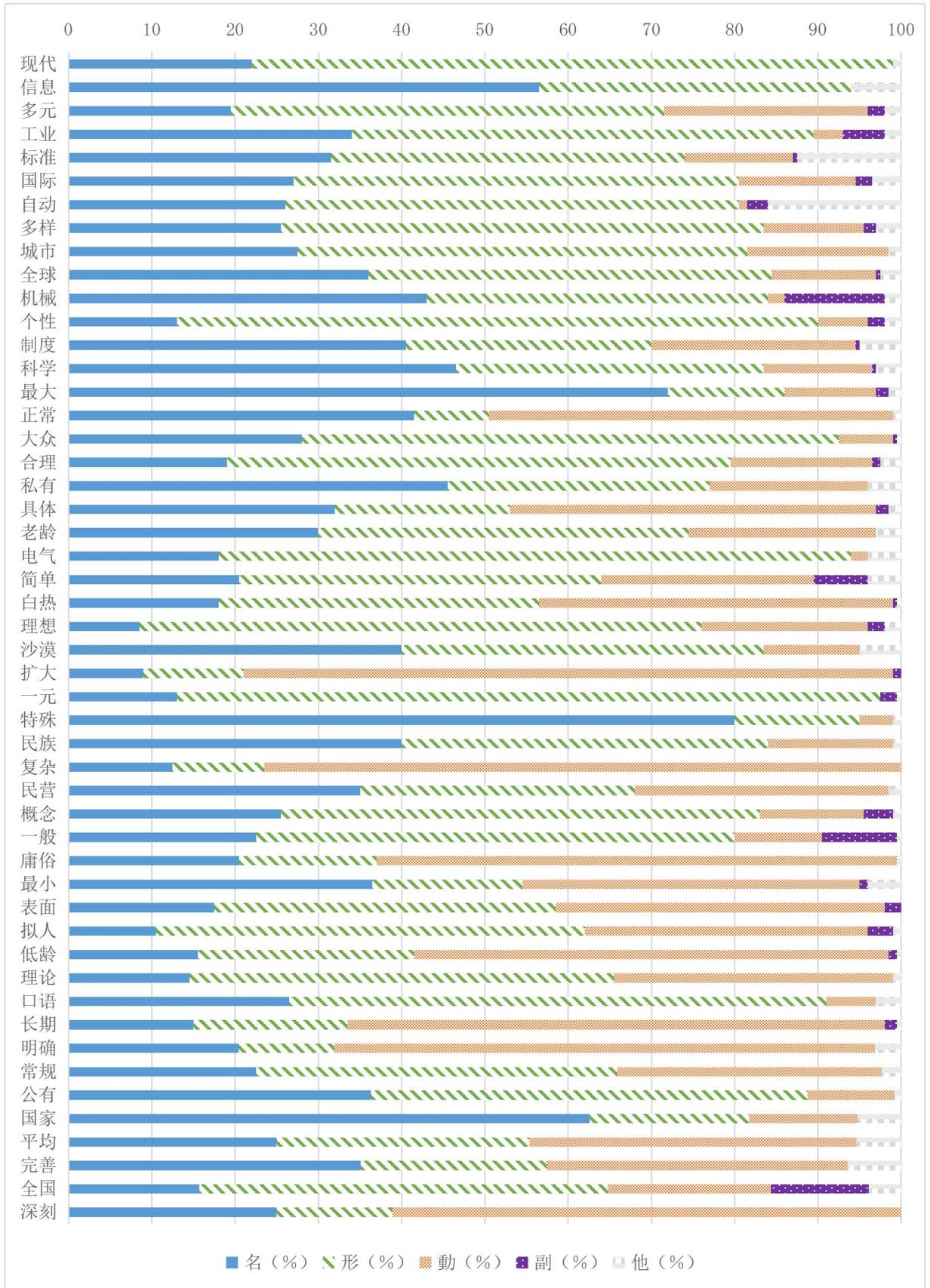


图 6-1 中国語“X化”の品詞的使用状況分布图

次に、名詞的用法に用いられやすい語、形容詞的用法に用いられやすい語、動詞的に用いられやすい語、副詞的に用いることができる語を見る。

### 6.2.3 “X化”の具体的な使用傾向

本節では、中国語の“X化”において、名詞的、形容詞的、動詞的に用いられやすいを具体的に見る。

まず、“X化”を名詞的用法に用いられやすい順にまとめると、次の表6-9のようになる。

表6-9 “X化”における名詞的用法の出現率の高い順(%)

	X化	用例	名詞		名(%)	形(%)	動(%)	副(%)	他(%)
			主	目					
1	特殊	200	3	157	160(80.0)	30(15.0)	8(4.0)	0(0.0)	2(1.0)
2	最大	200	7	137	144(72.0)	28(14.0)	22(11.0)	3(1.5)	3(1.5)
3	信息	200	32	81	113(56.5)	75(37.5)	0(0.0)	0(0.0)	12(6.0)
4	科学	200	6	87	93(46.5)	74(37.0)	26(13.0)	1(0.5)	6(3.0)
5	私有	200	24	67	91(45.5)	63(31.5)	38(19.0)	0(0.0)	8(4.0)
6	机械	200	4	82	86(43.0)	82(41.0)	4(2.0)	24(12.0)	4(2.0)
7	正常	200	8	75	83(41.5)	18(9.0)	97(48.5)	0(0.0)	2(1.0)
8	制度	200	2	79	81(40.5)	59(29.5)	49(24.5)	1(0.5)	10(5.0)
9	沙漠	200	37	43	80(40.0)	87(43.5)	23(11.5)	0(0.0)	10(5.0)
10	民族	200	26	54	80(40.0)	88(44.0)	30(15.0)	0(0.0)	2(1.0)
11	最小	200	8	65	73(36.5)	36(18.0)	81(40.5)	2(1.0)	8(4.0)
12	全球	200	45	27	72(36.0)	97(48.5)	25(12.5)	1(0.5)	5(2.5)
13	国家	115	22	50	72(36.0)	22(19.1)	15(13.0)	0(0.0)	6(5.2)
14	民营	200	17	53	70(35.0)	66(33.0)	61(30.5)	0(0.0)	3(1.5)
15	工业	200	13	55	68(34.0)	111(55.5)	7(3.5)	10(5.0)	4(2.0)
16	具体	200	7	57	64(32.0)	42(21.0)	88(44.0)	3(1.5)	3(1.5)
17	标准	200	20	43	63(31.5)	85(42.5)	26(13.0)	1(0.5)	25(12.5)
18	老龄	200	22	38	60(30.0)	89(44.5)	45(22.5)	0(0.0)	6(3.0)
19	大众	200	14	42	56(28.0)	129(64.5)	13(6.5)	1(0.5)	1(0.5)
20	城市	200	23	32	55(27.5)	108(54.0)	34(17.0)	0(0.0)	3(1.5)
21	国际	200	11	43	54(27.0)	107(53.5)	28(14.0)	4(2.0)	7(3.5)
22	口语	200	14	39	53(26.5)	129(64.5)	12(6.0)	0(0.0)	6(3.0)
23	自动	200	9	43	52(26.0)	109(54.5)	2(1.0)	5(2.5)	32(16.0)
24	多样	200	8	43	51(25.5)	116(58.0)	24(12.0)	3(1.5)	6(3.0)
25	概念	200	5	46	51(25.5)	115(57.5)	25(12.5)	7(3.5)	2(1.0)
26	一般	200	3	42	45(22.5)	115(57.5)	21(10.5)	18(9.0)	1(0.5)
27	公有	124	8	37	45(36.3)	65(52.4)	13(10.5)	0(0.0)	1(0.8)
28	现代	200	12	32	44(22.0)	154(77.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(1.0)

29	简单	200	6	35	41(20.5)	87(43.5)	51(25.5)	13(6.5)	8(4.0)
30	庸俗	200	13	28	41(20.5)	33(16.5)	125(62.5)	0(0.0)	1(0.5)
31	多元	200	12	27	39(19.5)	104(52.0)	49(24.5)	4(2.0)	4(2.0)
32	明确	191	7	32	39(19.5)	22(11.5)	124(64.9)	0(0.0)	6(3.1)
33	合理	200	5	33	38(19.0)	121(60.5)	34(17.0)	2(1.0)	5(2.5)
34	电气	200	2	34	36(18.0)	152(76.0)	4(2.0)	0(0.0)	8(4.0)
35	白热	200	1	35	36(18.0)	77(38.5)	85(42.5)	1(0.5)	1(0.5)
36	表面	200	2	33	35(17.5)	82(41.0)	79(39.5)	4(2.0)	0(0.0)
37	完善	94	10	23	33(35.1)	21(22.3)	34(36.2)	0(0.0)	6(6.4)
38	低龄	200	8	23	31(15.5)	52(26.0)	114(57.0)	2(1.0)	1(0.5)
39	长期	200	4	26	30(15.0)	37(18.5)	129(64.5)	3(1.5)	1(0.5)
40	理论	200	4	25	29(14.5)	102(51.0)	67(33.5)	0(0.0)	2(1.0)
41	常规	129	4	25	29(14.5)	56(43.4)	41(31.8)	0(0.0)	3(2.3)
42	平均	112	6	22	28(14.0)	34(30.4)	44(39.3)	0(0.0)	6(5.4)
43	个性	200	10	16	26(13.0)	154(77.0)	12(6.0)	4(2.0)	4(2.0)
44	一元	200	7	19	26(13.0)	169(84.5)	0(0.0)	4(2.0)	1(0.5)
45	复杂	200	7	18	25(12.5)	22(11.0)	153(76.5)	0(0.0)	0(0.0)
46	拟人	200	7	14	21(10.5)	103(51.5)	68(34.0)	6(3.0)	2(1.0)
47	扩大	200	1	17	18(9.0)	24(12.0)	156(78.0)	2(1.0)	0(0.0)
48	理想	200	3	14	17(8.5)	135(67.5)	40(20.0)	4(2.0)	4(2.0)
49	深刻	36	1	8	9(25.0)	5(13.9)	22(61.1)	0(0.0)	0(0.0)
50	全国	51	4	4	8(4.0)	25(49.0)	10(19.6)	6(11.7)	2(3.9)

表6-9から分かるように、中国語の50語の“X化”のうち、“特殊化”“最大化”“信息化”“科学化”“私有化”などの語は名詞的に用いられやすく、“拟人化”“扩大化”“理想化”“深刻化”“全国化”などの語は名詞的に用いられにくい。

また、“全球化”以外、中国語の50語の“X化”は全体的に主語より目的語として使われる用例が多い。また、名詞的用法が総用法の半分以上占めている“X化”は3語ある。これに対して、名詞的用法が総用法の20%以下の“X化”は22語ある。

名詞的用法においてよく見られる例文を示すと下の例(6-11)のようになる。

- (6-11) a. X化 是重要组成部分/是目标……  
 b. 实现/要求/推行/推广/推向/运行/需要/做到/成为/走向/亟须/促进/探索/形成/避免 X化  
 c. 向X化发展/以X化为目标/由X化到……

次に、形容詞的用法に用いられやすい語をまとめると、下の表6-10のようになる。

表6-10 “X化”における形容詞的用法の出現率の高い順(%)

	X化	用例数	名(%)	形容詞					形(%)	動(%)	副(%)	他(%)
				補	述	連体修飾節						
						X 化 了 的 Y	X 化 的 Y	X化Y				
1	一元	200	26(13.0)	0	6	0	30	133	169(84.5)	0(0.0)	4(2.0)	1(0.5)
2	现代	200	44(22.0)	0	2	0	34	118	154(77.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(1.0)
3	个性	200	26(13.0)	0	8	0	55	91	154(77.0)	12(6.0)	4(2.0)	4(2.0)
4	电气	200	36(18.0)	0	0	0	9	143	152(76.0)	4(2.0)	0(0.0)	8(4.0)
5	理想	200	17(8.5)	1	56	1	56	21	135(67.5)	40(20.0)	4(2.0)	4(2.0)
6	大众	200	56(28.0)	0	16	1	50	62	129(64.5)	13(6.5)	1(0.5)	1(0.5)
7	口语	200	53(26.5)	6	47	0	54	22	129(64.5)	12(6.0)	0(0.0)	6(3.0)
8	合理	200	38(19.0)	0	9	0	11	101	121(60.5)	34(17.0)	2(1.0)	5(2.5)
9	多样	200	51(25.5)	1	15	0	56	44	116(58.0)	24(12.0)	3(1.5)	6(3.0)
10	概念	200	51(25.5)	6	16	1	68	24	115(57.5)	25(12.5)	7(3.5)	2(1.0)
11	一般	200	45(22.5)	4	35	0	54	22	115(57.5)	21(10.5)	18(9.0)	1(0.5)
12	工业	200	68(34.0)	0	0	0	17	94	111(55.5)	7(3.5)	10(5.0)	4(2.0)
13	自动	200	52(26.0)	0	0	0	10	99	109(54.5)	2(1.0)	5(2.5)	32(16.0)
14	城市	200	55(27.5)	0	0	0	27	81	108(54.0)	34(17.0)	0(0.0)	3(1.5)
15	国际	200	54(27.0)	0	5	0	35	67	107(53.5)	28(14.0)	4(2.0)	7(3.5)
16	公有	124	45(36.3)	0	0	0	14	51	65(52.4)	13(10.5)	0(0.0)	1(0.8)
17	多元	200	39(19.5)	0	5	0	39	60	104(52.0)	49(24.5)	4(2.0)	4(2.0)
18	拟人	200	21(10.5)	0	6	1	65	31	103(51.5)	68(34.0)	6(3.0)	2(1.0)
19	理论	200	29(14.5)	0	32	2	51	17	102(51.0)	67(33.5)	0(0.0)	2(1.0)
20	全国	51	8(4.0)	0	0	0	11	14	25(49.0)	10(19.6)	6(11.8)	2(3.9)
21	全球	200	72(36.0)	0	0	0	41	56	97(48.5)	25(12.5)	1(0.5)	5(2.5)
22	老龄	200	60(30.0)	0	1	0	12	76	89(44.5)	45(22.5)	0(0.0)	6(3.0)
23	民族	200	80(40.0)	0	8	2	45	33	88(44.0)	30(15.0)	0(0.0)	2(1.0)
24	简单	200	41(20.5)	7	25	0	36	19	87(43.5)	51(25.5)	13(6.5)	8(4.0)
25	沙漠	200	80(40.0)	0	0	0	25	62	87(43.5)	23(11.5)	0(0.0)	10(5.0)
26	常规	129	29(14.5)	3	2	0	31	20	56(43.4)	41(31.8)	0(0.0)	3(2.3)
27	标准	200	63(31.5)	0	2	1	10	72	85(42.5)	26(13.0)	1(0.5)	25(12.5)
28	机械	200	86(43.0)	1	4	0	12	65	82(41.0)	4(2.0)	24(12.0)	4(2.0)
29	表面	200	35(17.5)	3	31	0	39	9	82(41.0)	79(39.5)	4(2.0)	0(0.0)
30	白热	200	36(18.0)	2	9	3	32	31	77(38.5)	85(42.5)	1(0.5)	1(0.5)
31	信息	200	113(56.5)	0	0	0	12	63	75(37.5)	0(0.0)	0(0.0)	12(6.0)
32	科学	200	93(46.5)	0	11	0	23	40	74(37.)	26(13.0)	1(0.5)	6(3.0)
33	民营	200	70(35.0)	0	1	0	23	42	66(33.)	61(30.5)	0(0.0)	3(1.5)
34	私有	200	91(45.5)	0	0	3	19	41	63(31.5)	38(19.0)	0(0.0)	8(4.0)
35	平均	112	28(14.0)	2	3	0	16	13	34(30.4)	44(39.3)	0(0.0)	6(5.4)
36	制度	200	81(40.5)	0	0	0	27	32	59(29.5)	49(24.5)	1(0.5)	10(5.0)
37	低龄	200	31(15.5)	1	10	0	11	30	52(26.0)	114(57.0)	2(1.0)	1(0.5)
38	完善	94	33(35.1)	0	2	0	5	14	21(22.3)	34(36.2)	0(0.0)	6(6.4)
39	具体	200	64(32.0)	0	14	1	16	11	42(21.0)	88(44.0)	3(1.5)	3(1.5)
40	国家	115	72(36.0)	0	0	0	11	11	22(19.1)	15(13.0)	0(0.0)	6(5.2)
41	长期	200	30(15.0)	0	7	0	21	9	37(18.5)	129(64.5)	3(1.5)	1(0.5)
42	最小	200	73(36.5)	0	0	0	17	19	36(18.0)	81(40.5)	2(1.0)	8(4.0)
43	庸俗	200	41(20.5)	0	0	2	19	12	33(16.5)	125(62.5)	0(0.0)	1(0.5)
44	特殊	200	160(80.0)	0	4	2	13	11	30(15.0)	8(4.0)	0(0.0)	2(1.0)
45	最大	200	144(72.0)	0	0	0	18	10	28(14.0)	22(11.0)	3(1.5)	3(1.5)
46	深刻	36	9(25.0)	0	4	0	0	1	5(13.9)	22(61.1)	0(0.0)	0(0.0)
47	扩大	200	18(9.0)	0	0	0	17	7	24(12.0)	156(78.0)	2(1.0)	0(0.0)

48	明确	191	39(19.5)	0	7	0	12	3	22(11.5)	124(64.9)	(0.0)	6(3.1)
49	复杂	200	25(12.5)	2	10	0	6	4	22(11.0)	153(76.5)	0(0.0)	0(0.0)
50	正常	200	83(41.5)	1	0	0	6	11	18(9.0)	97(48.5)	0(0.0)	2(1.0)

表 6-10 から分かるように、“一元化”“现代化”“个性化”“电气化”“理想化”などの語は形容詞的に用いられる頻度が高いのに対して、“深刻化”“扩大化”“明确化”“复杂化”“正常化”などの語は形容詞的に用いられる頻度がより低い。

さらに、“简单化”“概念化”“口语化”などの 14 語は下の例 (6-12) のように、結果補語に用いられることができる。

(6-12) a. 灯具设计变得简单化。

(照明器具の設計は簡単になった。)

b. 把革命领袖演得概念化。

(革命の指導者を概念のように演じた。)

c. 台词写得口语化，但每句话都包含思考。

(セリフは口語的に書かれたが、意味深い。)

また、“理想化”“口语化”“一般化”“理论化”などの語は下の例 (6-13) のように、程度副詞の修飾を受けて、形容詞述語として使われる用例数が少なくない。

(6-13) a. 总觉得我是一个非常理想化的人。

(どうやら自分がとても理想的な人間だと思う。)

b. 进入 18 世纪，散文更加口语化。

(18 世紀に入ってから、散文がさらに口語的だ。)

c. 这个旅社名字太一般化。

(この旅行会社の名前は一般的すぎる。)

なお、“X 化”の形容詞的用法は“私有化了的企業 (私有化された企業)”という“X 化了的 Y”の形式もあれば、“简单化的认知 (簡単な認識)”という“X 化的 Y”の形式もあれば、“现代化建设 (近代化の建設)”という“X 化 Y”の形式もある。また、表 6-10 で示したように、最も多く見られた形式は“X 化 Y”である。

次に、動詞的用法に用いられやすい語をまとめると、下の表 6-11 のようになる。

表 6-11 “X化”における動詞的用法の出現率の高い順 (%)

	X化	用例数	名 (%)	形 (%)	動 (%)	副 (%)	他 (%)
1	扩大	200	18(9.0)	24(12.0)	156(78.0)	2(1.0)	0(0.0)
2	复杂	200	25(12.5)	22(11.0)	153(76.5)	0(0.0)	0(0.0)
3	明确	191	39(19.5)	22(11.5)	124(64.9)	0(0.0)	6(3.1)
4	长期	200	30(15.0)	37(18.5)	129(64.5)	3(1.5)	1(0.5)
5	庸俗	200	41(20.5)	33(16.5)	125(62.5)	0(0.0)	1(0.5)
6	深刻	36	9(25.0)	5(13.9)	22(61.1)	0(0.0)	0(0.0)
7	低龄	200	31(15.5)	52(26.0)	114(57.0)	2(1.0)	1(0.5)
8	正常	200	83(41.5)	18(9.0)	97(48.5)	0(0.0)	2(1.0)
9	具体	200	64(32.0)	42(21.0)	88(44.0)	3(1.5)	3(1.5)
10	白热	200	36(18.0)	77(38.5)	85(42.5)	1(0.5)	1(0.5)
11	最小	200	73(36.5)	36(18.0)	81(40.5)	2(1.0)	8(4.0)
12	表面	200	35(17.5)	82(41.0)	79(39.5)	4(2.0)	0(0.0)
13	平均	112	28(14.0)	34(30.4)	44(39.3)	0(0.0)	6(5.4)
14	完善	94	33(35.1)	21(22.3)	34(36.2)	0(0.0)	6(6.4)
15	拟人	200	21(10.5)	103(51.5)	68(34.0)	6(3.0)	2(1.0)
16	理论	200	29(14.5)	102(51.0)	67(33.5)	0(0.0)	2(1.0)
17	常规	129	29(14.5)	56(43.4)	41(31.8)	0(0.0)	3(2.3)
18	民营	200	70(35.0)	66(33.0)	61(30.5)	0(0.0)	3(1.5)
19	简单	200	41(20.5)	87(43.5)	51(25.5)	13(6.5)	8(4.0)
20	多元	200	39(19.5)	104(52.0)	49(24.5)	4(2.0)	4(2.0)
21	制度	200	81(40.5)	59(29.5)	49(24.5)	1(0.5)	10(5.0)
22	老龄	200	60(30.0)	89(44.5)	45(22.5)	0(0.0)	6(3.0)
23	理想	200	17(8.5)	135(67.5)	40(20.0)	4(2.0)	4(2.0)
24	全国	51	8(4.0)	25(49.0)	10(19.6)	6(11.8)	2(3.9)
25	私有	200	91(45.5)	63(31.5)	38(19.0)	0(0.0)	8(4.0)
26	城市	200	55(27.5)	108(54.0)	34(17.0)	0(0.0)	3(1.5)
27	合理	200	38(19.0)	121(60.5)	34(17.0)	2(1.0)	5(2.5)
28	民族	200	80(40.0)	88(44.0)	30(15.0)	0(0.0)	2(1.0)
29	国际	200	54(27.0)	107(53.5)	28(14.0)	4(2.0)	7(3.5)
30	国家	115	72(36.0)	22(19.1)	15(13.0)	0(0.0)	6(5.2)
31	标准	200	63(31.5)	85(42.5)	26(13.0)	1(0.5)	25(12.5)
32	科学	200	93(46.5)	74(37.0)	26(13.0)	1(0.5)	6(3.0)
33	全球	200	72(36.0)	97(48.5)	25(12.5)	1(0.5)	5(2.5)
34	概念	200	51(25.5)	115(57.5)	25(12.5)	7(3.5)	2(1.0)
35	多样	200	51(25.5)	116(58.0)	24(12.0)	3(1.5)	6(3.0)
36	沙漠	200	80(40.0)	87(43.5)	23(11.5)	0(0.0)	10(5.0)
37	最大	200	144(72.0)	28(14.0)	22(11.0)	3(1.5)	3(1.5)
38	一般	200	45(22.5)	115(57.5)	21(10.5)	18(9.0)	1(0.5)
39	公有	124	45(36.3)	65(52.4)	13(10.5)	0(0.0)	1(0.8)
40	大众	200	56(28.0)	129(64.5)	13(6.5)	1(0.5)	1(0.5)
41	个性	200	26(13.0)	154(77.0)	12(6.0)	4(2.0)	4(2.0)
42	口语	200	53(26.5)	129(64.5)	12(6.0)	0(0.0)	6(3.0)
43	特殊	200	160(80.0)	30(15.0)	8(4.0)	0(0.0)	2(1.0)
44	工业	200	68(34.0)	111(55.5)	7(3.5)	10(5.0)	4(2.0)
45	机械	200	86(43.0)	82(41.0)	4(2.0)	24(12.0)	4(2.0)
46	电气	200	36(18.0)	152(76.0)	4(2.0)	0(0.0)	8(4.0)
47	自动	200	52(26.0)	109(54.5)	2(1.0)	5(2.5)	32(16.0)
48	现代	200	44(22.0)	154(77.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(1.0)
49	信息	200	113(56.5)	75(37.5)	0(0.0)	0(0.0)	12(6.0)
50	一元	200	26(13.0)	169(84.5)	0(0.0)	4(2.0)	1(0.5)

表 6-11 から分かるように、中国語の 50 語の“X化”のうち、“扩大化”“复杂化”“明

确化”“长期化”“庸俗化”などの語は動詞的に用いられる割合が高く、“电气化”“自动化”などの語は動詞的に用いられる割合が低く、“现代化”“信息化”“一元化”は動詞として使われる例が見られなかった。動詞的用法の例文を示すと下の例(6-14)のようになる。

- (6-14) a. 这事没必要扩大化。  
 (この事は拡大化する必要がない。)
- b. 人们似乎经常把自己的生活复杂化。  
 (人々はよく自分の生活を複雑化してしまう。)
- c. 我们的传统节日往往被庸俗化。  
 (我々の伝統的な節句はよく俗化されてしまう。)
- d. 要使每个细节明确化。  
 (すべての詳細を明確化させなければならない。)

上の例(6-14)のように、動詞用法のうち、能動自動詞用法、能動-他動詞用法、受身用法、使役用法が見られるが、これについては6.3節で詳しく述べる。

続いて、中国語の50語の“X化”のうち、副詞的用法を持つ語をまとめると、下の28語のようになる。

简单化、合理化、个性化、标准化、扩大化、拟人化、制度化、白热化  
 长期化、理想化、表面化、低龄化、大众化、多样化、多元化、全国化  
 全球化、自动化、最大化、最小化、国际化、工业化、概念化、具体化  
 机械化、科学化、一般化、一元化

副詞的用法の例文を示すと下の例(6-15)のようになる。

- (6-15) a. 让前期的投入最大化地发挥作用。  
 (前期の投資を最大に役立てる。)
- b. 若只是一般化地读, 那种感受只能是生硬的。  
 (ありきたりで読むのなら、硬くしか感じない。)
- c. 个性化地处理和加工教材。  
 (個性的に教材を加工する。)

以上、中国語の50語の“X化”について名詞的、形容詞的、動詞的に用いられやすい語、副詞的に用いることができる語を見てきた。次の6.3節では、中国語の“X化”の動詞用法について詳しく述べる。

### 6.3 “X化”の動詞用法

中国語の“X化”は動詞として使われる場合、本章の冒頭で挙げた例(6-2)のように、能動-自動詞用法、能動-他動詞用法、受身用法、使役用法が見られる。また、“X化”は自動詞と他動詞用法に用いられる場合、下の例(6-16)のように自動詞で使いやすいものもあれば、例(6-17)のように自他両用のものもある。

- (6-16) a. 世界人口正在老齡化。 (自)  
 (世界人口が高齡化している。)
- b. \*这个事件把世界人口老齡化了。 (他)  
 (\*この事件は世界人口を高齡化した。)
- (6-17) a. 这个概念具体化了。 (自)  
 (この概念が具体化した。)
- b. 把这个概念具体化了。 (他)  
 (この概念を具体化した。)

しかし、中国語の“X化”は日本語と違い、他動詞用法に大きく偏るものは見られない。第5章の5.3節で述べたように、『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』の検索において日本語の「X化する」は他動詞の出現率が100%のものが12語ある。これに対し、中国語の“X化”はBCC語料庫の検索において他動詞の出現率が100%のものは皆無であり、最も他動詞用法の出現率が高い“拟人化”でも74.2%しかない。

本節では、“X化”は具体的にどのような語が自動詞になりやすく、どのような語が他動詞になりやすいかを考察する。次の6.3.1節では、“X化”の考察方法を説明し、6.3.2節では“X化”の自動詞用法と他動詞用法について階層的クラスタ分析による自動詞と他動詞の分類を試みた、自他性の使用傾向を明らかにする。最後に6.3.3節では“X化”の受身用法と使役用法を見る。

#### 6.3.1 “X化”の考察方法

本節では、6.2.1節の表6-5で示している50語を考察対象とする。しかし、この50語のうち、“现代化”“信息化”“一元化”の3語は動詞用法が見られないため、この3語を対象外にし、残りの47語を考察の対象とする。

なお、中国語は孤立語で、「が」や「を」のような格助詞がないため、自他性を判断するに当たってやや複雑である。中国語の判断基準として、まず、アスペクトマーカである“了/已经(した)”、“着/正在(している)”、“过(したことがある)”などと共起するもの及び“X化”に“很”を加えることができないものを動詞用法であると判断する。

次に、中国語は“我看电视(私は-見る-テレビ)”のようなSVO語順の言語であるため、動詞用法のうち、“X化”の後ろに来る名詞が目的語であれば他動詞であると判断し<sup>42</sup>、目的語がない場合を自動詞用法に分類する。

さらに、能動文の用例のうち、他動詞マーカである“把/将”と共起し、“动宾关系(動詞-目的語の関係)”をなすものを他動詞に分類する。

一方、“被”という受身文マーカが伴うものを受身用法と判断し、“使/叫/让”などの使役マーカと共起するものを使役用法と判断する。

対象となった47語の“X化”の動詞用法の使用状況をまとめ、自動詞用法の出現率の高い順に並べると、下の表6-12のようになる。

表6-12 “X化”動詞用法の使用状況(自動詞出現率の高い順)

	X化	自動詞(%)	他動詞(%)	自+他(%)	受身出現数	使役出現数	動詞総出現数
1	低龄	113(100.0)	0(0.0)	113(100.0)	1	0	114
2	正常	85(100.0)	0(0.0)	85(100.0)	0	12	97
3	白热	79(100.0)	0(0.0)	79(100.0)	0	6	85
4	老龄	45(100.0)	0(0.0)	45(100.0)	0	0	45
5	城市	34(100.0)	0(0.0)	34(100.0)	0	0	34
6	全球	25(100.0)	0(0.0)	25(100.0)	0	0	25
7	多样	23(100.0)	0(0.0)	23(100.0)	0	1	24
8	沙漠	23(100.0)	0(0.0)	23(100.0)	0	0	23
9	全国	9(100.0)	0(0.0)	9(100.0)	0	1	10
10	特殊	7(100.0)	0(0.0)	7(100.0)	1	0	8
11	工业	7(100.0)	0(0.0)	7(100.0)	0	0	7
12	电气	4(100.0)	0(0.0)	4(100.0)	0	0	4
13	多元	45(97.8)	1(2.2)	46(100.0)	0	3	49
14	平均	39(97.5)	1(2.5)	40(100.0)	1	3	44
15	表面	68(97.1)	2(2.9)	70(100.0)	0	9	79
16	民营	58(96.7)	2(3.3)	60(100.0)	0	1	61
17	国际	23(92.0)	2(8.0)	25(100.0)	0	3	28
18	科学	11(91.7)	1(8.3)	12(100.0)	0	14	26
19	个性	9(90.0)	1(10.0)	10(100.0)	0	2	12
20	大众	9(90.0)	1(10.0)	10(100.0)	0	3	13

<sup>42</sup> このような用法は主に“美化”“强化”のような二字の“X化”に集中している。

21	国家	9(90.0)	1(10.0)	10(100.0)	2	3	15
22	民族	24(88.9)	3(11.1)	27(100.0)	1	2	30
23	口语	7(87.5)	1(12.5)	8(100.0)	0	4	12
24	私有	30(83.3)	6(16.7)	36(100.0)	2	0	38
25	完善	15(83.3)	3(16.7)	18(100.0)	0	16	34
26	标准	19(82.6)	4(17.4)	23(100.0)	1	2	26
27	一般	17(81.0)	4(19.1)	21(100.0)	0	0	21
28	扩大	114(79.2)	30(20.8)	144(100.0)	3	9	156
29	长期	69(77.5)	20(22.5)	89(100.0)	0	40	129
30	机械	3(75.0)	1(25.0)	4(100.0)	0	0	4
31	复杂	60(72.3)	23(27.7)	83(100.0)	7	63	153
32	合理	13(72.2)	5(27.8)	18(100.0)	1	15	34
33	制度	13(68.4)	6(31.6)	19(100.0)	1	29	49
34	常规	17(68.0)	8(32.0)	25(100.0)	1	15	41
35	简单	24(64.9)	13(35.1)	37(100.0)	1	13	51
36	概念	14(63.6)	8(36.4)	22(100.0)	1	2	25
37	最小	25(62.5)	15(37.5)	40(100.0)	1	40	81
38	深刻	9(60.0)	6(40.0)	15(100.0)	0	7	22
39	庸俗	49(48.5)	52(51.5)	101(100.0)	6	18	125
40	理论	18(45.0)	22(55.0)	40(100.0)	4	23	67
41	理想	15(42.9)	20(57.1)	35(100.0)	3	2	40
42	明确	33(42.3)	45(57.7)	78(100.0)	1	45	124
43	具体	23(41.8)	32(58.2)	55(100.0)	6	27	88
44	最大	2(40.0)	3(60.0)	5(100.0)	0	17	22
45	公有	4(33.3)	8(66.7)	12(100.0)	1	0	13
46	拟人	16(25.8)	46(74.2)	62(100.0)	6	0	68
47	自动	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	2	0	2

表 6-12 から分かるように、“低龄化”は動詞として使われる総出現数が 114 件があり、自動詞として用いられているのは 113 件で、能動的用法の 100%が自動詞用法である。“低龄化”のように、自動詞用法の出現率が 100%のものには“正常化”“白热化”“老龄化”“城市化”“全球化”“多样化”“沙漠化”“全国化”“特殊化”“工业化”“电气化”などの 12 語ある。これに対して他動詞の出現率が 100%のものは見られず、最も他動詞用法の出現率が高い“拟人化”でも 74.2%しかない。他動詞の出現率が 50%以上の語には“拟人化”“公有化”“最大化”“具体化”“明确化”“理想化”“理论化”“庸俗化”の 8 語がある。

そこで、“X化”の自動詞と他動詞の二つのグループを比較するため、自動詞や他動詞用法のない“自动化”を除いた 46 を対象に、自動詞用法と他動詞用法の使用頻度を  $\log_e(x+0.5)$  の自然対数に変換し、下限頻度を 4 回、10 回、20 回、30 回、40 回と設定し、それと対応する上位 46 語、上位 39 語、上位 30 語、上位 21 語、上位 17 語に関する独立したサンプルの  $t$  検定を行った。使用頻度を自然対数に変換したものの平均、標準偏差および  $t$  検定の結果を示すと、表 6-13 のようになる。

表 6-13 中国語“X化”の使用頻度の  $\log_e(x+0.5)$  の自然対数変換値と  $t$  検定の結果

下限 頻度	語基 の数	自動詞		他動詞		$t$ 検定の結果
		$M$	$SD$	$M$	$SD$	
4回	46	3.02	0.91	1.18	1.51	$t(90)=7.05,$ $p<.001$
10回	39	3.25	0.76	1.41	1.50	$t(76)=6.84,$ $p<.001$
20回	30	3.53	0.61	1.49	1.67	$t(58)=6.33,$ $p<.001$
30回	21	3.75	0.60	1.78	1.78	$t(40)=4.83,$ $p<.001$
40回	17	3.87	0.59	1.79	1.85	$t(32)=4.42,$ $p<.001$

注:  $M$  は平均,  $SD$  は標準偏差。

分析の結果、中国語“X化”の動詞用法において、全体的に使用頻度に有意な違いが見られた。日本語のと正反対に、全体的に自動詞 ( $M=3.02, 3.25, 3.53, 3.75, 3.87$ ) の方が他動詞 ( $M=1.18, 1.41, 1.49, 1.78, 1.79$ ) よりも頻繁に使用されていることが分かった。

また、46語の“X化”の自動詞用法と他動詞用法について、使用頻度を  $\log_e(x+0.5)$  で変換した自然対数に基づいて、階層的クラスタ分析による動詞の分類を試みた。その結果、46語を二つのクラスタに分類した。さらに、正準判別分析を行った結果、正準判別関数は、固有値が 2.570<sup>a</sup>、寄与率が 100%、正準相関が 0.848 ( $p < 0.001$ ) で有意であった。また、二つのグループの判別の適切さについて交差妥当化によって検証したところ、正判別率は 95.7%であった。中国語の“X化”における二つのクラスタは、適切な分類であることが示唆されている。

クラスタ分析の結果を含んだ 46語の自然対数変換の使用頻度の散布図を次に示す。

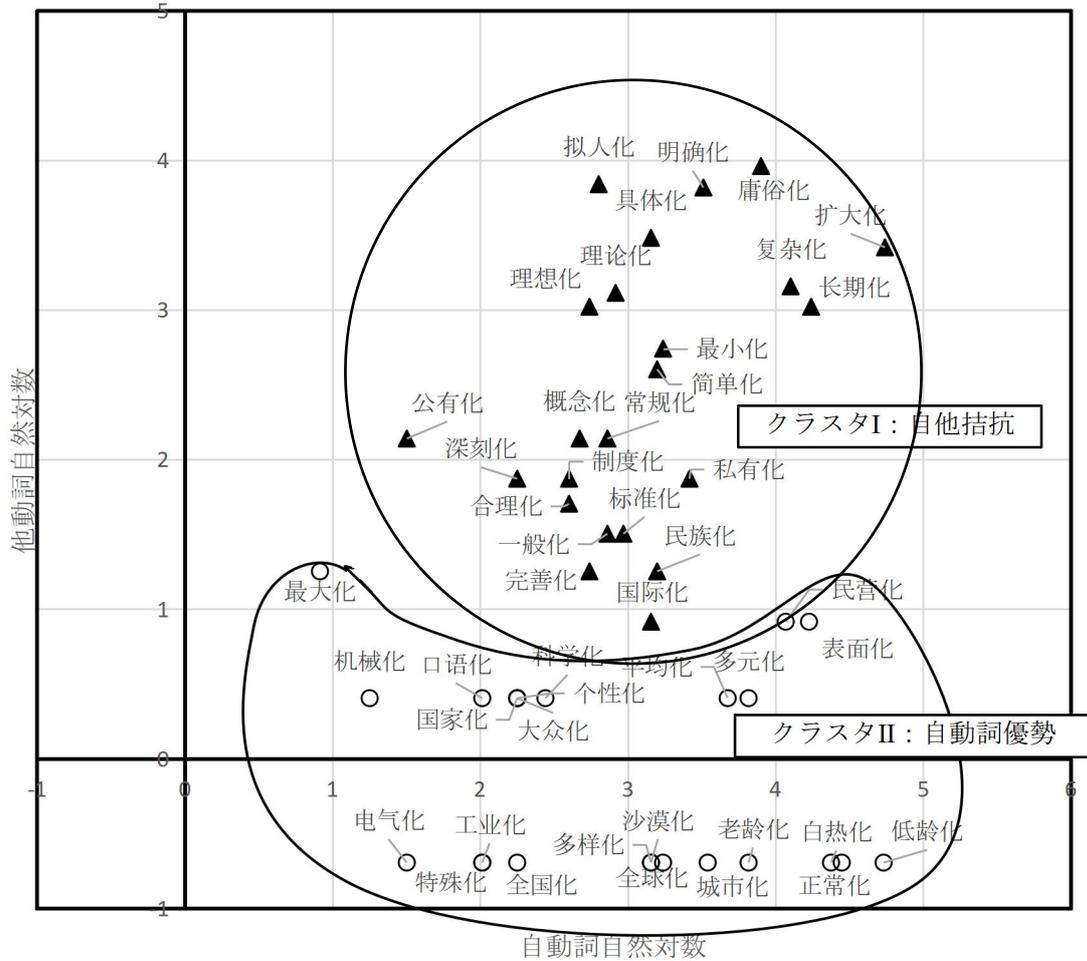


図 6-2 中国語の“X化” 46 語の自然対数変換の使用頻度の散布図

日本語の「X化する」と正反対に、中国語の“X化”は他動詞用法より自動詞用法のほうの勢力が強いと考える<sup>43</sup>。

次に、図 6-2 の結果を表にまとめると下の表 6-14 のようになる。

表 6-14 “X化”の自他語群の分類

語群	“X化”
自動詞優勢	低龄、正常、白热、老龄、城市、全球、多样、沙漠、全国、特殊、工业、电气、表面、民营、多元、平均、个性、科学、大众、国家、口语、机械、最大 (23 語)
自他拮抗	拟人、明确、具体、庸俗、扩大、复杂、长期、理论、理想、最小、简单、公有、概念、常规、深刻、制度、私有、标准、合理、一般、民族、完善、国际 (23 語)

<sup>43</sup> 本研究では二字複合語“X化”を考察対象としなかったが、二字“X化”（例：“细化”“美化”“绿化”“弱化”“净化”）は他動詞用法が多く見られる。

また、他動詞用法のほとんどが「主語-“X化”-目的語」の形式ではなく、「“把/将”-目的語-“X化”」の形で、“把”構文に現れている。“把”構文はある動作によって目的語が変化するという意味を持ち、“把”の述語の後ろに常に補語や助詞の“了/着”が後接するが、もし述語がもともと結果や完成を表すものであれば、直接“把”構文に現れる。(劉月華他 2001: 735、日本語訳は筆者による)。つまり、“把”構文には結果の意味を表す語が要求され、“X化”には結果の意味が含まれているため、“把”構文に現れても不自然ではないと考えられる。また、二字“X化”は目的語を後接するが(例：“美化校园(キャンパスを美化する)”，“简化手续(手続きを简单化する)”)、三字“X化”はこのような接続の仕方がしにくいこと(例：“\*复杂化问题(問題を複雑化する)”，“\*完善化制度(制度を完璧にする)”)から、音韻的な要素も影響していると考えられる。

### 6.3.2 “X化”の自他選択傾向

本節では、図6-2と表6-14に基づいて、中国語の“X化”の自他選択に影響する要因を考察する。“X化”が自動詞になりやすいか、他動詞になりやすいかということは、主に“X化”の表す変化を完成させるのに人為的にできるかどうかという“X化”の意味に影響されていると考えられる。動作主が必要であれば、他動詞用法に使われるのに対して、動作主が必要ではない場合、動作主を顕在化させない場合、動作主が不特定な場合は自動詞用法に使われやすいと考えられる。なお、日本語のように語基の品詞的性質によって判断することは難しいと思うが、“低龄化”“白热化”“正常化”のような「形容詞語基+化」の語や“全球化”“全国化”“工业化”“电气化”のような「E./F.量的変化」を表す「名詞語基+化」の語が自動詞用法として用いられやすいことが分かった。

#### <1> 自動詞用法に用いられやすいもの

##### ① 自然発生的なことを表す場合

(6-18) a. 青少年违法犯罪日趋低龄化。

(青少年による違法犯罪のことはだんだん低年齢化していく。)

b. 三星和苹果的专利争夺战正在白热化。

(サムスンとアップルの特許争いは白熱化している。)

##### ② 動作主を顕在化させない場合

(6-19) a. 湖南 90%以上的水泥企业已经民营化。

(湖南 90%以上のコンクリート企業はもう民营化されている。)

b. 现在中国开始城市化了。

(今中国は都市化している。)

“民营化”と“城市化”は自然的に発生すると考えにくいですが、変化をもたらす動作主は政府であることが知られていて、わざわざ動作主を引き立たせる必要がないため、自動詞文の方が自然である。

③変化をもたらす働きかけ手が不特定である場合

(6-20) a. 这片曾以美丽著称于世的大草原，近年来已经急剧沙漠化了。

(美しさでよく知られているこの草原は近年でもう激しく砂漠化している。)

b. 鼠标、键盘早就个性化了。

(マウス、キーボードはとっくに個性化されている。)

“沙漠化”と“个性化”も自然的に起こりにくく、変化をもたらす要素が必要であるが、その要素を追究しにくいものであると考えられる。例えば、砂漠化をもたらすのは気候変動などのような気候的要因も考えられれば、過放牧などのような人為的要因も考えられる。個性化も同じように、変化をもたらす働きかけ手は人為的要因と非人為的要因が考えられ、それを追究しにくいため、他動詞用法より自動詞用法に用いられやすい。

<2>他動詞用法に用いられやすいもの

・人の手を経なければできないこと

(6-21) a. 如果将非洲大陆拟人化，马拉维正好在心脏这一位置。

(アフリカ大陸を擬人化すれば、マラウイはちょうど心臓のところにいる。)

b. 我们要用刀枪将所有财产公有化。

(我々はナイフと銃を使って、すべての財産を公有化しよう。)

例(6-21)のように、人の手を経なければ“X化”の表す変化が完成できない場合、動作主の意図性を強調したい場合、“X化”は他動詞用法に用いられやすいと考えられる。

## 6.3.3 “X化”の受身用法と使役用法

本節では、“X化”の受身用法と使役用法を中心に考察し、受身用法に用いられやすいものおよび使役用法に用いられやすいものを見る。

まず、“X化”が総動詞用法のうち、受身用法の出現率の高い順にまとめると、下の表6-15のようになる。

表6-15 “X化”の動詞用法の使用状況分布（受身用法出現率の高い順）

	X化	自	他	自+他 (%)	受身 (%)	使役 (%)	総動詞 (%)
1	国家	9	1	10(66.7)	2(13.3)	3(20.0)	15(100.0)
2	特殊	7	0	7(87.5)	1(12.5)	0(0.0)	8(100.0)
3	拟人	16	46	62(91.2)	6(8.8)	0(0.0)	68(100.0)
4	公有	4	8	12(92.3)	1(7.7)	0(0.0)	13(100.0)
5	理想	15	20	35(87.5)	3(7.5)	2(5.0)	40(100.0)
6	具体	23	32	55(62.5)	6(6.8)	27(30.7)	88(100.0)
7	理论	18	22	40(59.7)	4(6.0)	23(34.3)	67(100.0)
8	私有	30	6	36(94.7)	2(5.3)	0(0.0)	38(100.0)
9	庸俗	49	52	101(80.8)	6(4.8)	18(14.4)	125(100.0)
10	复杂	60	23	83(54.3)	7(4.6)	63(41.2)	153(100.0)
11	概念	14	8	22(88.0)	1(4.0)	2(8.0)	25(100.0)
12	标准	19	4	23(88.5)	1(3.9)	2(7.7)	26(100.0)
13	民族	24	3	27(90.0)	1(3.3)	2(6.7)	30(100.0)
14	合理	13	5	18(52.9)	1(2.9)	15(44.1)	34(100.0)
15	常规	17	8	25(61.0)	1(2.4)	15(36.6)	41(100.0)
16	平均	39	1	40(90.9)	1(2.3)	3(6.8)	44(100.0)
17	制度	13	6	19(38.8)	1(2.0)	29(59.2)	49(100.0)
18	简单	24	13	37(72.6)	1(2.0)	13(25.5)	51(100.0)
19	扩大	114	30	144(92.3)	3(1.9)	9(5.8)	156(100.0)
20	最小	25	15	40(49.4)	1(1.2)	40(49.4)	81(100.0)
21	低龄	113	0	113(99.1)	1(0.9)	0(0.0)	114(100.0)
22	明确	33	45	78(62.9)	1(0.8)	45(36.3)	124(100.0)
23	正常	85	0	85(87.6)	0(0.0)	12(12.4)	97(100.0)
24	白热	79	0	79(92.9)	0(0.0)	6(7.1)	85(100.0)
25	老龄	45	0	45(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	45(100.0)
26	城市	34	0	34(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	34(100.0)
27	全球	25	0	25(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	25(100.0)
28	多样	23	0	23(95.8)	0(0.0)	1(4.2)	24(100.0)
29	沙漠	23	0	23(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	23(100.0)
30	全国	9	0	9(90.0)	0(0.0)	1(10.0)	10(100.0)
31	工业	7	0	7(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	7(100.0)
32	电气	4	0	4(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	4(100.0)
33	多元	45	1	46(93.9)	0(0.0)	3(6.1)	49(100.0)
34	表面	68	2	70(88.6)	0(0.0)	9(11.4)	79(100.0)
35	民营	58	2	60(98.4)	0(0.0)	1(1.6)	61(100.0)
36	国际	23	2	25(89.3)	0(0.0)	3(10.7)	28(100.0)
37	科学	11	1	12(46.2)	0(0.0)	14(53.9)	26(100.0)
38	个性	9	1	10(83.3)	0(0.0)	2(16.7)	12(100.0)
39	大众	9	1	10(76.9)	0(0.0)	3(23.1)	13(100.0)
40	口语	7	1	8(66.7)	0(0.0)	4(33.3)	12(100.0)
41	完善	15	3	18(52.9)	0(0.0)	16(47.1)	34(100.0)

42	一般	17	4	21(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	21(100.0)
43	长期	69	20	89(69.0)	0(0.0)	40(31.0)	129(100.0)
44	机械	3	1	4(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	4(100.0)
45	深刻	9	6	15(68.2)	0(0.0)	7(31.8)	22(100.0)
46	最大	2	3	5(22.7)	0(0.0)	17(77.3)	22(100.0)
47	自动	0	0	0(0.0)	0(0.0)	2(100.0)	2(100.0)

表6-15から分かるように、中国語の“X化”において、受身用法の出現率が全体的に低く、最も高いものの“国家化”でも13.3%しかない。さらに、47語の“X化”のうち、受身用法が見られないものは25語ある。

次に、“X化”における使役用法の使用実態をまとめると下の表6-16のようになる。

表6-16 “X化”の動詞用法の使用状況分布（使役用法出現率の高い順）

	X化	自	他	自+他(%)	受身(%)	使役(%)	総動詞(%)
1	自动	0	0	0(0.0)	0(0.0)	2(100.0)	2(100.0)
2	最大	2	3	5(22.7)	0(0.0)	17(77.3)	22(100.0)
3	制度	13	6	19(38.8)	1(2.0)	29(59.2)	49(100.0)
4	科学	11	1	12(46.2)	0(0.0)	14(53.9)	26(100.0)
5	最小	25	15	40(49.4)	1(1.2)	40(49.4)	81(100.0)
6	完善	15	3	18(52.9)	0(0.0)	16(47.1)	34(100.0)
7	合理	13	5	18(52.9)	1(2.9)	15(44.1)	34(100.0)
8	复杂	60	23	83(54.3)	7(4.6)	63(41.2)	153(100.0)
9	常规	17	8	25(61.0)	1(2.4)	15(36.6)	41(100.0)
10	明确	33	45	78(62.9)	1(0.8)	45(36.3)	124(100.0)
11	理论	18	22	40(59.7)	4(6.0)	23(34.3)	67(100.0)
12	口语	7	1	8(66.7)	0(0.0)	4(33.3)	12(100.0)
13	深刻	9	6	15(68.2)	0(0.0)	7(31.8)	22(100.0)
14	长期	69	20	89(69.0)	0(0.0)	40(31.0)	129(100.0)
15	具体	23	32	55(62.5)	6(6.8)	27(30.7)	88(100.0)
16	简单	24	13	37(72.6)	1(2.0)	13(25.5)	51(100.0)
17	大众	9	1	10(76.9)	0(0.0)	3(23.1)	13(100.0)
18	国家	9	1	10(66.7)	2(13.3)	3(20.0)	15(100.0)
19	个性	9	1	10(83.3)	0(0.0)	2(16.7)	12(100.0)
20	庸俗	49	52	101(80.8)	6(4.8)	18(14.4)	125(100.0)
21	正常	85	0	85(87.6)	0(0.0)	12(12.4)	97(100.0)
22	表面	68	2	70(88.6)	0(0.0)	9(11.4)	79(100.0)
23	国际	23	2	25(89.3)	0(0.0)	3(10.7)	28(100.0)
24	全国	9	0	9(90.0)	0(0.0)	1(10.0)	10(100.0)
25	概念	14	8	22(88.0)	1(4.0)	2(8.0)	25(100.0)
26	标准	19	4	23(88.5)	1(3.9)	2(7.7)	26(100.0)
27	白热	79	0	79(92.9)	0(0.0)	6(7.1)	85(100.0)
28	平均	39	1	40(90.9)	1(2.3)	3(6.8)	44(100.0)
29	民族	24	3	27(90.0)	1(3.3)	2(6.7)	30(100.0)
30	多元	45	1	46(93.9)	0(0.0)	3(6.1)	49(100.0)
31	扩大	114	30	144(92.3)	3(1.9)	9(5.8)	156(100.0)
32	理想	15	20	35(87.5)	3(7.5)	2(5.0)	40(100.0)
33	多样	23	0	23(95.8)	0(0.0)	1(4.2)	24(100.0)
34	民营	58	2	60(98.4)	0(0.0)	1(1.6)	61(100.0)
35	特殊	7	0	7(87.5)	1(12.5)	0(0.0)	8(100.0)
36	拟人	16	46	62(91.2)	6(8.8)	0(0.0)	68(100.0)
37	公有	4	8	12(92.3)	1(7.7)	0(0.0)	13(100.0)

38	私有	30	6	36(94.7)	2(5.3)	0(0.0)	38(100.0)
39	低龄	113	0	113(99.1)	1(0.9)	0(0.0)	114(100.0)
40	老龄	45	0	45(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	45(100.0)
41	城市	34	0	34(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	34(100.0)
42	全球	25	0	25(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	25(100.0)
43	沙漠	23	0	23(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	23(100.0)
44	工业	7	0	7(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	7(100.0)
45	电气	4	0	4(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	4(100.0)
46	一般	17	4	21(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	21(100.0)
47	机械	3	1	4(100.0)	0(0.0)	0(0.0)	4(100.0)

表 6-16 から分かるように、中国語の“X化”は全体的に使役用法の出現率が受身用法の出現率より高い。また、使役用法の出現率の高い“自動化”“最大化”は総動詞用法の100%と77.27%を占め、これを含んで、使役用法の出現率が33%以上のものには“制度化”“科学化”“最小化”“完善化”“合理化”“复杂化”“常规化”“明确化”“理论化”“口语化”などの12語ある。なお、“机械化”“一般化”“电气化”“工业化”などの14語は使役用法が見られなかった。

#### 6.4 まとめ

本章では、中国語派生語“X化”の品詞的用法を見てきた。

まず6.1節では“X化”の品詞的用法に関する先行研究を概観した。

続いて6.2節では、50語“X化”を考察対象とし、“X化”の品詞的用法を名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法、副詞的用法、その他の五つの種類に分けて、“X化”の全体的な使用傾向および名詞的、形容詞的、動詞的用法に用いられやすい語を見てきた。調査にあたっては、北京語言大学語言智能研究院のBCC語料庫を利用した。

その結果、中国語の“X化”は全体的に形容詞的用法が多く、名詞的用法と動詞的用法がそれに次いでいる。また、名詞的用法の出現率が高いものには“特殊化”“最大化”“信息化”“科学化”“私有化”などがあり、“追求（追究する）～”“实现（実現させる）～”などの語と共起し、ある事柄の生起や不生起を表すことが多い。

形容詞的用法の出現率が高いものには“一元化”“现代化”“个性化”“电气化”“理想化”などがあり、よく“一元化领导”“现代化进程”のように、限られた被修飾語と共起する傾向が見られる。これらの語は状態性が強いものが多い、ただし“电气化”は例外である。

動詞的用法の出現率が高いものには“扩大化”“复杂化”“明确化”“长期化”“庸俗化”などがある。これらの語はほとんどが「形容詞語基+化」の語で、“X化”が進展していくような事柄を表すものである。

なお、日本語では副詞的用法の「X化」は1例しか見られなかったが、中国語の“简单化”“合理化”“个性化”などの28語に副詞的用法が見られた。これらの語は動的側面より、動作の様態を表す側面が強いと考えられる。“合理化地解决问题（問題を合理的に解決する）”“简单化地清洗伤口（傷口を簡単に清浄する）”のような副詞的用法として使われる際、“化”なしの“合理”“简单”の意味とあまり変わらない。ただし“化”が付くほうが合理的ではない状態から合理的な状態に変化し、簡単ではない方法から簡単な方法に変化するという意味が感じられる。

次に6.3節では“X化”の動詞用法を中心に、どのような語が自動詞に用いられやすく、どのような語が他動詞に用いられやすいかを考察し、さらに受身用法に用いられやすい語および使役用法に用いられやすい語を見た。

6.3.2節では、“X化”の自他性を考察するために、階層的クラスタ分析および正準判別分析を行い、自動詞用法と他動詞用法を持つ46語の“X化”を「自動詞優勢語群」「自他拮抗語群」の二つのクラスタに分類した。自動詞優勢の語には“低龄化”“正常化”“白热化”“老龄化”“城市化”などがあり、自他拮抗の語には“拟人化”“明确化”“具体化”“庸俗化”“扩大化”などがあることが分かった。

自動詞用法として用いられやすいのは以下の四つの場合であると考えられる。

1. “低龄化”“白热化”“正常化”のような「形容詞語基+化」の語
2. “全球化”“全国化”“工业化”“电气化”のような「E./F.量的変化」を表す「名詞語基+化」の語
3. “民营化”のような動作主を顕在化させない場合
4. “沙漠化”“个性化”のような変化をもたらす働きかけ手が不特定である場合

これに対して、他動詞用法として用いられやすいのは“拟人化”“公有化”“最大化”“具体化”のような人の手を経なければできないことを表す場合である。

次に6.3.3節では、“X化”の受身と使役の使用実態を見た。受身用法の出現率は全体的に低い、最も高い“国家化”でも13.3%しかなく、47語の“X化”のうち、25語が受身用法が見られなかった。

“使民主制度化”“使管理科学化”のような使役用法の出現率が高いものには“自动化”“最大化”“制度化”“科学化”“最小化”などがある。前述したように、中国語の“X化”は「自動詞優勢語群」と「自他拮抗語群」にしか分けられず、他動詞優勢の語群は見られなかった。そのため、他動的現象を表したい場合は、自動詞の“X化”を使役形にして使用する。使役用法の出現率が高い語は「名詞語基+化」の派生語と「最-」「無-

-」で始まる「形容詞語基+化」の派生語である。なお、“機械化”“一般化”“电气化”“工业化”などの14語は使役用法が見られなかった。このうち、“機械化”“电气化”“工业化”などの「E./F.量的変化」を表す「名詞語基+化」の派生語が多い。

## 第7章 【X化】の品詞的用法の日中対照

本章では日本語の「X化」と中国語の“X化”の品詞的用法の異同を考察する。【X化】は下の例(7-1)の【機械化】のように、日中両語ともに名詞的、形容詞的、動詞的に用いることができる。

### (7-1) a. 名詞的用法

日：綿工業の機械化が進行した。

中：农业的机械化是我们的目标。

(農業の機械化は我々の目標だ。)

### b. 形容詞的用法

日：機械化世界をめざす。

中：搞一些机械化的养鸡场。

(機械化の養鶏場を作る。)

### c. 動詞的用法

日：漁労作業を機械化すべきだと思う。

中：笛卡儿把什么都机械化了，唯独保留下了“自我”。

(ルネ・デカルトは何もかもを機械化したが、ただ「自己」を残しておいた。)

しかし、中国語において、下の例(7-2)の“机械化”“合理化”“最大化”のように、副詞的に使われることができるが、日本語ではこのような用法は見られない。

### (7-2) 副詞的用法

a. 日：\*彼は機械化的に箸を持ち上げた。

中：他机械化地拿起了筷子。

(彼は機械的に／機械のように箸を持ち上げた。)

b. 日：\*われわれは森を合理的に守るべきだ。

中：我们要合理化地保护森林。

(われわれは森を合理的に守るべきだ)

c. 日：\*どうしたら時間を最大化的に利用できますか。

中：如何才能最大化地利用时间呢。

(どうしたら時間を最大に利用できますか。)

さらに、【X化】が動詞として用いられる場合、能動-自動詞用法や能動-他動詞用法、また受身用法と使役用法が見られる。それぞれの用例をまとめると下の例(7-3)のようになる。

(7-3) a-1. 能動-自動詞用法

日：意識が稀薄化する。

中：医美消费日趋低龄化。

(プチ整形は次第に低年齢化していく。)

a-2. 能動-他動詞用法

日：資産管理を透明化する。

中：把复杂的问题简单化。

(複雑な問題を简单化する。)

b. 受身用法

日：この小説が映画化された。

中：校园暴力没有消失，只是被合理化了。

(校内暴力は消えたわけじゃない、ただ合理化された。)

c. 使役用法

日：議論を活発化させる。

中：让环境保护工作长期化。

(環境保護の仕事を長期化させる。)

以上をまとめると、日中両語の【X化】は品詞的にほぼ同じ用法を持っていることが確認できる。しかし、同じ用法を持っているものの、各用法の使用率に偏りが見られる。例えば、「最大化」と“最大化”の使用実態をコーパスで調べた結果をまとめると下の表7-1のようになる。

表7-1 日本語と中国語における【最大化】の用法別頻度（括弧内は出現率%）（表1-8の再掲）

用法	日本語の「最大化」	中国語の“最大化”
名詞的	出現数：54(31.6) 例：収入の <u>最大化</u> を図る。	出現数：144(72.0) 例：他们都在追求 <u>最大化</u> 。 (彼らは <u>最大化</u> を求めている。)
形容詞的	出現数：50(29.2) 例： <u>最大化</u> ボタンをクリックする。	出現数：28(14.0) 例：他们应该享有 <u>最大化</u> 的教育利益。 (彼らは <u>最大化</u> の教育の権利を有するべきだ。)
動詞的	出現数：64(37.4) 例：会社の利益を <u>最大化</u> する。	出現数：22(11.0) 例：要让自身优势 <u>最大化</u> 。 (自分の強味を <u>最大化</u> すべきだ。)
副詞的	出現数：0	出現数：3(1.5) 例：要 <u>最大化</u> 地提高员工归属感。 (従業員の所属意識を <u>最大</u> に高める。)
その他	出現数：3(1.8) 例：...4.利益 <u>最大化</u> 、5....	出現数：3(1.5) 例：经理人的偏好是：(1)支配资源 <u>最大化</u> ... (マネージャーの好みは(1)支配資源 <u>最大化</u> ...)
合計	171(100)	200(100)

表7-1から分かるように、日本語の「最大化」は名詞的、形容詞的、動詞的用法がそれぞれ約30%の出現率で、平均的に分布している。これに対して、中国語の“最大化”は名詞的用法が72%もあり、名詞的用法に偏っていることが分かる。また、中国語の“最大化”は“要最大化地提高员工归属感”のように、副詞的用法が見られるが、日本語にはこのような副詞的用法は見られなかった。さらに、日中両語ともに【利益最大化】のように、「X化」で終わる表現がある。このような表現は書名や文章のタイトルに現れ、まとめて「その他」の類に入れた。

一方、日中両語の【X化】が動詞として用いられる場合、能動-自動詞用法、能動-他動

詞用法、受身用法、使役用法が見られるが、使用傾向に違いが見られる。例えば、日中同形語【平均化】の動詞用法の使用実態をまとめると、下の表7-2のようになる。

表7-2 日中両語の【平均化する】の用法別頻度（括弧内は出現率%）（表1-9の再掲）

用法	日本語の「平均化する」	中国語の“平均化”
自動詞	出現数：1(3.7) 例：親が平均化してしまったものだから、せめて子供に競争させて差つけよう。	出現数：39(88.6) 例：社会利润率是会平均化的。 (社会の利润率は平均化する。)
他動詞	出現数：20(74.1) 例：在庫／損失を平均化する。	出現数：1(2.3) 例：把不同的市场价值平均化为一般的市场价值。 (異なる市場価値を普通の価値に平均化する。)
受身	出現数：5(18.5) 例：彼の考えによれば、都市と農村の人口は平均化されなければならない。	出現数：1(2.3) 例：原本应该具有丰富个性的人被平均化了。 (元々個性があるはずの人々は平均化された。)
使役	出現数：1(3.7) 例：ある程度平均化させるためにそこに税金を投入すべきだ。	出現数：3(6.8) 例：这种机制，使社会不同产业部门的利润平均化。 (このメカニズムは異なる産業部門の利益を平均化させる。)
合計	27(100)	44(100)

表7-2から分かるように、日本語と中国語の【平均化】は能動-自動詞用法、能動-他動詞用法、受身用法、使役用法が見られるが、それぞれの使用頻度が異なっている。日本語の「平均化」は「在庫／労力／誤差／損失を平均化する」のような他動詞用法が多いのに対し、中国語の“平均化”は“社会利润率是会平均化的”のような自動詞用法が多いという違いが見られる。

そのため、本章では【X化】は日本語と中国語においてどのような場合に使用傾向が一致しているか、またどのような場合に使用傾向が異なるかを考察する。

まず考察対象について、本章では第5章と第6章を受け、①日中同形語、②日本語コーパスBCCWJで100件以上出現した、③中国語のコーパスBCC語料庫で100件以上出現したという三つの条件を満たした23語を考察対象とする。このうち、「高齢化」「情報化」「グローバル化」「都市化」の4語は同じ意味の“老齡化”“信息化”“全球化”

“城市化”を同形語に準じたものとして考察対象とする<sup>44</sup>。対象となる各語と日中両語における出現数をまとめると下の表7-3のようになる。

表7-3 第7章の考察対象と日中両語の出現数

日本語			中国語		
順位	X化	出現数	X化	順位	出現数
1	民营	1,416	民营	18	627
2	高齢	985	老齡	15	3,061
3	多様	668	多样	6	13,022
4	合理	520	合理	13	3,562
5	情報	415	信息	1	34,651
6	グローバル	406	全球	8	11,283
7	具体	360	具体	14	3,078
8	国際	353	国际	4	14,420
9	工業	347	工业	2	16,470
10	標準	320	标准	3	16,071
11	明確	306	明确	23	191
12	一般	292	一般	19	565
13	正常	242	正常	12	4,840
14	制度	199	制度	10	8,372
15	都市	197	城市	7	12,036
16	機械	189	机械	9	9,694
17	一元	186	一元	16	790
18	表面	180	表面	21	435
19	最大	171	最大	11	5,228
20	自動	155	自动	5	13,715
21	長期	149	长期	22	229
22	複雑	139	复杂	17	628
23	最小	108	最小	20	545

表7-3から分かるように、中国語の“X化”は全体的に出現数が多い。これは、日本語は総語数が0.87億のコーパスを利用したのに対して、中国語はおよそ172倍の総語数約150億のコーパスを利用したことに起因する。

一方、本研究では動詞的用法を中心に論じる。名詞的用法と形容詞的用法は日中に差があるため、それについての違いを示しておく。まず、7.1節では、対象となる23語の品詞的な使用傾向を考察する。続いて7.2節では、動詞用法に絞って、日中両語においてどのような異同があるかを分析する。最後に7.3節では本章をまとめる。

<sup>44</sup> この四語を表7-3において灰色部分で示す。

## 7.1 日中両語【X化】の品詞的な使用傾向

本節では、日中同形語の【X化】の品詞用法の異同を考察する。まず全体的に、日本語の「X化」と中国語の“X化”はどのような用法に用いられやすいかを見る。それから、【X化】の名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法における日中の異同を考察する。

日本語は国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を中納言で検索し、中国語は北京語言大学語言知能研究院のBCC語料庫で検索した。日中両語とも200例以上出現したものをランダムで200例を抽出し考察を行った。対象となる23語が日本語と中国語における品詞的用法の全体的な使用傾向をまとめると、下の表7-4のようになる。

表7-4 考察対象となる23語の品詞的用法の使用状況（括弧内は出現率）

用法	日本語	中国語
名詞的	1,844 (42.5)	1,427 (31.1)
形容詞的	1,147 (26.8)	1,796 (39.1)
動詞的	1,158 (27.8)	1,133 (24.7)
副詞的	0 (0.0)	87 (1.9)
その他	124 (2.9)	148 (3.2)
合計	4,273 (100.0)	4,591 (100.0)

表7-4から分かるように、日本語の23語の「X化」は名詞的用法が最も多く、形容詞的用法と動詞的用法がそれに次ぐ。これに対して、中国語の23語の“X化”は形容詞的用法が最も多く、名詞的用法と動詞的用法がそれに次ぐ。また、中国語に副詞的用法が87件見られたが日本語には見られなかった。

次に、日中両語の【X化】の具体的な使用状況をまとめると、下の表7-5のようになる。（紙幅の都合により、「その他」類を省略する。）

表7-5 【X化】の品詞的用法の分布状況（括弧内は出現率）

X化	日本語				中国語				
	名 (%)	形 (%)	動 (%)	総 (%)	名 (%)	形 (%)	動 (%)	副 (%)	総 (%)
1 一般	25 (12.3)	43 (21.6)	129 (64.4)	200 (100.0)	45 (22.5)	115 (57.5)	21 (10.5)	18 (9.0)	200 (100.0)
2 正常	88 (44.2)	64 (31.8)	45 (22.3)	200 (100.0)	83 (41.5)	18 (9.0)	97 (48.5)	0 (0.0)	200 (100.0)
3 民営	100 (50.0)	72 (36.0)	22 (11.0)	200 (100.0)	70 (35.0)	66 (33.0)	61 (30.5)	0 (0.0)	200 (100.0)
4 高齢 /老齡	110 (55.0)	76 (38.0)	9 (4.5)	200 (100.0)	60 (30.0)	89 (44.5)	45 (22.5)	0 (0.0)	200 (100.0)

5	明確	78 (39.0)	29 (14.5)	75 (37.5)	200 (100.0)	39 (20.4)	22 (11.5)	124 (64.9)	0 (0.0)	191 (100.0)
6	グローバル /全球	127 (63.5)	56 (28.0)	7 (3.5)	200 (100.0)	72 (36.0)	97 (48.5)	25 (12.5)	1 (0.5)	200 (100.0)
7	多様	71 (35.5)	43 (21.5)	80 (40.0)	200 (100.0)	51 (25.5)	116 (58.0)	24 (12.0)	3 (1.5)	200 (100.0)
8	国際	127 (63.5)	49 (24.5)	11 (5.5)	200 (100.0)	54 (27.0)	107 (53.5)	28 (14.0)	4 (2.0)	200 (100.0)
9	具体	46 (23.0)	34 (17.0)	118 (59.0)	200 (100.0)	64 (32.0)	42 (21.0)	88 (44.0)	3 (1.5)	200 (100.0)
10	標準	82 (41.0)	75 (37.5)	37 (18.5)	200 (100.0)	63 (31.5)	85 (42.5)	26 (13.0)	1 (0.5)	200 (100.0)
11	合理	124 (62.0)	50 (25.0)	22 (11.0)	200 (100.0)	38 (19.0)	121 (60.5)	34 (17.0)	2 (1.0)	200 (100.0)
12	工業	145 (72.5)	43 (21.5)	6 (3.0)	200 (100.0)	68 (34.0)	111 (55.5)	7 (3.5)	10 (5.0)	200 (100.0)
13	情報 /情報	103 (51.5)	87 (43.5)	0 (0.0)	200 (100.0)	113 (56.5)	75 (37.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	200 (100.0)
14	制度	56 (28.1)	29 (14.6)	113 (56.8)	199 (100.0)	81 (40.5)	59 (29.5)	49 (24.5)	1 (0.5)	200 (100.0)
15	都市 /城市	114 (57.9)	78 (39.6)	4 (2.0)	197 (100.0)	55 (27.5)	108 (54.0)	34 (17.0)	0 (0.0)	200 (100.0)
16	機械	100 (52.9)	63 (33.3)	20 (10.6)	189 (100.0)	86 (43.0)	82 (41.0)	4 (2.0)	24 (12.0)	200 (100.0)
17	一元	92 (49.5)	44 (23.7)	46 (24.7)	186 (100.0)	26 (13.0)	169 (84.5)	0 (0.0)	4 (2.0)	200 (100.0)
18	表面	10 (5.6)	33 (18.3)	137 (76.1)	100 (100.0)	35 (17.5)	82 (41.0)	79 (39.5)	4 (2.0)	200 (100.0)
19	最大	54 (31.6)	50 (29.2)	64 (37.4)	171 (100.0)	144 (72.0)	28 (14.0)	22 (11.0)	3 (1.5)	200 (100.0)
20	自動	57 (36.8)	38 (24.5)	49 (31.6)	155 (100.0)	52 (26.0)	109 (54.5)	2 (1.0)	5 (2.5)	200 (100.0)
21	長期	63 (42.3)	25 (16.8)	60 (40.3)	149 (100.0)	30 (15.0)	37 (18.5)	129 (64.5)	3 (1.5)	200 (100.0)
22	複雑	36 (25.9)	36 (25.9)	67 (48.2)	139 (100.0)	25 (12.5)	22 (11.0)	153 (76.5)	0 (0.0)	200 (100.0)
23	最小	36 (33.3)	30 (27.8)	37 (34.3)	108 (100.0)	73 (36.5)	36 (18.0)	81 (40.5)	2 (1.0)	200 (100.0)

例えば、「一般化」は200例のうち名詞的用法が25件、形容詞的用法が43件、動詞的用法が129件あり、それぞれの出現率は12.3%、21.6%、64.4%である。これに対して、中国語のコーパスから抽出し200例の“一般化”のうち、名詞的用法が45件、形容詞的用法が115件、動詞的用法が21件あり、副詞的用法が18件あり、それぞれの出現率は22.5%、57.5%、10.5%、9.0%である。以上から分かるように、日本語の「一般化」は動詞的に用いられる傾向が強いのにに対して、中国語の“一般化”は形容詞的に用いられる傾向が強い。

次に、以上の表7-5で取り上げた各語の使用状況の異同を見やすくするために、それぞれの語の名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法、副詞的用法の出現率を算出し、その結果を次の図7-1に示す。

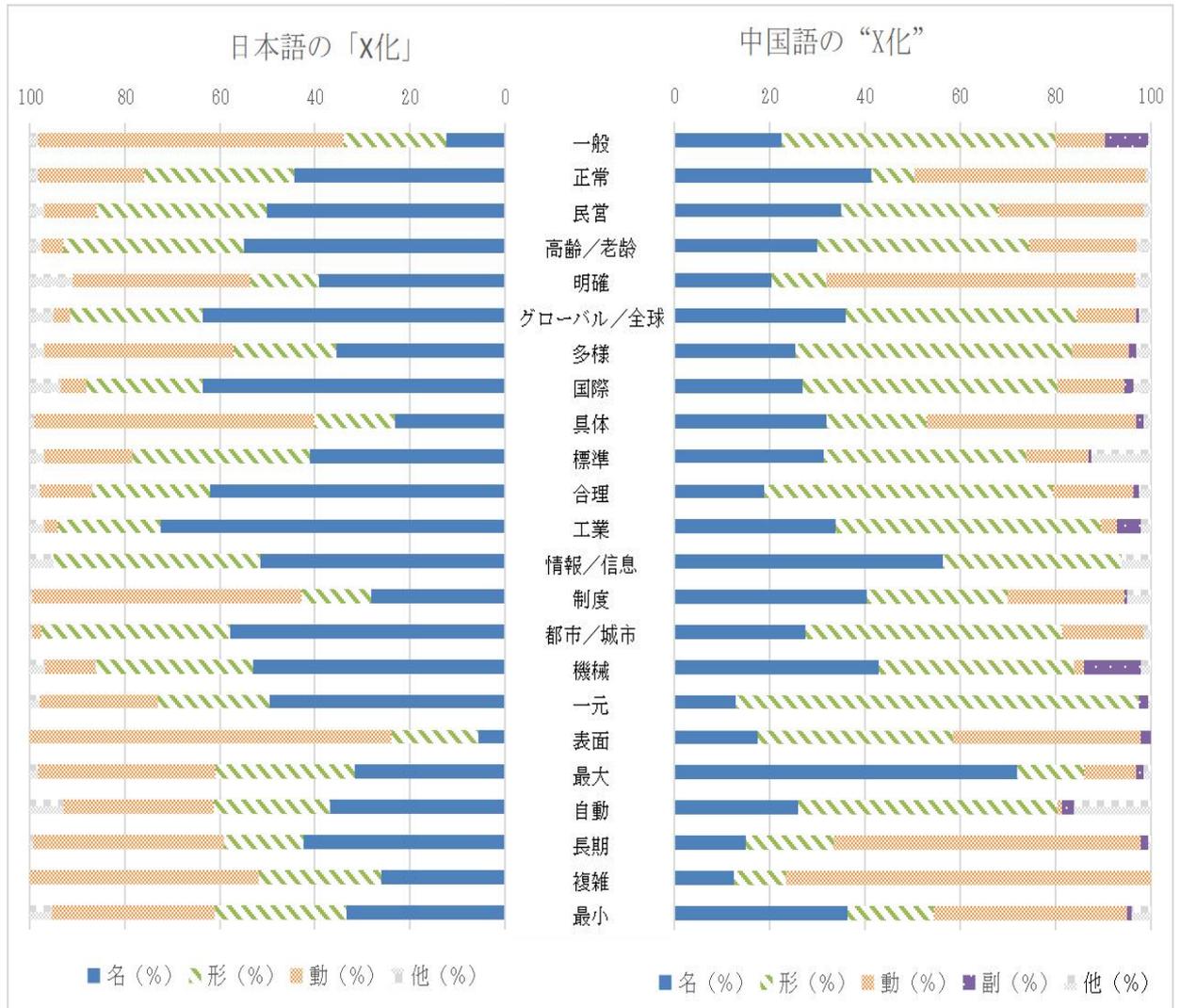


図 7-1 日中【X化】の品詞的使用状況分布図

図 7-1 から分かるように、【一般化】【多様化】【合理化】【工業化】【一元化】【最大化】などの語は日本語と中国語の使用傾向に相違が見られる。これに対して、【民营化】【具体化】【標準化】「情報化」（“信息化”）などの語は、日中両語における各用法は同じような使用傾向を持っている。また、「情報化」（“信息化”）は日中両語ともに動詞用法が見られなかった。

次に、各語の名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法の使用状況を詳しく見る。まず、日本語「X化」の名詞的用法の出現率の高い順に並べると下の表 7-6 のようになる。

表 7-6 「X化」と“X化”（「X化」の名詞的用法の出現率の高い順）

	X化	日本語				順位	中国語				
		名 (%)	形 (%)	動 (%)	総 (%)		名 (%)	形 (%)	動 (%)	副 (%)	総 (%)
1	工業	145 (72.5)	43 (21.5)	6 (3.0)	200 (100.0)	9	68 (34.0)	111 (55.5)	7 (3.5)	10 (5.0)	200 (100.0)
2	グローバル /全球	127 (63.5)	56 (28.0)	7 (3.5)	200 (100.0)	7	72 (36.0)	97 (48.5)	25 (12.5)	1 (0.5)	200 (100.0)
3	国際	127 (63.5)	49 (24.5)	11 (5.5)	200 (100.0)	14	54 (27.0)	107 (53.5)	28 (14.0)	4 (2.0)	200 (100.0)
4	合理	124 (62.0)	50 (25.0)	22 (11.0)	200 (100.0)	19	38 (19.0)	121 (60.5)	34 (17.0)	2 (1.0)	200 (100.0)
5	都市 /城市	114 (57.9)	78 (39.6)	4 (2.0)	197 (100.0)	13	55 (27.5)	108 (54.0)	34 (17.0)	0 (0.0)	200 (100.0)
6	高齢 /老齡	110 (55.0)	76 (38.0)	9 (4.5)	200 (100.0)	12	60 (30.0)	89 (44.5)	45 (22.5)	0 (0.0)	200 (100.0)
7	機械	100 (52.9)	63 (33.3)	20 (10.6)	189 (100.0)	3	86 (43.0)	82 (41.0)	4 (2.0)	24 (12.0)	200 (100.0)
8	情報 /信息	103 (51.5)	87 (43.5)	0 (0.0)	200 (100.0)	2	113 (56.5)	75 (37.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	200 (100.0)
9	民営	100 (50.0)	72 (36.0)	22 (11.0)	200 (100.0)	8	70 (35.0)	66 (33.0)	61 (30.5)	0 (0.0)	200 (100.0)
10	一元	92 (49.5)	44 (23.7)	46 (24.7)	186 (100.0)	22	26 (13.0)	169 (84.5)	0 (0.0)	4 (2.0)	200 (100.0)
11	正常	88 (44.2)	64 (31.8)	45 (22.3)	200 (100.0)	4	83 (41.5)	18 (9.0)	97 (48.5)	0 (0.0)	200 (100.0)
12	長期	63 (42.3)	25 (16.8)	60 (40.3)	149 (100.0)	21	30 (15.0)	37 (18.5)	129 (64.5)	3 (1.5)	200 (100.0)
13	標準	82 (41.0)	75 (37.5)	37 (18.5)	200 (100.0)	11	63 (31.5)	85 (42.5)	26 (13.0)	1 (0.5)	200 (100.0)
14	明確	78 (39.0)	29 (14.5)	75 (37.5)	200 (100.0)	18	39 (20.4)	22 (11.5)	124 (64.9)	0 (0.0)	191 (100.0)
15	自動	57 (36.8)	38 (24.5)	49 (31.6)	155 (100.0)	15	52 (26.0)	109 (54.5)	2 (1.0)	5 (2.5)	200 (100.0)
16	多様	71 (35.5)	43 (21.5)	80 (40.0)	200 (100.0)	16	51 (25.5)	116 (58.0)	24 (12.0)	3 (1.5)	200 (100.0)
17	最小	36 (33.3)	30 (27.8)	37 (34.3)	108 (100.0)	6	73 (36.5)	36 (18.0)	81 (40.5)	2 (1.0)	200 (100.0)
18	最大	54 (31.6)	50 (29.2)	64 (37.4)	171 (100.0)	1	144 (72.0)	28 (14.0)	22 (11.0)	3 (1.5)	200 (100.0)
19	制度	56 (28.1)	29 (14.6)	113 (56.8)	199 (100.0)	5	81 (40.5)	59 (29.5)	49 (24.5)	1 (0.5)	200 (100.0)
20	複雑	36 (25.9)	36 (25.9)	67 (48.2)	139 (100.0)	23	25 (12.5)	22 (11.0)	153 (76.5)	0 (0.0)	200 (100.0)
21	具体	46 (23.0)	34 (17.0)	118 (59.0)	200 (100.0)	10	64 (32.0)	42 (21.0)	88 (44.0)	3 (1.5)	200 (100.0)

22	一般	25 (12.3)	43 (21.6)	129 (64.4)	200 (100.0)	17	45 (22.5)	115 (57.5)	21 (10.5)	18 (9.0)	200 (100.0)
23	表面	10 (5.6)	33 (18.3)	137 (76.1)	180 (100.0)	20	35 (17.5)	82 (41.0)	79 (39.5)	4 (2.0)	200 (100.0)

表7-6から分かるように、日本語の「X化」において、名詞的用法が33%以上のものは17語あるのに対して、中国語の“X化”では名詞的用法が33%以上のものは9語ある。また、【X化】の名詞的用法の出現率が日中両語ともに33%以上ある語は【工業化】「グローバル化」（“全球化”）【機械化】「情報化」（“信息化”）【民営化】【正常化】【最小化】の7語である。なお、【最大化】と【制度化】は中国語における名詞的用法の出現率が72.00%と40.5%であるのに対して、日本語における名詞的用法の出現率が31.58%と28.14%であり、日本語より中国語の方が名詞的用法で使われやすいことが分かる。さらに、日本語の名詞的用法の出現率が33%以上、中国語の名詞的用法の出現率が33%以下の語は合わせて10語あった。このうち、【長期化】と【多様化】の2語は中国語で動詞的用法が多いが、【国際化】【合理化】「都市化」（“城市化”）「高齢化」（“高齢化”）【一元化】【標準化】【明確化】【自動化】の8語は中国語で形容詞的用法が多い。

次に、日本語「X化」の形容詞的用法の出現率の高い順を並べると下の表7-7のようになる。

表7-7 「X化」と“X化”（「X化」の形容詞的用法の出現率の高い順）

	X化	日本語				順位	中国語				
		名 (%)	形 (%)	動 (%)	総 (%)		名 (%)	形 (%)	動 (%)	副 (%)	総 (%)
1	情報 /信息	103 (51.5)	87 (43.5)	0 (0.0)	200 (100.0)	14	113 (56.5)	75 (37.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	200 (100.0)
2	都市 /城市	114 (57.9)	78 (39.6)	4 (2.0)	197 (100.0)	7	55 (27.5)	108 (54.0)	34 (17.0)	0 (0.0)	200 (100.0)
3	高齢 /老龄	110 (55.0)	76 (38.0)	9 (4.5)	200 (100.0)	10	60 (30.0)	89 (44.5)	45 (22.5)	0 (0.0)	200 (100.0)
4	標準	82 (41.0)	75 (37.5)	37 (18.5)	200 (100.0)	11	63 (31.5)	85 (42.5)	26 (13.0)	1 (0.5)	200 (100.0)
5	民営	100 (50.0)	72 (36.0)	22 (11.0)	200 (100.0)	15	70 (35.0)	66 (33.0)	61 (30.5)	0 (0.0)	200 (100.0)
6	機械	100 (52.9)	63 (33.3)	20 (10.6)	189 (100.0)	12	86 (43.0)	82 (41.0)	4 (2.0)	24 (12.0)	200 (100.0)
7	正常	88 (44.2)	64 (31.8)	45 (22.3)	200 (100.0)	23	83 (41.5)	18 (9.0)	97 (48.5)	0 (0.0)	200 (100.0)
8	最大	54 (31.6)	50 (29.2)	64 (37.4)	171 (100.0)	20	144 (72.0)	28 (14.0)	22 (11.0)	3 (1.5)	200 (100.0)
9	グローバル /全球	127 (63.5)	56 (28.0)	7 (3.5)	200 (100.0)	9	72 (36.0)	97 (48.5)	25 (12.5)	1 (0.5)	200 (100.0)

10	最小	36 (33.3)	30 (27.8)	37 (34.3)	108 (100.0)	19	73 (36.5)	36 (18.0)	81 (40.5)	2 (1.0)	200 (100.0)
11	複雑	36 (25.9)	36 (25.9)	67 (48.2)	139 (100.0)	22	25 (12.5)	22 (11.0)	153 (76.5)	0 (0.0)	200 (100.0)
12	合理	124 (62.0)	50 (25.0)	22 (11.0)	200 (100.0)	2	38 (19.0)	121 (60.5)	34 (17.0)	2 (1.0)	200 (100.0)
13	自動	57 (36.8)	38 (24.5)	49 (31.6)	155 (100.0)	6	52 (26.0)	109 (54.5)	2 (1.0)	5 (2.5)	200 (100.0)
14	国際	127 (63.5)	49 (24.5)	11 (5.5)	200 (100.0)	8	54 (27.0)	107 (53.5)	28 (14.0)	4 (2.0)	200 (100.0)
15	一元	92 (49.5)	44 (23.7)	46 (24.7)	186 (100.0)	1	26 (13.0)	169 (84.5)	0 (0.0)	4 (2.0)	200 (100.0)
16	一般	25 (12.3)	43 (21.6)	129 (64.4)	200 (100.0)	4	45 (22.5)	115 (57.5)	21 (10.5)	18 (9.0)	200 (100.0)
17	多様	71 (35.5)	43 (21.5)	80 (40.0)	200 (100.0)	3	51 (25.5)	116 (58.0)	24 (12.0)	3 (1.5)	200 (100.0)
18	工業	145 (72.5)	43 (21.5)	6 (3.0)	200 (100.0)	5	68 (34.0)	111 (55.5)	7 (3.5)	10 (5.0)	200 (100.0)
19	表面	10 (5.6)	33 (18.3)	137 (76.1)	180 (100.0)	13	35 (17.5)	82 (41.0)	79 (39.5)	4 (2.0)	200 (100.0)
20	具体	46 (23.0)	34 (17.0)	118 (59.0)	200 (100.0)	17	64 (32.0)	42 (21.0)	88 (44.0)	3 (1.5)	200 (100.0)
21	長期	63 (42.3)	25 (16.8)	60 (40.3)	149 (100.0)	18	30 (15.0)	37 (18.5)	129 (64.5)	3 (1.5)	200 (100.0)
22	制度	56 (28.1)	29 (14.6)	113 (56.8)	199 (100.0)	16	81 (40.5)	59 (29.5)	49 (24.5)	1 (0.5)	200 (100.0)
23	明確	78 (39.0)	29 (14.5)	75 (37.5)	200 (100.0)	21	39 (20.4)	22 (11.5)	124 (64.9)	0 (0.0)	191 (100.0)

表7-7から分かるように、日本語の「X化」において、形容詞的用法が33%以上のものは6語あるのに対して、中国語の“X化”では形容詞的用法が33%以上のものは16語ある。また、【X化】の形容詞的用法の出現率が日中両語ともに33%以上ある語は「情報化」（“信息化”）「都市化」（“城市化”）「高齢化」（“高齢化”）【標準化】【民営化】【機械化】の6語である。なお、中国語の形容詞的用法の出現率が33%以上、日本語の形容詞的用法の出現率が33%以下の語は合わせて10語あった。このうち、「グローバル化」（“全球化”）【合理化】【自動化】【国際化】【一元化】【工業化】の6語は日本語において名詞的用法が多く、【一般化】【多様化】【表面化】【具体化】【最大化】の4語は日本語において動詞的用法が多い。さらに、【長期化】【明確化】は日中両語ともに形容詞的用法が少ない。

次に、日中両語の【X化】が形容詞的用法に用いられる場合、各用法にどのような使用傾向があるかを考察する。【X化】の形容詞的用法を日本語「X化したY」の出現率の高い順に並べると、下の表7-8のようになる。

表 7-8 「X化」と「X化」の形容詞的用法（日本語「X化したY」の出現率の高い順）

	X化	日本語形容詞的用法				中国語形容詞的用法					
		X化したY	X化のY	X化Y	形総	補語	形述	X化した的Y	X化的Y	X化Y	形総
1	複雑	36 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	36 (100.0)	2 (9.1)	10 (45.5)	0 (0.0)	6 (27.3)	4 (18.2)	22 (100.0)
2	表面	32 (97.0)	1 (3.0)	0 (0.0)	33 (100.0)	3 (3.7)	31 (37.8)	0 (0.0)	39 (47.6)	9 (11.0)	82 (100.0)
3	長期	20 (80.0)	3 (12.0)	2 (8.0)	25 (100.0)	0 (0.0)	7 (18.9)	0 (0.0)	21 (56.8)	9 (24.3)	37 (100.0)
4	具体	27 (79.4)	2 (5.9)	5 (14.7)	34 (100.0)	0 (0.0)	14 (33.3)	1 (2.4)	16 (38.1)	11 (26.2)	42 (100.0)
5	制度	22 (75.9)	6 (20.7)	1 (3.4)	29 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	27 (45.8)	32 (54.2)	59 (100.0)
6	一般	31 (72.1)	3 (7.0)	9 (20.9)	43 (100.0)	4 (3.5)	35 (30.4)	0 (0.0)	54 (47.0)	22 (19.1)	115 (100.0)
7	多様	31 (72.1)	8 (18.6)	4 (9.3)	43 (100.0)	1 (0.9)	15 (12.9)	0 (0.0)	56 (48.3)	44 (37.9)	116 (100.0)
8	明確	16 (55.2)	3 (10.3)	10 (34.5)	29 (100.0)	0 (0.0)	7 (31.8)	0 (0.0)	12 (54.5)	3 (13.6)	22 (100.0)
9	最小	11 (36.7)	1 (3.3)	18 (60.0)	30 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (47.2)	19 (52.8)	36 (100.0)
10	最大	18 (36.0)	5 (10.0)	27 (54.0)	50 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	18 (64.3)	10 (35.7)	28 (100.0)
11	一元	15 (34.1)	13 (29.5)	16 (36.4)	44 (100.0)	0 (0.0)	6 (3.6)	0 (0.0)	30 (17.8)	133 (78.7)	169 (100.0)
12	機械	15 (23.8)	11 (17.5)	37 (58.7)	63 (100.0)	1 (1.2)	4 (4.9)	0 (0.0)	12 (14.6)	65 (79.3)	82 (100.0)
13	標準	16 (21.3)	13 (17.3)	46 (61.3)	75 (100.0)	0 (0.0)	2 (2.4)	1 (1.2)	10 (11.8)	72 (84.7)	85 (100.0)
14	自動	6 (15.8)	18 (47.4)	14 (36.8)	38 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (9.2)	99 (90.8)	109 (100.0)
15	都市 /城市	12 (15.4)	55 (70.5)	11 (14.1)	78 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	27 (25.0)	81 (75.0)	108 (100.0)
16	グローバル /全球	7 (12.5)	36 (64.3)	13 (23.2)	56 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	41 (42.3)	56 (57.7)	97 (100.0)
17	国際	6 (12.2)	21 (42.9)	22 (44.9)	49 (100.0)	0 (0.0)	5 (4.7)	0 (0.0)	35 (32.7)	67 (62.6)	107 (100.0)
18	正常	5 (7.8)	9 (14.1)	50 (78.1)	64 (100.0)	1 (5.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (33.3)	11 (61.1)	18 (100.0)
19	工業	3 (7.0)	3 (7.0)	37 (86.0)	43 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (15.3)	94 (84.7)	111 (100.0)
20	民営	5 (6.9)	21 (29.2)	46 (63.9)	72 (100.0)	0 (0.0)	1 (1.5)	0 (0.0)	23 (34.8)	42 (63.6)	66 (100.0)
21	高齢 /老齡	3 (3.9)	24 (31.6)	49 (64.5)	76 (100.0)	0 (0.0)	1 (1.1)	0 (0.0)	12 (13.5)	76 (85.4)	89 (100.0)
22	情報 /信息	3 (3.4)	6 (6.9)	78 (89.7)	87 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (16.0)	63 (84.0)	75 (100.0)
23	合理	1 (2.0)	10 (20.0)	39 (78.0)	50 (100.0)	0 (0.0)	9 (7.4)	0 (0.0)	11 (9.1)	101 (83.5)	121 (100.0)
	合計	366 (31.0)	273 (23.1)	541 (45.8)	1,180 (100.0)	12 (0.7)	148 (8.2)	2 (0.1)	515 (28.6)	1,124 (62.4)	1,801 (100.0)

表 7-8 から分かるように、形容詞的用法において、日本語は「X化したY」「X化のY」「X化Y」という形で連体修飾節のみに見られたが、中国語は連体修飾節以外、下の例(7-4)

のように、結果補語や形容詞述語に用いられることも見られた。

- (7-4) a. 工作变得复杂化。 ( “变得” の結果補語 )  
 ( 仕事は複雑になった。 )  
 b. 小李对这个问题的理解非常表面化。 ( 形容詞述語 )  
 ( 李さんはこの質問への理解がとても表面的である。 )

なお、連体修飾語用法において、日本語の「X化したY」「X化のY」「X化Y」の三つの形式はそれぞれ30.0%、23.1%、45.8%を占めている。これに対して、中国語で対応する“X化了的Y”“X化的Y”“X化Y”の三つの形式はそれぞれ0.1%、28.6%、62.4%を占めている。【X化Y】という形式は、日本語でも中国語でも出現率が高いが、「X化したY」という形式は日本語で多用されているが、中国語では下の例(7-5)のようにわずか2例しか見られなかった。この場合、“了”はなくても言える。

- (7-5) a. 意象是纯感官的，意象是具体化了的感覺。  
 ( イメージは感覺的なものであり、具体化した感覺である。 )  
 b. 所拍卖的商品都是已经相当标准化了的商品。  
 ( オークションに出される商品は、かなり標準化されたものである。 )

中国語の“X化”においては「X化+動詞活用形+Y」という形はほとんど使われていないことが分かった。また、日本語の「X化したY」の出現率が高い「複雑化」「表面化」「長期化」「具体化」「制度化」などの語は下の表7-9のように、動詞的用法の出現率も高い。これらの「X化」は連用修飾節に現れ、名詞を修飾しているものの、やはり動的事象を表しやすいという特徴が見られる。

表7-9は日本語「X化」の動詞的用法の出現率の高い順に並べたものである。

表7-9 「X化」と“X化”(「X化」の動詞的用法の出現率の高い順)

	X化	日本語				中国語					
		名 (%)	形 (%)	動 (%)	総 (%)	順位	名 (%)	形 (%)	動 (%)	副 (%)	総 (%)
1	表面	10 (5.6)	33 (18.3)	137 (76.1)	180 (100.0)	7	35 (17.5)	82 (41.0)	79 (39.5)	4 (2.0)	200 (100.0)
2	一般	25 (12.3)	43 (21.6)	129 (64.4)	200 (100.0)	18	45 (22.5)	115 (57.5)	21 (10.5)	18 (9.0)	200 (100.0)

3	具体	46 (23.0)	34 (17.0)	118 (59.0)	200 (100.0)	5	64 (32.0)	42 (21.0)	88 (44.0)	3 (1.5)	200 (100.0)
4	制度	56 (28.1)	29 (14.6)	113 (56.8)	199 (100.0)	9	81 (40.5)	59 (29.5)	49 (24.5)	1 (0.5)	200 (100.0)
5	複雑	36 (25.9)	36 (25.9)	67 (48.2)	139 (100.0)	1	25 (12.5)	22 (11.0)	153 (76.5)	0 (0.0)	200 (100.0)
6	長期	63 (42.3)	25 (16.8)	60 (40.3)	149 (100.0)	3	30 (15.0)	37 (18.5)	129 (64.5)	3 (1.5)	200 (100.0)
7	多様	71 (35.5)	43 (21.5)	80 (40.0)	200 (100.0)	16	51 (25.5)	116 (58.0)	24 (12.0)	3 (1.5)	200 (100.0)
8	明確	78 (39.0)	29 (14.5)	75 (37.5)	200 (100.0)	2	39 (20.4)	22 (11.5)	124 (64.9)	0 (0.0)	191 (100.0)
9	最大	54 (31.6)	50 (29.2)	64 (37.4)	171 (100.0)	17	144 (72.0)	28 (14.0)	22 (11.0)	3 (1.5)	200 (100.0)
10	最小	36 (33.3)	30 (27.8)	37 (34.3)	108 (100.0)	6	73 (36.5)	36 (18.0)	81 (40.5)	2 (1.0)	200 (100.0)
11	自動	57 (36.8)	38 (24.5)	49 (31.6)	155 (100.0)	21	52 (26.0)	109 (54.5)	2 (1.0)	5 (2.5)	200 (100.0)
12	一元	92 (49.5)	44 (23.7)	46 (24.7)	186 (100.0)	22	26 (13.0)	169 (84.5)	0 (0.0)	4 (2.0)	200 (100.0)
13	正常	88 (44.2)	64 (31.8)	45 (22.3)	200 (100.0)	4	83 (41.5)	18 (9.0)	97 (48.5)	0 (0.0)	200 (100.0)
14	標準	82 (41.0)	75 (37.5)	37 (18.5)	200 (100.0)	14	63 (31.5)	85 (42.5)	26 (13.0)	1 (0.5)	200 (100.0)
15	民営	100 (50.0)	72 (36.0)	22 (11.0)	200 (100.0)	8	70 (35.0)	66 (33.0)	61 (30.5)	0 (0.0)	200 (100.0)
16	合理	124 (62.0)	50 (25.0)	22 (11.0)	200 (100.0)	11	38 (19.0)	121 (60.5)	34 (17.0)	2 (1.0)	200 (100.0)
17	機械	100 (52.9)	63 (33.3)	20 (10.6)	189 (100.0)	20	86 (43.0)	82 (41.0)	4 (2.0)	24 (12.0)	200 (100.0)
18	国際	127 (63.5)	49 (24.5)	11 (5.5)	200 (100.0)	13	54 (27.0)	107 (53.5)	28 (14.0)	4 (2.0)	200 (100.0)
19	高齢 /老齡	110 (55.0)	76 (38.0)	9 (4.5)	200 (100.0)	10	60 (30.0)	89 (44.5)	45 (22.5)	0 (0.0)	200 (100.0)
20	グローバル /全球	127 (63.5)	56 (28.0)	7 (3.5)	200 (100.0)	15	72 (36.0)	97 (48.5)	25 (12.5)	1 (0.5)	200 (100.0)
21	工業	145 (72.5)	43 (21.5)	6 (3.0)	200 (100.0)	19	68 (34.0)	111 (55.5)	7 (3.5)	10 (5.0)	200 (100.0)
22	都市 /城市	114 (57.9)	78 (39.6)	4 (2.0)	197 (100.0)	12	55 (27.5)	108 (54.0)	34 (17.0)	0 (0.0)	200 (100.0)
23	情報 /信息	103 (51.5)	87 (43.5)	0 (0.0)	200 (100.0)	23	113 (56.5)	75 (37.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	200 (100.0)

表7-9から分かるように、日本語の「X化」において、動詞的用法が33%以上のものは10語あるのに対して、中国語の“X化”において、動詞的用法が33%以上のものは7語ある。また、【X化】の動詞的用法の出現率が日中両語ともに33%以上ある語は【表面化】【具体化】【複雑化】【長期化】【明確化】【最小化】の6語である。なお、日本語の動詞的用法の出現率が33%以上、中国語の動詞的用法の出現率が33%以下の語は【一般化】【制度化】【多様化】【最大化】の4語である。このうち、“一般化”“多様化”は中国語において形容詞的用法が多いのに対して、“制度化”“最大化”は中国

語において名詞的用法が多い。逆に、【正常化】は中国語における出現率が日本語の出現率より高い。さらに、「情報化」（“信息化”）は日中両語ともに動詞的用法が見られず、【工業化】は日中両語ともに動詞的用法の出現率が低い。

一方、日本語の「最大化」と「最小化」は名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法にほぼ同じような傾向が見られる。これに対して、中国語の“最大化”は下の例（7-6）のように名詞的用法が圧倒的に多いのに対して、“最小化”は例（7-7）のような名詞的用法が例（7-8）のような動詞的用法より出現率がやや低い。

(7-6) 追求／实现／达到／为了效益・利润的 最大化

(利益・利潤の最大化を求める／を実現する／に達する／のため)

(7-7) 追求／实现成本・压力的 最小化

(生産コスト・圧力の最小化を求める／を実現する)

(7-8) 将不利影响最小化／使成本 最小化

(悪影響を最小化する／生産コストを最小化させる)

## 7.2 日中両語【X化】の動詞用法

続いて、日中両語【X化】の動詞的用法のうち、能動-自動詞用法、能動-他動詞用法、受身用法、使役用法の使用傾向を見る。日本語の「X化する」における自動詞用法と他動詞用法の出現率は自動詞出現数/（自動詞+他動詞）出現数、他動詞出現数/（自動詞+他動詞）出現数で算出し、受身用法と使役用法の出現率は受身用法出現数/総動詞用法、使役用法出現数/総動詞用法出現数で算出した。「X化する」の自動用法の出現率の高い順に並べると下の表7-10のようになる。（紙幅の都合上、自動詞+他動詞の総数を省略する。）

表7-10 「X化」と“X化”の動詞用法（「X化」の自動詞的用法の出現率の高い順）

	X化	日本語					中国語				
		自 (%)	他 (%)	受身 (%)	使役 (%)	総動 (%)	自 (%)	他 (%)	受身 (%)	使役 (%)	総動 (%)
1	表面	125 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (5.8)	137 (100.0)	68 (97.1)	2 (2.9)	0 (0.0)	9 (11.4)	79 (100.0)
2	高齢 /老齡	9 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (100.0)	45 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	45 (100.0)
3	都市 /城市	2 (100.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	4 (100.0)	34 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	34 (100.0)
4	長期	52 (98.1)	1 (1.9)	0 (0.0)	7 (11.7)	60 (100.0)	69 (77.5)	20 (22.5)	0 (0.0)	40 (31.0)	129 (100.0)

5	多様	70 (92.1)	6 (7.9)	3 (3.8)	1 (1.3)	80 (100.0)	23 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.2)	24 (100.0)
6	自動	23 (85.2)	4 (14.8)	22 (44.9)	0 (0.0)	49 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (100.0)	2 (100.0)
7	最小	26 (81.3)	6 (18.8)	4 (10.8)	1 (2.7)	37 (100.0)	25 (62.5)	15 (37.5)	1 (1.2)	40 (49.4)	81 (100.0)
8	工業	3 (75.0)	1 (25.0)	2 (33.3)	0 (0.0)	6 (100.0)	7 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (100.0)
9	一般	77 (74.0)	27 (26.0)	24 (18.6)	1 (0.8)	129 (100.0)	17 (81.0)	4 (19.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	21 (100.0)
10	国際	7 (70.0)	3 (30.0)	1 (9.1)	0 (0.0)	11 (100.0)	23 (92.0)	2 (8.0)	0 (0.0)	3 (10.7)	28 (100.0)
11	グローバル/全球	4 (66.7)	2 (33.3)	1 (14.3)	0 (0.0)	7 (100.0)	25 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	25 (100.0)
12	民営	9 (56.3)	7 (43.8)	5 (22.7)	1 (4.5)	22 (100.0)	58 (96.7)	2 (3.3)	0 (0.0)	1 (1.6)	61 (100.0)
13	標準	7 (46.7)	8 (53.3)	22 (59.5)	0 (0.0)	37 (100.0)	19 (82.6)	4 (17.4)	1 (3.8)	2 (7.7)	26 (100.0)
14	合理	6 (35.3)	11 (64.7)	5 (22.7)	0 (0.0)	22 (100.0)	13 (72.2)	5 (27.8)	1 (2.9)	15 (44.1)	34 (100.0)
15	具体	27 (31.0)	60 (69.0)	23 (19.5)	8 (6.8)	118 (100.0)	23 (41.8)	32 (58.2)	6 (6.8)	27 (30.7)	88 (100.0)
16	複雑	15 (24.2)	47 (75.8)	2 (3.0)	3 (4.5)	67 (100.0)	60 (72.3)	23 (27.7)	7 (4.6)	63 (41.2)	153 (100.0)
17	機械	2 (18.2)	9 (81.8)	9 (45.0)	0 (0.0)	20 (100.0)	3 (75.0)	1 (25.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
18	最大	3 (5.6)	51 (94.4)	8 (12.5)	2 (3.1)	64 (100.0)	2 (40.0)	3 (60.0)	0 (0.0)	17 (77.3)	22 (100.0)
19	一元	2 (5.4)	35 (94.6)	8 (17.4)	1 (2.2)	46 (100.0)	0	0	0	0	0
20	正常	1 (2.6)	37 (97.4)	2 (4.4)	5 (11.1)	45 (100.0)	85 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (12.4)	97 (100.0)
21	制度	1 (2.6)	38 (97.4)	73 (64.6)	1 (0.9)	113 (100.0)	13 (68.4)	6 (31.6)	1 (2.0)	29 (59.2)	49 (100.0)
22	明確	1 (1.9)	52 (98.1)	20 (26.7)	2 (2.7)	75 (100.0)	33 (42.3)	45 (57.7)	1 (0.8)	45 (36.3)	124 (100.0)
23	情報/情報	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	472 (53.8)	405 (46.2)	236 (20.4)	41 (3.5)	1,154 (100.0)	645 (79.7)	164 (20.3)	18 (1.6)	306 (27.0)	1,133 (100.0)

表 7-10 から分かるように、日本語の「X化する」は自動詞用法と他動詞用法のうち、自動詞の総出現率が 53.8%あり、他動詞の総出現率が 46.2%あり、自動詞の出現率の方が他動詞の出現率よりやや高い。これに対して、中国語の“X化”の自動詞用法と他動詞用法において、自動詞の総出現率が 79.7%あり、他動詞の総出現率が 20.3%あり、自動詞の出現率の方が他動詞の出現率より圧倒的に高い。

なお、日中両語の【X化】の受身用法と使役用法を対照してみると、日本語は受身用法が多いのに対して、中国語は使役用法が多いことが分かった。

また、日本語において、自動詞用法の比率が 60%以上の語は「表面化」「高齢化」「都市化」「長期化」「多様化」などの 11 語ある。このうち、「都市化」と「工業化」の出

現数の少ないもの以外、すべての「化」は「形容詞語基+化」の派生語である。これに対して、中国語における動詞用法のある21語のうち、18語の“X化”は自動詞の出現率が60%以上であり、“具体化”“最大化”“明確化”の三語は自動詞用法の比率と他動詞用法の比率には大きな差が見られない。これは第6章で述べた中国語の“X化”には他動詞優勢の語が見当たらないことと同じ傾向を示す。

さらに、表7-10を受け、【X化】の動詞用法における使用傾向をまとめると以下の表7-11のようになる。

表7-11 【X化】の動詞用法の使用傾向<sup>45</sup>

	自動詞用法	他動詞用法	受身用法	使役用法
日＝中 <sup>46</sup> (多)	表面、高齢/老齡、都市/城市、多様、最小、一般	具体		
日＞中	長期、自動	民営、標準、合理、複雑、機械、最大、一元、正常、制度、明確	自動、工業、標準、機械、制度、明確	
日＜中	工業、国際、グローバル/全球、民営、標準、合理、複雑、機械、最大、正常、制度、明確	長期、最小		自動、最小、合理、具体、複雑、最大、制度、明確
日＝中 (少) <sup>47</sup>	具体、一元	表面、多様、自動、最小、工業、一般、国際、グローバル/全球	都市/城市、多様、最小、一般、国際、グローバル/全球、民営、合理、具体、複雑、最大、一元、正常	表面、長期、多様、一般、国際、民営、標準、一元、正常
日＝中 (0)		高齢/老齡、都市/城市	表面、高齢/老齡	高齢/老齡、都市/城市、工業、グローバル/全球

表7-11から分かるように、【表面化】「高齢化」（“老齡化”）【一般化】などの語

<sup>45</sup> 「情報化」と“信息化”は日中両語ともに動詞用法が見られないため、表7-11に入れないことにする。

<sup>46</sup> 出現率の差が20%以内のものを「日＝中」とする。

<sup>47</sup> 日本語でも中国語でも出現率が20%以下のものを「日＝中（少）」とする。

は日本語においても中国語においても自動詞用法が多く、【長期化】【自動化】は日本語の方が出現率が高く、【工業化】【国際化】などの語は中国語の方が出現率が高く、【具体化】【一元化】は日本語においても中国語においても他動詞用法より自動詞用法の出現率が低い。

また、他動詞用法に関して、日本語においても中国語においても他動詞用法が多い語は【具体化】しか見られず、日本語の方が出現率が高い語には【民営化】【標準化】などがあり、中国語の方が出現率が高い語には【長期化】【最小化】があり、日本語においても中国語においても他動詞用法の出現率が低いものには【表面化】【多様化】などがある。さらに「都市化」（“城市化”）と「高齢化」（“高齢化”）は日中両語ともに他動詞用法が見られなかった。

次に、受身用法の日中異同を見る。日本語においても中国語においても受身用法が多い語は見られず、日本語の方が出現率が高い語には【自動化】【工業化】などがあり、中国語の方が出現率が高い語は見られず、日本語においても中国語においても受身用法の出現率が低いものには「都市化」（“城市化”）【多様化】【最小化】などがある。さらに【表面化】「高齢化」（“高齢化”）は日本語と中国語ともに、受け用法が見られなかった。

最後に、使役用法の異同を見る。日本語においても中国語においても使役用法が多い語は見られず、日本語の方が出現率が高い語も見られず、中国語の方が出現率が高い語は【自動化】【最小化】【合理化】などがあり、日本語においても中国語においても使役用法の出現率が低いものには【表面化】【長期化】【多様化】などがある。さらに「都市化」（“城市化”）「高齢化」（“高齢化”）【工業化】「グローバル化」（“全球化”）は日本語と中国語ともに使役用法が見られなかった。

### 7.3 まとめ

本章では、①日中同形語（ただし、「高齢化」「情報化」「グローバル化」「都市化」の四つの語は例外とする）、②日本語コーパス BCCWJ で 100 件以上出現した、③中国語のコーパス BCC 語料庫で 100 件以上出現したという三つの条件を満たした 23 語を考察対象とし、日中同形の【X化】の品詞的用法の異同を見てきた。

まず、7.1 節では日中【X化】の全体的な使用傾向を見た。結果として、日本語の「X化」は名詞的用法が最も多く、形容詞的用法と動詞的用法がそれに次ぐ。これに対して、中国語の“X化”は形容詞的用法が最も多く、名詞的用法と動詞的用法がそれに次ぐことが分かった。なお、中国語には副詞的用法が 87 件見られたが日本語には見られなかった。

また、23語の【X化】の品詞的用法を具体的に考察したところ、【民営化】【具体化】【標準化】「情報化」（“信息化”）などの語は、日中両語における各用法は同じような使用傾向を持ち、【一般化】【多様化】【合理化】【工業化】【一元化】【最大化】などの語は日本語と中国語の使用傾向に相違が見られる。

【X化】の名詞的用法において、日本語の「X化」は名詞的用法が33%以上のものが17語あるのに対して、中国語の場合は9語しかない。【X化】の名詞的用法の出現率が日中両語ともに全体の三分の一の33%以上ある語は【工業化】「グローバル化」（“全球化”）【機械化】「情報化」（“信息化”）【民営化】【正常化】【最小化】の7語である。このうち、「E./F.量的変化」を表す「名詞語基+化」の語例が多い。なお、日本語の名詞的用法の出現率が33%以上、中国語の名詞的用法の出現率が33%以下の語は【長期化】【多様化】【国際化】【合理化】「都市化」（“城市化”）「高齢化」（“高齢化”）【一元化】【標準化】【明確化】【自動化】の10語あった。これらの語には「形容詞語基+化」のものが多く、中国語の方が名詞的用法の出現率が高い語には【最大化】と【制度化】がある。

【X化】の形容詞用法について、日本語の「X化」は形容詞的用法が33%以上のものが6語あるのに対して、中国語の“X化”は16語ある。また、【X化】の形容詞的用法の出現率が日中両語ともに33%以上ある語は「情報化」（“信息化”）「都市化」（“城市化”）【標準化】【機械化】「高齢化」（“高齢化”）【民営化】の6語である。このうち、「名詞語基+化」の語が多い。これに対して、中国語の方が形容詞的用法の出現率が高い語には「グローバル化」（“全球化”）【合理化】【自動化】【国際化】【一元化】【工業化】【一般化】【多様化】【表面化】【具体化】【最大化】の10語があった。これらの語は「形容詞語基+化」の語が多い。また、日本語は「X化したY」「X化のY」「X化Y」の形で連体修飾節のみに見られるが、中国語は連体修飾節以外、結果補語や形容詞述語に用いられることも見られる。さらに、連体修飾節において、日本語は「X化Y」（45.8%）>「X化したY」（30.0%）>「X化のY」（23.1%）の順で使用頻度が下がるが、中国語は“X化Y”（62.4%）>“X化的Y”（28.6%）>“X化了的Y”（0.1%）の順で使用頻度が下がる。これは中国語には「動詞+“了”+被修飾語」の語形があまり使用されていないことに起因するかもしれない。

【X化】の動詞的用法において、日本語の「X化」は動詞的用法が33%以上のものは10語あるのに対して、中国語の“X化”は7語ある。【X化】の動詞的用法の出現率が日中両語ともに33%以上ある語は【表面化】【具体化】【複雑化】【長期化】【明確化】【最小化】の6語である。これらの語は「形容詞語基+化」の語例で、ある事象の変化

を動的に描写するものが多い。日本語の方が出現率が高い語には【一般化】【制度化】【多様化】【最大化】があり、中国語の方が出現率が高い語は【正常化】がある。また、「情報化」（“信息化”）は日中両語ともに動詞的用法が見られず、【工業化】は日中両語ともに動詞的用法の出現率が低い。

次に、7.2節では【X化】の動詞的用法を中心に考察した。日本語の「X化する」は自動詞用法と他動詞用法のうち、自動詞の総出現率が53.8%あり、他動詞の総出現率が46.2%あり、自動詞の出現率が他動詞の出現率よりやや高い。これに対して、中国語の“X化”の自動詞の総出現率が79.7%あり、他動詞の総出現率が20.3%あり、自動詞の出現率が他動詞の出現率より圧倒的に高い。また、“X化”は“一字語基+化”の派生語は目的語を後続する形でも“把”構文でも使用できるが、“二字語基+化”は目的語を後続する形が極めて少なく、ほとんどが“把”構文に現れる。このことから、音韻的な要因が“X化”他動詞用法の使用実態にも影響すると考えられる。

なお、【X化する】の受身用法と使役用法を対照したところ、日本語の「X化する」は受身用法の出現率（20.4%）が使役用法の出現率（3.5%）より高いのに対して、中国語の“X化”はそれと正反対で、使役用法の出現率（27.0%）が受身用法の出現率（1.6%）より高いことを明らかにした。このことから、日本語の「X化」は他動詞的に使われることが多く、中国語の“X化”は自動詞的に使われることが多いことが分かった。

最後に、各【X化】の動詞用法の使用傾向を日中で対照した結果を表7-11にまとめた。

## 第8章 まとめ

本研究では、日本語の「X化」と中国語の“X化”を意味、語基、品詞的用法の三つの側面から考察した。

まず、第1章の序論では、派生語の全体像及び【化】の位置づけを示してから、日本語の「X化」と中国語の“X化”には意味、語基、品詞的用法の三つの側面に異同が見られることを指摘し、本研究の目的について述べた。

次に、第2章では、【X化】の日中対照に関する先行研究、日本語の「X化」および中国語の“X化”に関する包括的な研究を概観した。

続いて、第3章では、日中両語における【X化】の意味を分析した。まず、【X化】を【名詞語基+化】【形容詞語基+化】【動詞語基+化】の三種類に分け、それぞれの場合の意味を考察した。結果として、日本語の「X化」を以下のような変化タイプに分けた。

### 「名詞語基+化」

- A. 項目変化：語基そのものに変化する (現金化、商品化)
- B. 様式変化：語基の様式によって表現されるようになる (数値化、ポイント化)
- C. 属性変化：語基の表す属性の一部／典型的な特徴を持つようになる (女性化、幼児化)
- D. 所有変化：語基の表す概念を持つようになる (規格化、構造化)
- E. 量的変化①：語基が重視されるようになり、広がる (情報化、電子化)
- F. 量的変化②：語基の表すものに行き渡る／広がる (大衆化、全国化)

### 「形容詞語基+化」

- ・語基の表す状態に変化する (複雑化、特殊化)

### 「動詞語基+化」

- A. 語基で表される状態に変化する (固定化、肥大化)  
 B. 語基で表される動作の結果状態に変化する (立法化、外注化)

また、語基 X が動詞である場合、「X」と「X化」にはどのような違いがあるかを考察し、以下のような三つのタイプに分けた。

- ①タイプ1: 「X」と「X化」の意味があまり変わらないもの  
 ②タイプ2: 「X」と「X化」の自他性が変わるもの  
 ③タイプ3: 「X化」は「X」に「変化」の意味を足すもの

一方、中国語の“X化”の意味は日本語の「X化」の意味とほぼ同じであるが、「名詞語基+化」の場合において、下の“国家化”のようにタイプ G が見られた。

#### 「名詞語基+化」

- G. 所有変化②: 語基が所有者になる ( (军队) 国家化)

なお、日本語の「X化」においては、「固定する」と「固定化する」のように、「動詞語基」と「動詞語基+化」の意味を区別しにくい場合が見られたのに対して、中国語の“X化”においては、“一般”と“一般化”のように、「形容詞語基」と「形容詞語基+化」の意味を区別しにくい場合が見られた。

第4章では日本語の「化」と中国語の“化”に前接する語基を①日○中○、②日○中×、③日×中○、④日×中×という四つのタイプに分けて、さらに前接する語基を「語基が一方しかない」「語基が日中同形異義」「語基が日中同形類義」の三つに分け、日中異同を考察した。

まず、①日○中○のタイプにおいて、【活性化】【商品化】のような「日中同形類義語」と【専業化】【数字化】のような「日中同形異義語」を分けた。また、「日中同形類義語」のうち、【多様化】【一体化】【国際化】【民主化】のような日中出現頻度に大きな差がないものもあれば、【民営化】【近代化】【正当化】【軽量化】のような日本語の方が出現頻度が高いものもあれば、【現代化】【多元化】【産業化】【個性化】などのような中国語の方が出現頻度が高いものもある。

②日○中×のタイプには「私物化」「映画化」「完璧化」「適正化」「温暖化」「情報化」などがある。これらの語を、「私物化」「映画化」のような「語基が中国語にな

い」もの、「完璧化」「適正化」のような「語基が日中同形異義」のもの、「温暖化」「情報化」のような「語基が日中同形類義」のものに区別した。また、「語基が日中同形類義」のものを1. 現代中国語ではあまり使われない／使う場面が限られているもの、2. 中国語では使用場面が異なり、“化”と共起する時他の語基が代替するもの、3. 英語訳に“化”が使われていないものの三つのタイプに分けた。

③日×中○のタイプには“年轻化”“信息化”“汽车化”“结构化”“老龄化”“平民化”などがある。これらの語を、“年轻化”“信息化”のような「語基が日本語にない」もの、“汽车化”“结构化”のような「語基が日中同形異義」のもの、“老龄化”“平民化”のような「語基が日中同形類義」のものに区別した。また、「語基が日中同形類義」のものを1. 現代日本語ではあまり使われない／使う場面が限られているもの、2. 同じ意味の他の語基によって代替するもの、3. 中国語が英語訳のルールに従わないもの、4. 日本語で用いる場合に別の要素が必要であるものの四つのタイプに分けた。

④日×中×、つまり、日本語と中国語両方言わない【X化】には【\*年齢化】【\*次元化】【\*運動化】【\*突然化】のような「変化の結果と考えにくいもの」、【\*後悔化】【\*愉快化】のような「個人的・一過性の事柄を表すもの」があることを指摘した。

第5章では、日本語の「X化」を中心に論じ、品詞的な使用傾向および「X化する」の自他選択の傾向を分析した。まず、国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』を中納言で検索し、100回以上出現した81語の「X化」を考察対象として、「X化」の品詞的用法を名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法、その他の四つの種類に分けて、「X化」の全体的な使用傾向および具体的に名詞的、形容詞的、動詞的用法として用いられやすいものを見た。

結果として、「X化」は全体的に名詞的用法が多く、形容詞的用法と動詞的用法がそれに次ぐことが分かった。また、名詞的用法の出現率が高いものには「効率化」「工業化」「民主化」「高度化」「軽量化」などがあり、期待される目標を表すものが多いと考えられる。形容詞的用法の出現率が高いものには「市街化」「健全化」「温暖化」「安定化」「情報化」などがあり、「市街化区域」のようによく「X化+被修飾語」の形で現れる。動詞的用法の出現率が高いものには「具現化」「表面化」「本格化」「顕在化」「正当化」などがあり、ある趨勢や現象を叙述する動的なものが多い。

次に、BCCWJから抽出した2,512語の「X化」うち、自動詞用法と他動詞用法の出現数が合計で20件以上出現した83語を考察対象とし、「X化する」において、どのような語が自動詞に用いられやすく、どのような語が他動詞に用いられやすいかを見た。また、

受身用法に用いられやすいもの、使役用法に用いられやすいものを見た。

5.3.2節では、「X化する」の自他性を考察するために、階層的クラスタ分析および正準判別分析を行い、83語を「自動詞優勢語群」「自他拮抗語群」「他動詞優勢語群」の三つのクラスタに分類した。自動詞優勢の語には「深刻化する」「慢性化する」「高齢化する」「重症化する」などがあり、自他拮抗の語には「専門化する」「日常化する」「巨大化する」「弱体化する」などがあり、他動詞優勢の語には「ドラマ化する」「構造化する」「立体化する」「簡素化する」などがあることを指摘した。

次にどのような要因が「X化する」の自他性を影響しているかを分析した。「X化する」の自他性を影響要因として、1. 語基の品詞的な性質と2. 「X化する」の意味という二つが考えられる。

自動詞用法として用いられやすい語は以下の三つの特徴を持つと考えられる。

1. 「深刻化する」「慢性化する」のような「形容詞語基+化」の語
2. 「形骸化する」「空洞化する」のような「C. 属性変化」を表す「名詞語基+化」の語
3. 田窪（1986）で指摘しているように、「重症化する」「複雑化する」などのような好ましくない事象を表す語

これに対して、他動詞用法として用いられやすいのは以下の三つの特徴を持つと考えられる。

1. 「私物化する」「神格化する」のような「名詞語基+化」の語、特に「グラフ化する」「数値化する」のように「B. 様式変化」を表す「名詞語基+化」の語と「制度化する」「構造化する」のように「D. 所有変化」を表す「名詞語基+化」の語
2. 「無効化する」「最適化する」のように「無-」「最-」で始まる形容詞語基と「化」の派生語
3. 田窪（1986）で言及されているように、「正当化する」「合理化する」のように好ましい事象を表す語

さらに、5.3.3節では、「X化する」の受身用法と使役用法の使用実態を見た。受身用法の出現率が高いものには「実用化する」「細分化する」「制度化する」「構造化する」などがあり、「動詞語基+化」と「D. 所有変化」を表す「名詞語基+化」の語が多い。これに対して、「重症化する」「沈静化する」「慢性化する」「肥大化する」などの9語は受身用法が見られなかった。これらは全て「形容詞語基+化」の語であった。

使役用法の出現率が受身用法の出現率より高いものは「安定化する」「活性化する」があるが、最も高いものでも総動詞用法の39.3%しか占めていない。また、「重症化する」「慢性化する」「老朽化する」などの38語は使役用法が見られなかった。

第6章では、第5章を受け、中国語の“X化”を中心に論じ、品詞的な使用傾向および“X化”が動詞に用いられる場合の自他選択の傾向を分析した。まず、6.2節では、50語の“X化”を考察対象とし、北京語言大学語言智能研究院のBCC語料庫を利用し、“X化”の品詞的用法を名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法、副詞的用法、その他の五つの種類に分けて、“X化”の全体的な使用傾向および具体的名詞的、形容詞的、動詞的用法として用いられやすい語を見た。

その結果、中国語の“X化”は全体的に形容詞的用法が多く、名詞的用法と動詞的用法がそれに次ぐことを指摘した。また、日本語には副詞的用法がないのに対し、中国語の副詞的用法は延べ語数9,252語のうち139件見られた。

名詞的用法の出現率が高いものには“特殊化”“最大化”“信息化”“科学化”“私有化”などがあり、“追求（追究する）～”“实现（実現させる）～”などの語と共起し、ある事柄の生起や不生起を表すことが多いことが分かった。形容詞的用法の出現率が高いものには“一元化”“现代化”“个性化”“电气化”“理想化”などがあり、よく“一元化领导”“现代化进程”のように、限られた被修飾語と共起する傾向が見られる。動詞的用法の出現率が高いものには“扩大化”“复杂化”“明确化”“长期化”“庸俗化”などがあり、これらの語はほとんどが「形容詞語基+化」の語で、“X化”が進展していくような事柄を表すものである。なお、副詞的用法を持つものには“简单化”“一般化”“机械化”“概念化”などの28語があり、これらの語は動的側面より、動作の様態を表す側面が強いと考えられる。“合理化地解决问题（問題を合理的に解決する）”“简单化地清洗伤口（傷口を簡単に清浄する）”のような副詞的用法として使われる際、“化”なしの“合理”“简单”の意味とあまり変わらない。ただし“化”が付くほうが合理的ではない状態から合理的な状態に変化し、簡単ではない方法から簡単な方法に変化するという意味が感じられる。

次に6.3節では“X化”の動詞用法を中心にして、どのような語が自動詞に用いられやすく、どのような語が他動詞に用いられやすいかを考察し、さらに受身用法に用いられやすいものと使役用法に用いられやすいものを見た。

6.3.2節では、“X化”の自他性を考察するために、階層的クラスタ分析および正準判別分析を行い、自動詞用法と他動詞用法を持つ46語の“X化”を「自動詞優勢語群」「自

他拮抗語群」の二つのクラスタに分類した。自動詞優勢の語には“低齡化”“正常化”“白熱化”“老齡化”“城市化”などがあり、自他拮抗の語には“拟人化”“明确化”“具体化”“庸俗化”“扩大化”などがある。

自動詞用法として用いられやすいのは以下の四つの場合であると考えられる。

1. “低齡化”“白熱化”“正常化”のような「形容詞語基+化」の語
2. “全球化”“全国化”“工业化”“电气化”のような「E./F.量的変化」を表す「名詞語基+化」の語
3. “民营化”のような動作主を顕在化させない場合
4. “沙漠化”“个性化”のような変化をもたらす働きかけ手が不特定である場合

これに対して、他動詞用法として用いられやすいのは“拟人化”“公有化”“最大化”“具体化”のような人の手を経なければできないことを表す場合である。

次に6.3.3節では、“X化”の受身と使役の使用実態を見た。受身用法の出現率は全体的に低い、最も高い“国家化”でも13.3%しかなく、47語の“X化”のうち、25語が受身用法が見られなかった。

“使民主制度化”“使管理科学化”のような使役用法の出現率が高いものには“自動化”“最大化”“制度化”“科学化”“最小化”などがある。前述したように、中国語の“X化”は「自動詞優勢語群」と「自他拮抗語群」にしか分けられず、他動詞優勢の語群は見られなかった。そのため、他動的事象を表したい場合は、自動詞の“X化”を使役形にして使用する。使役用法の出現率が高い語は「名詞語基+化」の派生語と「最-」「無-」で始まる「形容詞語基+化」の派生語である。なお、“機械化”“一般化”“电气化”“工业化”などの14語は使役用法が見られなかった。このうち、“機械化”“电气化”“工业化”などの「E./F.量的変化」を表す「名詞語基+化」の派生語が多い。

第7章では、日中同形の【X化】について、品詞的用法の異同を考察した。まず、①日中同形語、②日本語コーパスBCCWJで100件以上出現した、③中国語のコーパスBCC語料庫で100件以上出現したという三つの条件を満たした23語を考察対象とし、日中同形の【X化】の品詞的用法の異同を考察した。

7.1節では【X化】の全体的な使用傾向を見た。結果として、日本語の「X化」は名詞的用法が最も多く、形容詞的用法と動詞的用法がそれに次ぐ。これに対して、中国語の“X化”は形容詞的用法が最も多く、名詞的用法と動詞的用法がそれに次ぐ。また、中国語に副詞的用法が87件見られるが日本語には見られなかった。

また、名詞的用法において、日本語と中国語ともに名詞的用法の出現率が高い語には【工業化】「グローバル化」（“全球化”）【機械化】「情報化」（“信息化”）【民営化】【正常化】【最小化】などがあり、日本語の方が出現率が高い語には【長期化】【多様化】【国際化】【合理化】「都市化」（“城市化”）「高齢化」（“高齢化”）【一元化】【標準化】【明確化】【自動化】があり、中国語の方が名詞的用法の出現率が高い語には【最大化】と【制度化】がある。

形容詞的用法において、日本語と中国語ともに形容詞的用法の出現率が高い語には「情報化」（“信息化”）「都市化」（“城市化”）「高齢化」（“高齢化”）【標準化】【民営化】【機械化】があり、中国語の方が出現率が高い語には「グローバル化」（“全球化”）【合理化】【自動化】【国際化】【一元化】【工業化】【一般化】【多様化】【表面化】【具体化】【最大化】がある。また、中国語の“X化”は結果補語や形容詞述語に用いることができるが、日本語の「X化」はこのような使い方が見られなかった。さらに【X化】は連体修飾語に用いることができるが、日本語の方は「X化したY」という形式が多用されているのに対して、中国語ではこのような用法は2例しか見られなかった。

次に、7.2節では、動詞的用法を中心に考察した。日本語と中国語ともに動詞的用法の出現率が高い語には【表面化】【具体化】【複雑化】【長期化】【明確化】【最小化】があり、日本語の方が出現率が高い語には【一般化】【制度化】【多様化】【最大化】があり、中国語の方が出現率が高い語には【正常化】がある。また、「情報化」（“信息化”）は日中両語ともに動詞的用法が見られず、【工業化】は日中両語ともに動詞的用法の出現率が低い。

さらに、動詞的用法のうち、各語の能動-自動詞用法、能動-他動詞用法、受身用法、使役用法の出現率を比べてみた、日本語の「X化する」は自動詞の出現率（53.8%）が他動詞の出現率（46.2%）よりやや高いのに対して、中国語の“X化”は自動詞の出現率（79.7%）が他動詞の出現率（20.3%）より圧倒的に高いことを明らかにした。なお、【X化する】の受身用法と使役用法を対照したところ、日本語の「X化する」は受身用法の出現率（20.4%）が使役用法の出現率（3.5%）より高いのに対して、中国語の“X化”はそれと正反対で、使役用法の出現率（27.0%）が受身用法の出現率（1.6%）より高いことを明らかにした。このことから、日本語の「X化」は他動詞的に使われることが多く、中国語の“X化”は自動詞的に使われることが多いことが分かった。

今後の課題：

第3章で、日本語の「X化」と中国語の“X化”の意味を分析した。日本語では「名詞語基+化」の意味をA～Fの六つのタイプに分け、中国語では“名詞語基+X化”の意味をA～Gの七つのタイプに分けた。しかし、それぞれの意味タイプを持つ語の語基Xはどのような特徴を持っているか、また各意味タイプの間にはどのような関連性を持っているかについての分析が行っておらず、今後の課題にしたい。

第5章～第7章では、日本語の「X化」と中国語の“X化”について、名詞的用法、形容詞的用法、動詞的用法に用いられやすい語をまとめたが、それらの語基Xにどのような意味的な特徴があるかを明らかにしたい。

本研究では日中両語の「X化」の意味、語基、名詞・形容詞・動詞用法の使用状況まで記述したが、このような現象をもたらす原因までの追究は今後の課題とする。

## 参考文献

### ・日本語の「X化」に関する文献

- 池上素子（2000）「「～化」について—学会抄録コーパスの分析から—」『日本語教育』106.
- \_\_\_\_\_（2003）「変化表現の共起関係——「～なる」「～する」「～化（する）」を対象に——」『国語国文研究』123, 北海道大学国語国文学会.
- 岩佐靖夫（2011）「日本語教育における類義語指導の一つ考察—系統的な指導原理へ向けての提言—」『尚美学園大学総合政策研究紀要』20.
- 王淑琴（2003）『意味から見た語形成—接尾辞「-的」「-化」「-性」の語基に課される制約』名古屋大学博士論文.
- 加納千恵子（1989）「漢字の接尾辞的用法に関する考察(1)」『文藝言語研究 言語編』16, 筑波大学文藝言語学系.
- \_\_\_\_\_（1990）「漢字の接辞的用法に関する—考察(2)—「化」の品詞転換機能について—」『文藝言語研究 言語篇』18, 筑波大学文藝言語学系.
- 影山太郎（1980）『日英比較 語彙の構造』（株）松柏社.
- \_\_\_\_\_（1993）『文法と語形成』ひつじ書房.
- \_\_\_\_\_（2008）「属性叙述と語形成」『叙述類型論』くろしお出版.
- 木山幸子・玉岡賀津雄（2011）「自他両用の「-化する」における自動詞用法と他動詞用法の比較—新聞コーパスの用例に基づく多変量解析—」『言語研究』139.
- 小林英樹（2000）「漢語動名詞の自他」『日本語教育』107.
- \_\_\_\_\_（2004）『現代日本語の漢語動名詞研究』ひつじ書房.
- 斎藤倫明（2016）『語構成の文法的側面についての研究』ひつじ書房.
- 田窪行則（1986）「-化」『日本語学』Vol. 5, 3月号.
- 趙麗君（2013）「漢語接尾辞「-化」の成立と展開」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』35.
- 日本語記述文法研究会編（2010）『現代日本語文法』1.

- 野村雅昭 (1978) 「接辞性字音語基の性格」 『電子計算機による国語研究』 9, 国立国語研究所報告.
- Hopper, P. J. & S. A. Thompson (1980) “Transitivity in grammar and discourse”, *Language*, 56.
- 水野義道 (1985) 「接尾的要素「一性」「一化」の日中対照研究」 『待兼山論集』 日本語学篇 19.
- \_\_\_\_\_ (1987) 「漢語系接辞の機能」 『日本語学』 Vol. 6, 2月号.
- 宮地裕 (1973) 「現代漢語の語基について」 『語文』 31.
- 山下喜代 (2002) 「字音接尾辞「化」について」 『青山学院大学文学部紀要』 44.
- ヤコブセン, ウェスリーM. (1989) 「他動詞とプロトタイプ論」 久野瞳・柴谷方良 (編) 『日本語学の新展開』 くろしお出版.
- 李夢迪 (2017) 「接尾辞「一化」についての研究」 『日本語言文化研究』 6, 延边大学出版社.
- \_\_\_\_\_ (2018) 「日本語複合語「一化」についての研究—使用傾向を中心に—」 『日本問題研究』 1, 吉林大学出版社.
- \_\_\_\_\_ (2021) 「日本語の「一化する」と中国語の“一化”の自他性について」 『人文学フォーラム』 4, 名古屋大学大学院人文学研究科.

### ・中国語の“X化”に関する文献

- 陳瞬臣、陳謙臣 (1972) 『日本語と中国語』 祥伝社.
- 丁声树 (1979) 《现代汉语语法讲话》 商务印书馆.
- 代元东 (2010) 失从认知角度看“X化”结构的形成. 《语文学刊》 2.
- 冯灿 (2011) 《以“化”为例浅析现代汉语类词缀在对外汉语中高级词汇教学中的策略》 首都师范大学硕士学位论文.
- 郭潮 (1982) “化”尾动词的语法特点. 《汉语学习》 3.
- 胡松柏 (1982) 浅谈词尾“化”. 《上饶师专学报 (社会科学版)》 2.
- 黄伯荣、廖序东 (編) (2002) 《现代汉语》 (增订三版) 高等教育出版社.
- 黄国营、石毓智 (1993) 汉语形容词的有标记和无标记现象. 《中国语文》 6.
- 刘经建 (1994) 三音节“化”缀动词浅析. 《宁夏大学学报 (社会科学版)》 16. 2.
- 刘月华 (2001) 《实用现代汉语语法 (增订本)》 商务印书馆.

- 吕叔湘、朱德熙（1979）《语法修辞讲话》中国青年出版社。
- 秦岭枫（2002）试论后缀“化”。阜阳师范学报（社会科学版）87。
- 任学良（1981）《汉语造词法》中国社会科学出版社。
- 史红改（2009）词尾“化”的来源，意义及“X化”动词语义特征。《北京广播电视大学学报》2。
- 王丹（2012）《现代汉语“X化”的构成、用法及相关问题考察》上海师范大学硕士学位论文。
- 王力（2004）《汉语史稿》，中华书局。
- 张云秋（2002）“化”尾动词功能弱化的等级序列。《中国语文》1。
- 周刚（1991）也议带后缀“化”的动词。《汉语学习》6。

#### ・利用したコーパス

- 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』  
北京語言大学語言智能研究院 BCC 語料庫  
北京大学中国語言学研究中心 CCL 語料庫